

額縁に縫ひ、下着衿の裾縮をなし、上着衿の裾はそのまゝ、縮代を折らないで裾の標を身頃及び下着衿の端を合せて待針を打ち、衿附を縫つてから、縫代を三つ折りにして前身と衿との縫込みの上に（成るべく縫込みが平になる様に縫込をきり落してもよろしく）縮けます。縫込が厚くても縮け目の針は必ず表に出します。前身の縫込にそつて裾より六糎（一寸五分）程上から相棲のあたりまで三糎（七、八分）許りの針目で上着、着の衿を縫込との中に大針を出し外を小針に綴ぢます。

堅棲の縮け方 上着 着共別々に縮けまして棲先から十六糎（四寸）上を、下着の縮け山から針を入れて上着の縮け山を小針に抄ひ下着の折り山の中を針を潜らして上着下着の衿附の縫代を見せない爲綴ぢて置きます。

或は上着の方を三つ折に致しませんで先きに衿幅だけに折りを附て置きます。下着のみ三つ折に致しまして上着に合せて同時に縮けるのもよろしく、此の仕立も裾先十六糎（四寸）は上着下着共別々に三つ折縮に致します。

四、衿 下着の表衿に芯を入れ表裏の衿を合せて衿先を縫ひ折を裏につけて表へ返し下着の表衿の方に上着の裏衿を重ねて三枚を綴ぢ合せます。

上着の表衿を標通りに上着に當て待針を打ち次に、下着の裏衿を下着の方にあて身頃を挟み上着の

標の通りに一針抜きに縫ひます。

衿巾は上着下着共同寸法に縮けます。

第十三章

重ね物下着詰め方寸法

男 物	女 物
袖口 三糎、八（一分）詰め	同上
袖丈 九糎、五（二分五厘）詰め	七糎、六（二分）詰め
袖附 袖丈の詰まるだけ	三糎、八（一分）詰め
袖幅 三糎、八（一分）詰め	同上
後幅 三糎、八（一分）詰め	同上

並幅六丈物にて本裁比翼の裁ち方
と裁ち切り寸法

第十四章

16.5	16.5	28	28	28	28	41	12	12	4
袖	袖	身頃		身頃		衿	衿	裾	切
		二五		二五				残り	

24	25	25	7.5	15	14	14	15	13	14	14
下着	裏	裏	袖口	キレ	後裏裾廻し	後裏裾廻し	表後裾	表前裾	表前裾	前後裾廻し
表裏	裏	裏	振	エリ	キ	裾	裾	裾	裾	裾
			キレ	キレ	キレ	キレ	キレ	キレ	キレ	キレ

12.5 4.5 12 12 15 15

1. 布の總丈 - (袖丈 × 4 + 身丈 × 4 + 衿 + 衿 + 六衿 + 下着表裏 +
600 - (10.5 × 4 + 40 × 4 + 25 + 48 + 22 + 24 +

裏裏 × 2 + 袖口きれ × 2 + 裾 × 2 × 8) } + 12 = 表裾
25 × 2 + 15 × 2 + 5 × 2 × 8) } + 12 = 12

表裾 + 裾 × 2 = 裾口
13 + 5 × 2 = 14

並幅にて比翼裏の裁ち方と裁ち切り寸法

四九

16.5	16.5	14	40	40	14	14	40	40	14	32	48	25
袖	袖	裾	身頃		裾	裾	身頃		裾	裾	衿	裏
		一	二五		一	一	二五		一	一	衿	衿

第十四章

比翼

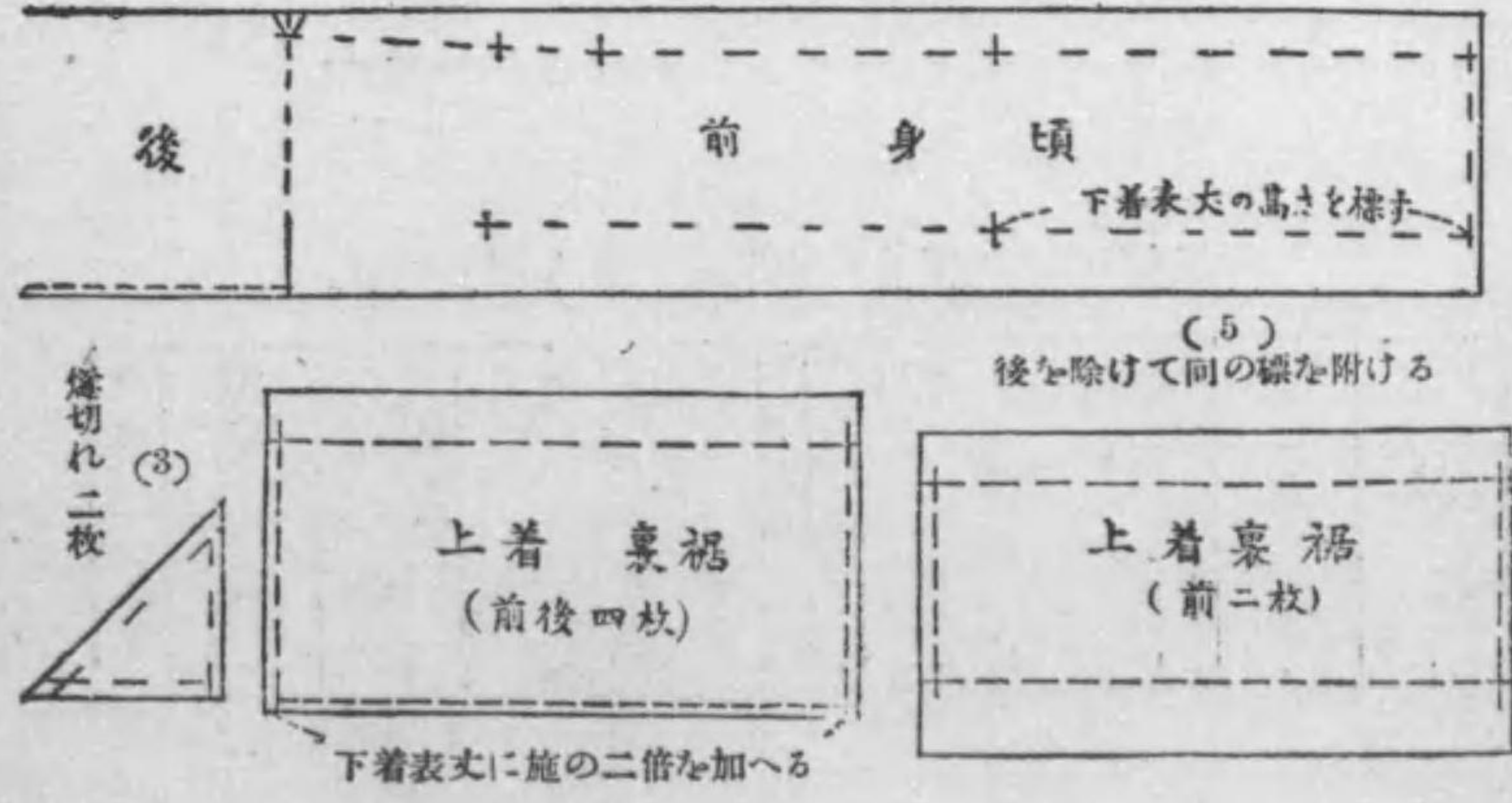
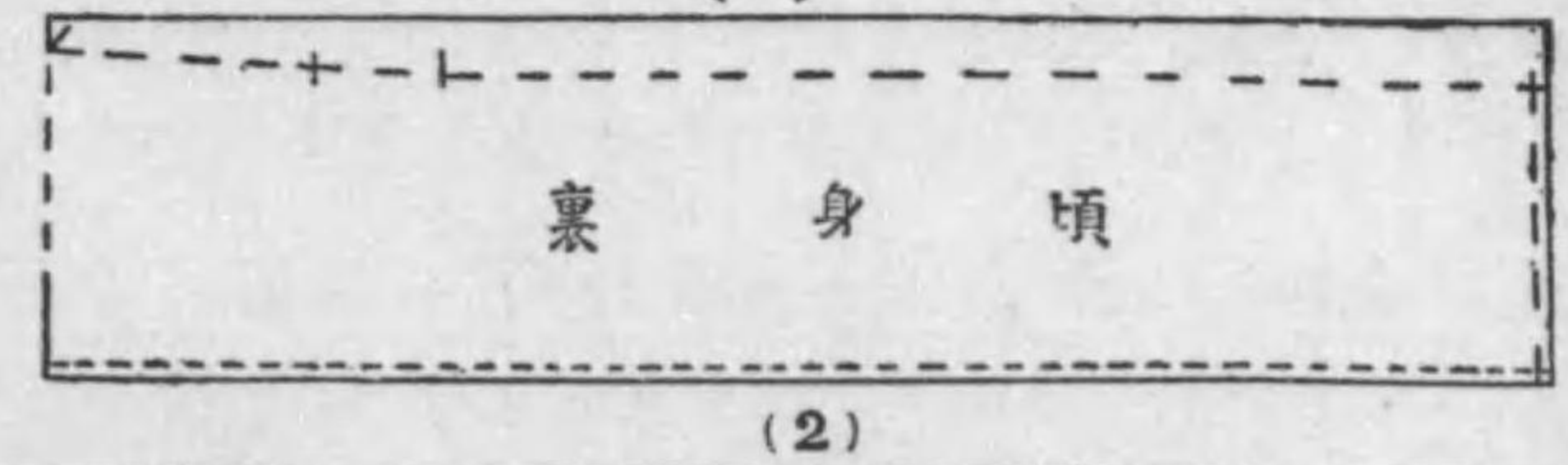
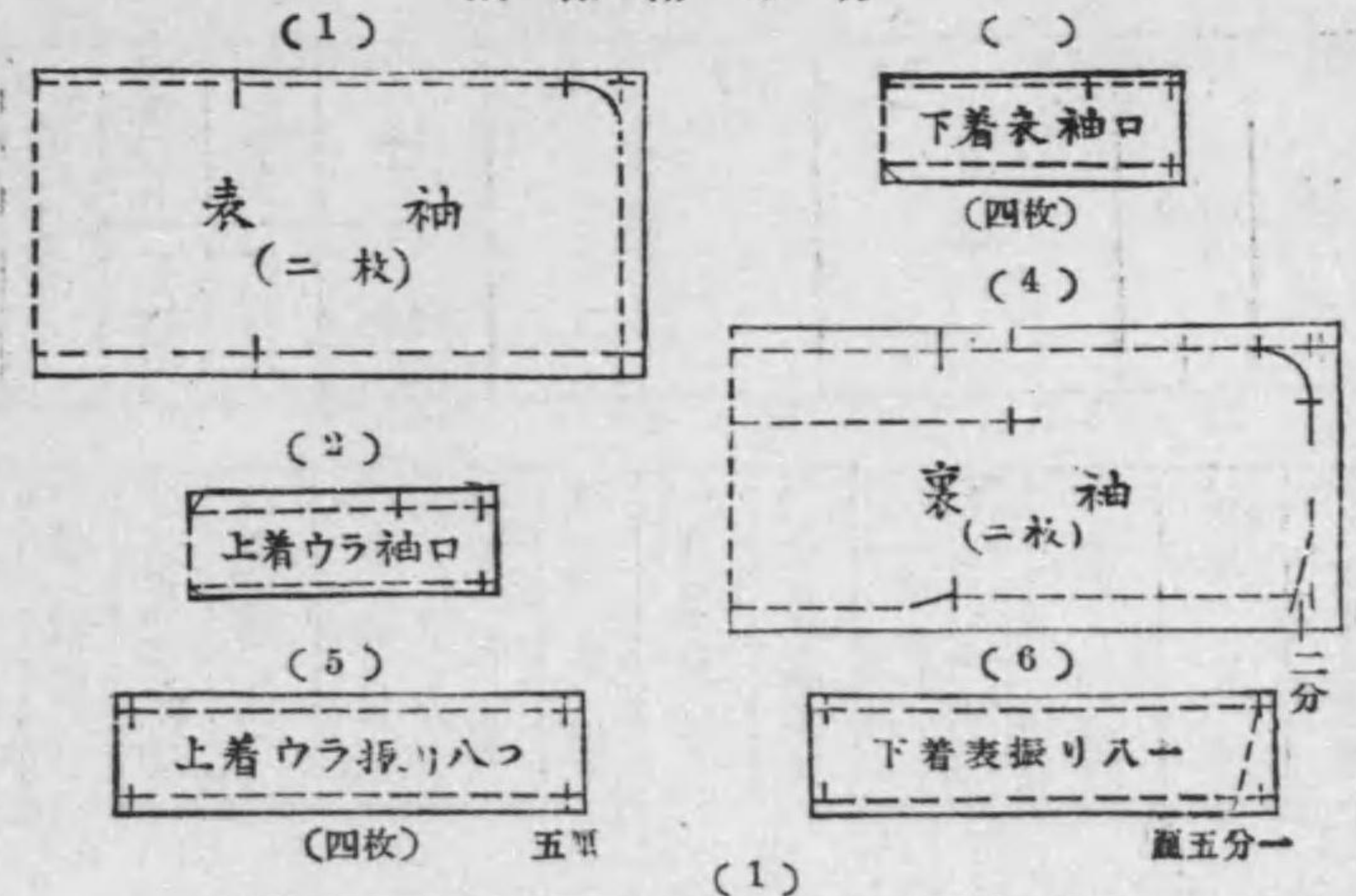
前幅	七耗、六(二分) 詰め
衿幅	同寸法
衿肩明	三耗、八(二分) 詰め
肩幅	三耗、八(二分) 廣く
行き	同寸法
身丈	三耗、八(二分) 詰め

身八つ口	同上	同上	同上	同上	同上
同寸法	同上	同上	同上	同上	同上

裁縫教科書

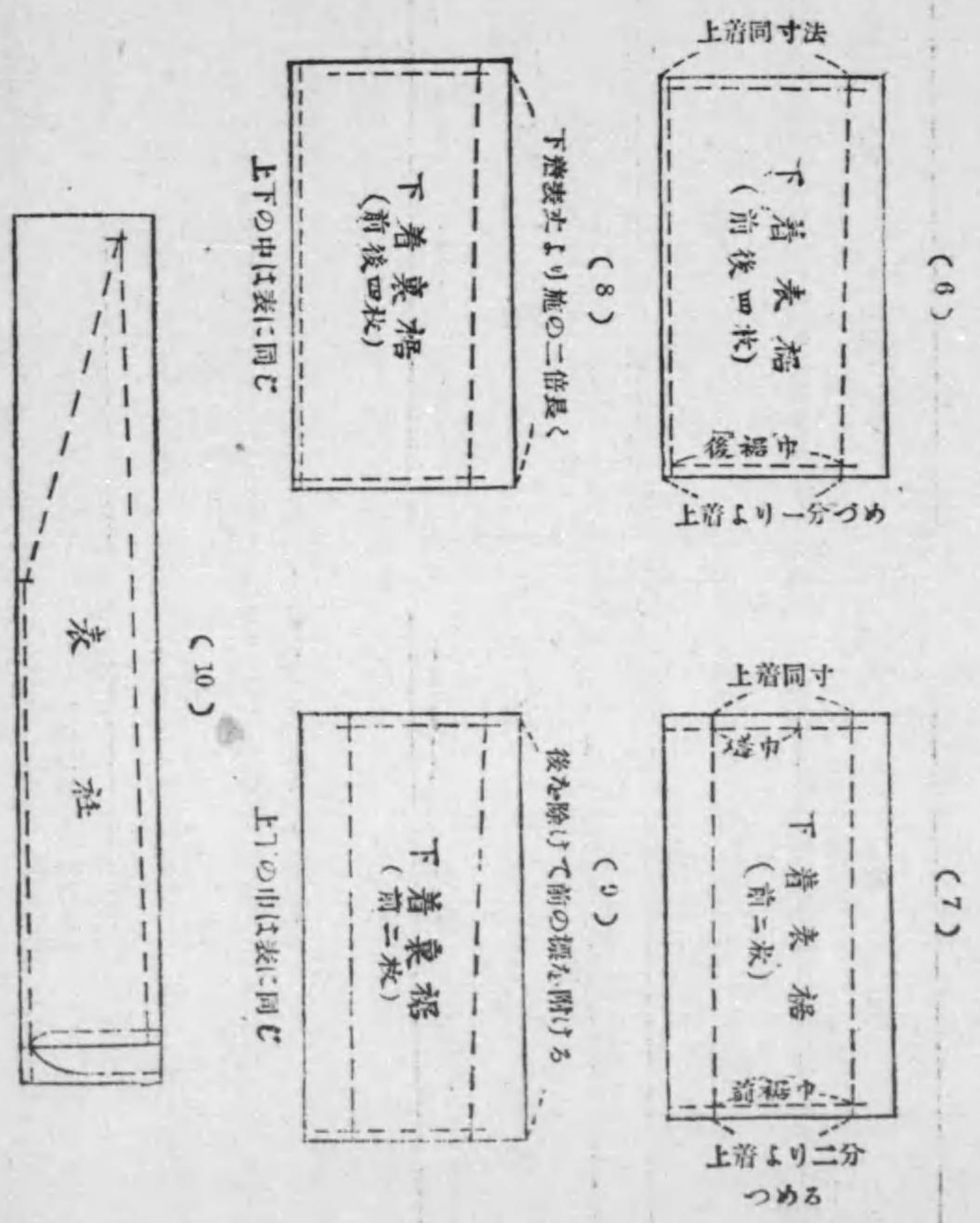
四八

本裁比翼標付け方順序 袖標付け方



身頃標付け方

五〇



縫代を標しまして八つ口下を斜めに二耗(五厘)詰めます。

次に下着の表振り八つ切を同様四枚重ねて幅丈を上着裏振り八つと同寸法に標して八つ口下を斜めに四耗(一分)詰めます。

二、身頃 上着表は普通單衣の通りに後の標を濟ませて前の標附をなし、下着表丈を計つてその高さの標を附けてこの所で前巾何種(何寸)かを計つて置きまして、

次に上着裏裾を二枚づゝ中表に揃へて前後四枚を重ねて下着表裾丈に施の二倍を加へて丈の標をつけ、脊脇の標を表身頃の幅と同寸法に附けて後布を除けて前幅の標を附け、別に燧布の標を身頃標附け方第(3)圖の様に附けまして燧巾を知り、これを前幅に、衿附より計つて附けて置きます。

次に下着表裾を二枚づゝ中表に揃へて前後四枚を重ねて、既定の上着表前身頃に標したると同寸法に丈の標を附け、脊縫の標をつけ、後巾の上部は上着と同寸法に標を附け、裾口にては四耗(二分)詰めて脇の標を倒さ斜めに附け、後布を除けて前布に脇縫の標を寫し、前巾の上部は上着と同寸法に標を附け、裾口にては八耗(二分)詰めて前の衿附の標を附け、前幅上部に燧巾の標を附けて置きます。

次に下着裏裾を例の如く重ねて下着表裾丈に施の二倍を加へて丈の標を附け、脊脇及び前布の標附

け方幅の寸法等は下着表裾と同じに致します。燧巾の標を附けることは要りません。

次に衿の標附けを致します。上着下着の表衿、裏衿を各々二枚づゝ中表に合せて、下着裏衿と衿先き切とを接ぎ代を重ねて最下に置き、その上に上着裏衿を揃へて重ねその上に施の二倍を引いて下着表衿を載せ、その上に上着表衿を揃へて重ねて、常の様に丈、幅、衿下、衿附の標を致しまして上着の表衿二枚を除けて附の方に下着表裾の高さと燧切の寸法とを標し、尙衿先の接ぎの標を致し、衿附の衿下の標から十二種(三寸)上に上着と下着の衿の附け分けの標を附けます。或は衿の附け分けの標は、衿先き接ぎの標より六種(一寸五分)下つた所と定めてもよろしいと致します。

次に衿の標附けを致します。下着上着の裏衿及び衿先切れを接ぎ代を重ねて常の様に置きまして、その上に下着上着の表衿を載せて、山、衿肩廻り、衿下り、衿附丈を標して上着の表衿を除けて衿先の標より計つて衿附分の寸法を標し衿巾の標を附けます。

次に胴裏を普通の様置きまして山、丈、袖附、身八つ口、脊縫、衿下り等の標をつけます。丈の定め方は女物胴接の仕方は同様であります。

本裁比翼縫方順序

一、袖 表袖け単衣と同様の縫ひ方であります。

裏袖に裏袖口切れを附けて、袖口下から袖下へ普通に縫ひまして袖口に綿を含めて施とちを入れ、下着表袖口切の口明下を縫ひ、裏袖口に合せ、口を四つ留めして縮け置き、上着裏袖口切の口明下を縫ひ、口綿を含めふさごちを入れて、これを下着の袖口に重ねて躰をかけて置き、上着裏、下着表の袖口切の奥を二枚縫ひ合せて、山を二耗(五厘)ほど摘み、下着裏袖口切の附け際に三耗(八分)位の針目で綴ぢ附けます。次に上着下着の振り八つ切の袖下を縫ひ、普通の袖の振りを縫ふ様に上着表袖下着裏袖に各々縫合せて含み綿をして表より平躰を掛け、上着下着の振りを二枚重ねて振り八つを假に躰にてとちて置きまして袖を裏返しして中から上着下着の振り八つ切の奥を縫合せて裏袖にあらさ一目落して綴ぢ附けます。裏側に八つ被せ切を附けました場合は其の附け際に綴ぢ附けるのであります。

二、身頃 上着の表は普通の綿入の通りの縫ひ方にて衿も附けます。

胸裏の脊脇を縫ひ、下着裏裾の脊脇を縫ひこれと胸裏とを接ぎ合せ、胸接ぎの隠し躰は未だ入れずに置き、下着裏裾に衿先さを接ぎ隠し躰を入れて常の如くに衿を附け、裏衿も普通の綿入の通りに附けます。

次に下着表裾の脊脇を縫ひ、前布の上部の燧巾の標に合せて燧布を布目を横切に附けません様に注意して衿附の方に燧丈のあるやうに縫ひ附け、折は胸抜の場合と同じく裾に向けて隠し躰を入れ、下着表裾を燧布の上の縫代の標まで縫ひ附けて置きます。

次に上着裏裾の脊脇を縫ひ、前布の上に燧布を縫ひ附け折は燧布の方に折り返して隠し躰をかけて上着裏裾を燧布の上の標まで縫ひ附けます。

これにて表身頃に上着裏裾を、下着表裾を裏身頃に普通の着物の通りに二枚共裾合せを致します。これに裾綿を入れ、假躰にて施綿を押へて置き、裕の場合は上着下着共裾裏の高さまで脊脇裾を中綴ぢ致します。綿入の場合に上着の方の裾裏は中綴ぢ致しません。次に上着裏裾下着表裾の上部を脊脇の縫ひ目を合せて燧から燧までの間を二枚縫ひ合せ、これを裏身頃の胸接ぎの縫目に各々の裾裏の丈の標を合せてあらく綴ぢつけて胸接に被せをかけて折は胸裏に返して隠し躰をかけます。そして燧布の斜めを縫ひ、附け際で針を返して留め、衿附の方は上着裏裾と下着表裾の衿附の標の通りを縦に縫ひ合せ、衿巾の上部も衿附の標より八耗(二分)手前まで縫ひ廻して置き、燧布の際で衿の縫代を斜めに折つて反對に前幅の方に入れ下着の衿附の縫ひ目に重ねて綴ぢつけます。斯くて燧布の斜めの縫目を胸裏に表に小さく五針程出して綴ぢつけて置きます。

次に上着裏衿と下着表衿とを中表にして衿の付け分けの標から標までの間を縫合せて、これを下着裏衿附の縫ひ目に、縫代を反対の方向に、つまり身頃の中の方に入れて合せて綴ぢつけます。斯う致しますと縫ひ目が高くなりませんのでよろしいございます。次に衿付け分けの標より下は、上着下着の衿附を別々に縫合せます。これにて胴裏の脊脇の中綴ぢを致します。(綿入れの場合は、袖附まで済ませてのち、普通女物綿入の様な仕方で入れます。) 身八つ口を留めて縫ひ袖附けをいたします。

三、袖附 女衿と同様の留め方にて裏袖を抄ふ時振り八つの切れも二枚同時に抄ひます。

袖附を縫ひ、上着の裏振り八つ切と、下着の表振り八つ切との上部を縫ひ合せて袖附留めより上を裏袖の縫ひ目に綴ぢつけます。

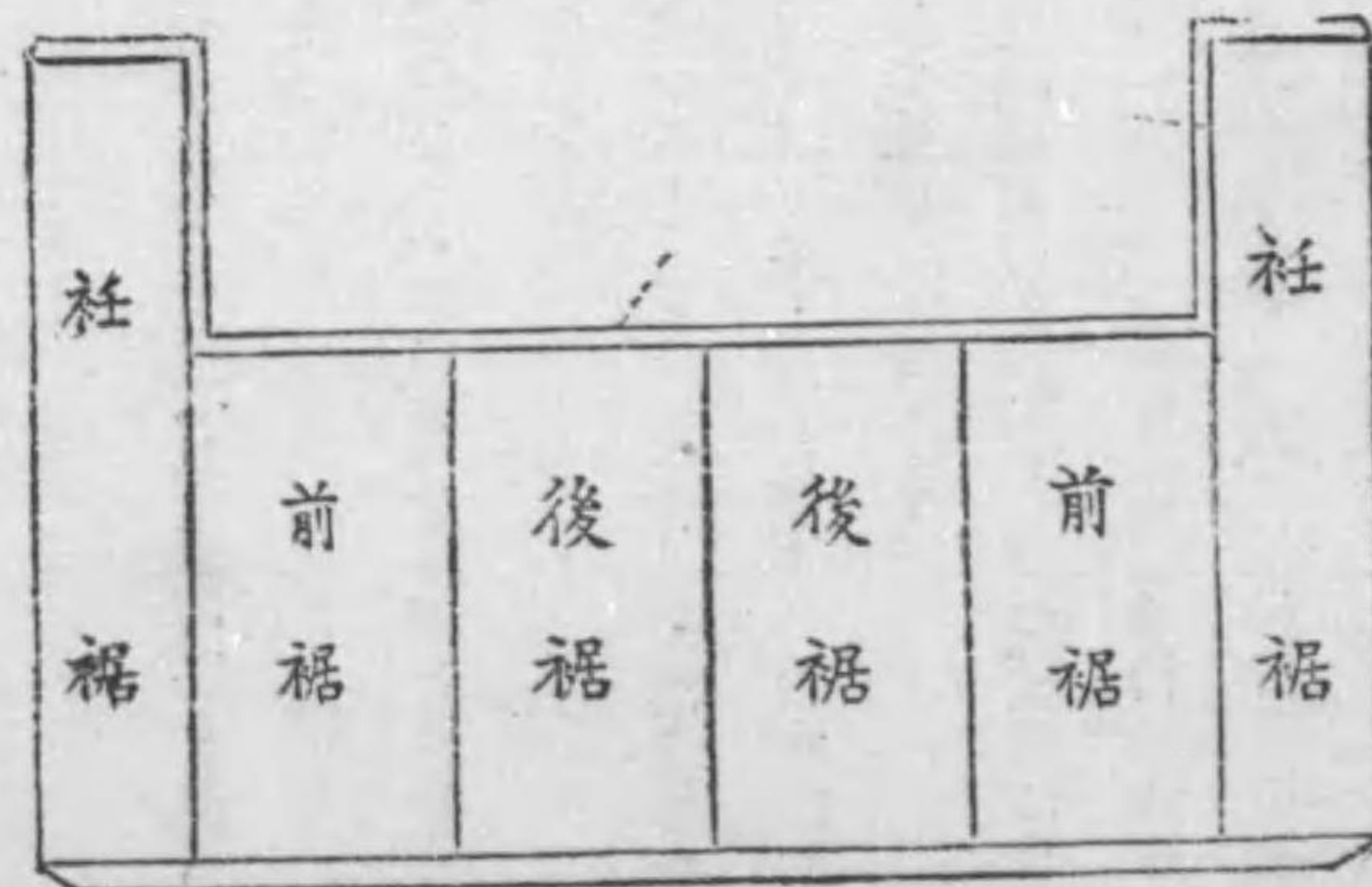
其他、堅袷を整へ、衿先きを留め衿巾を定めて縮け、其衿をかけ、裾施をとち、上着袖口を縮けます等女物綿入と同様でありますから省きます。

附比翼

並幅4米82種1耗(一丈二尺七寸)にて
附比翼表布裁ち方と裁ち切り寸法

(14.) 53. 後裾	(14.) 53. 後裾	(14.) 53. 前裾	(14.) 53. 前裾	(23.) 87. 衿	(48) 1.812 衿	
				(23.) 振 切	(24.) 社	(24.) 社
		袖口折	袖口折			

附比翼縫合せ方



附比翼標附け方及び縫ひ方順序

比翼下着の標附け方と同様にいたします。

- 一、袖口 袖口を合せて四つ留をいたしまして下一分五厘手前で止めまして袖口下と奥の二方を裏切れを五厘施のやうに出しまして躰をかけて縮けておきます。
- 二、振切れ 振の方の八耗(二分)詰めてあります斜を、綴ひまして振口を合せて上と奥とをやはり裏布を五厘出して、縮け合せておきます。
- 三、裾 前後及び衽附を表裏別々に縫ひまして、裾合せをいたします。女袴と同様口裾をつくりまして、隠し躰をかけて施を出して躰をかけ衿下を縫つておきます。そして、裾上の表裏ばら／＼の所を裾廻しを一分出し、衽の幅になる所は五厘出して躰をかけて縮けておきます。
- 四、衿 表裏の衿を合せて衿下の標しの所に待ち針を打ち堅袷丈の衿附きと四つ縫ひに致します上前下前共に、其の他は標しの通りに表裏衿を合せて縫ひますこの所も二耗(五厘)裏衿の方をつき如くにふかせて躰を掛けて置きます衿先をとめましたら衿山は普通の單衣物の衿の様に先きに袷形を作つて縮けて置きます出来ましたら胴接ぎのきわに合せて身頃上着ぎ裾と附比翼の裾とのつり合を好く検め

て後ち衿廻り及び裾共裏布の(五厘)ふかして有る所を縮け附けますので有ります袖口奥も袖口切の附のきわに縮け附けます。

振り八つの方と同様に致して縮け附けます但し袖口振り八つ共先きに上着の方に揃へてかりとぢを致して後ち縮け附けるのであります。

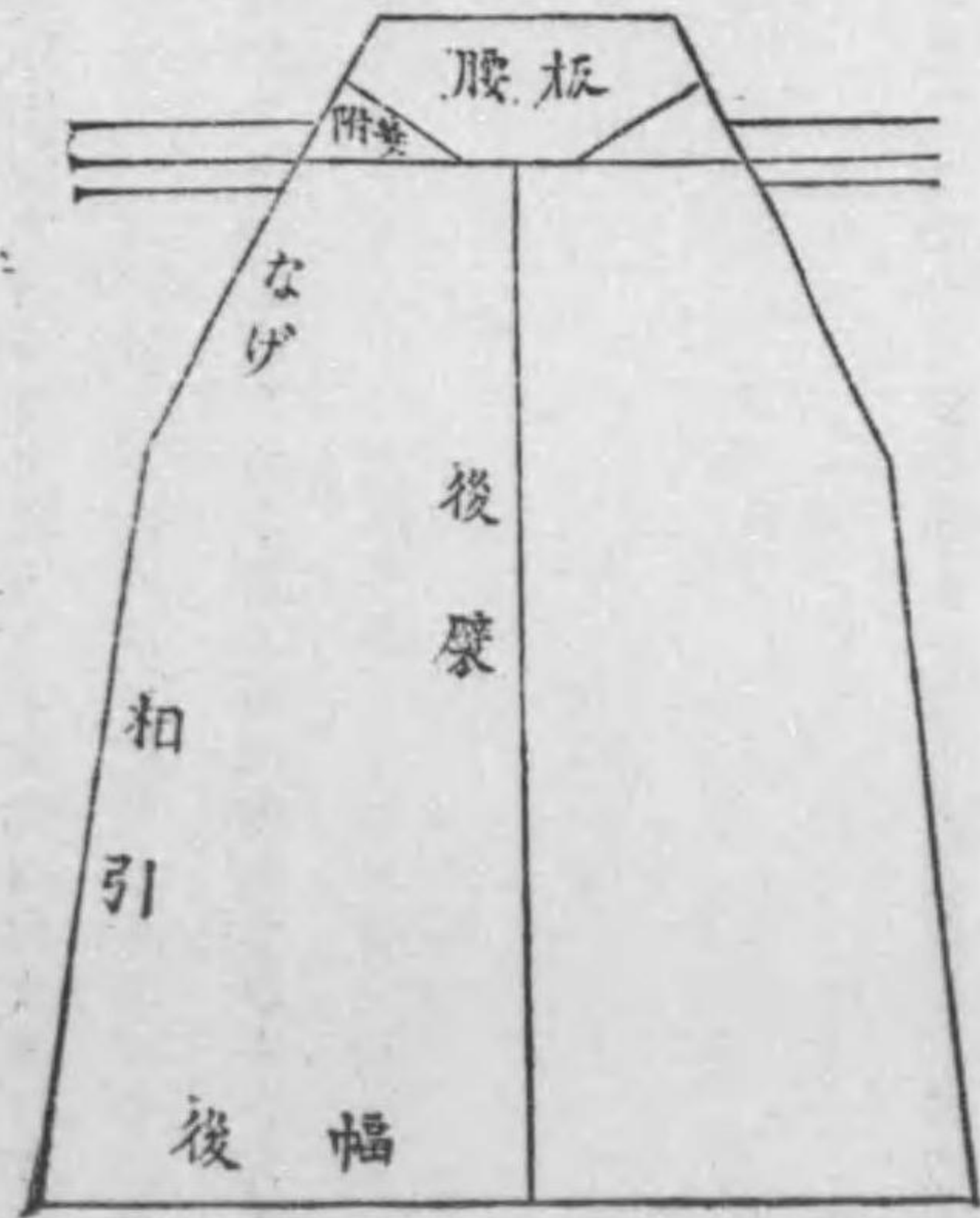
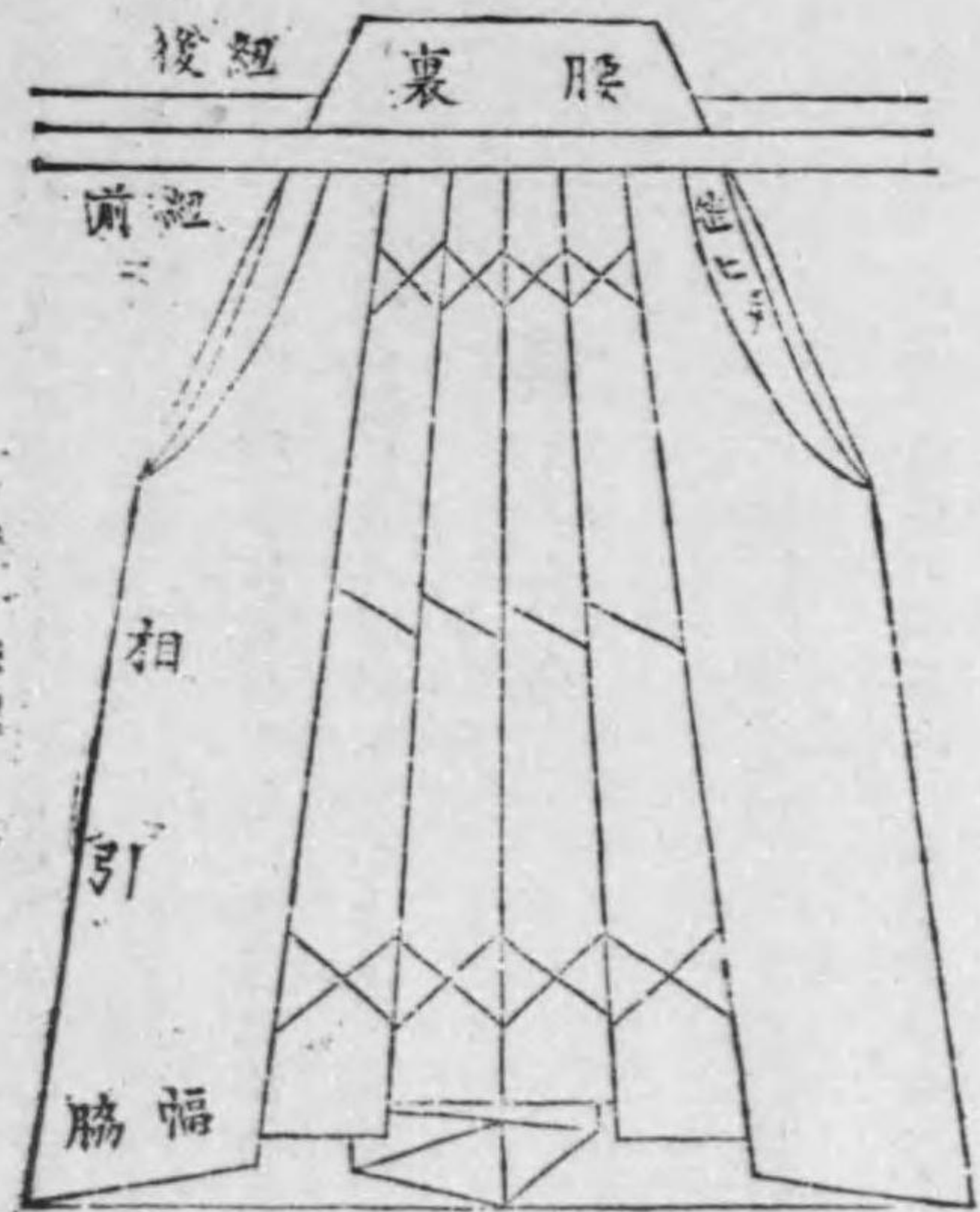
第十五章

男袴各部割出す法説明

紐下の寸法は、中央の一番みじかき所、つまり三の襷にて計つて定めます。紐下寸法割出し方は、着物の着丈の十分の六に一寸を加へます。紐下子供物は十分の六に致します。右の割出しによつて、紐下を知りまして、後幅は紐下の三分の一に(八分)を加へます。そして、巾を紐下の五分の三、大人物、前小襦の附きたる普通の袴は二の襷を奥布と脇布の縫合目より脇布の方に(一寸八分)と計つて、二の襷山に定めます。三の襷はふところの縫目、つまり乗り間の袋縫ひ縫目の處から十糎(二寸八分)と計つた處に致します。子供物は一の襷は大人物と同様後幅の五分の三に相引の縫目より計

りますが、三の襷は二の襷よりも、先に 出します。ふところの縫目より計ります時後幅の五分の二より凡そ八耗(二分)を減じたる所を三の襷山と定めて折ります、三と一との中央を二の襷山と定めます。而し、此際一と三の中央が折悪く縫合せ目になる事が御座いますから、其場合は、縫目が襷の

出衣上り圖

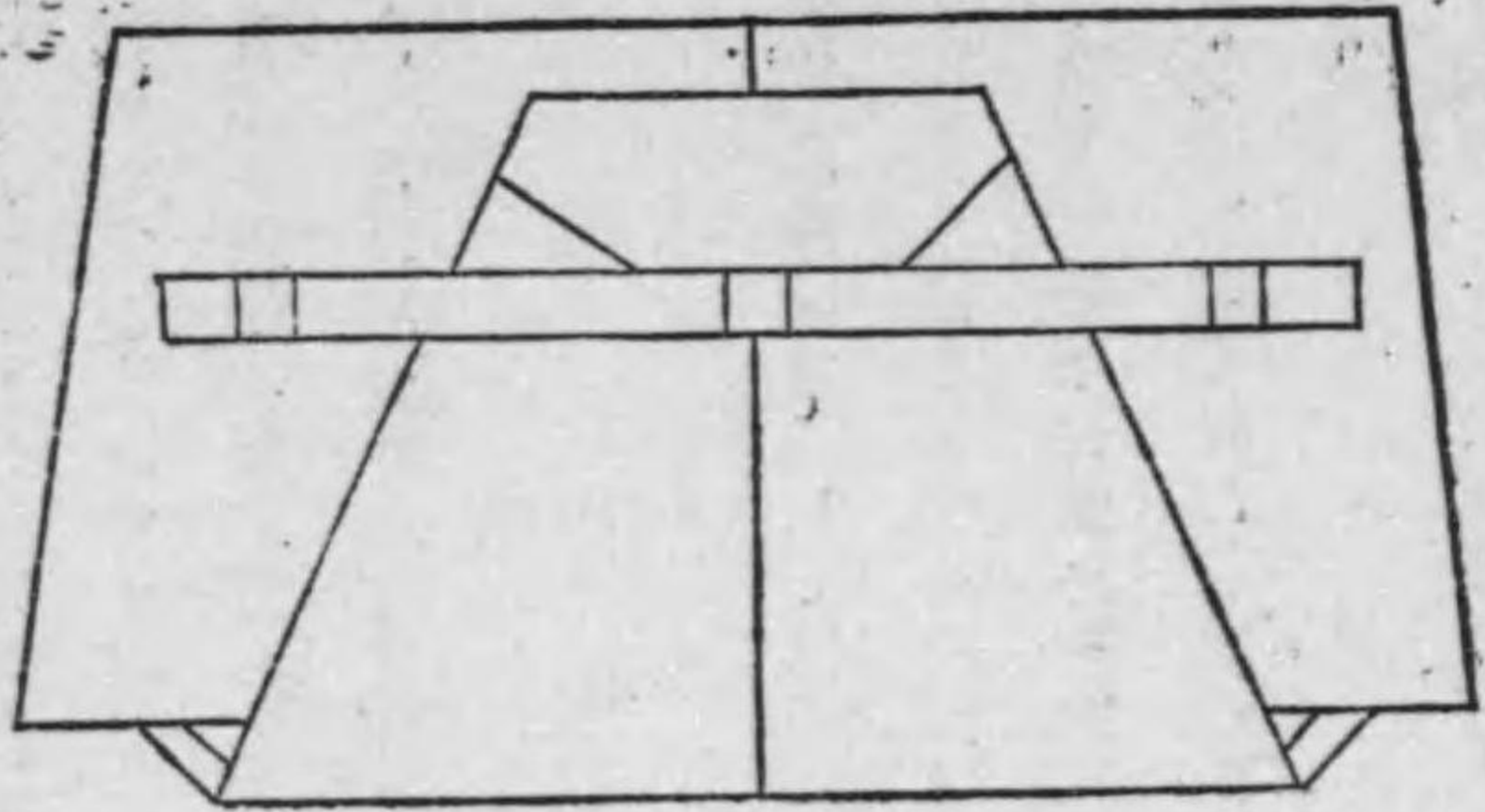


内側へ入ります様に融通して襷を取らなければなりませんから、寸法は適宜に致します。襷の深さは何れによりましても少々位は差つかへ有りません。大人物にても四布つかいと申しまして前に半幅の小襷を附けません仕立は、此小裁袴と同様に襷取り方に致します。

裾の切り上げ割出し方

切り上は後幅の五分一附けます。大人物でお話致しますと、五分の一は一寸六分に當り後布で後幅を定めまして、後襷の附きます方へ(三分)切り上げます。後襷で六耗(一寸三分)切り上げますそれを加へて丁度(一寸六分)すなはち後幅の五分の一に致します。前の布は奥布脇巾にて三耗(八分づゝ)切り上げます。これを加へますれば六耗(一寸六分)となり、後幅の五分の一になります。切上げの寸法は後布も前布も同じであります。それで大人物後幅は三十耗三耗(八寸)後幅の残りのわずかの内で切上げますの

出衣上り圖



で一種二耗(三分)だけ附けまして、襠の方にて五種(一寸三分)と云ふ多くを切り上げて、兩布にて後幅の五分の一に致すので有ります。小供物の場合にも後布は必ず一幅を用へます。後の襠布は紐を取るとかあるひは、半幅位の布の時も有りますので其時などは一と幅の後布の内、後幅は、せまくて宜しいのでございますので、後布の切り上げは大人物よりも多く一種五耗(四分)あるひは二種(五分)も切り上げる事が出来ます。これは後幅を割合にせまくせねばなりませんので、後布の幅が後幅よりあまる分が広いからで有りますので後襠の切上げは割合にすくなく致します。

用布の求め方

後用布は裾けまわして後幅の四倍前用布は裾け廻して後幅の五倍を要します。少々位は廣くても狭くても差支へは有りませんが、大體右の積り方に致しまして用布の計算を致します。右は女袴と同様であります。紐下に裁込を加へて紐下丈を知り裾け廻し幅を知りますればこれに裁込(紐附の縫込、裾紬代の事)腰切及び紐丈のあるかを見積りまして、かくて不足の寸法を増せば總用布を知るの有ります。

。圖中の寸法は複雑を避ける爲め米を省きました。

。しかし標準寸法表は鯨尺米兩方も記載してあります。

本裁男袴普通割出し及仕立上寸法 (メートルにて)

紐	下	八十七種	着丈の凡そ十分の六に(三種八耗)加へる
相	引	五十五種三耗	紐下の凡そ三分の二に(一種九耗)加へる
後	幅	三十種三耗	紐下の三分の一に(三種)許り加へる (着物の後幅と同寸)
後	幅	二十四種六耗	後幅の四分の三に(一種九耗)を加へる
後	重ね幅	三種	後幅の十分の一
腰	板幅	上下二十四種六耗	腰幅と同寸
腰	板高さ	上十六種三耗	上 腰幅の凡そ六分の四
附	菱の高さ	八種三耗	腰巾の三分の一に四耗―八耗を加へる
附	菱の高さ	五種七耗	腰板斜邊の二分の一に七耗を加へる
附	菱の幅	九種	腰幅の二分の一に七耗を加へる

割り出續き(メートルにて)

脇幅	十八糎二耗	後幅の五分の三
前紐附幅	三十糎三耗	後幅と同寸或は後幅より一糎九耗廣く
前寄せ襷幅	上下三糎五耗七耗	上後幅の十分の一 下後幅の五分の一より四耗狭いもの
笹襷幅	四糎五耗	脇幅の四分の一
襷の高さ	四十五糎四耗	相引の高さより凡そ五糎七耗を減ずる
乗間	三十五糎九耗	後巾に凡そ一糎九耗を加へる
切り上げ	五糎七耗	後幅の五分の一
三の襷の深さ	十糎六耗	後幅の十分の一
懐襷とも云ふ	七糎九耗五耗	後幅の十分の一
後紐	丈幅丈三糎	後幅の十分の一
前紐	丈幅丈三糎	後幅の十分の一

本裁男袴割出し及仕上寸法(鯨尺にて)

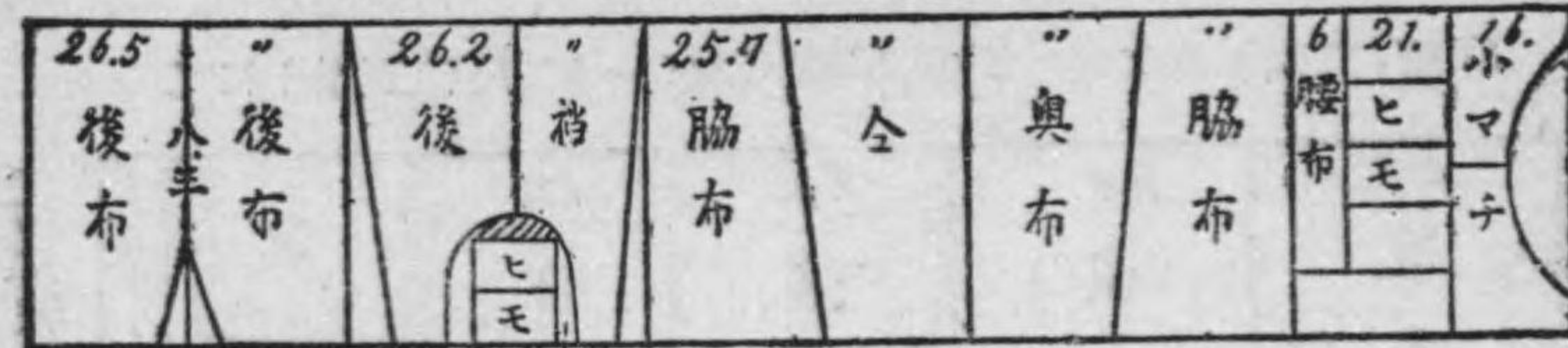
紐	下二尺三寸	着丈の凡そ十分の六に(一寸)加へる
相引	一尺四寸六分	紐下の凡そ三分の二に(五分)加へる
後腰幅	八寸	紐下の三分の一に八分許り加へる (着物の後幅と同寸)
後腰幅	六寸五分	後幅の四分の三に五分を加へる
後重ね幅	八分	後幅の十分の一
腰板幅	上下六寸五分	上下腰幅と同寸
腰板高さ	上下四寸三分五厘	上腰幅の凡そ六分の四
附菱の高さ	一寸五分	腰幅の三分の一に二分を加へる
附菱の幅	二寸四分	腰板斜邊の二分の一に二分を加へる 腰幅の三分の一に二分を加へる

裁り方積り方

(裁方圖中米寸法省く)

普通幅九米一二種七耗(二丈四尺〇四分)にて

第十五章



$$\{ \text{總丈} - (\text{襟丈} + \text{腰布} + \text{紐丈}) + \text{裁違} \} \div 8 = \text{後丈}$$

$$\{ 240.4 - (16. + 6 + 21.) + 3.8 \} \div 8 = 26.5$$

普巾七米七五種(二丈〇四寸)にて



$$\{ \text{總尺} - \text{紐} + \text{小襟} + \text{腰布} \} + \text{裁違} \} \div 8 = \text{後丈}$$

$$\{ 204 - (30. + 16. + 6.) + 3.8 \} \div 8 = 25.$$



$$\{ \text{總尺} - (\text{襟丈} + \text{紐} + \text{腰布}) + \text{裁違} \} \div 8 = \text{後丈}$$

$$\{ 244.5 - (16. + 6. + 21.) + 2.3 \times 4 + 8 \times 2.8 \} \div 8 = 26.$$



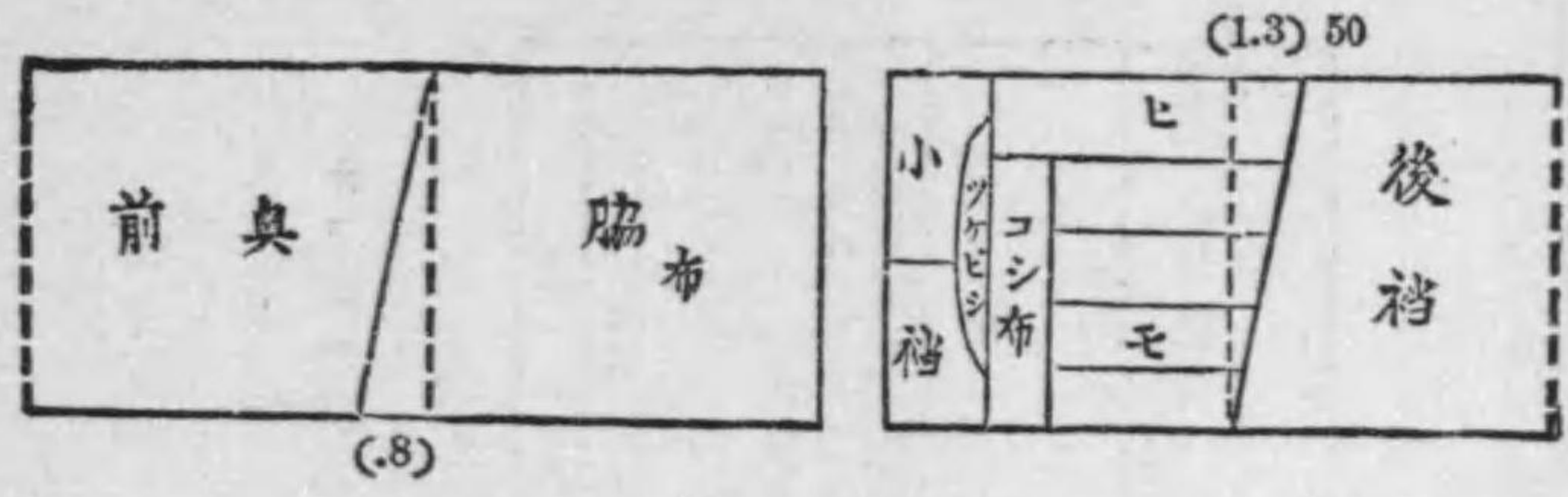
$$\{ \text{總尺} - (\text{襟丈} + \text{紐} + \text{腰布}) + \text{裁違} \} \div 8 = \text{後丈}$$

$$\{ 244.5 - (16. + 6. + 21.) + 2.3 \times 4 + 8 \times 2.8 \} \div 8 = 26.$$

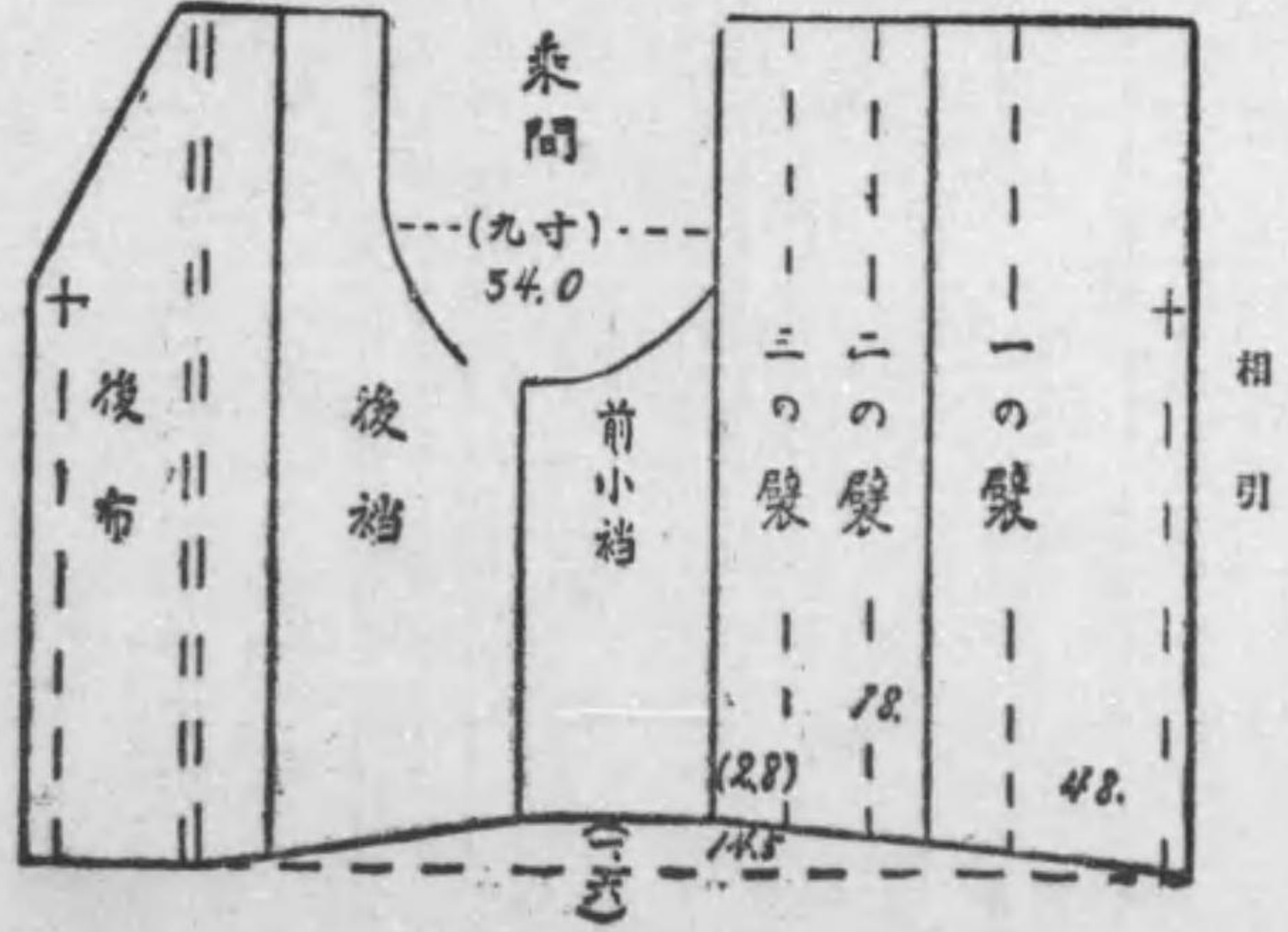
六九

前	後	は	三	切	乗	襟	衿	前	前	脇
紐	紐	懐	の	り	間	の	袷	寄	紐	脇
丈	丈	袋	深	上	寸	高	幅	せ	附	幅
八	九	と	さ	ぐ	九	さ	寸	襷	幅	幅
尺	尺	も	或	寸	一	寸	一	幅	寸	寸
乃	八	云	ふ	六	一	二	下	上	八	四
至	一	ふ	寸	五	寸	分	上	八	寸	寸
一	分	寸	分	分	分	寸	後	後	寸	分
分	分	分	分	分	分	分	幅	幅	分	分
後	後	後	後	後	後	後	幅	幅	分	分
幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	と	と	分	分
の	の	の	の	の	の	の	同	同	分	分
十	十	十	十	十	十	十	寸	寸	分	分
分	分	分	分	分	分	分	或	或	分	分
の	の	の	の	の	の	の	は	は	分	分
一	一	一	一	一	一	一	後	後	分	分
分	分	分	分	分	分	分	幅	幅	分	分
の	の	の	の	の	の	の	と	と	分	分
一	一	一	一	一	一	一	後	後	分	分
分	分	分	分	分	分	分	幅	幅	分	分
の	の	の	の	の	の	の	よ	よ	分	分
一	一	一	一	一	一	一	り	り	分	分
分	分	分	分	分	分	分	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分	分	分	分	分	分	分	の	の	分	分
十	十	十	十	十	十	十	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分	分	分	分	分	分	分	の	の	分	分
十	十	十	十	十	十	十	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分	分	分	分	分	分	分	の	の	分	分
十	十	十	十	十	十	十	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分	分	分	分	分	分	分	の	の	分	分
十	十	十	十	十	十	十	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分	分	分	分	分	分	分	の	の	分	分
十	十	十	十	十	十	十	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分	分	分	分	分	分	分	の	の	分	分
十	十	十	十	十	十	十	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分	分	分	分	分	分	分	の	の	分	分
十	十	十	十	十	十	十	五	五	分	分
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
の	の	の	の	の	の	の	幅	幅	分	分
一	一	一	一	一	一	一	よ	よ	分	分
分	分	分	分	分	分	分	り	り	分	分
の	の	の	の	の	の	の	一	一	分	分
一	一	一	一	一	一	一	分	分	分	分
分	分	分	分	分	分	分	せ	せ	分	分
の	の	の	の	の	の	の	ま	ま	分	分
一	一	一	一	一	一	一	い	い	分	分
分	分	分	分	分	分	分	も	も	分	分
の	の	の	の	の	の	の	の	の	分	分
一	一	一	一	一	一	一	幅	幅	分	分
分										

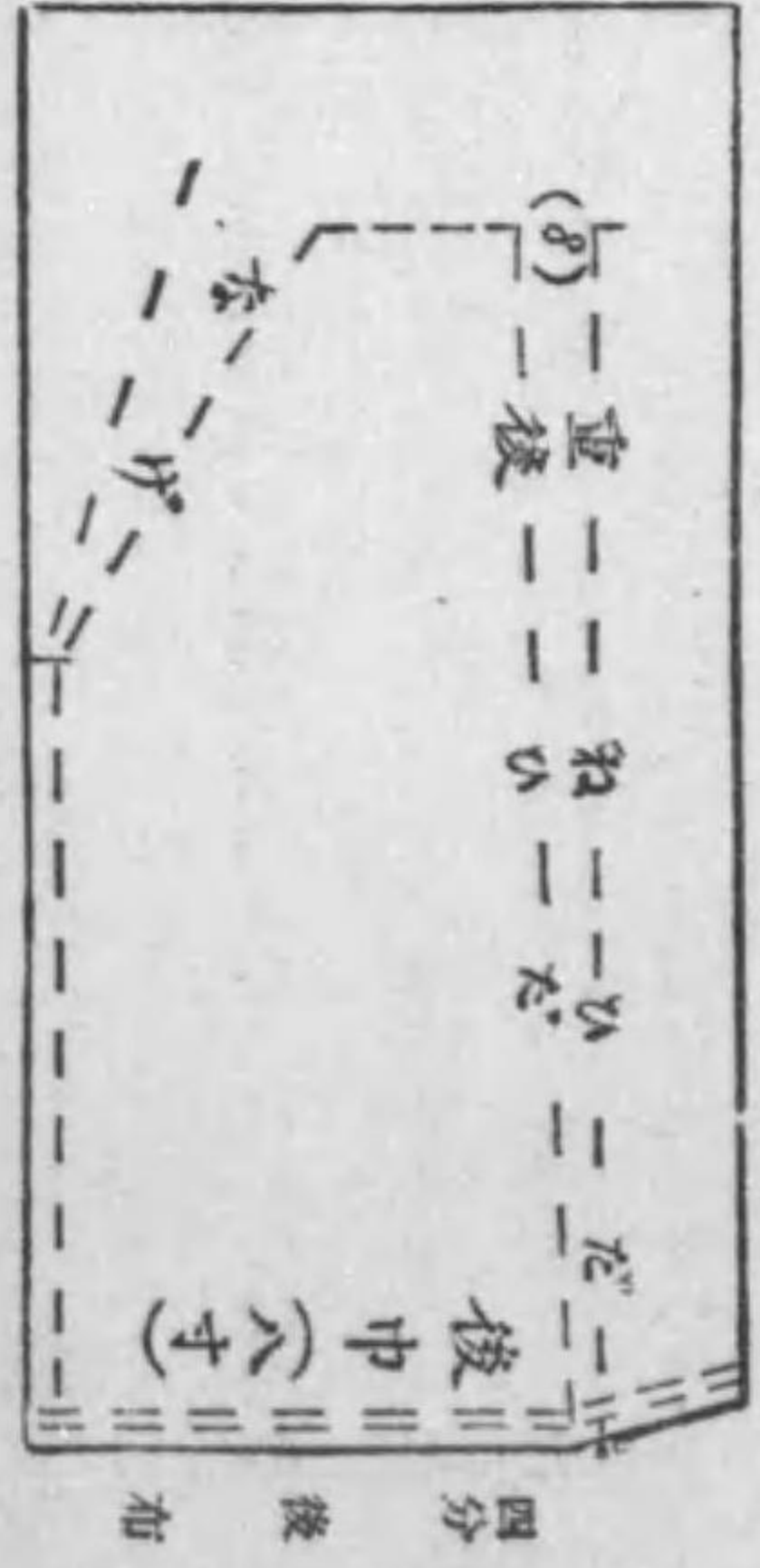
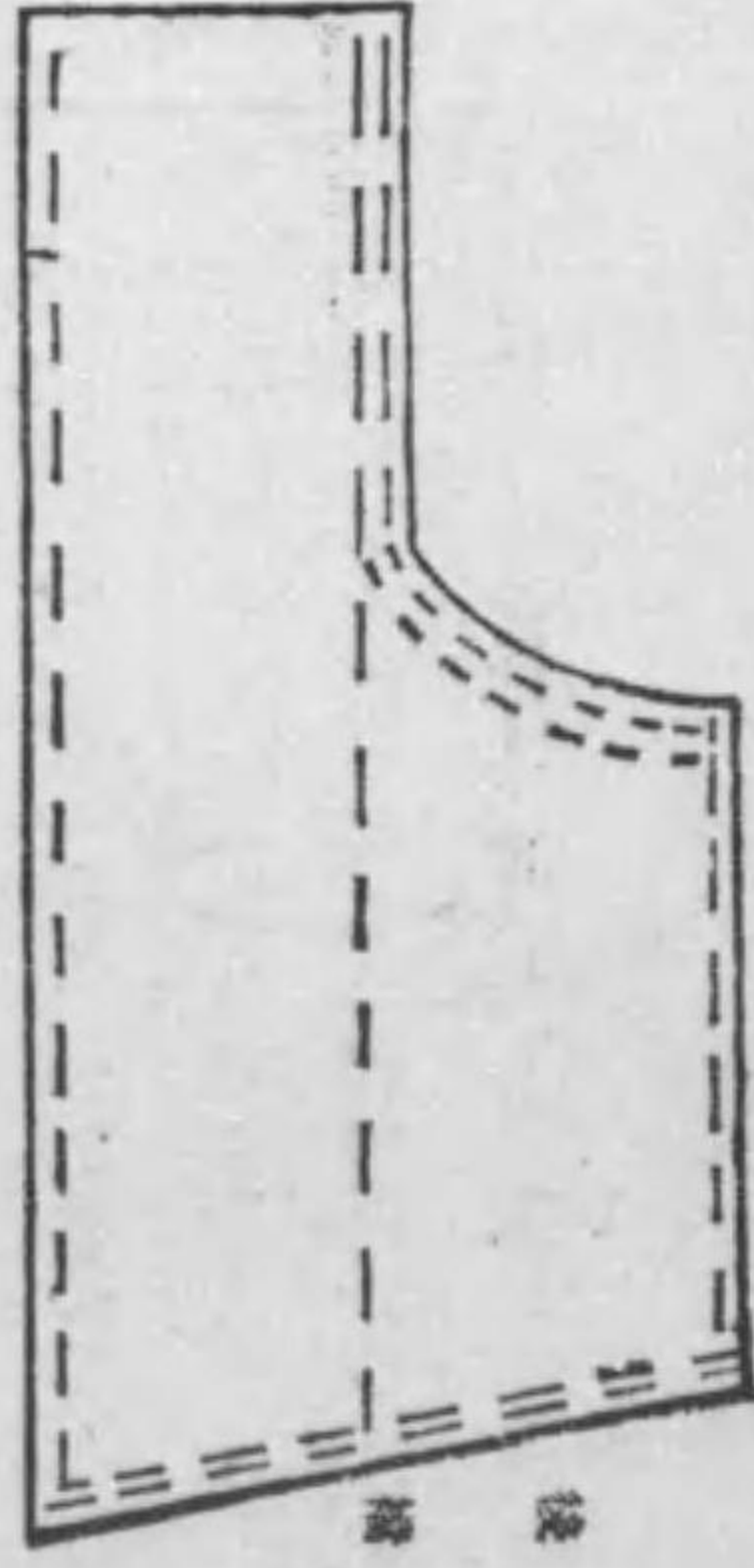
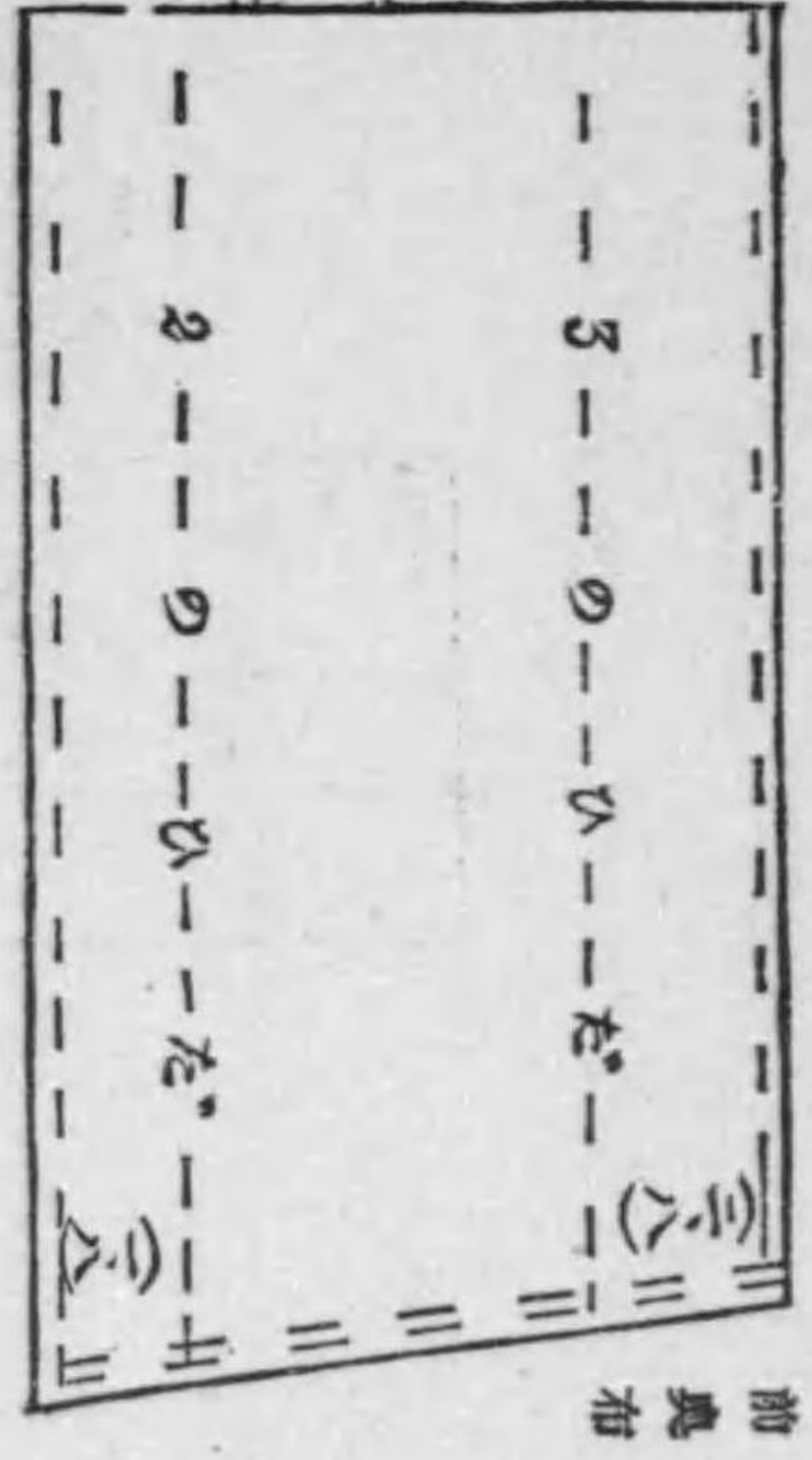
脇布と奥布との裁合方



縫合の圖



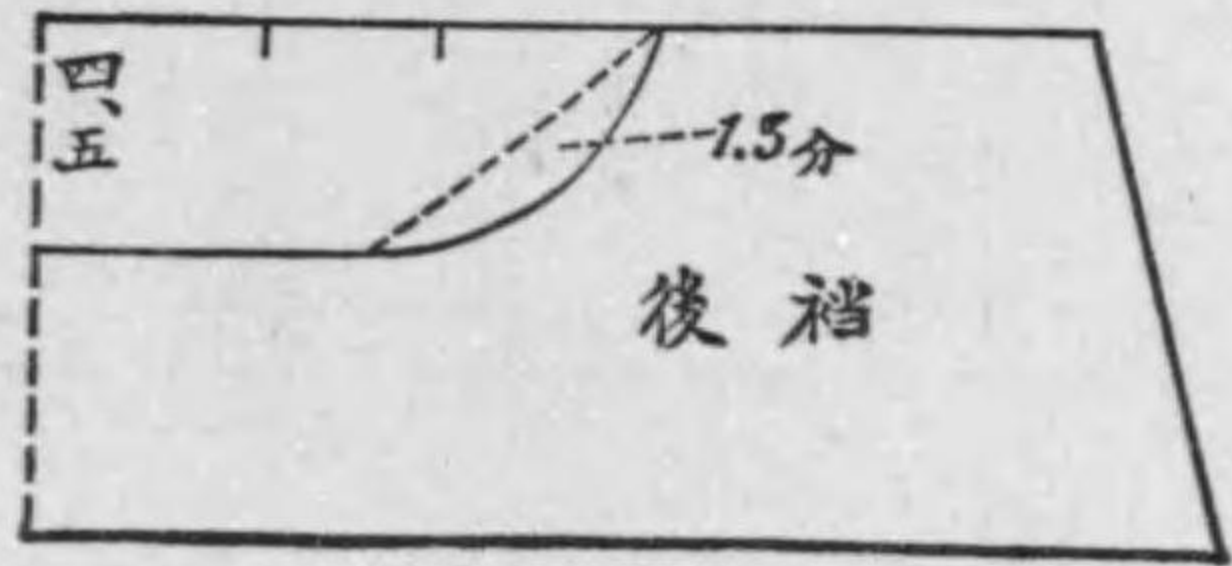
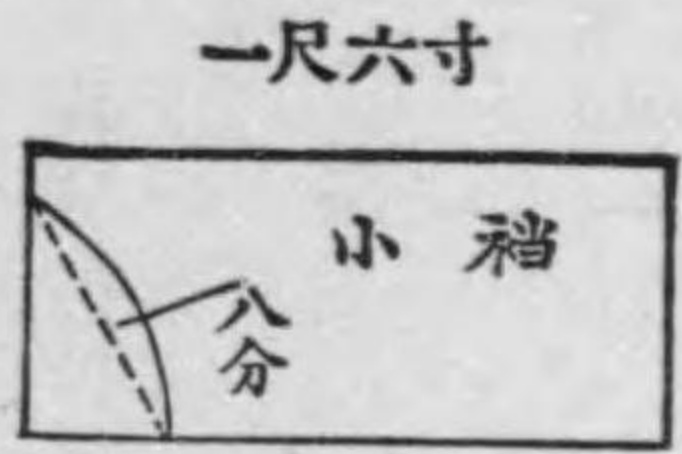
方圖附標



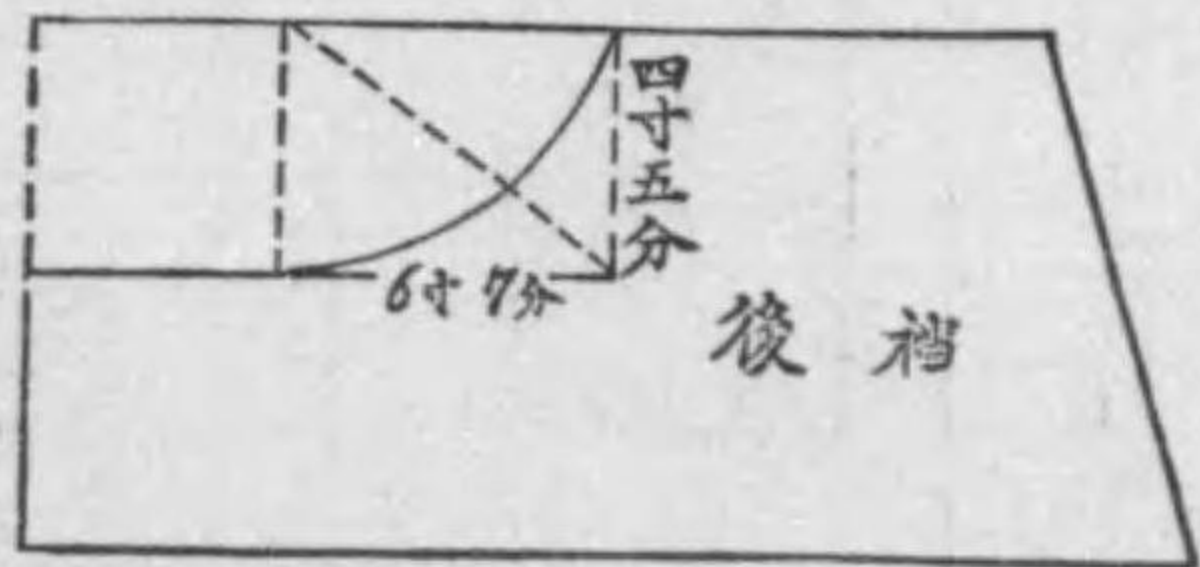
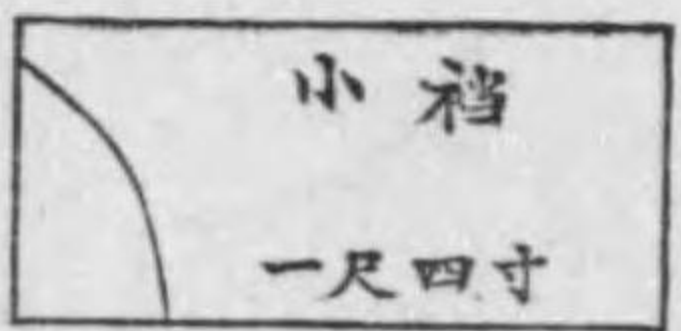
大人男袴裁ち方標付け方

襠のくり方 第一圖は襠の高さを標したあとを三等分して三分の一の所と布の耳いつばいの襠の高

第一圖



第二圖



さに物指を斜にあて、標しましたら後襠の切上げだけをくり標に丸味をつくり又小襠は縫代のあと前の切上げだけくり標に丸味をつくりました。第二圖は後襠の裁落し幅を中心として其幅と其二分の一を加へたものを上へ計り長方形をつくり幅と長さの和の二分の一を中心として丸味をつく

り、又、小襠は幅の半まで直線にあて襠形に丸味をつくります。何れの裁方にもくりに大差はありません。

男袴標附方順序

一、後巾 中表に二枚の後布を重ね裾を右に相引を手前にして正しく置きましたら先づ裾縮代二糎(五分)を標し(切上の處より向ふは斜になす)次に裾の標より相引丈を標し相引の縫込一糎二耗(三分)も同時に標します次に裾の相引縫込から向ふに三十糎(八寸)の後巾標をなし此標と裾縮標との交つた點から上に後丈を標します後丈は紐下に六糎(一寸六分)を加へた寸法に致します。

それから後巾糎三十糎(八寸)の處から後襠となる標をつけます之は後巾の $\frac{1}{20}$ だけ手前に向け

て斜に標します此標から又手前に計つて腰巾の $\frac{1}{2}$ の寸法を標附まして後丈との平行線を圖の如く

附けましたら此腰巾の $\frac{1}{2}$ の標と相引の標とに斜に尺を當て斜線を標します之をなげと申します(此

なげの縫込は三つ折縮となります)

標を下の布に通しまして上布を取り除け下の布には後襠の斜の上の標から向ふに後巾の $\frac{1}{10}$ 三糎寄せて後襠標と並べて布目眞直に下まで標します。

- 二、後襠 二枚を中表に重ね裾を右に乘間を向ふに置きまして裾縮標丈標を致します。
 - 三、脇布 置き方後布同様に致しまして裾縮標相引標を後布同様に致します次に相引の縫代より一の襷を後巾の $\frac{3}{5}$ 十八糎一耗(四寸八分)に標します。
 - 四、奥布 置き方は丈の長さ方手前に他は同様に致しまして手前から向ふへ二の襷を巾の縫込の所から計つて七糎(一寸八分)に標します。
- 注意二の襷の寸法定め方は寄襷巾に一糎五耗(四分)以上を加へます之は仕立上つた時脇布と奥布との縫合目をかくし得る爲であります。
- 次に三の襷を乗間の側の縫代より十糎六耗(二寸八分)に標します
- 注意三の襷寸法の定め方は後巾の $\frac{2}{5}$ より一糎五耗(四分)を減じます。
- 五、小襠 裾縮及び巾標をいたします。

男袴縫合方及び裾取り方

- 1、なげ結び(針目(八分)位)
- 2、後襠と後布を縫ひ合せ折りは後襠の方に返す(兩脚)

- 3 脇布と奥布とを合せ折りは奥布の方にかへす(兩脚)
- 4 奥布と小襠とを合せ折りは小襠の方に返す(兩脚)
- 5 後襠と小襠とを合せ折りは小襠に返し二糎(四五分)の針目にかくし躰を掛けます。
- 6 裾ぐけ 兩脚布とも躰にておさへ後布後巾標のところにて襷を一つとり縮け始め八糎(二寸)程残して結び終り八糎(二寸)ほど縮け残し糸を三十糎(七八寸)残しおさめます。
- 7 乗間を袋縫ひにいたします。
- 8 前後襷取り。

一、後襷 乗間の後襠上部の縫代真直に縞を通して兩脚二枚一所に躰糸にて假縫ひこれを後の中心として後布の腰附を左にとり蹴廻しを右にして襠を右脚に折り中央躰のところを折つて乗間の折りを右脚に返す左脚の重なり標を山に折りて中央後布後腰巾の標を合せ右脚は後襷の標どほり折りて左脚の後縫標の上に重ねて平躰を大きく掛けます。

二、前襷 後布を下にして前布も蹴廻を右に紐附を左にして一ノ襷二ノ襷三ノ襷の折りをつけ(但し右脚は三の襷を折らずにおき)前乗間の縫代を後乗間の縫代に重ねて中心とさだめ左脚三ノ襷標を中心に重ね右脚三ノ襷標をこれに合せます二ノ襷一ノ襷の寄襷巾下にて後巾の $\frac{1}{5}$ より一

- 分乃至一分五厘ひき上の寄袋巾は後巾の $\frac{1}{10}$ 巾に袋をよせます。
- 9 飾り千鳥紐附際より(二寸)ほど下に寄袋巾寸法に下は裾より(二寸)ほど上にて其の中央と三ヶ所にて
- 10 相引を合せ折りを前布にかへします。
- 11 蹴廻の縮け残しを縮けます。
- 12 笹袋とり女袴前笹袋作り方も同様であります。
- 13 前紐附半紙一枚入れ兩端にて二分づゝあげ附方女袴紐附同様小裁の場合は一分づゝ
- 14 腰之部分縫ひ説明に詳しく述べてあります。

腰板の作り方部分縫ひ

腰板に厚紙を圖の如き仕方では切りまして生半紙を二糶七耗(七分)幅切りかたく紙よりを作りまして長さは腰幅の凡そ三分の二に切ります。腰布用布を裁ち方圖の如く裁ち切り裏腰と附菱に裏打ちを致しますから生半紙を揉んでおきまして周圍に二耗(五厘)ほどの幅に糊をつけて張りつけます。

注意 張方は(布目)を真直に布地を裏打ち紙よりも張る加減につけます。そして糊が乾きましてから

裏腰附菱を切り離しておきます。次に腰板紙の表側の下部に一糶二耗(三分)ほどの幅に糊をつけまして付けました糊を軽く拭き取りて表腰布を裏の方に一糶二耗(三分)ほど折返しの出來ます様に向兩脇に布を平等に出して張りつけましてその糊が乾きませんうちに手早く紙よりも糊を付けまして板よりはづれぬ様に腰板表側の下部につけ紙よりの上のきはを表より指先にておさへて置きます。次に裏に折り返しの一糶二耗(三分)に糊をつけまして腰板の裏側へ張りつけ兩脇に出てる布を下部より計つて紐巾より一分狭く缺を腰板へ向けて際まで入れます。次に腰板の上部を裏の方へ折返して糊にて張りつけます。この時表の布目がゆがみませぬやう注意致さねばなりません。次に兩脇を腰板の裏側へ糊をつけて張りつけます。これにて略々腰板の形が出来上りましたので附菱を付ける位置を躰糸にて腰板に標を付けて置きます。腰板の脇の高さの二分の一に四耗(一分)加へましたところを附菱の高さとし腰板巾の三分の一に八耗(二分)加へたるところを附菱の中として躰糸にて菱形を右の附菱の高さからその巾へ次に左附菱の巾からその高さへと初めは裏から針を出して腰布を極く少なく抄ひ附菱の巾の所で針先を腰板附けの方へ向けて出し次に左附菱の巾の所で針先を附けの方から腰板の方へ向けて出しそれから腰板の高さのところ針先を表から裏へ向けて出して糸標を附菱の形に付けておきまして裏打ちをしておいた附菱の縦の一方を約一糶(二分五厘)に裏へ向けて折りをつけ

てこの折り角を腰板の脇に表を中にして當て、附菱の高さの標より折代を一種程上に出して待針を打ち腰板と附菱とが動かぬやうにしておき附菱の高さから巾への斜の糸標通りに附菱を折ります。この通りの仕方であらぬ一枚の附菱も附菱のつく所の形に合わせて折り附菱は裏を出して折りますから腰板へ張ります時には附菱を右左取換へて附けるのであります。

附菱張り方

右の如くして形を作りました附菱を腰板の附菱標しに合せて腰板脇を附菱縦の折角とを毛抜合せにして腰板の裏がはへ糊をつけて張りつけます。

紐付け方

紐は二本とも片端を十一種四耗(三寸)程縮け残しておき表腰を出して脇に下部から計つて紐巾より二耗(五厘)低く假りに標しの針を淺くかけて穴を明けておき紐の縮け残しておきました端の山に二種(五分)の切込みを入れて紐を倒さ向きにして紐の山から針を出して先に明けおきたる針穴を抄ひ紐の山にかへりて糸をかたく結び留めにして糸をさらすにおき紐丈を腰板と水平にして紐の切込み

を三角に折り紐の表側の折縮代を腰板の裏側へ折り込みまして、腰板布の脇の切込み布を包み紐裏側の折縮代と合せて紐縮に布の釣りゆるみなどのなきやうに紐縮け残りを揃へて留め結びをして又糸をさらすにおきその針を附菱の附際に(附菱を折り返した時糸の見えない程度)腰板の表に針を出してこの針は小針に裏へ戻して紐附け際をかたく返し留めにし、紐切込みは三角に折つてあります通りに三角に順次に針を出し入れして裏から見ても表から見ても糸が正しく三角にかへります様に留めます。其の糸にて紐縮け残りを縮けますこれで腰板は出来上つたのであります。次に後布標付け及び縫方があります。

- 一、部分縫用布の後布を半巾に折り輪を手前に置き輪の所上部を四種(五分)下部を二種(二分五厘)のつまみに成る様標を附けます
- 二、輪の方より布のみに向いて腰巾の $\frac{1}{2}$ に計つてなげの標を附けます。
- 三、輪の所が後壁に成るので實物と同様斜めの標し通りに折つて右を上重ねあらし針目に錶を掛けます。
- 四、なげをみゝ縮或は折り縮けにいたします。
- 五、腰巾の裏側に裏腰布を二、三分の針目にごち附けます。

六、腰巾の表側に出来上りの腰板を載せて中央と両端に待針を打ち腰立てを糸掛けの順序に附けます。

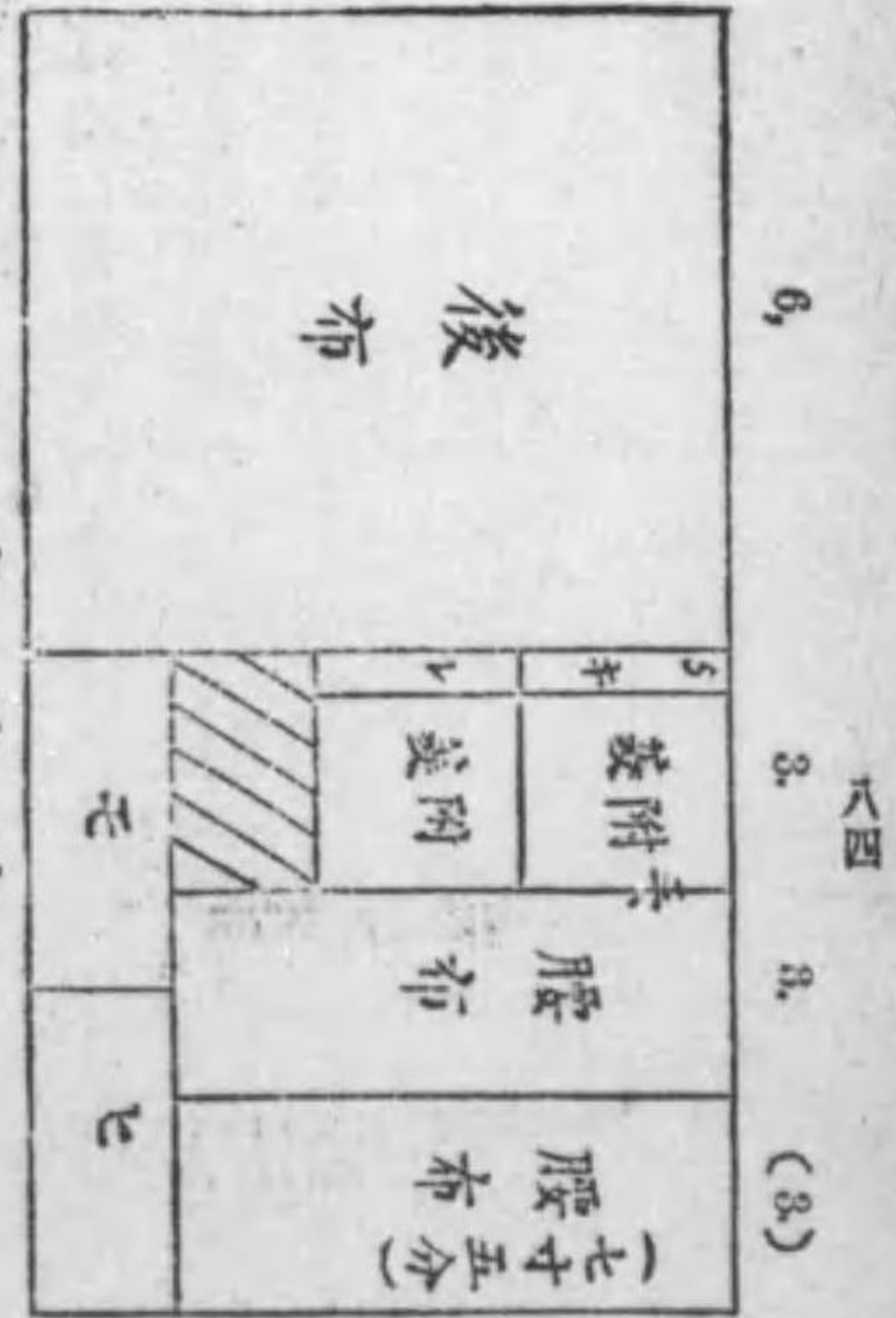
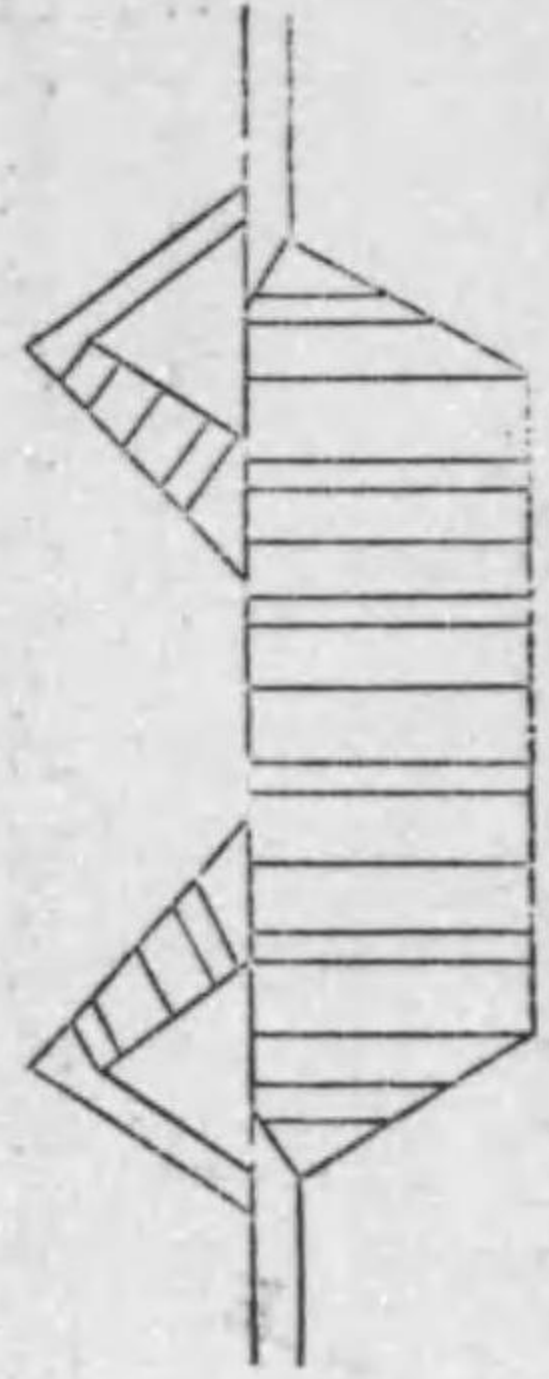
大人袴腰板糸掛順序説明

糸掛の場合の袴の置き方は糸掛順序の圖の如く腰板を手前に向けて持ち右手から糸を掛け始めます。大人袴の糸掛は針目を二十ヶ所留に致します此他に十八留もあります中裁は十六留、小裁は十四留であります。

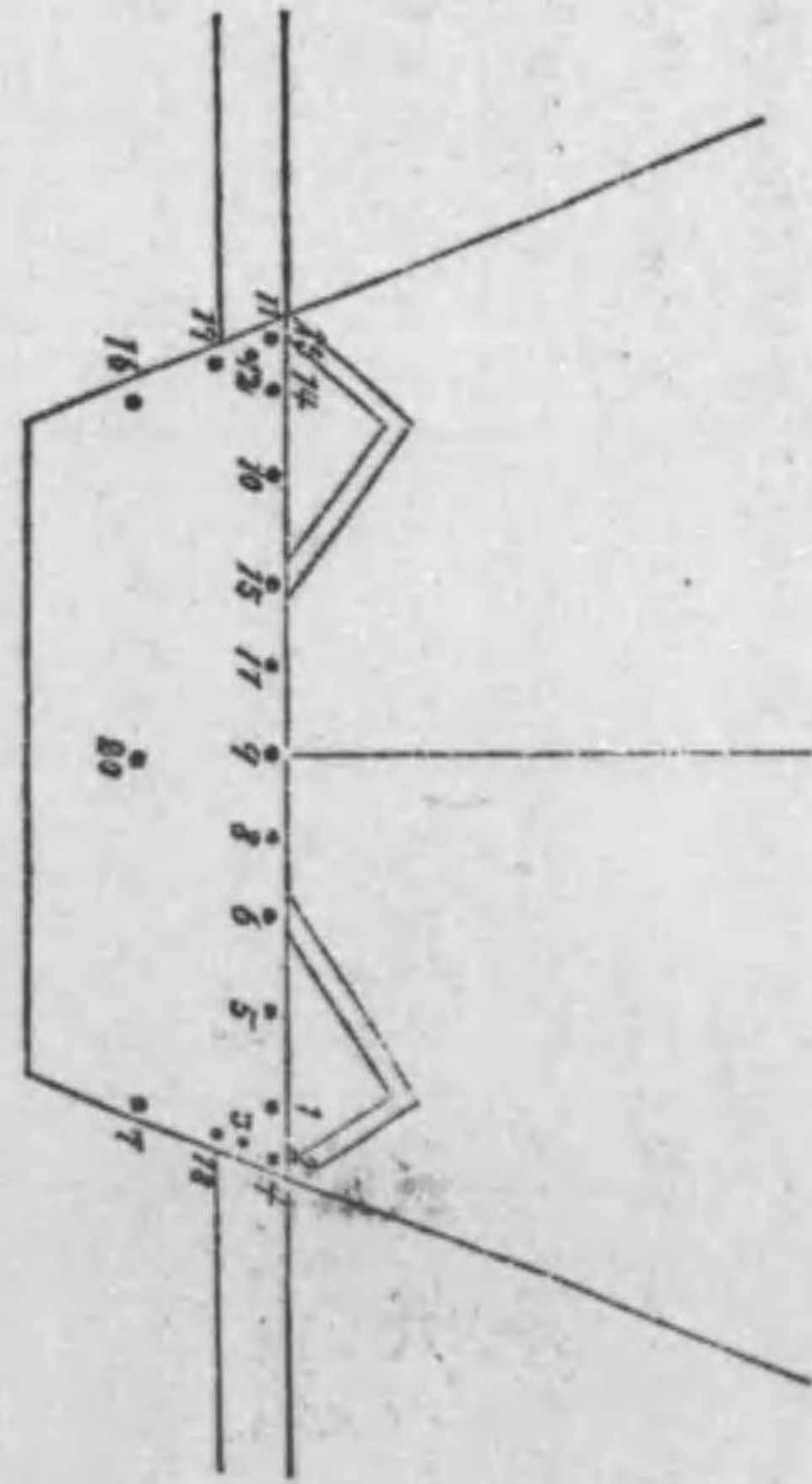
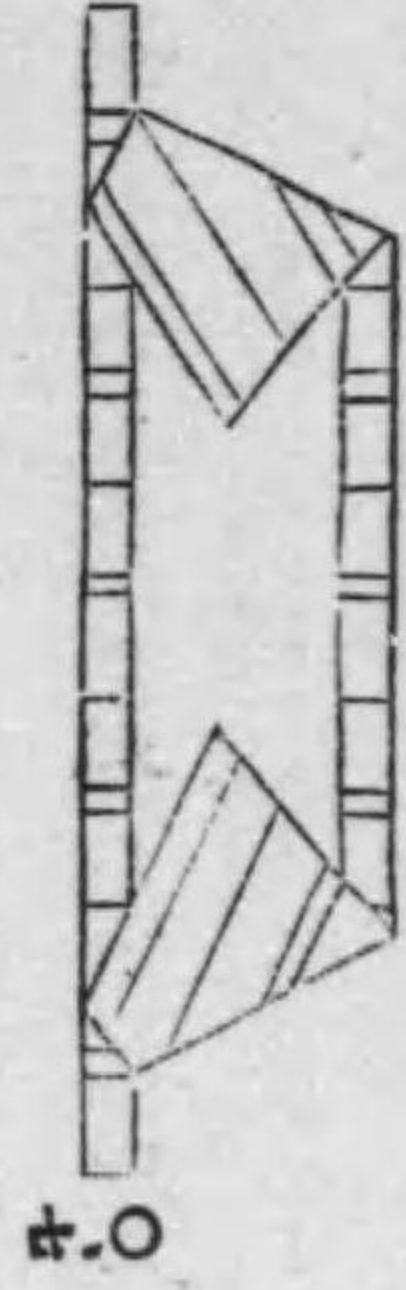
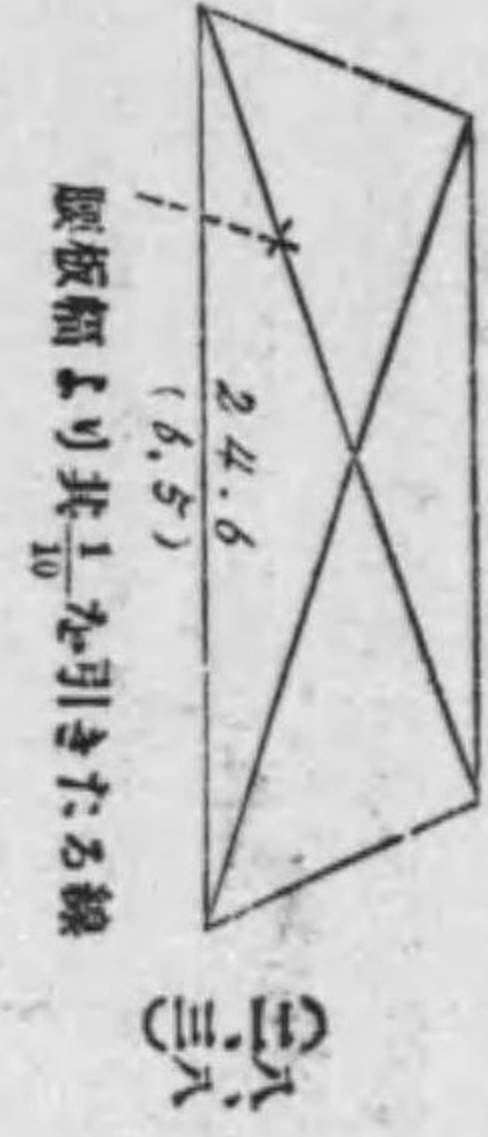
裏腰は後布の方に開いて置きまして一の針は附菱の角から二厘(五分)入りて裏に腰幅の標の二粒(五厘)きは針を真直に出し二の針は附菱の角に附菱を折り返して見て留糸が見へない限り出来るだけ際に裏から表に針を真直に立て、出し三の針は紐附の三角の留の中央に刺して裏に引き出し四の針は二の針穴に刺して表に引出し五の針は附菱の中中央に刺して裏に引き出し六の針は附菱を折り返して見て留糸の見へない限り際に(附菱の終りより凡一種(三分)程入りて)表に出して小さく返し針にして裏に戻し、七の針は附菱を折返して附菱の山を腰立の裏から針を出して抄つて針を腰立の裏へ今の針穴より離して出し八の針は後襲折山と附菱との中央にし紙よりのきは針目を極く小さくして裏に戻し、九の針は後襲折山にて紙よりの際に出して小さく返し針にして裏に戻し十の針は五の針と等

しく附菱の巾の中央の表に出し十一の針は二の針に等しき處に表から裏に出して十二の針は三の針に等しく十三の針は四の針に等しく十四の針は一の針に等しき處に表に小さく出して重ね戻し十五の針は六の針に等しき處に出して小さく返し針にて裏に戻し十六の針は七の針と同様に十七の針は八の針と同様に致しまして腰立を裏返しにし裏腰の巾を表腰よりも二粒(五厘)引き腰巾附の両端は表裏共に巾を同じして上部にて自然に二粒(五厘)控へて折りを裏につけ脇の折込みの上に巾の折を折り返して置き十八の針にて紐附の際に腰立の裏から附菱布を抄はぬ様に稍斜に腰立の表に針を出して糸をよく引き戻りの針は紐の山を抄つて今の針穴から裏側は少し離れて中に出し、十九の針は十八の針と同様の仕方でありまして十八と十九の間の糸は強く張つて腰板に丸みをもたせませず。最後に二十の針を裏から稍針を斜めにして九の針の上にて腰板巾の中央に出し表布を引き掛けませぬやうに針を出したる布目に針を戻し裏側は反対の方向に斜めに出して留め糸を十八から十九へ張つてゐる糸にかたく結びつけてきります。

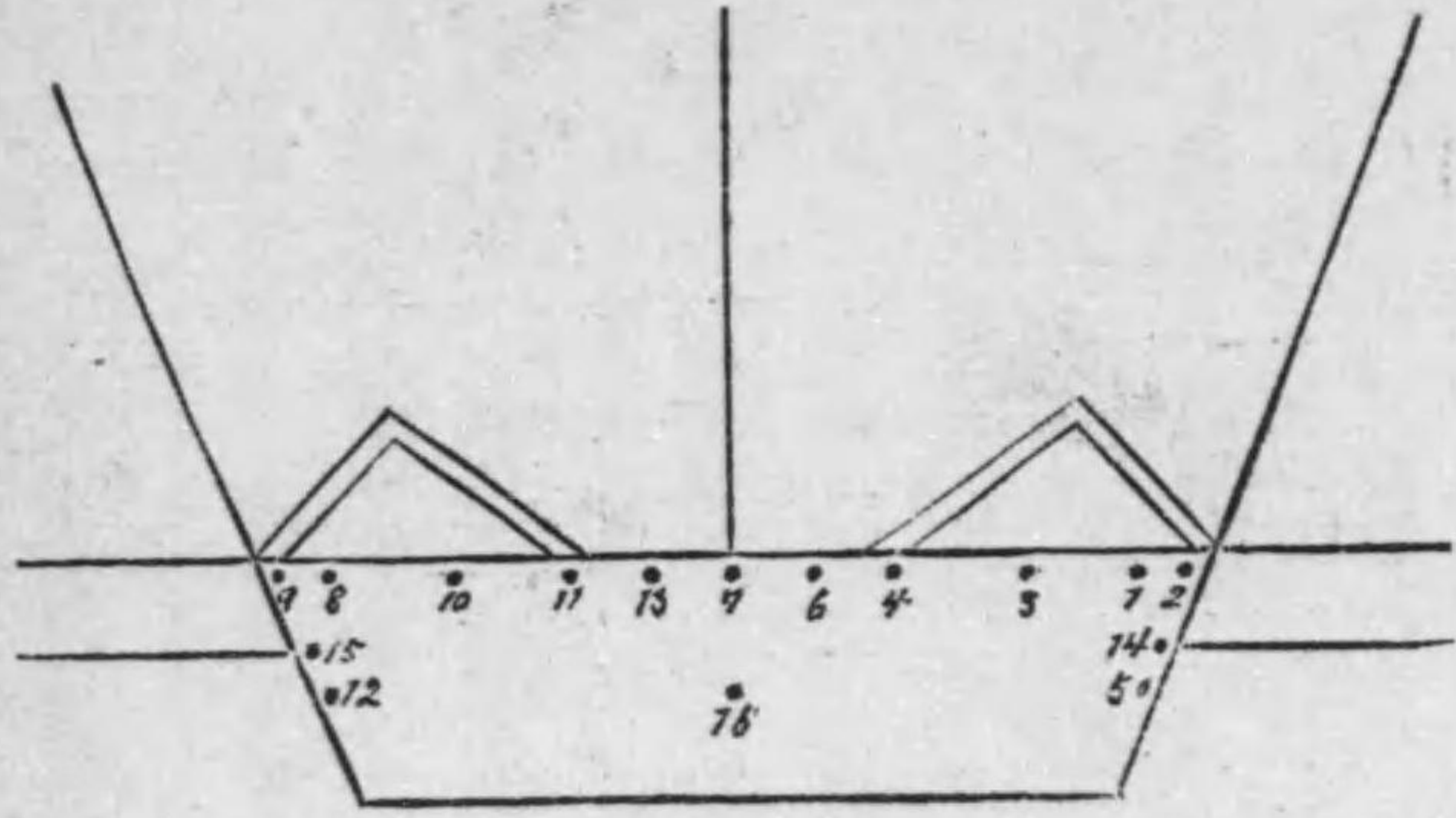
腰板部分縫布の裁ち方



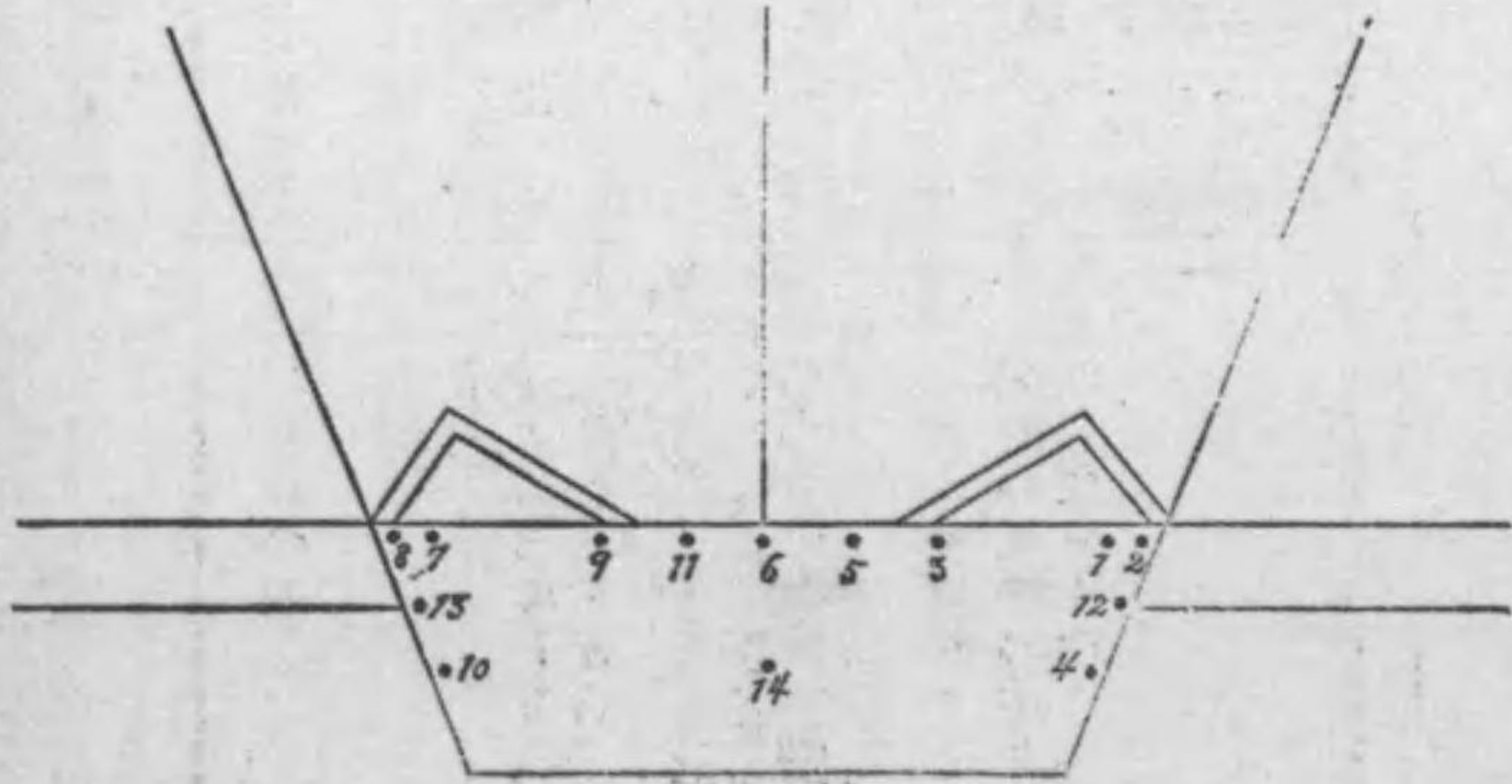
大人袴腰板糸掛順序



中裁袴腰板糸掛順序



小裁袴腰板糸掛順序



中裁小裁男袴割出し及び仕上寸法 (米にて)

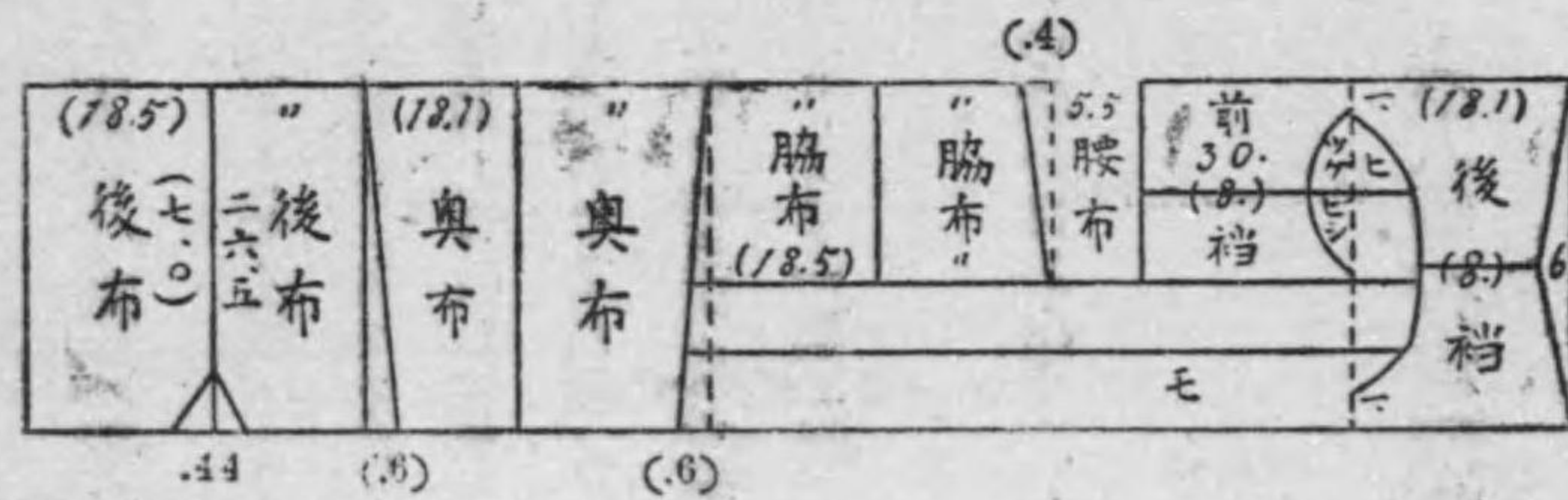
脇	幅	十	七	糶	十五	糶	九	糶	十四	糶	七	糶	十三	糶	三	糶	後幅の五分の三	
前紐	幅	二十八	糶	四	糶	二十	糶	六	糶	二十四	糶	六	糶	二十	糶	九	糶	後巾と同寸
前寄	幅	上二糶	糶	七	糶	二糶	糶	六	糶	二糶	糶	三	糶	一糶	糶	九	糶	上巾、後巾の十分の一
征	幅	下五糶	糶	七	糶	五糶	糶	三	糶	四糶	糶	九	糶	四糶	糶	一	糶	下巾、後巾の五分の一、四糶減ず
襠	高さ	四糶	糶	一糶	糶	四糶	糶	二糶	糶	三糶	糶	四糶	糶	三糶	糶	三	糶	脇巾の四分の一
乗	間	三十七糶	糶	九糶	糶	三	糶	十四糶	糶	三	糶	三十糶	糶	三糶	糶	二十二糶	糶	相引の高さより凡そ七糶六糶を減ず
切り	上げ	五糶	糶	三糶	糶	四糶	糶	五糶	糶	四糶	糶	一糶	糶	三糶	糶	二十五糶	糶	紐下の十分の四に一糶九糶を加へる
三の	深さ	九糶	糶	四糶	糶	八糶	糶	三糶	糶	八糶	糶	三糶	糶	七糶	糶	五糶	糶	紐下の凡そ百分の一
後	紐	丈	糶	四糶	糶	六糶	糶	十糶	糶	六糶	糶	八糶	糶	五糶	糶	十糶	糶	凡そ後巾の五分の二より三糶八糶を減じたるもの
前	紐	丈	糶	三糶	糶	三糶	糶	四糶	糶	二糶	糶	九糶	糶	七糶	糶	九糶	糶	

中裁小裁袴割出し及び仕上寸法 (米にて)

紐	下	十五、六	糶	十二、三	糶	八、九	糶	五、六	糶	六	糶	六	糶	六	糶	六	糶	着丈の凡そ十分の六
相	引	七十五糶	糶	七糶	糶	六十四糶	糶	四糶	糶	六十八糶	糶	二糶	糶	六十糶	糶	六糶	糶	紐下の三分の二
後	幅	二十八糶	糶	四糶	糶	二十六糶	糶	五糶	糶	二十四糶	糶	六糶	糶	二十	糶	一糶	糶	紐下の凡そ三分の一に三糶八糶を加へる(着物の後幅と同寸)
後	幅	二十二糶	糶	七糶	糶	二十一糶	糶	九糶	糶	二十糶	糶	八糶	糶	十八糶	糶	二糶	糶	後幅の四分の三に一糶九糶を加へる
後	重	下	糶	三糶	糶	一糶	糶	二糶	糶	一糶	糶	九糶	糶	一糶	糶	五糶	糶	後幅の十分の一
腰	板	八糶	糶	三糶	糶	七糶	糶	九糶	糶	七糶	糶	六糶	糶	六糶	糶	八糶	糶	上幅 腰巾の六分の四
腰	高	八糶	糶	三糶	糶	七糶	糶	九糶	糶	七糶	糶	六糶	糶	六糶	糶	八糶	糶	下巾 腰巾と同寸
附	菱	八糶	糶	三糶	糶	七糶	糶	九糶	糶	七糶	糶	六糶	糶	六糶	糶	八糶	糶	腰巾の三分の一に七糶半を加へる
附	高	五糶	糶	四糶	糶	五糶	糶	四糶	糶	六糶	糶	四糶	糶	二糶	糶	二糶	糶	腰幅の三分の一に七糶半を加へる
附	高	五糶	糶	四糶	糶	五糶	糶	四糶	糶	六糶	糶	四糶	糶	二糶	糶	二糶	糶	腰板斜邊の二分の一に七糶半を加へる

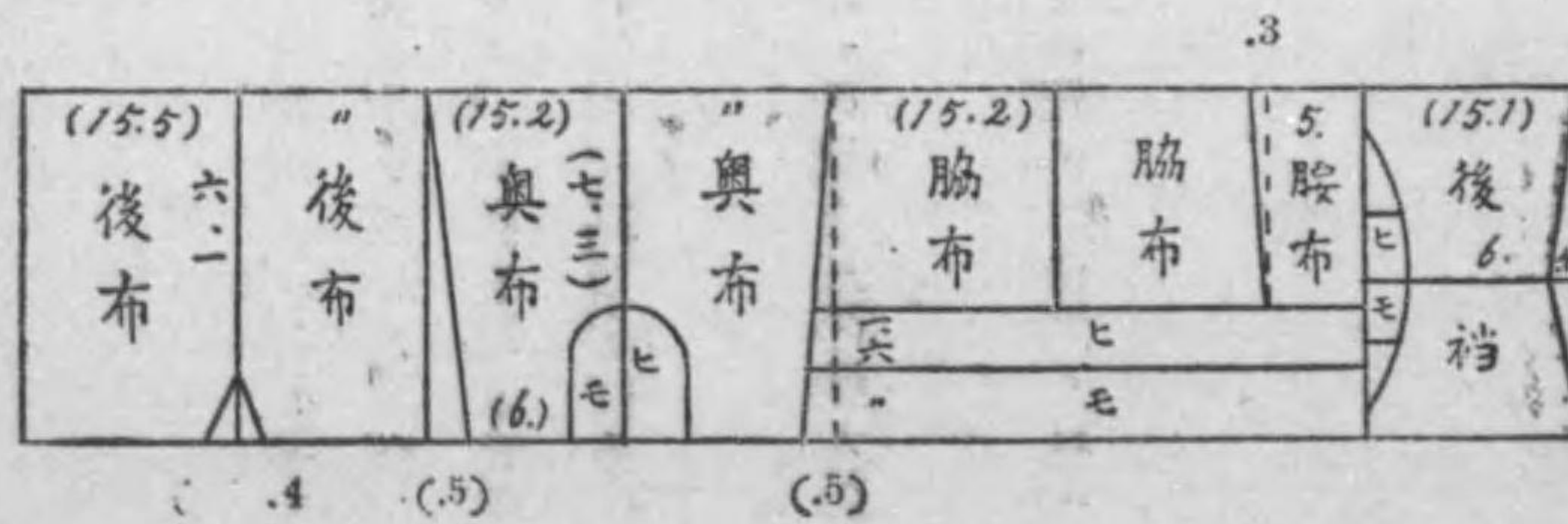
並幅5米44糎5耗(一丈四尺三寸四分)にて

八、九歳男袴裁ち方



並幅4米27糎5耗(一丈一尺二寸三分)にて

五、六歳男袴裁ち方



中裁小裁積り方裁方

凡十六、七歳

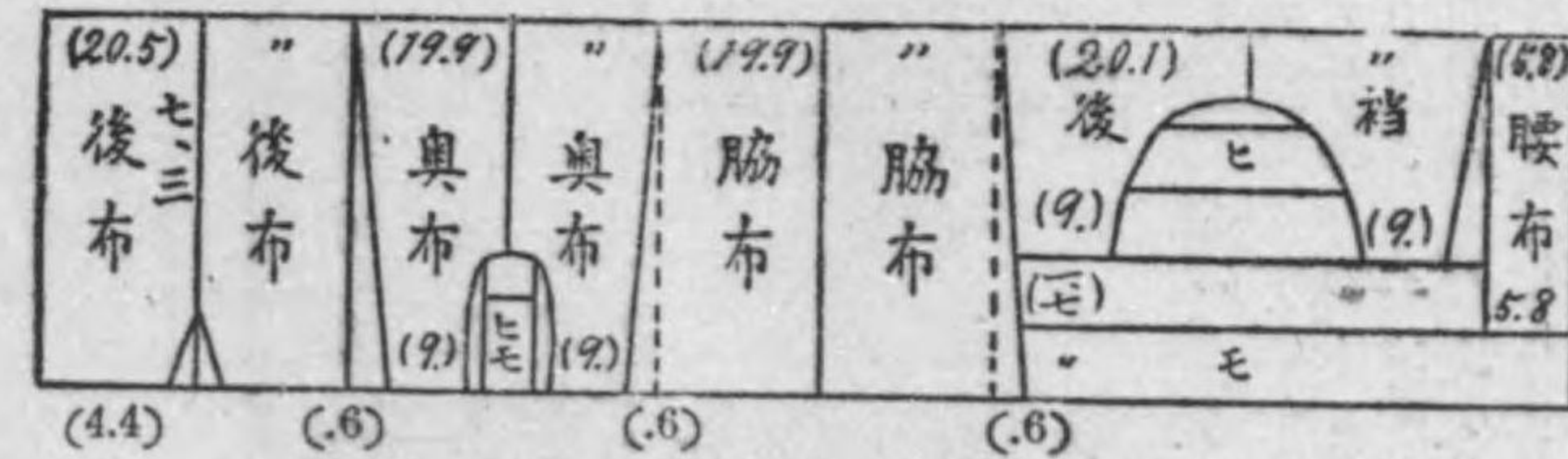
普通幅7米77糎5耗(二丈〇四寸六分)にて



$$\begin{aligned} & \{ \text{總丈} - (\text{紐布} + \text{腰布}) + \text{裁違} \} \div 8 = \text{後丈} \\ & \{ 204.6 - (18 + 6) + 3.4 \} \div 8 = 23 \\ & 7.77.5 \quad 68.2 \quad 22.7 \quad 13.0 \quad 87.0 \end{aligned}$$

凡十三、四歳

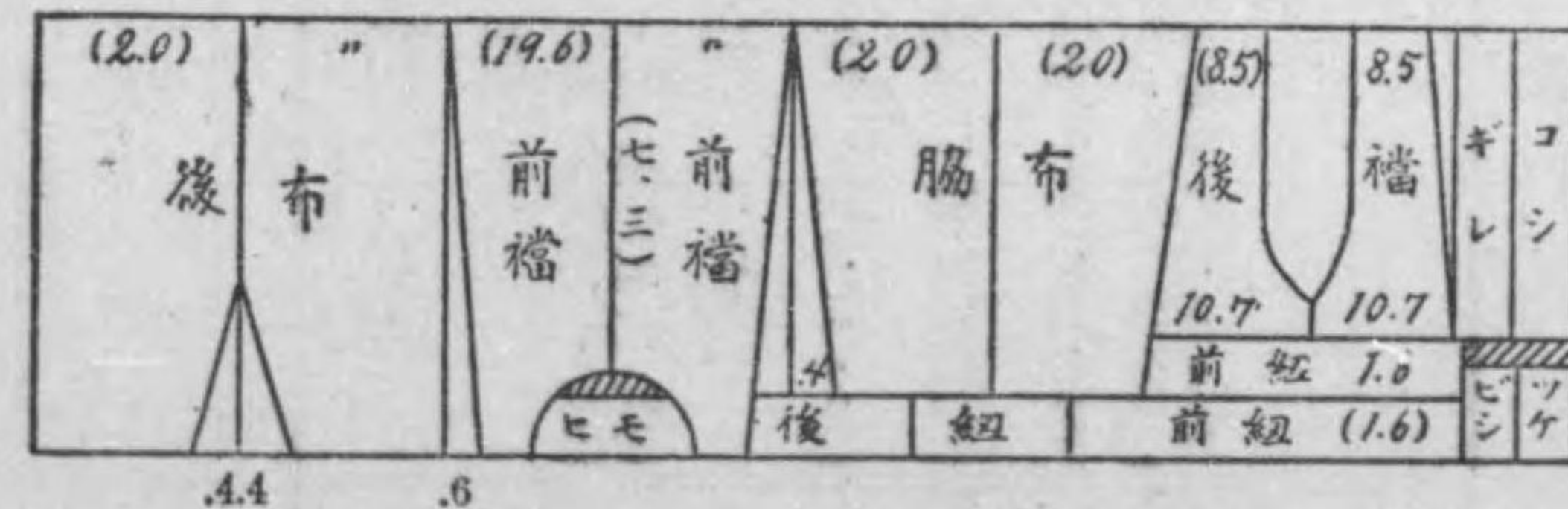
普通幅5米07糎7耗(一丈六尺〇六分)にて



$$\begin{aligned} & (\text{總丈} - \text{腰布} + \text{裁違}) \div 6 = \text{後丈} \\ & (160.5 - 5.8 + 3.2) \div 6 = 20.5 \\ & 5.07.7 \quad 22.0 \quad 12.0 \quad 77.8 \end{aligned}$$

凡十歳より十二、三歳まで

普通幅5米69糎2耗(一丈五尺)にて .6 (5.5)



$$\begin{aligned} & \{ \text{總丈} - (\text{後摺} \times 2 + \text{腰布}) + \text{裁違} \} \div 6 = \text{後丈} \\ & \{ 150 - (10.5 \times 2 + 5.5) + 2.8 \} \div 6 = 2 \\ & 5.6.2 \quad 40.9 \quad 21. \quad 10.6 \quad 75.7 \end{aligned}$$

中裁小裁男袴標付方及び縫方順序

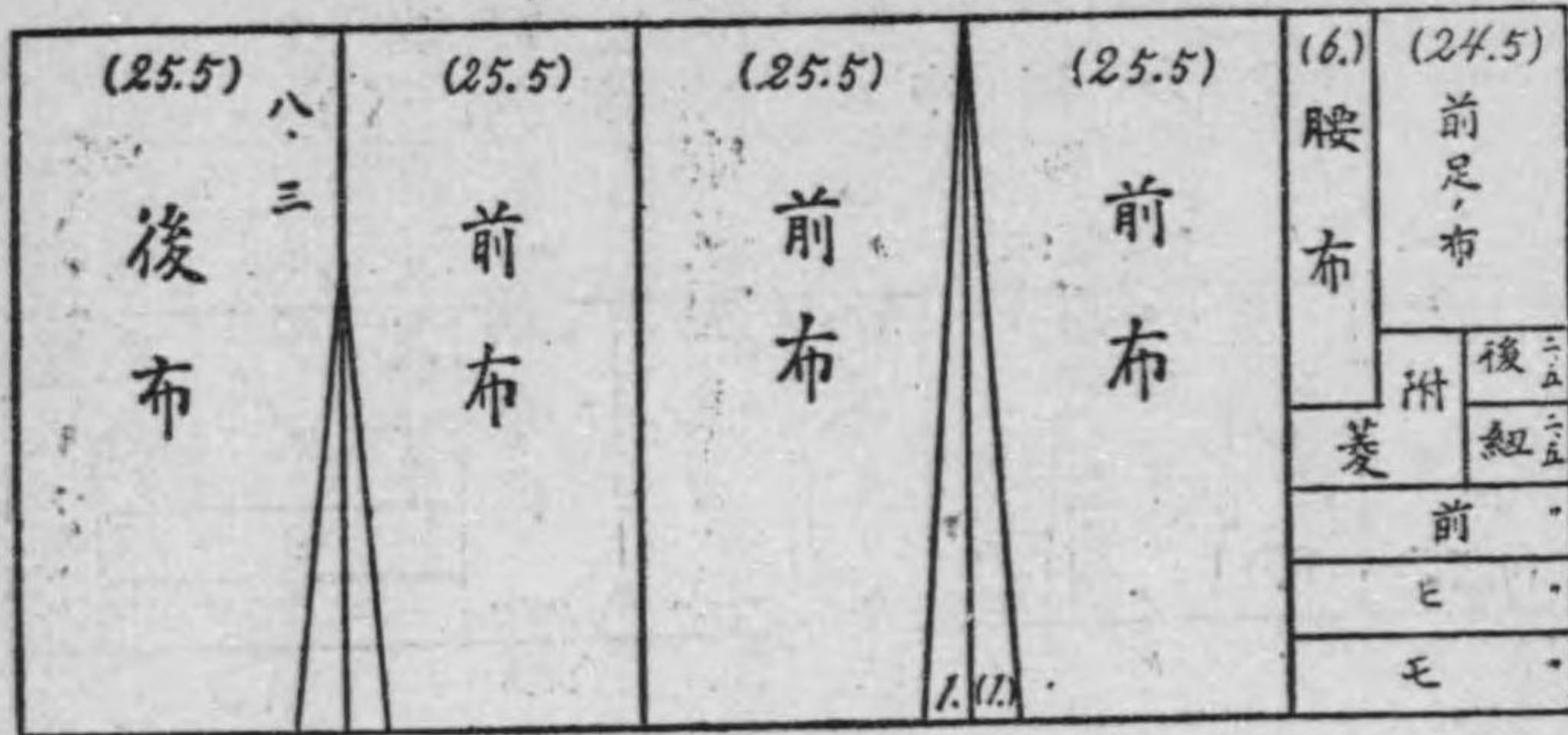
一、後布は大人物と異りません紐下丈に依つて各部の寸法を割出しまして標付をいたします。
 後襠は後布丈と同寸法に上部まで附く裁方と上部まで附かない裁方と御座いますがすべて大人物の如く縫附方折り返し等同じに致します。前布の方も異つた所はありません。只襠を取ります時後布だけで後襠の附かない場合には重ね襠（ふところ襠）を取らないで乗間に添つた縫目を直ちに右に折り返します。（三の襠定め方前奥乗間の縫目より計つて）。

三の襠は後巾の $\frac{2}{5}$ より一種二耗（三、四分）を減じます二の襠は一の襠と三の襠との中央に定めます。

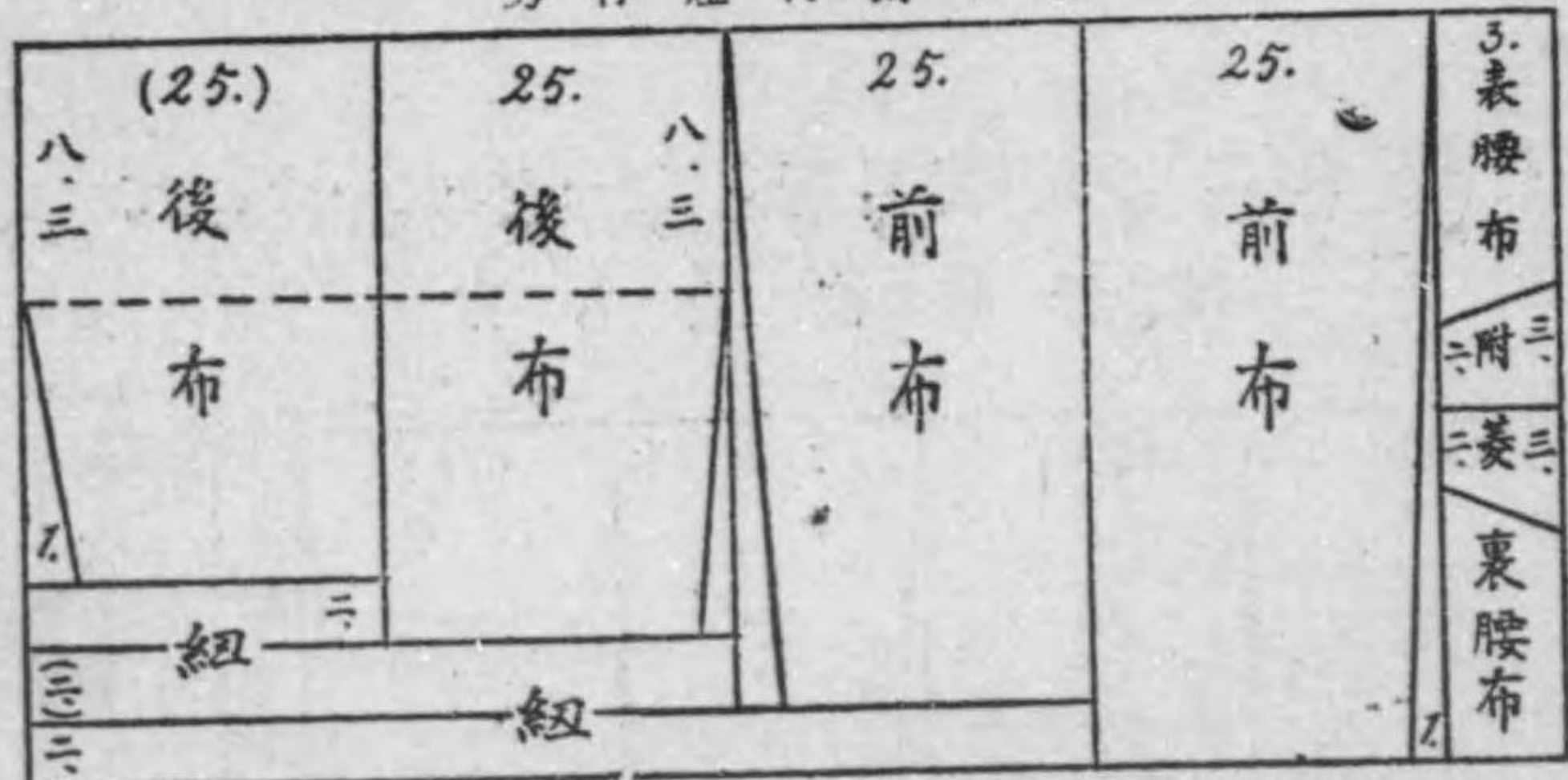
但し脇布と奥布との縫合目が出来上り襠に現はれませぬやう其縫目を奇襠の下にかくれるやう二の襠を定めます。

大人物行燈袴裁方（裁方圖中米寸法省く）

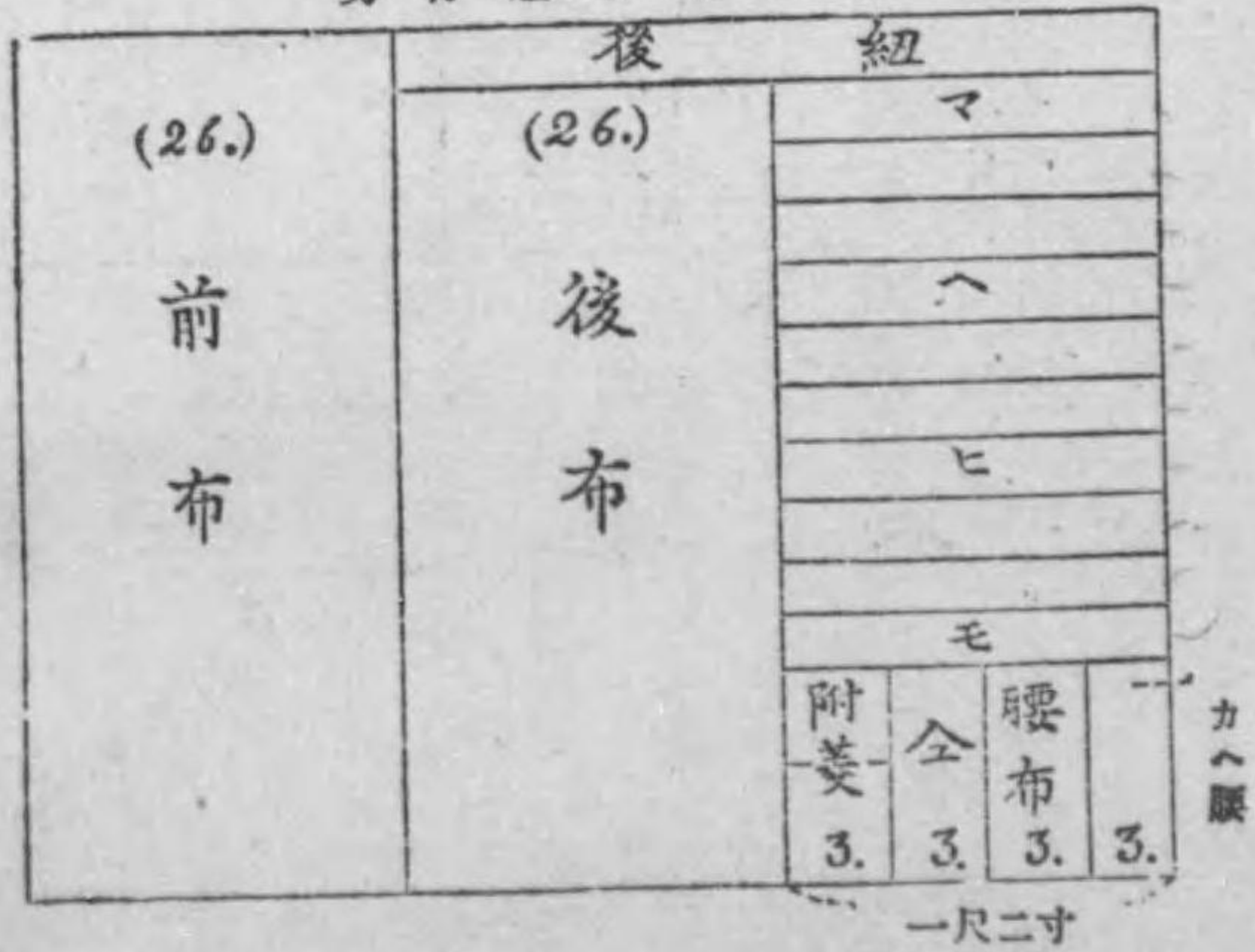
75糎7耗(二尺)幅5米93糎3耗(一丈三尺二寸五分)にて男行燈袴裁方



75糎7耗(二尺)幅3米91糎(一丈三寸)にて男行燈袴裁方

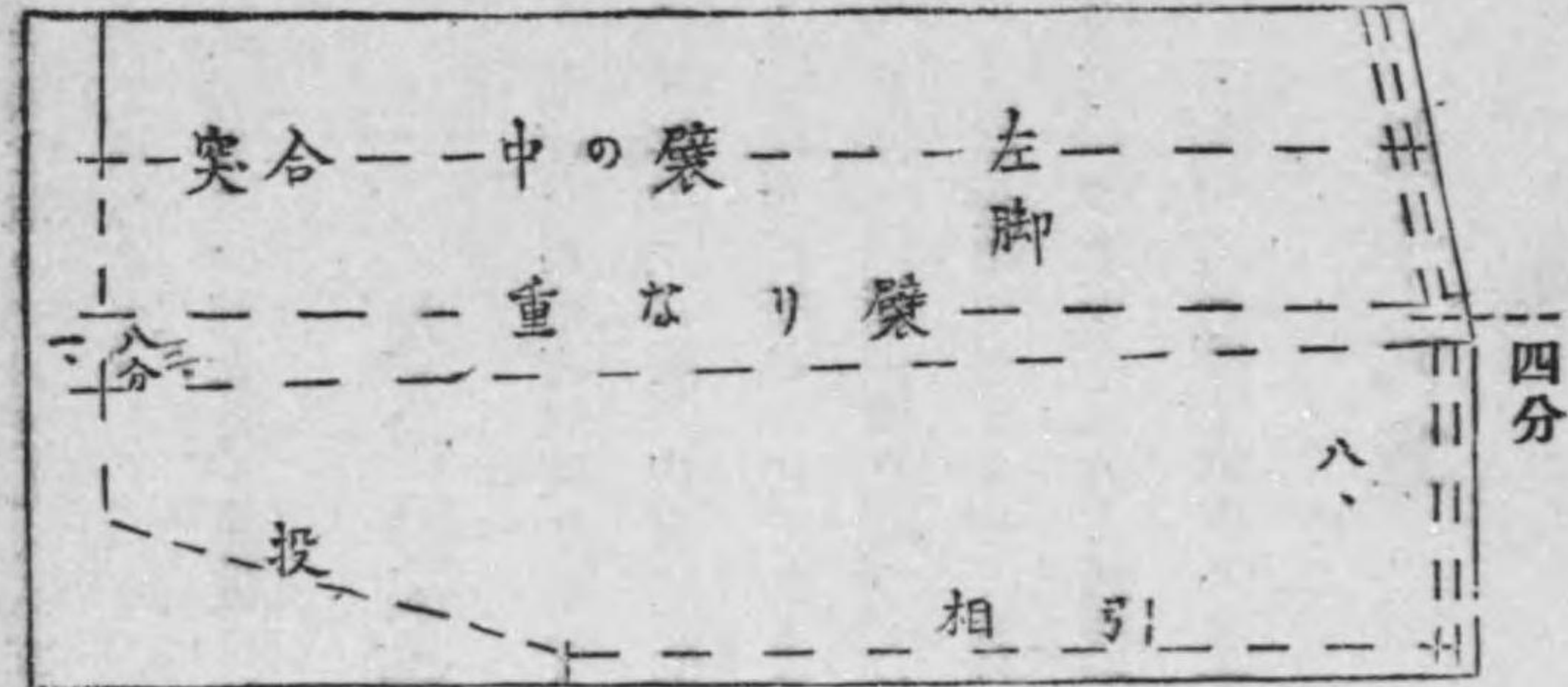


1米13糎8耗(三尺)幅2米91糎(六尺四寸)にて男行燈袴裁方



大人行燈袴標付け方

第一圖



第二圖



一、後布 左右の布幅が差の有る時は接ぎ合せて裾を右に持つて手前に折り伏せ縫ひをいたします中表に二つに折り輪の方を向ふに相引を手前にして置きます裾縮代を二種(五分)に標しまして馬乗袴と同様に丈幅、相引、なげ、の標しをいたします。

行燈袴は後襷の下に向重なつて突き合の襷を作りますのでこの襷の標しを後襷と後奥布の端との中央に標

第十五章

九五

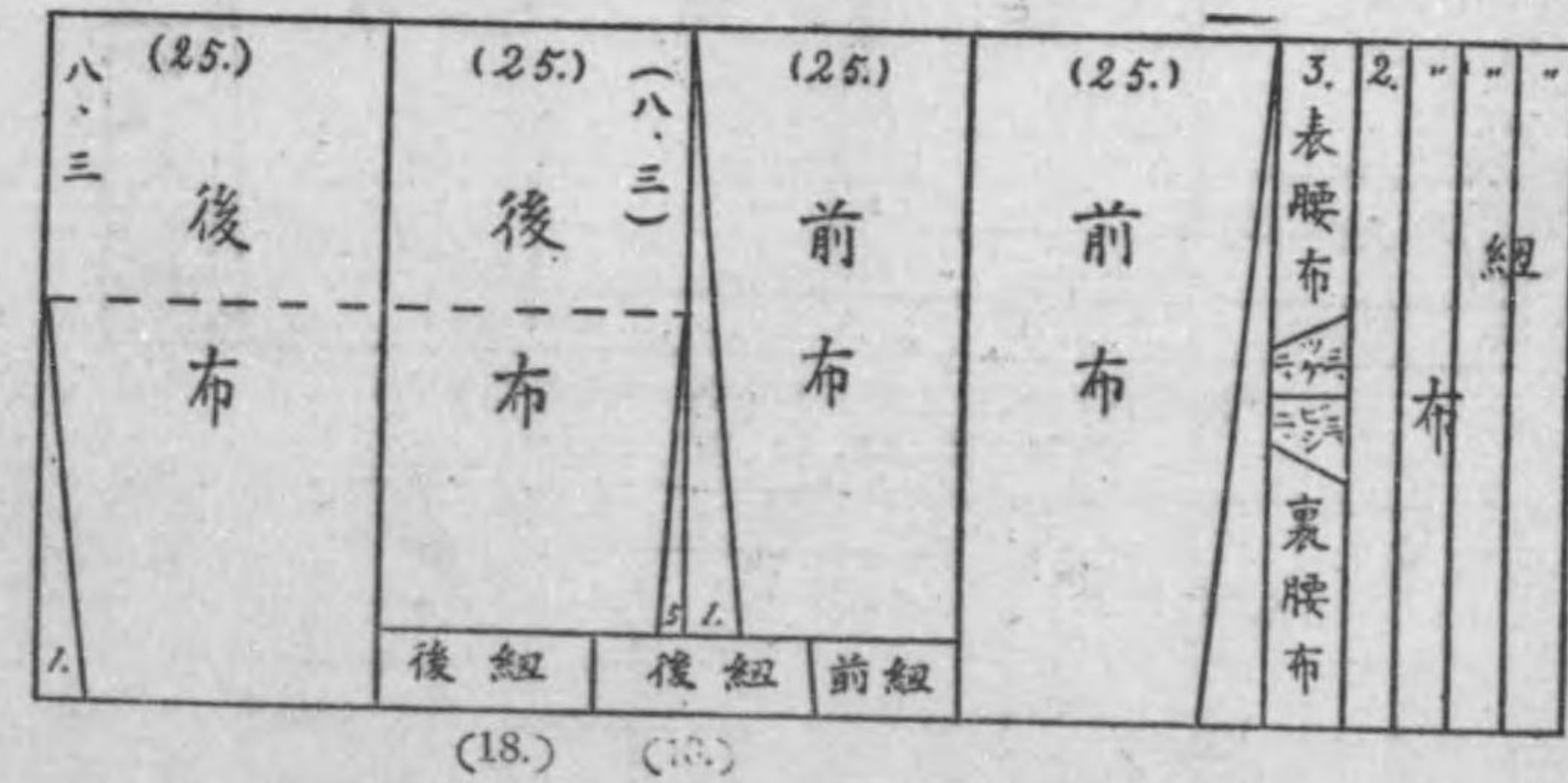
大人行燈袴裁方

(裁方圖中米寸法省く)

100.	96.	98.8	100.	98.8	100.	96.	98.8	98.8	100.	96.	98.8	98.8
(26.4)	(25.4)	(26.4)	(26.1)	(26.1)	(26.4)	(26.4)	(26.1)	(26.1)	(26.4)	(26.4)	(26.1)	(26.1)
脇布	前奥	前奥	脇布	後奥	後奥	後布	後布	後布	後布	後布	後布	後布
(25.9)	"	"	"	(25.4)	(25.4)	(26.1)	(26.1)	(26.1)	(26.1)	(26.1)	(26.1)	(26.1)
8.	"	"	"	6.	96.	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8

75 糎 7 耗(二尺)幅 3 米 21 糎 8 耗(一丈一尺一寸)にて

男行燈袴裁ち方



{總丈-(腰布+組布)} ÷ 4 = 後丈
 {111.-(3+8.)} ÷ 4 = 25.
 3.2L8 11.5 30.5 94.8

裁縫教科書

九四

しまして右脚を取りのけましたら左脚に重なるの襷標しを付け重なり寸法馬乗袴と同様後幅の十分の一を圖の如く標します。

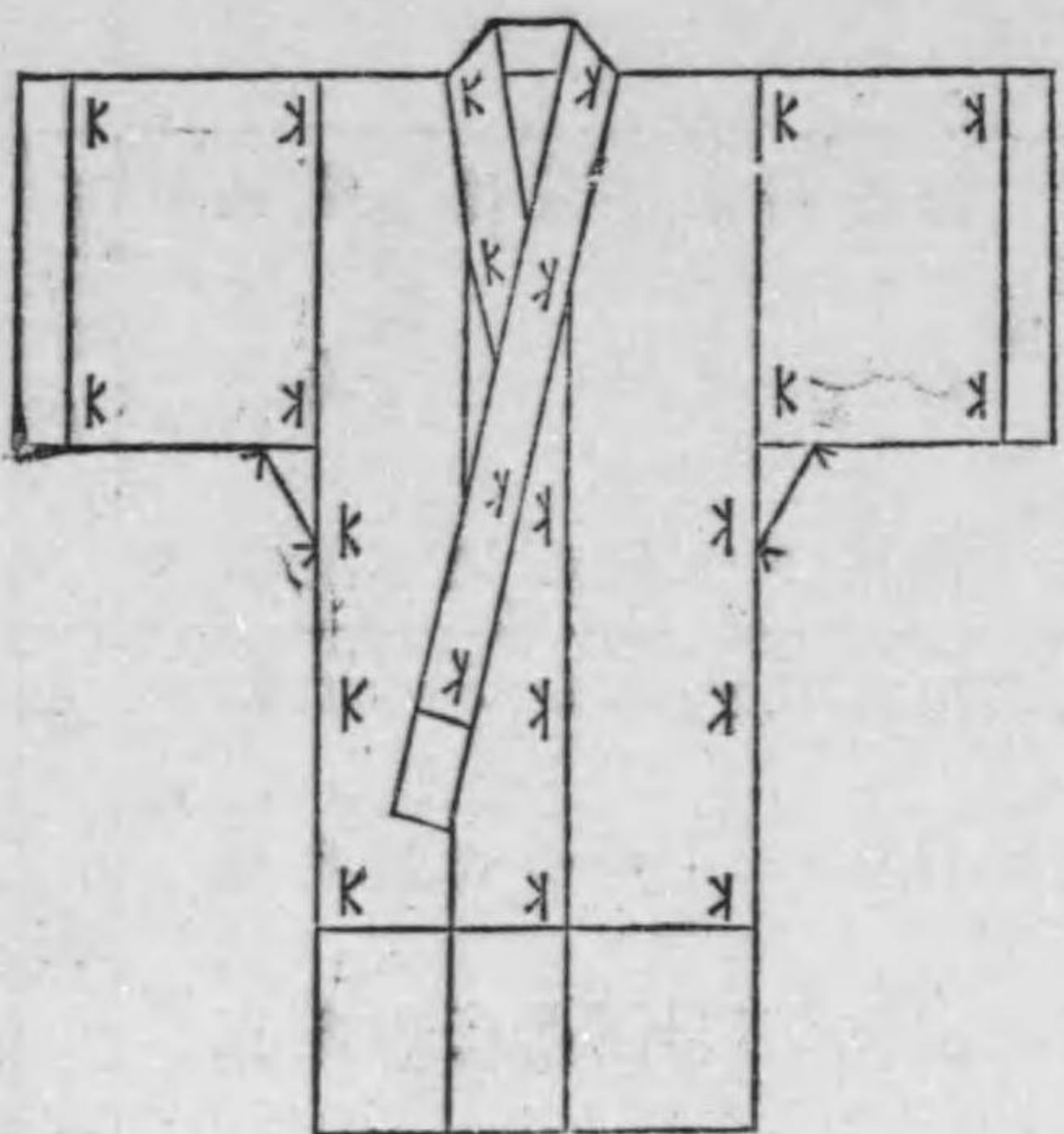
前布の標附方は全部女袴と同様にいたします。

大人行燈袴縫ひ方順序

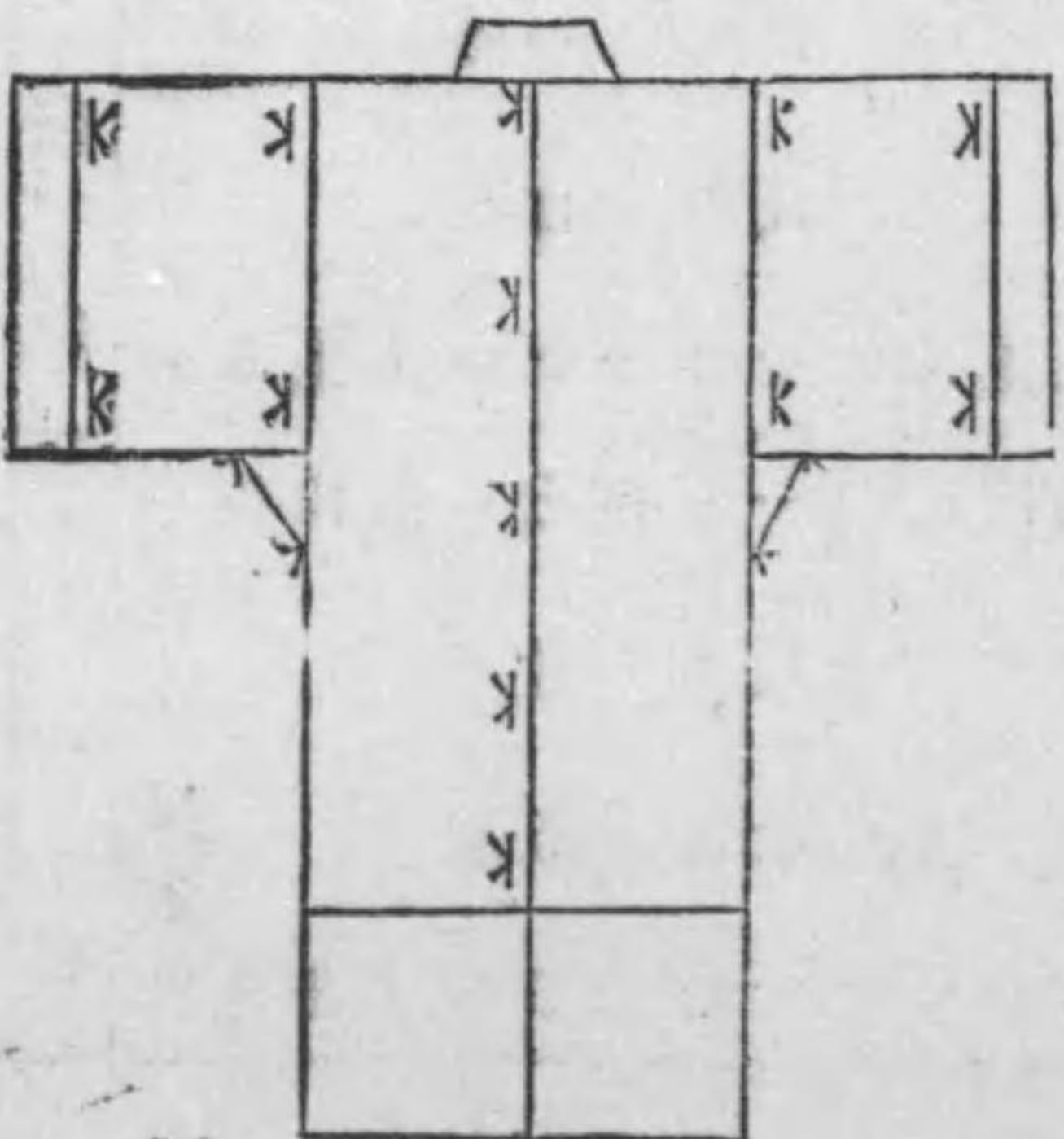
- 一、後布 なげを馬乗袴同様に縮けます次ぎに中の襷即ち突き合の襷標を左右から突き合せて躰をかけて置きます其の上に馬乗袴同様に左脚の重なり標しに合て重なりの上へ右脚を載せて躰をかけます背縫の折りと反對に折れるのであります。
- 二、前布 女袴と同様に襷を取つてかざり躰をいたします。
- 三、相引 及び裾縮相引を合せて前布に折りを付け門留をして裾縮残りを縮けます。
- 四、笹襷及び前紐附等 女袴と同様であります但し笹襷はあまり丸く成らない方がよろしう御座います
- 五、腰立 馬乗袴も同様で御座います。

第十六章

仕立上り前の圖



仕立上り後の圖



夜着普通仕立上り寸法

各部名稱	種	大	中	小
袖丈	一尺六寸五分	一尺五寸五分	一尺四寸五分	
袖幅	八寸	七寸五分	七寸	
表身	四尺	四尺	四尺	
後身	一尺	一尺	一尺	
前後幅	一尺	一尺	一尺	
衽幅	一尺	一尺	一尺	
衽下幅	六寸	五寸	五寸	
衽肩幅	三寸	三寸	三寸	
衽燧	三寸	三寸	三寸	
出燧	四寸	四寸	四寸	
綿燧	五寸	五寸	五寸	
綿目	二貫五	二貫	二貫	
肩當	三寸	三寸	三寸	
掛衿	丈	丈	丈	

蒲團

三布

四布

五布

丈 凡そ一米八十二種(四尺八寸) 或は一米八十九種(五尺)

綿 一貫四、五百匁

一貫二、三百匁

一貫五、六百匁

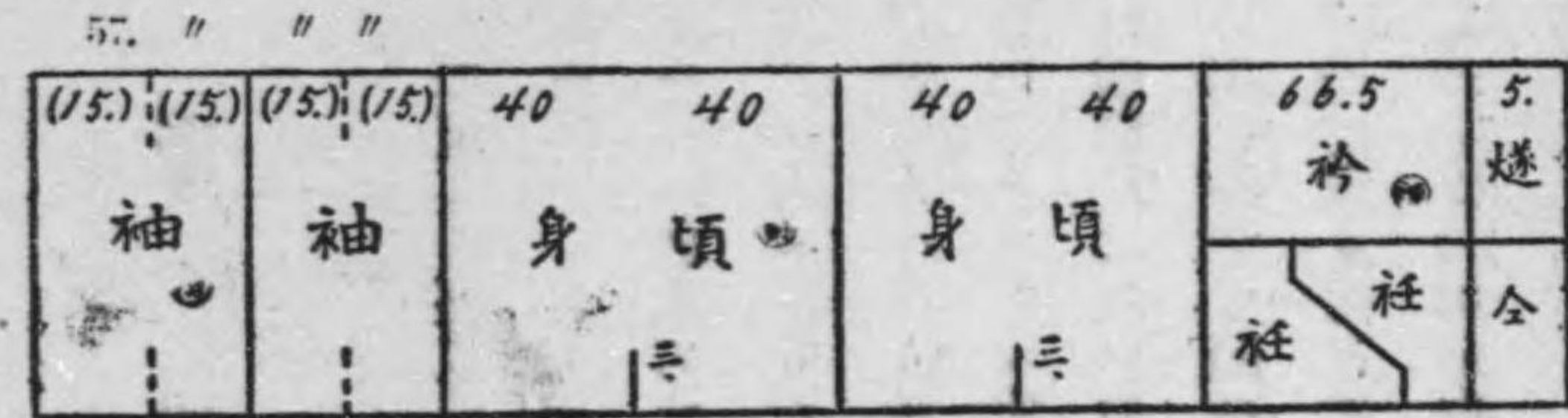
敷蒲團 並巾一反を三布に裁ちまして之を三巾に縫ひ合せ裏の方の縫ひ目を一ヶ所一米(二尺六寸)ばかり縫ひ残します。一方へ折りをつけ、折りは着物の背縫と同様に折ります。隠し襷をかけ丈を二つに折り三方を縫ひ表の方へ折り又隠し襷をかけ表布の裏を出し其の上に真綿を引き輪の方を稍厚味に綿を延べます縫目の附きました方が裾になります。又其の上に真綿を引き四隅、幅二ヶ所及び丈三ヶ所に引き糸を附け新聞紙二枚を中央にのべ此の處へ四隅から巻き合せ縫ひ残した處から引き返して紙を去り丈幅をよく引き合せて縫ひ残せし處をくけて綴ぢにいたします。

掛蒲團 表裏各く一反宛を用ひまして四布或は五布に裁ちますのであります。敷蒲團と同様に縫ひまして綿を入れ綴ぢ糸をかけて並幅一米三十二種(三尺五寸)の掛衿をかけます。

夜着 裁ち方

幅36糎 長10米98糎

並幅 二丈九七にて

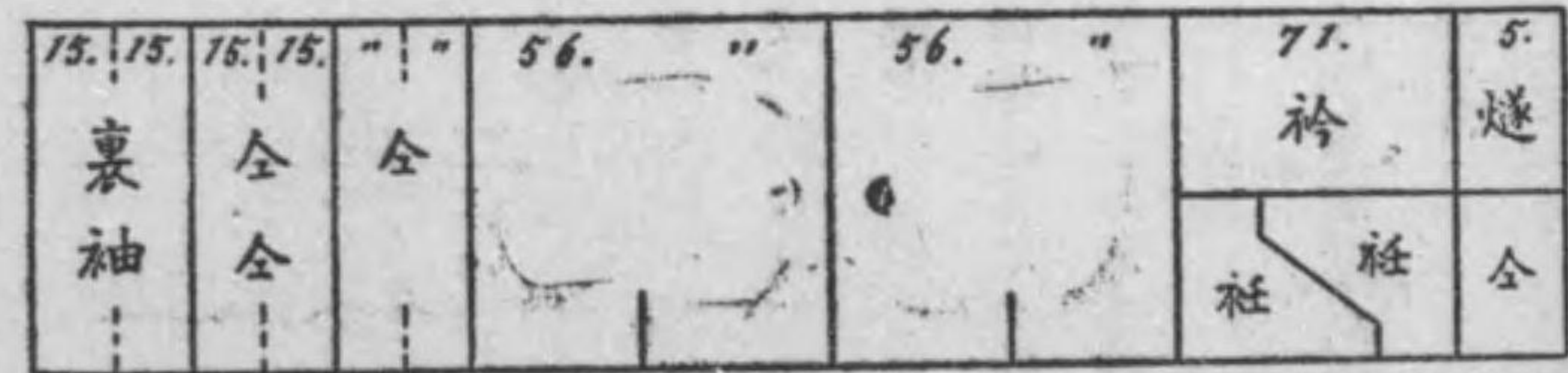


總尺-(袖丈×4+身丈×4+燧)=衿丈

夜着裏の裁ち方圖

幅36糎 長14米96糎にて

並幅 三丈九尺五寸にて



袖丈×6+身丈×4+燧+衿丈=總尺

夜着標付け方

一、袖 燧切れに寸法通り標をしておきます。表袖には丈幅を標して袖下に附の方から燧の寸法を標します。

裏袖には、幅を標して丈は施の表に出る部分の幅だけ表袖から四糎(一分)引き標をして奥の方で三糎二耗(八分)詰め施山から斜に標をいたします。

奥袖は裏袖丈の詰めた寸法と同寸法に丈を標し幅標をして、表袖のやうに、袖下の附の方から燧の寸法を標しそれから裏袖の奥と奥袖の端とに合標を附けます。

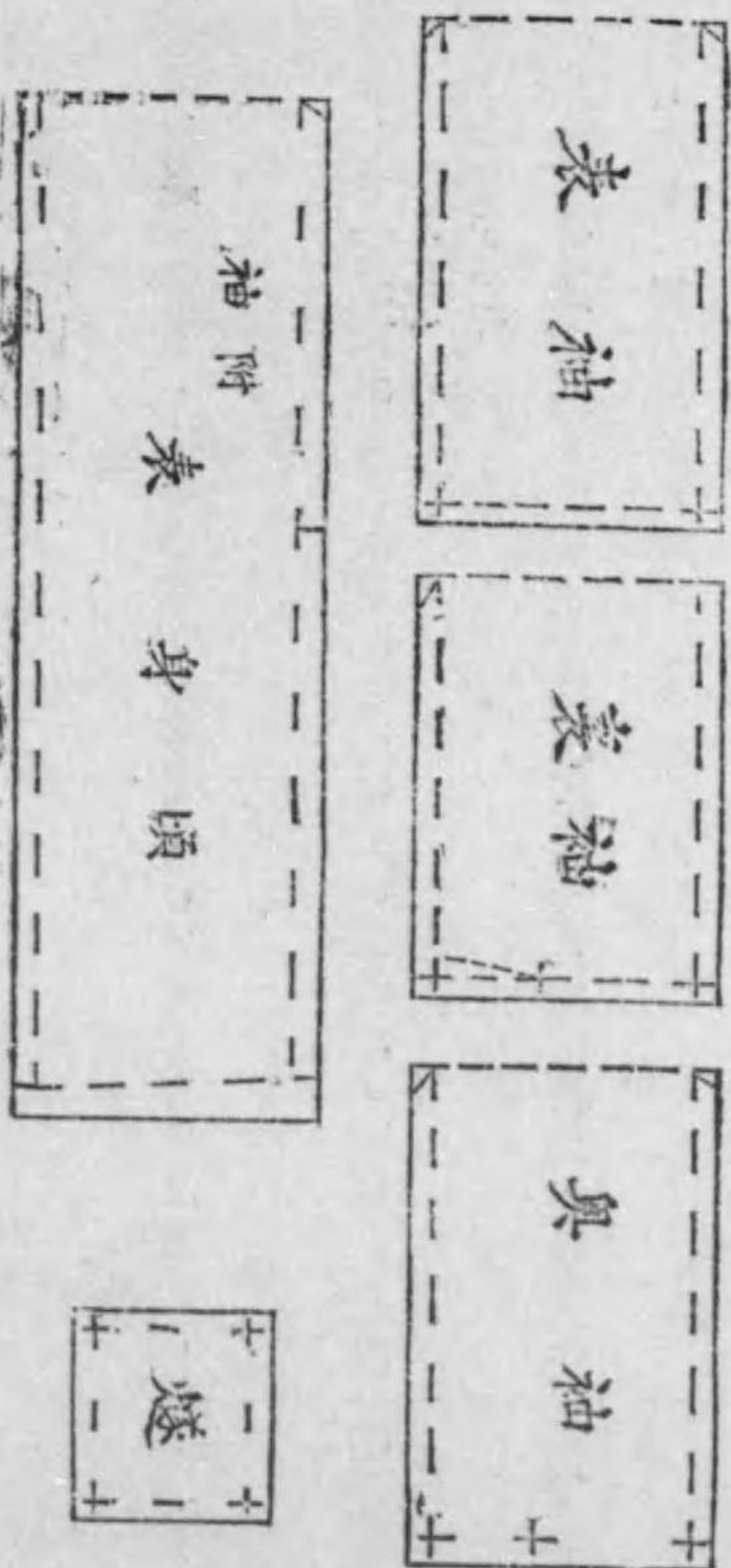
二、身頃 表身頃には丈山を標し袖丈に燧の寸法を加へて袖附の標をしてそれから脊肩幅後幅衿下り前幅の標をいたします。

裏身頃には、山を標して表身丈と同寸に丈の假標をして、施の寸法を標し奥袖丈に燧の寸を加へて袖附を標しそれから、脊肩幅後幅衿下り前幅(施の部分は裾口と同寸)の標をしておきます。

三、衿 裏衿の上に施の二倍だけ引いて表衿を重ね表裏の裾の縫ひ代施山丈、衿下(施山から計る)衿幅を標し衿丈標まで一糎(二、三分)斜に衿附の標をしてそれから、衿下標と衿先標との中程で一糎

(三分) 許り張り出し程よく格好をつけ衿附の標をします。
 四、衿 裏衿を二つに折りまして衿丈を標し餘りを折り返して山を揃へ、表衿を其上に載せ山衿肩明
 衿下り及び施(衿施は裾施の二分の一に致します)を標して幅標(仕立上り幅より一糎(三分)広く)
 をしておきます。

五、肩當ぎれ 丈を二つに折り幅を三等分して三分の一を前にして肩明九糎(二寸三分)輪の方から



八糎(二寸)として(三分)の斜をつけて裁ち落します。そして二分の切り込みを入れておきます。

夜着縫ひ方順序

- 一、袖 表裏の袖口を縫ひ合せ表袖の方へ折り外袖の袖下に、燧切れを布目を合せて縫ひつけ袖の方へ折ります。次に、内袖の袖下に燧切れを縫ひつけ袖の方へ折り燧切れの角をとめ引き續き表裏の袖下を縫ひ内袖の方へ折ります。奥袖も同様にして躰をかけます。
 - 二、身頃 表裏の脊(裏の脊は衿肩明から十二糎(三寸)ばかり下から(三尺)程縫ひ残します)脇衽を縫ひ着物のやうに折り表裏の裾を縫ひ合せ、表の方へ折り衿下を縫つて表の方へ折ります。
 - 三、衿 表裏の衿丈標を縫ひ合せ表の方へ折り左右とも衿の施山を衿下の標に合せ衿で表裏の衽を挟み留にして衿をつけます。衿の方へ折り表衿の幅は標通り裏衿の幅は標より(二分)だけ引いて縫ひます。衿先の處は自然に格好をつけて斜に縫ひ裏の方へ折ります。
 - 四、袖附 表裏の袖をつけ表裏とも袖の方へ折ります。
- 以上の凡ての縫ひ目に隠し躰をかけます。
- 綿入れ方 裏をし出て疊み前身下をに後を身上におき後身及び袖に眞綿を引き其上に綿を平に延べ

て裾には施山より凡そ一尺二寸袖口には施山より七、八寸長く綿を延べます。厚味を加減して裾と袖口には別に施綿をいれます。

全體に眞綿をしき前身を上に戻して後身同様に綿を入れます。衿下、衿先は稍厚めに綿を入れ眞綿をしき棲先裾の脊筋脇衽の縫ひ目にそれ〴〵引き糸をつけて脊の縫ひ残しから引き返して綿をよく含ませ後に合標を合せて裏袖と奥袖との縫ひ残しを縮けつけて綴ぢ糸をかけます。

肩當ぎれの兩脇を伏せ縫にして前後を折り躰をかけて縮けつけて後に、掛衿の兩端を伏せ縫にして共衿をかけると同様に縮けつきます。

大夜着、小夜着はすべて同様でありまして奥袖の丈は大夜着で四糎(一寸)小夜着で二糎(五分)許りつめます。

蚊帳用布積り方

一、例へば五六の蚊帳をつくろうと思ひますれば丈五尺にしやうとするのに、横五布に豎六布を加へて之を二倍して、夫に丈の五尺即ち五倍しますれば廻りの用布がわかります。

天井は五布にして其丈を計りますのには、九寸巾を六倍して丈を得まして、之を五倍しますれば天

井の用布が得られます、廻りの用布を加へて總用布が計算されます。

$$\begin{aligned}
 & \text{尺} \quad 5 \times (5+6) \times 2 = 11.00 \\
 & \qquad \qquad \qquad \text{廻り用布} \\
 & \text{寸} \quad 9 \times 6 \times 5 = 270 = \\
 & \qquad \qquad \qquad \text{天井の用布} \\
 & \qquad \qquad \qquad 11.00 + 27 = 137.0 \\
 & \qquad \qquad \qquad \text{總用布}
 \end{aligned}$$

縁切れは紅麻を半巾にして天井の縁にいたします。

一文字布は六つ割にして用ひ、天井の角々に又豎の中央には半巾の四角の布を四枚（之は斜に切ります）用ひ裾口の切れは、木綿巾で用ひます。

紅麻の積り方（用布二丈九尺八寸）

$9 \times 22 = 198$	裾口の切れ	紅麻總用布
布幅	布幅	一文字及スルメ
		天井縁
$198 + 55 + 45 = 298$	裾口の切れ	

蚊帳縫ひ方順序

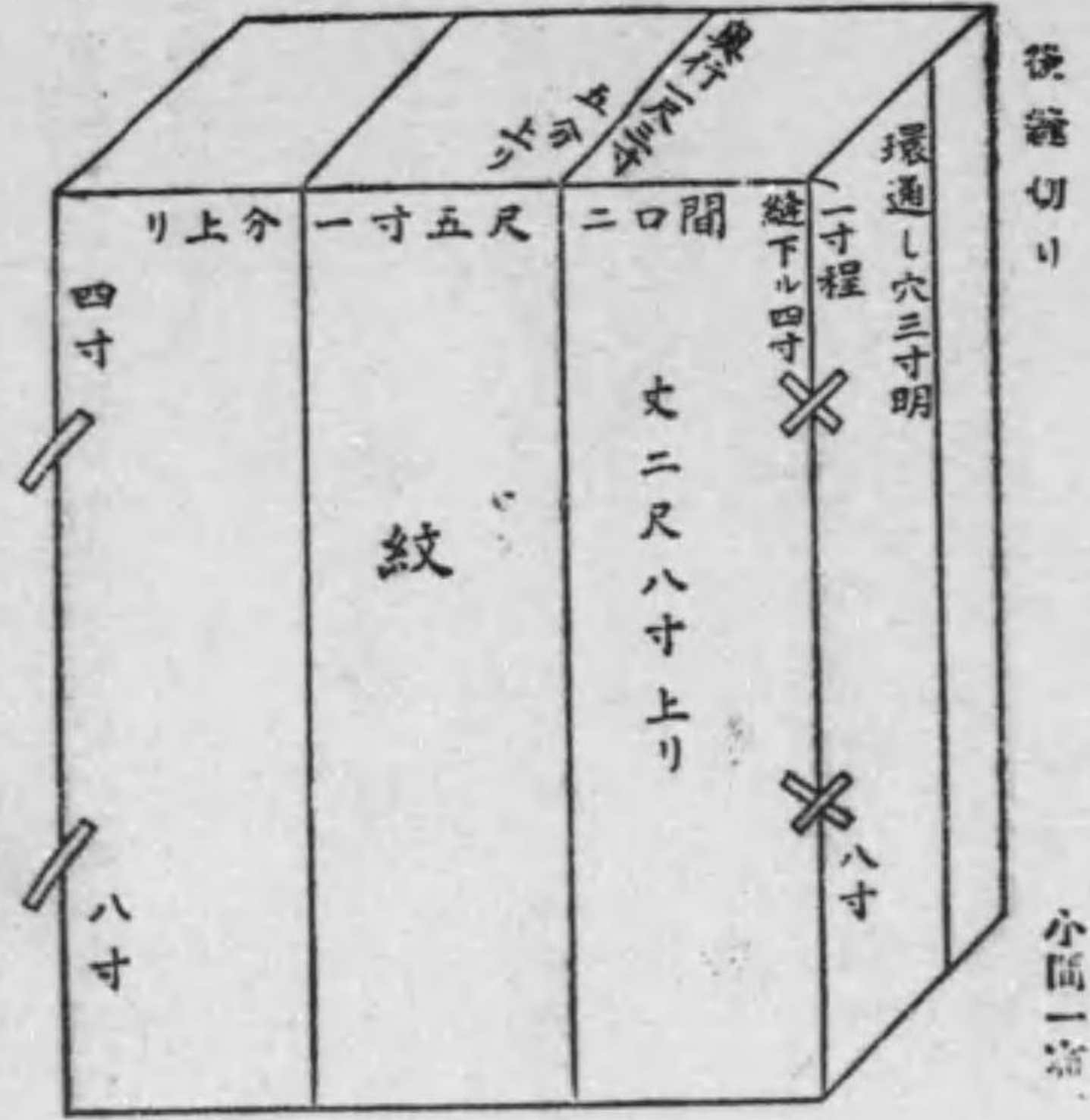
- 一、天井、垂れ、垂れの切れを裾から縫ひ合せまして（四角の所は裾から一寸許り上へ摘切れ幅八分長さ一寸程の乳を挟んで縫ひます）折は着物の背縫と同じに折ります。次に天井の切れを縫ひ合せまして、四角に斜に切つた縁切れを共色の紙か又は布で裏打をして四角に縫ひつけます。
- 二、力切れ 力切れにも裏打をいたしまして、天井の中央に横一文字に重ね一方を縫ひ一方を拵けまします。垂れの上で五布と六布との間に又六布の中央に、燧切れをつけます。燧切れの斜裁ちの方を除いて他の二方を八種（二分）許り折りまして縁の上り幅の二種（五分）程内に斜裁ちの方をすゑて綱ぢつけ他の二方をくけます。
- 三、垂れと天井 垂れと天井切れを裏を合せて表から假綴をいたします。
- 四、縁切れ 縁切れに前の通りに裏打をしまして縫ひ代を折り縁幅の三分の一を天井の方に當て、縫ひまわします隅の所で弛みを内へ折り込み縁の縫ひ込の端に、三つ燃りの細い麻緒を入れまして粗らく縫ひ込の端にまとひつけておき縁を垂れの方へ折り返し天井切れと共に拵け隅の所は垂れの半幅程天井切れを除いて拵けつきます。

- 五、しづ 裾口にしづを二分程控へて縫ひつけ、しづの方へ折り縫ひ込みを包んで縮けつけておきます。
- 六、釣手 釣手留切れを紐のやうにくけておき丈三十二糎（八、九寸）許りの打紐を環に通し紐端を合せて綱ぢ之を釣手留の中程にすゑまして縁の角の麻緒に掛けてしかと留めてから釣手留を合せて飾糸をかけます。

室の大きさ	蚊帳の布數	蚊帳の丈
三疊	五六	一米九十糎（五尺）
四疊半	六七	一米九十糎（五尺）
六疊	七八	二米二糎（五尺五寸）
八疊	八十	二米二十七糎（六尺）
十疊	九十	二米二十七糎（六尺）

油 單

一、簞笥油單用布二丈九尺七寸紐八本丈八寸巾五分出來上り、裁方丈の二倍に天井巾寸法を加へ裁切



大 三 寸 巾
方 裁 油 笥 用 巾 並

28.5	"	"	70.5	"	"
------	---	---	------	---	---

$$28.5 \times 3 + 70.5 \times 3 = 277.5$$

用布

方 裁 油 持 長

52.	"	"	"	"	17.5	"	"	"	"	"
-----	---	---	---	---	------	---	---	---	---	---

$$52 \times 5 + 17.5 \times 6 = 365.5$$

用布

ります前後に打廻しますので天井は別布を用ひさせん丈布を縫合せましたら（横）小間の布をも縫合せ丈の山と小間布の巾の中央とを合て待針を打ち中央に環通穴三寸五分明けて後の裾まで縫ひ合せます前面大間の方上部より一寸ほど縫ひ合せて後裾までを伏縫ひにいたします環通しをも伏縫ひにいたして裾縮げ三つ垢縮いたしまして出来上り圖の如く紐を附けます縫合せの折返しは着物の背縫ひと同様にいたします。

長持油單

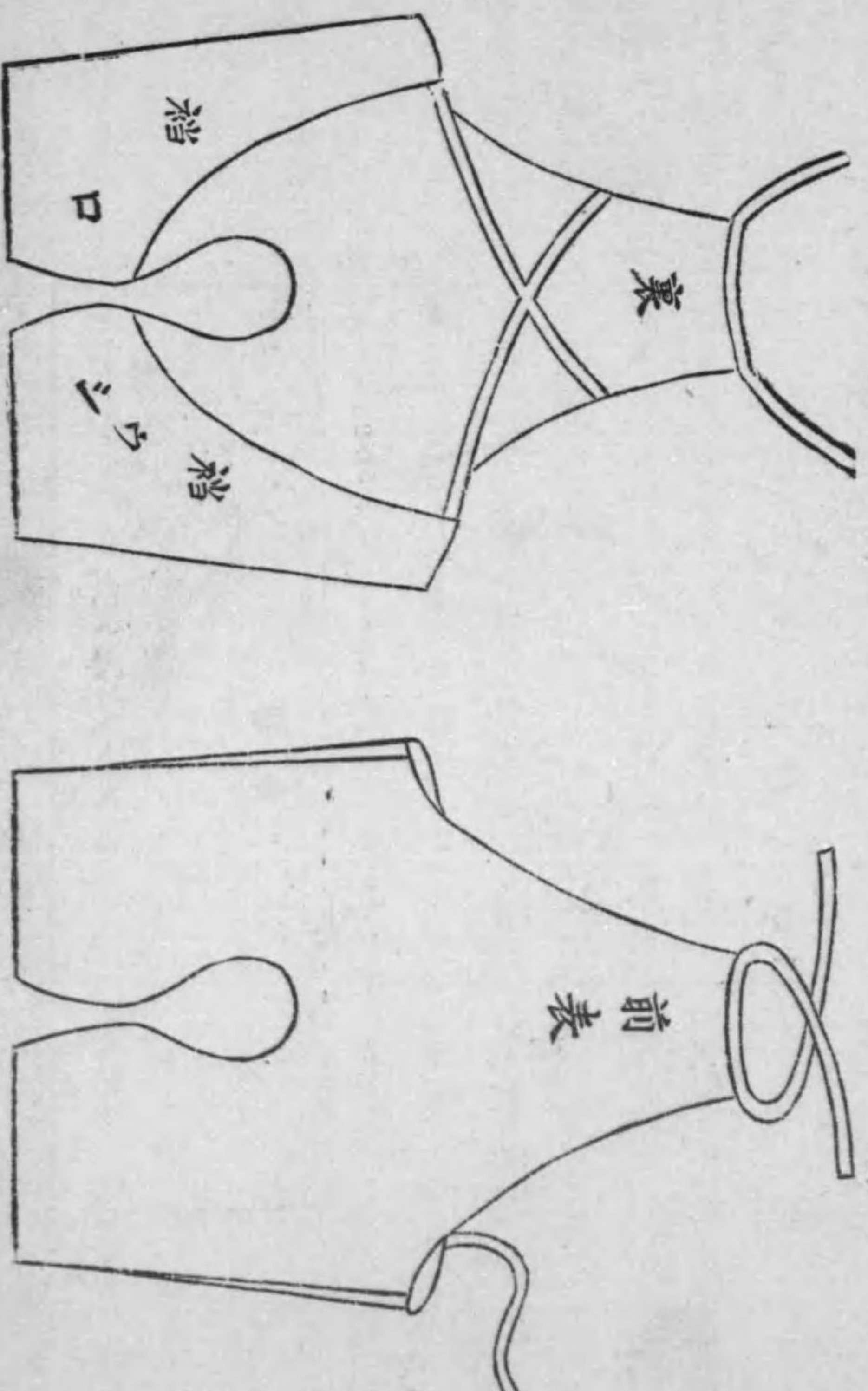
二、用布三丈六尺五寸紐八本丈八寸巾五分裁方簞笥油單同様前後に打廻しにて天井別布を用ひさせん仕立方も簞笥と同様

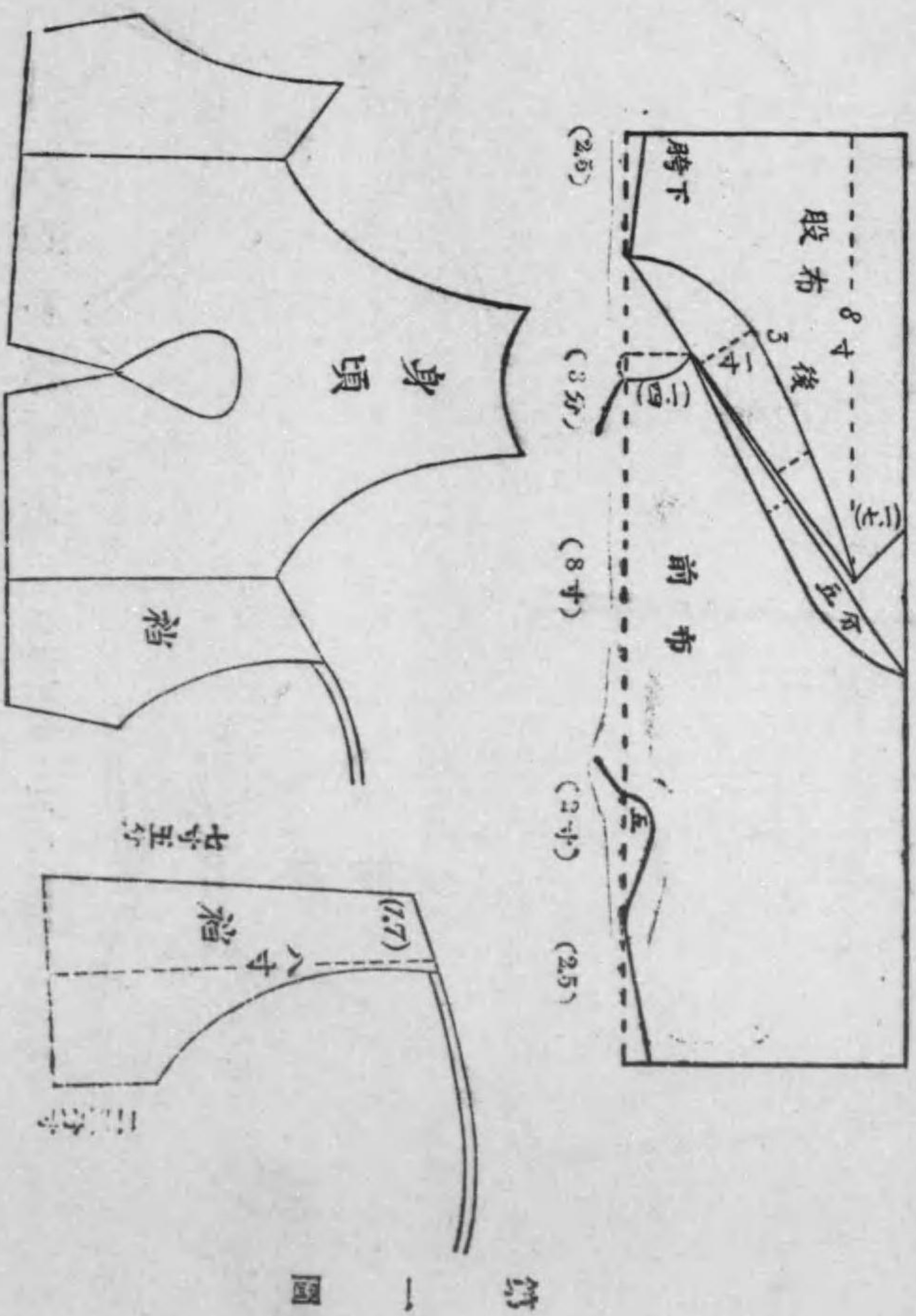
洋服簞笥油單

凡そ高さ二尺五寸五分間口二尺四寸四分奥行一尺二寸仕立方前同様

第十七章

三、四歳寝冷不知 (用布長さ一尺七寸幅九寸五分)





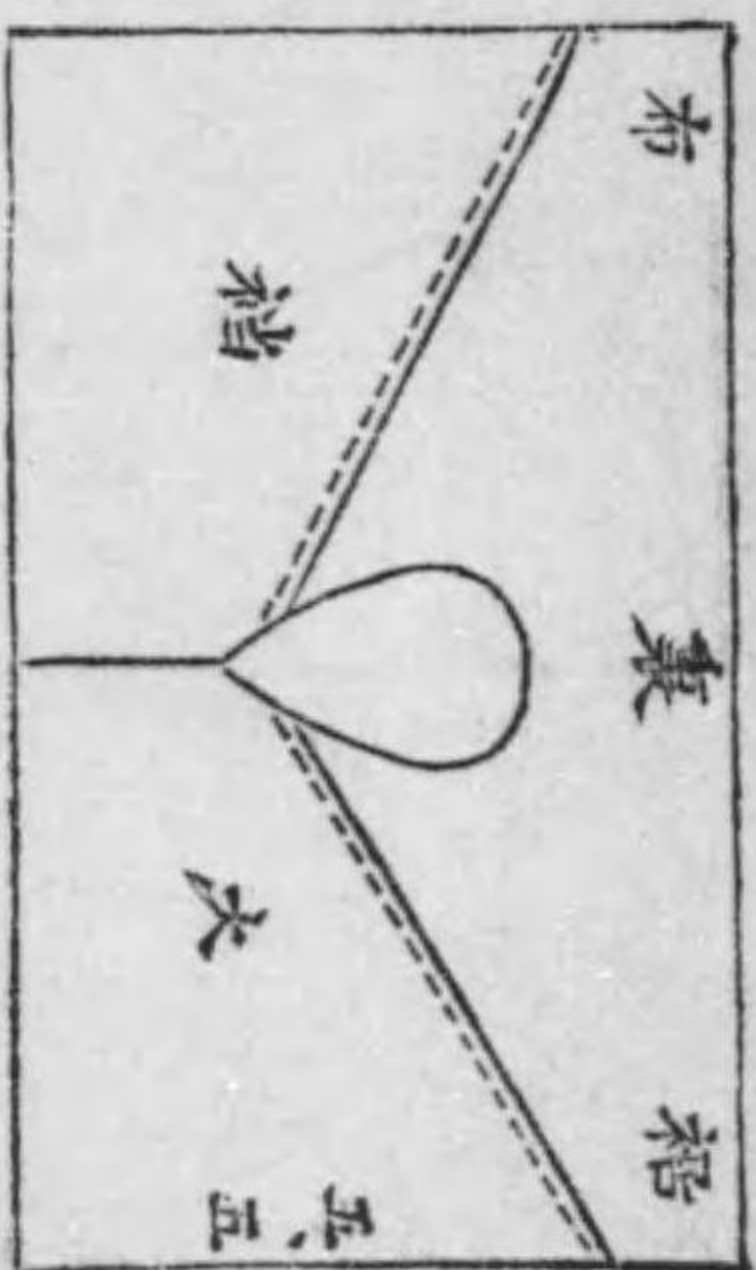
三、四歳寝冷不知

縫方順序

表裏の襦布の裁繰りたる方の上部に一尺五寸の紐をはさんでとぎつてまして襦の脇丈の上から幅を襦の後胯下の方へ縫ひ胯下の上で縫糸を留め次に裾口を表裏縫ひ合せ折は毛抜合せにして表に引き返しますと第一圖の如く襦布が縫ひ上ります。次に身頃の裾を表裏縫ひ合せまして襦の胯下を身頃胯下の表裏ではさんで四つ縫ひにいたします。その糸にて續いて身頃前の丸くり落しの部分を表裏縫ひ合せます。次に身頃の脇丈と襦の脇丈とを身頃の表裏にてはさんで四つ縫ひにします次に身頃脇丈の上を襦附上部にて針を返して衿くりの所まで表裏を縫合せます。兩脇を縫ひ合せましたら折は裏につけて衿くりの明から身頃を表に引き返します。そして衿廻りに(一尺五寸)の紐をつけて締めます。

三、四歳女兒寝冷知らず

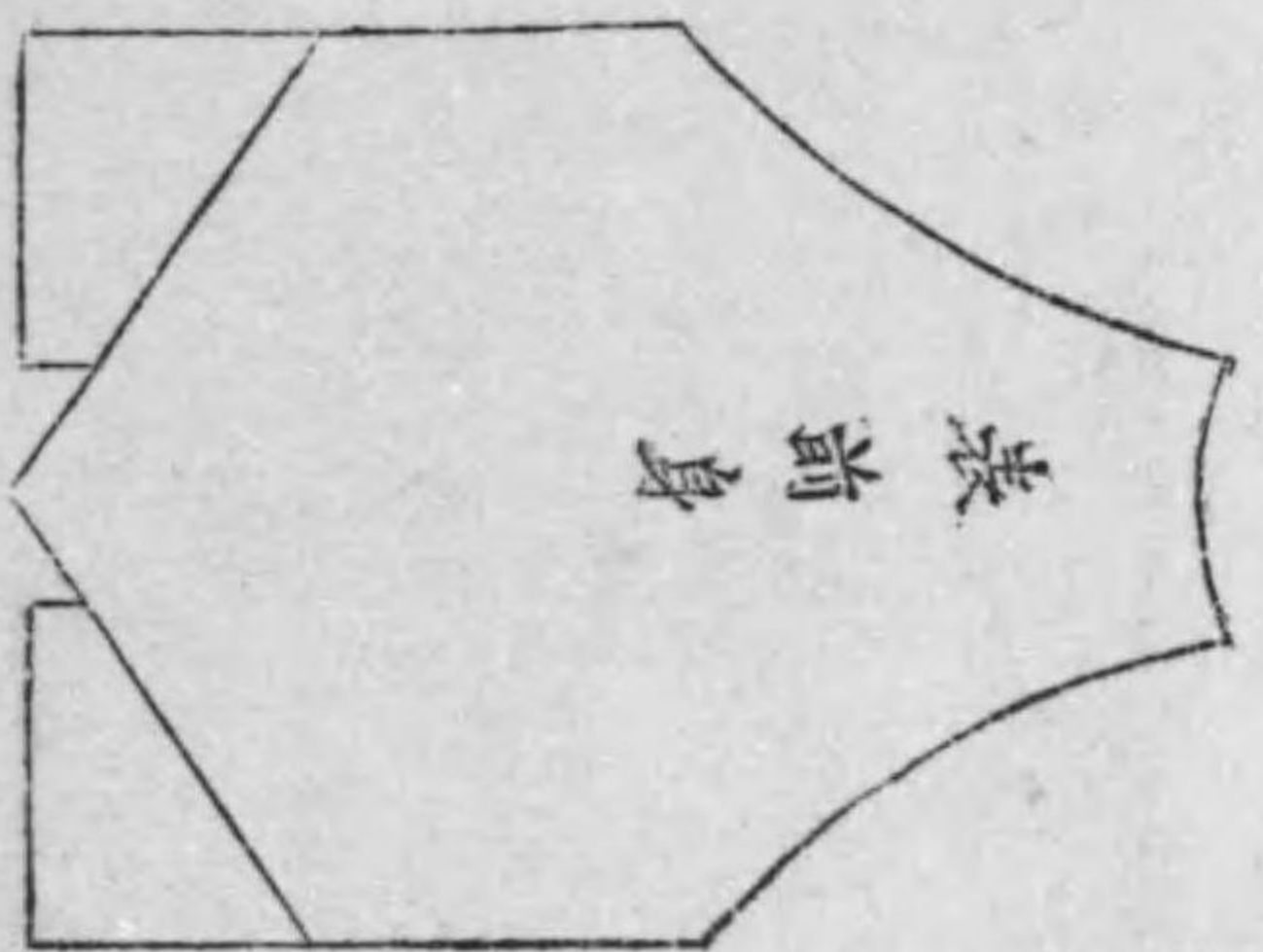
幅三十八寸(一尺)長さ八十三寸(二尺二寸)の布を裏表を要します尙ほ裏裾布に木綿幅長さ三十寸(八寸)の切れを用ひます。



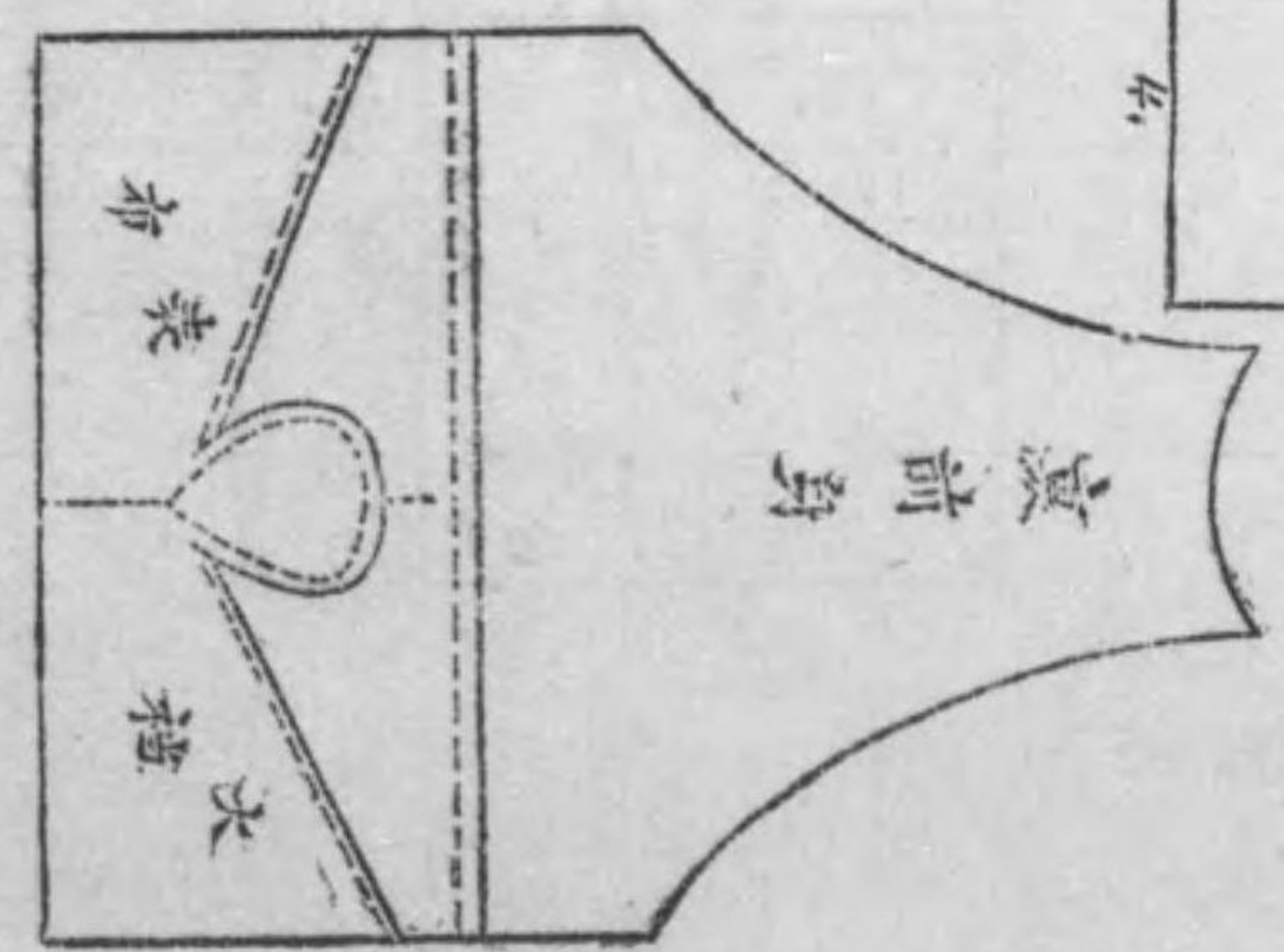
一圖



二圖



三圖



四圖

縫方順序

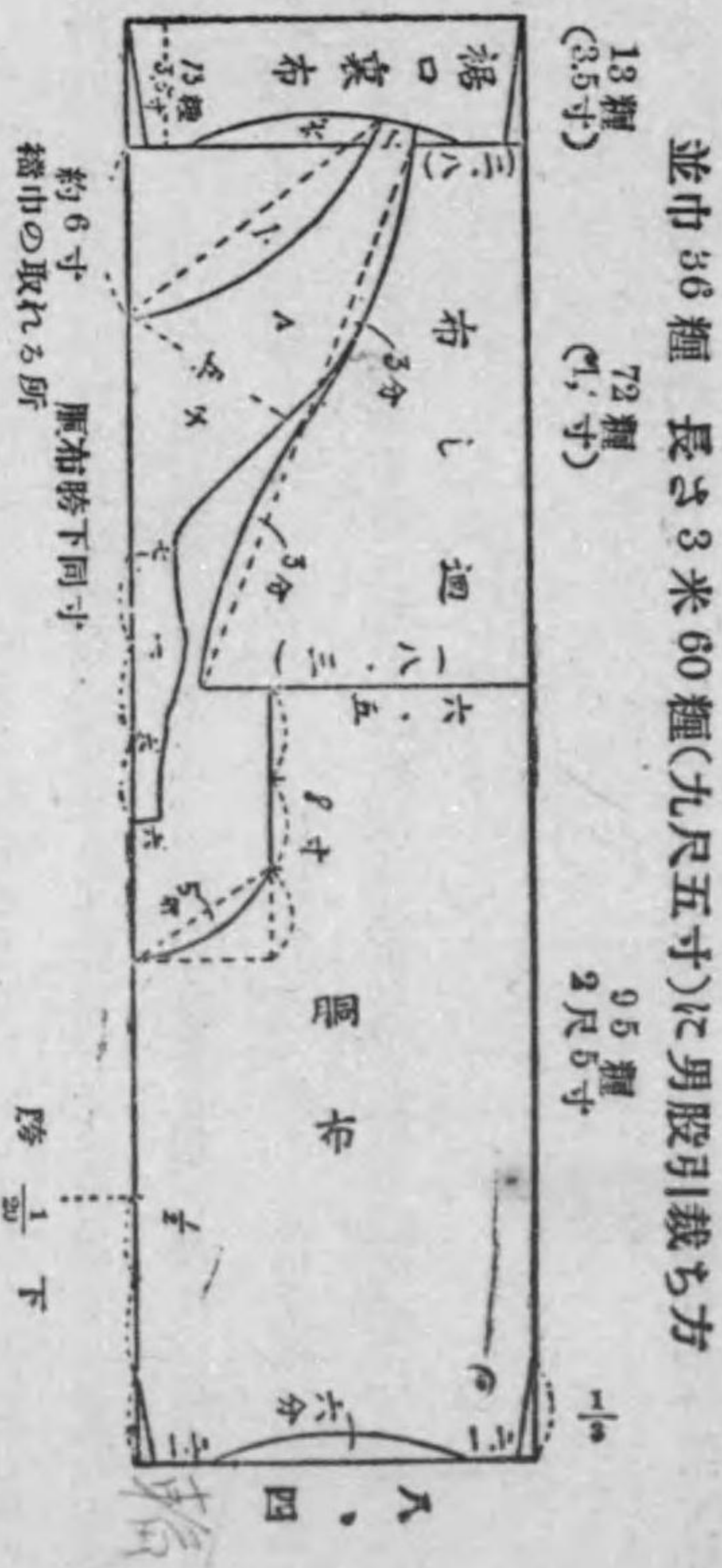
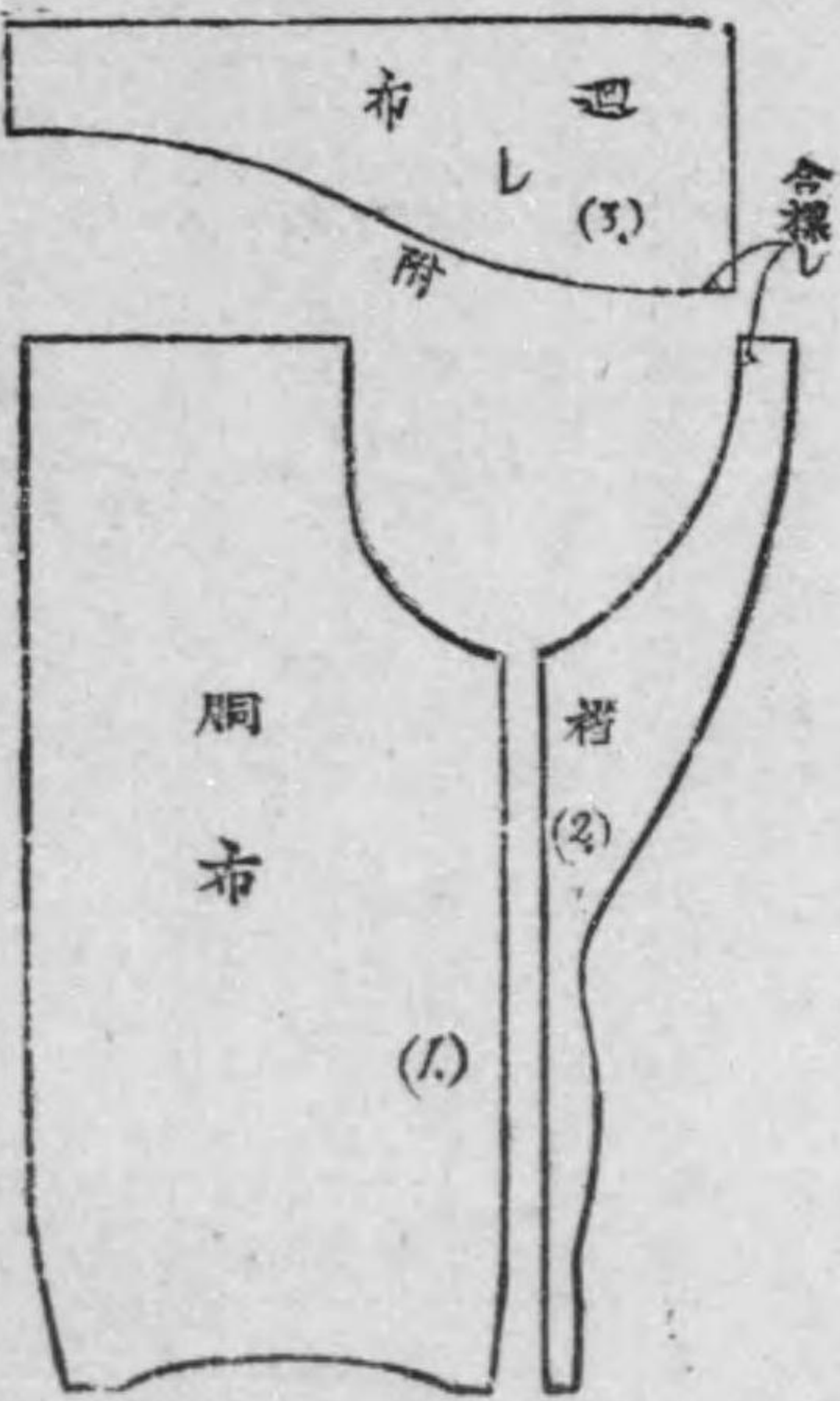
大襠裾口（四寸幅）と裏裾布の裾口とを縫ひ合せ毛抜合せに折返して襠をかけ裏裾布を下に置き平に合せて大襠の斜の部分に折伏縫ひに致します。そして、第二圖の如く裁線りの部分は一單ですから三分幅のテップをつけて裁目を包みます。次は小襠の表と裏とを合せて裾口を縫ひ合せ毛抜合せに縫襠を掛けて置きます次に後布の表と裏とを合せて裾口を縫ひ合せ毛抜合せに折をいたします。次に表裏の前身を合せて裾のたれ斜の部分と兩脇明の線りの部分とを縫ひ合せ表に返してどちらも毛抜合せに縫襠を掛けておきます。かくて襠及び前身頃共裾口を合せましたならば前身頃の裏を出しておき裾裏布（大襠の附きたる）を第三圖の如くのせておき脇下裾口までの寸法は後布の丈と同寸法に（七寸五分）になります様に裾裏布附に注意して襠にて縫ひつけておき大襠と小襠の二寸の部分は大襠布にてはさんで四縫ひにして引き返して置きます。小襠の二寸七分の部分の後布の二寸七分の襠の部分で裾口を合せてはさんで四縫ひにいたします。後布の真直ぐの方七寸五分の方にて前身頃脇下を大襠の裾口まではさんで四縫ひにいたしその針にて後布上部の幅を角にて針を二度ほど返して（表裏縫ひ合せて表に引き返しておき次に廻し布の表裏を合せて丈の真直ぐの方で幅の廣き角に紐を附けまして（紐丈一尺

五寸)角は幅と丈を一寸ほど縫合せておきまして廻し襦の上部を後布の上部の角に合せ四つ縫ひいたしますので丁度裏襦布の織りのテップの附きたる所までつけ廻はします。

次に廻し襦の表裏を裏布を五厘ほどひかへて小針に縫け袷くりの中央に紐丈一尺五寸の中央を合せつけます。紐はテップにはさみましてもよろしく又共布に致しますのも可愛らしくございます。

第十八章

股引縫合せ方順序



口裏附單衣股引

一、裁方

用布の丈を二つに折り、輪を右に置きまして、圖の如く右より身頃を二尺五寸の丈に標し其標より裾の方へ膀上を八寸と標します。膀上は身頃丈の凡そ三分の一に致します。前身頃膀上幅(六寸五分)

に致しましたら、胯上の丈の凡そ三分の二を眞直に残る三分の一と胯下の標とに指をあて、八分の丸味に線りを附けます。次は廻し襦の標を圖の如く身頃胯上の方を八寸に左端を二寸八分に標し此間を三分分して幅を七寸と四寸とに標して自然に標を附けます。次に襦の胯上を襦幅が五寸になる處を胯下と胯上との標にして胯上の標を自然に附けます。次に胯下の寸法を身頃胯下の標と同寸に入れ、つまり裾口の標を致します。胯下を二等分に胯下の二十分の一を加へたる寸法を裾より計りて標し此標より胯下の間を三分分致し標を附て置きます。裾から三分の一までの處を糸襦と申しまして幅を眞直に七分に致します。つまり兩方の縫代を取りますと襦幅がなくなりすので糸襦と申すのでありす。三分の二の標附の處はフクラハギの太い處になりますので、此標の所で一寸幅に致します。次の標は膝裏の部分になりまして、八分幅に標しまして三ヶ所の標しを圖の様に格好を附けて襦の形を作ります。次に胯上の襦の上部の幅を一寸に標して胯上の幅五寸の標との間を圖の如き形に標を附けます。胯上襦丈が少々足りませんから襦を取りました裁残り切れから裁方圖の様にハギ切れを取ります。

一、縫ひ方順序

股引は裁ち方に置いて各部分の縫代を一ばいに裁切りますので特別に縫代の標附を要しません。

一、口裏切の附方 襦の裾に口裏切を縫合せ折は毛抜き合せに裏に返して上部を伏せ縫ひに致します。身頃の裾口に口裏切を合せ布のすぐなる間は糸を平に丸味の部分は角と角とに一と針返針をして少々糸をづらしまして、折は毛抜き合せに裏に返して置きます。

二、膝裏布の附方 裾口より二十四糎(六七)上げて身幅の中央に膝裏をあて、廻りは折りませんでより糸にて伏縫に致します。

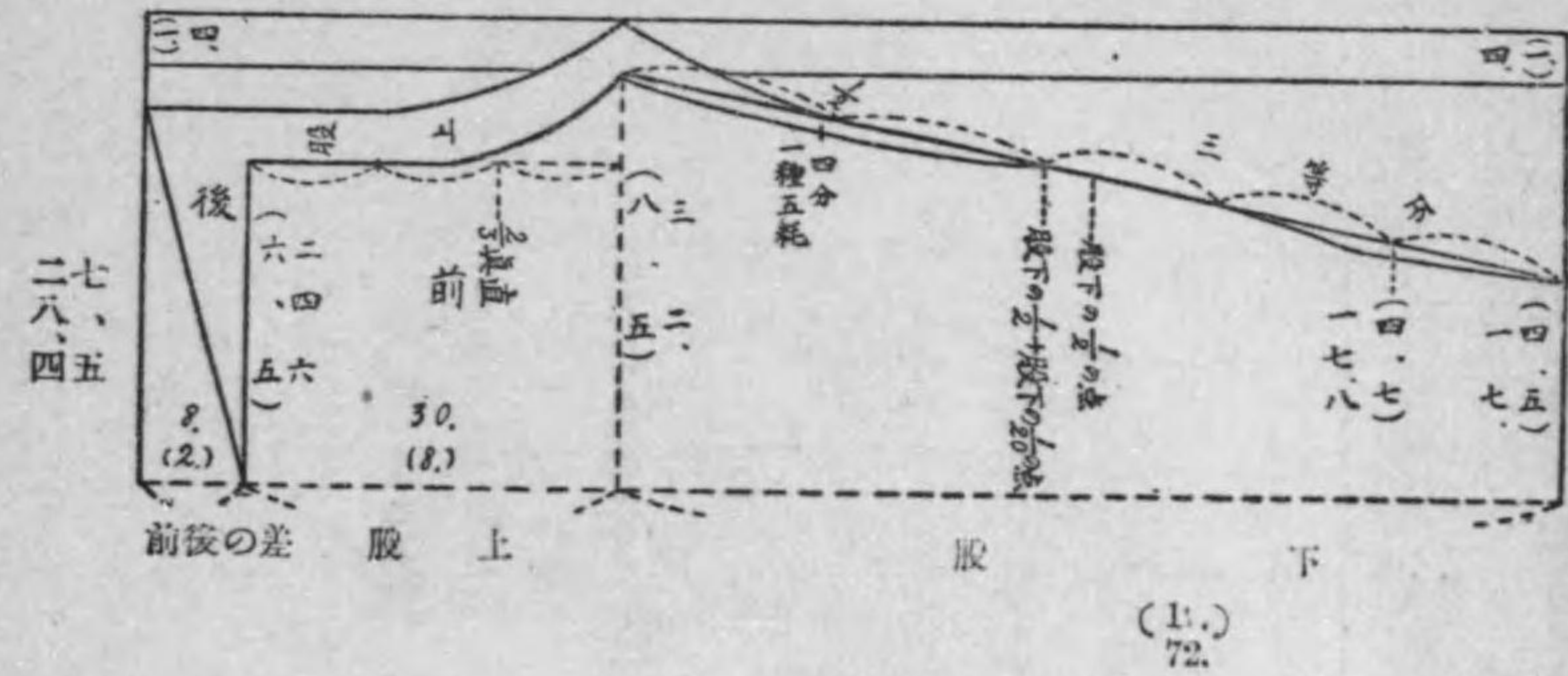
三、襦の附方 先づ胯下を襦の裾と身布と口裏布の中に挟んで襦の縫代を一分五厘ほど身布よりも出して抜き針に縫合せまして口裏布のすこし内から襦の方を身頃に折り伏せ縫ひに致します。糸はより糸を用ひます。

次に襦の外側と身頃の脇とを合せ縫方は胯下と同様で有ります。

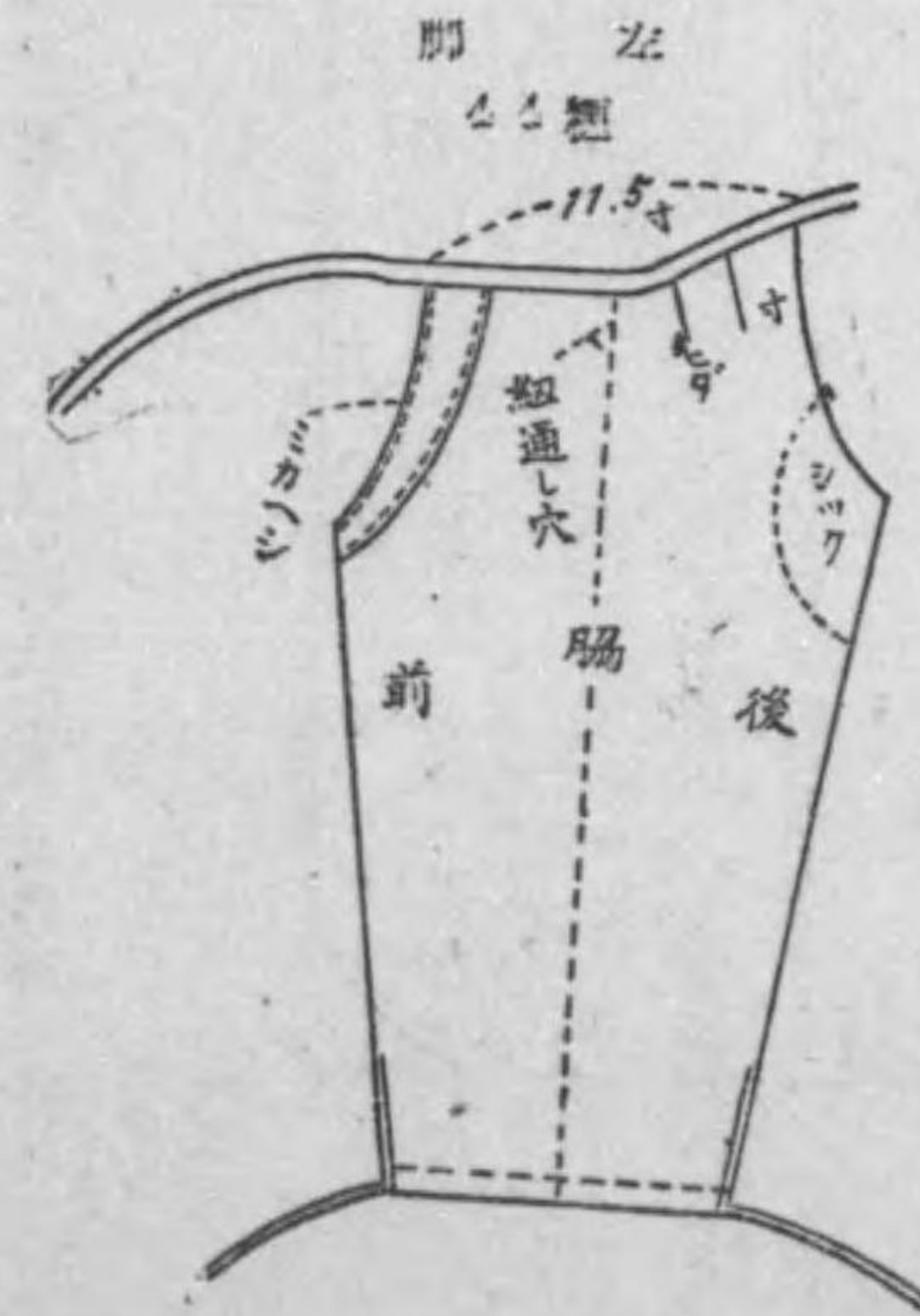
四、廻し襦の附方 幅廣き端を襦の方に合せて布の斜の方を當て身頃よりも一分五厘控えて縫ひ折り伏せ縫ひを致します。かくて兩足出來ましたので廻し襦の幅狭き方を左を上にして襦の縫目を身頃に二糎(五分)重ねて襦の両端を二糎(三分)ほど上げて假躰を掛けて置きます。

五、紐の附方 紐丈の中央を前身表の中央にあて身頃の両端を(三分)ほど上げて待針を打ち紐を縫ひ、紐幅は二糎(五分)に兩端を縫つて縮けます。

裁方分解圖



紐付け、襷の位置を示す。



二尺幅にて大人ツボン下裁方

裁ち方標入れ方順序

- 一、胯下に胯上及び前後の差を加へて二倍したる長さに用布の丈を裁切る。
- 二、幅は前巾の八寸五分に後幅の九寸五分を加へたる寸法に裁ちまして裁ち落しぎれを紐に致しませす。
- 三、丈を二つに折りわなを右に裁目を左に置きまして幅を向ふへと折り上になる布を一寸控へてわなを折り定めます上の布は前身頃でありまして右を裾に左を股上にして裁ち方寸法の標を入れます。
- 四、胯下丈、胯上寸法を標し裾口幅の標を入れ此處と胯下の標とに斜線を引き線の中央に假の標を附けこれより胯下を、胯下丈の $\frac{1}{2}$ を標し此標と裾口までの間を三等分し裾口から $\frac{1}{3}$ の點では幅を十四糎(四寸七分)にして裾幅の標とをつなぎ $\frac{2}{3}$ の點では斜線へ自然に附けますこれより上は幅下の標までの間を二等分して中央で斜線より四分入りたる處を通して裾からの標を胯下の標へと續けます胯上に前胯上幅二十四糎五耗(六寸五分)を標し胯上の寸法を三等分して $\frac{2}{3}$ を上から眞直に

下 $1\frac{1}{3}$ の間で線を付けます。後膀上幅は前よりも一寸広く、すなはち二十八糎五耗(七寸五分)を標し、後膀下の標とに斜線を引き、斜線を三等分し、下の $1\frac{1}{3}$ の處で二十七耗(七分)の深さに後股上の線を標します。次に前膀上幅の脇から、後膀上幅の標とに、斜線を引きます。これで全體に標入れが済みました。

袷入れ方順序

裾口から $2\frac{1}{3}$ の點までは、前後の身頃を四枚共裁ち、これより上は前身頃のみを裁ち、續いて前後の差の斜線を裁ちます。次に前股下の角を後股下の角に揃へて待針を打ち前股下丈を引き延べず、これに合せて後の裁ち残りの股下を裁ち後膀上を裁ちます。

紐附ズボン下縫方順序

一、前膀上の裏側に見返布を合せて小針に縫合せます之を表に折返して毛抜合せにして見返布の残りの側をまつり付けます。

二、左右の前膀上の見返布のつきたる部分を突き合せに仕て膀下の際から二重の糸にて五十五耗(一

寸五分)ほどまつり付け兩方に開きます。

三、後膀上を縫ひ折りは左身へ返るやうに縫目へシツクを當て、折代を上下に二糎(五分)ほどを残して中綴ぎしてシツクを附けたる部分を控えて中側の縫代を一分裁ち落し縫代を折り伏せて躰をかけ置きます。

四、裾の切り込の十三糎(三寸五分)の明きを細く三つ折にしてマフリ縫をなし膀下を縫合せて折は後身へ返しシツクの附きたる部分を除いて中になる縫代を一分裁ち落して外裁代を折り伏せて躰をかけ置きシツクの折り代を二分ほど折り膀下は縫目に被せてシツクのぐるりに躰をかけ躰をかけた後膀上膀下シツクを全部マツリ縫ひに致します。

五、裾に紐をつけて裾口を紐幅と同寸法にくけます。

紐出來上り巾 三分

丈後八寸

前三寸

六、身頃紐附を片身幅一尺一、二寸に寸法を定め餘りは襷に致します。

襷は二つ、後縫目から二寸はなれた處に一つ 脇と後の襷の中央に一つ作ります。襷の折り方は前

へ向けます。

上前の脇紐附の際に穴かゞりを致しますので裏に幅一寸丈二寸の當切れをマツリ附けて置きます。下前の紐が通ります。

七、紐附方は上前の方に紐を七寸ほど出してあまりは下前へ廻して表に縫ひ付けて出来上り幅を七分に縮けます。

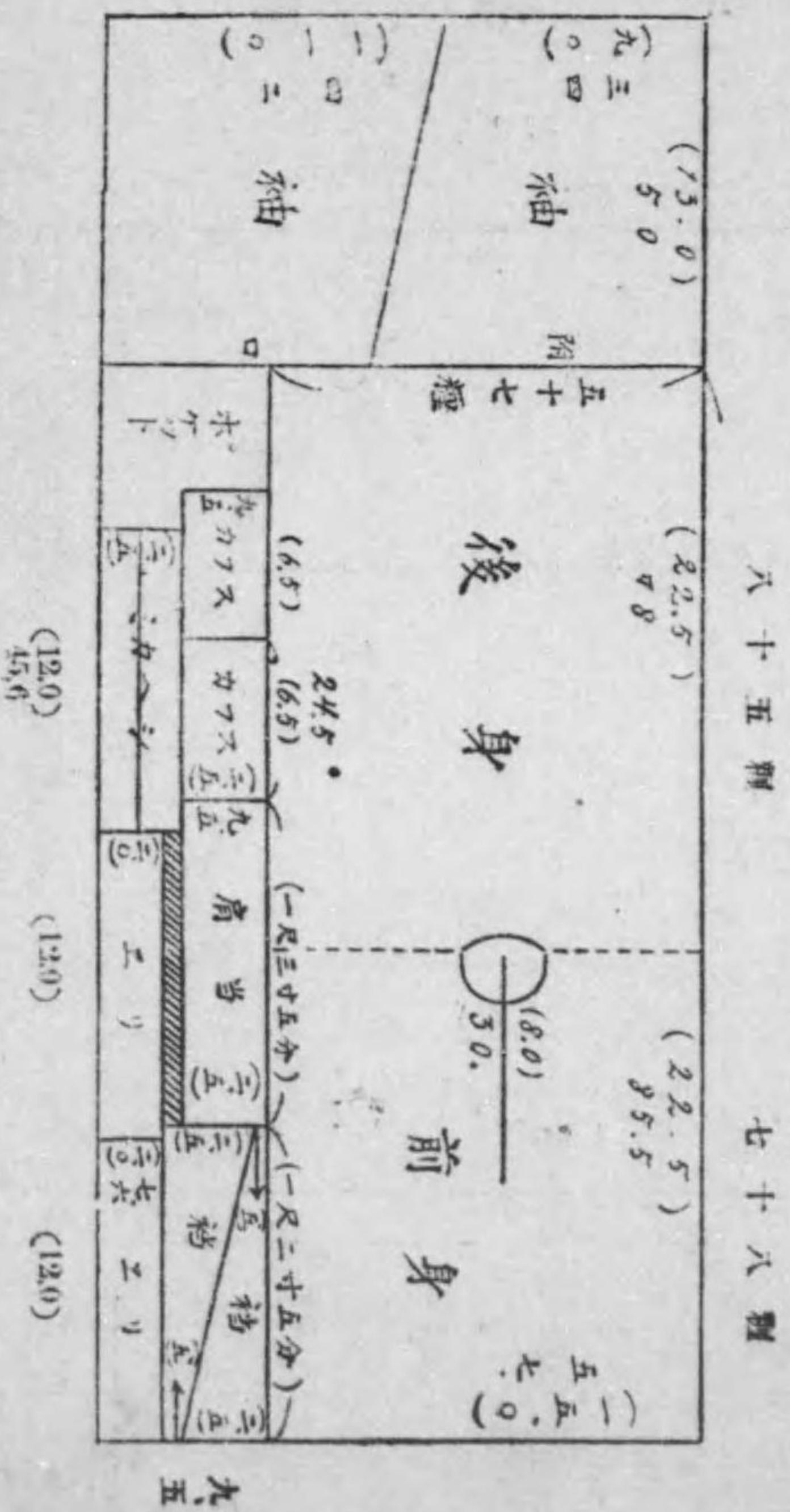
八、上前脇に紐附より二分下りて紐幅より一分大きく穴を明けてかゞります。裾口明に門貫留をして仕上を致します。

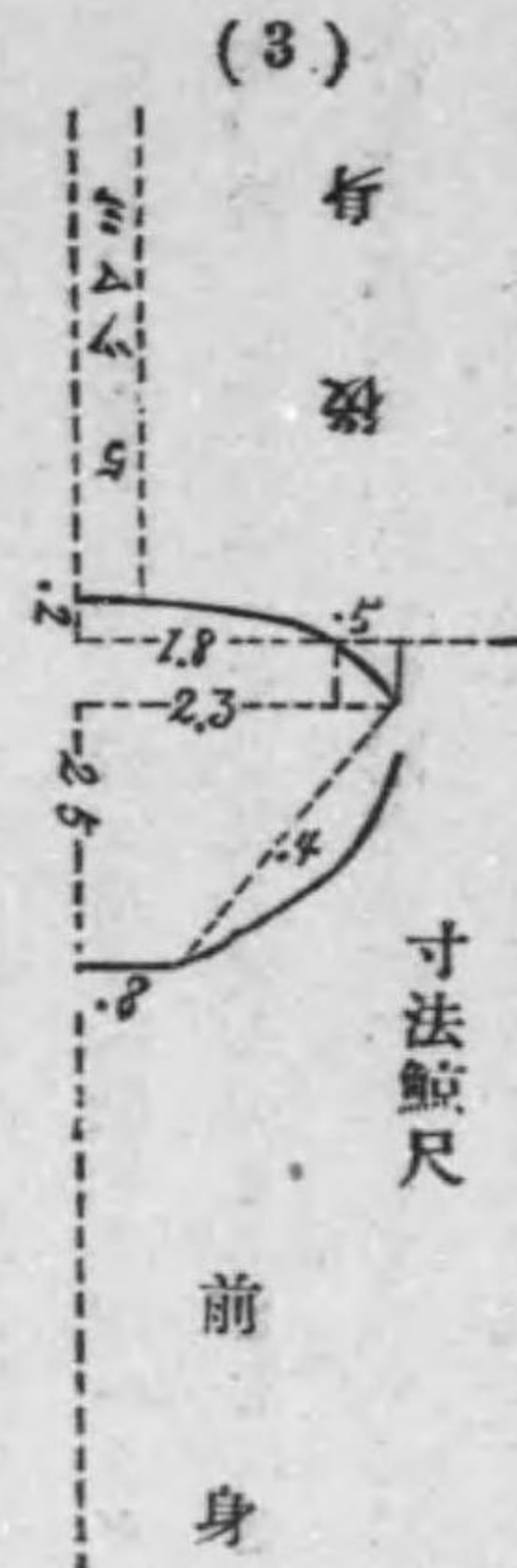
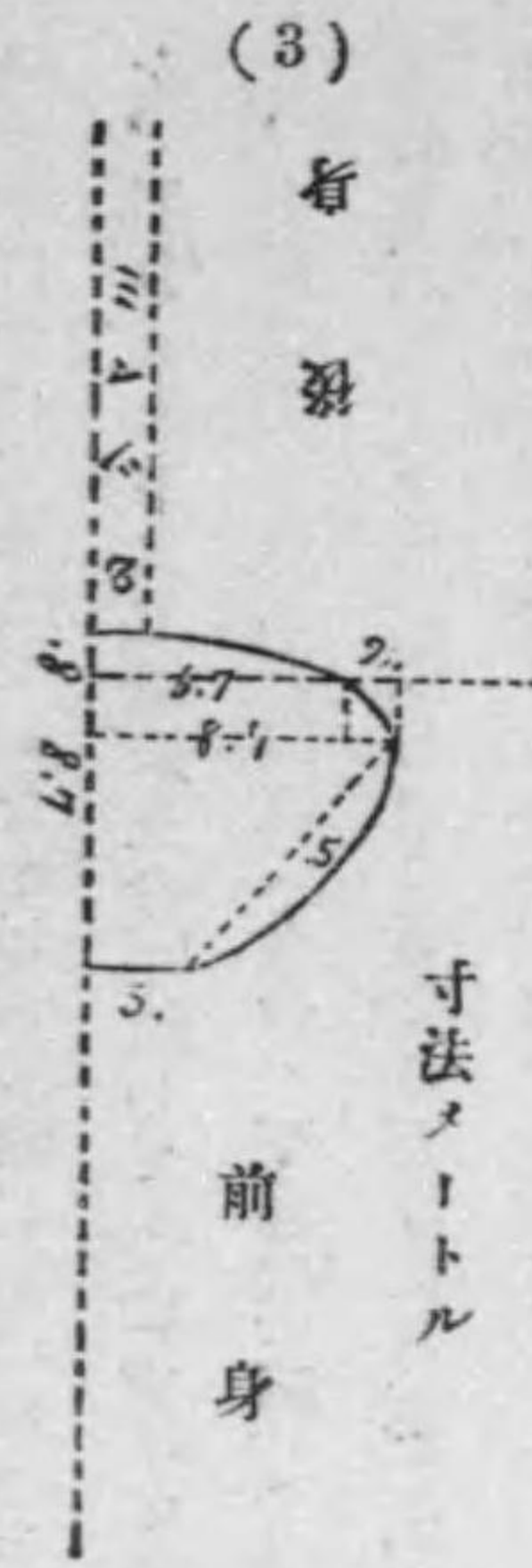
並シャツ縫ひ方順序

一、袖 先づカフスを附の一方を残して三方を縫ひ表に引返しておきまして、襦の裁目の眞直なる方に袖布の眞直なる方を四耗(一分)ずらして浅く縫ひ合せ、襦の縫代を折り袖布の方へ被せて表から飾ミシンをかけます。袖下七耗(一寸八分)の切込の所を細く三つ折にしてミシンをかけ、袖口を二つ折に巾の三分の一を兩袖口下に残して小針に縫ひ、カフスの縫ひ上り丈に合せて糸を引きしめ、カフスにて袖口を挟み蝶にて押へておき、カフスの周圍に飾ミシンをかけます。

巾七十六種(二尺五寸五分) 長さ二米十一種(二尺五寸五分) 用布にて普通シャツの裁方

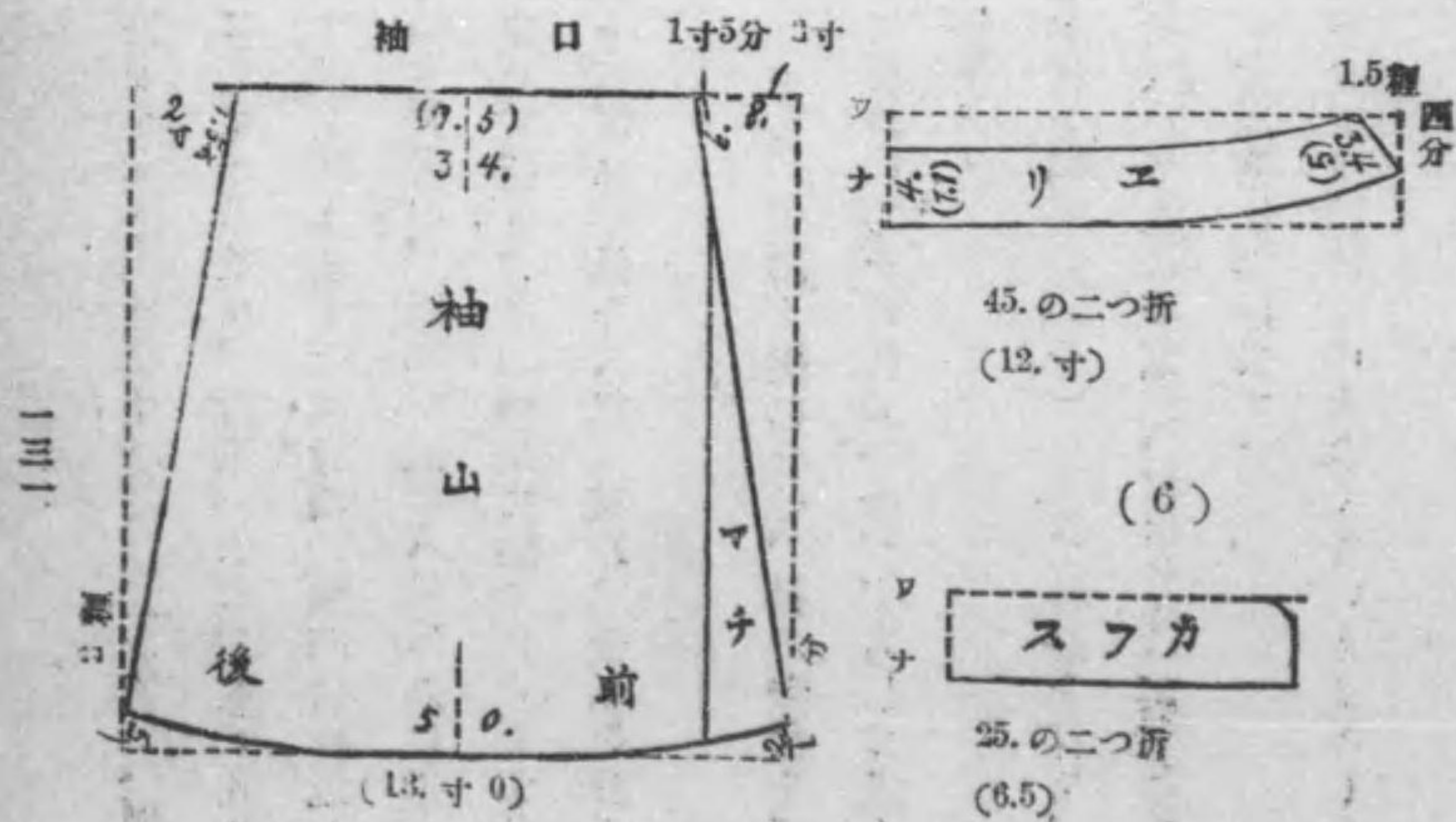
普通シャツ裁方總合圖





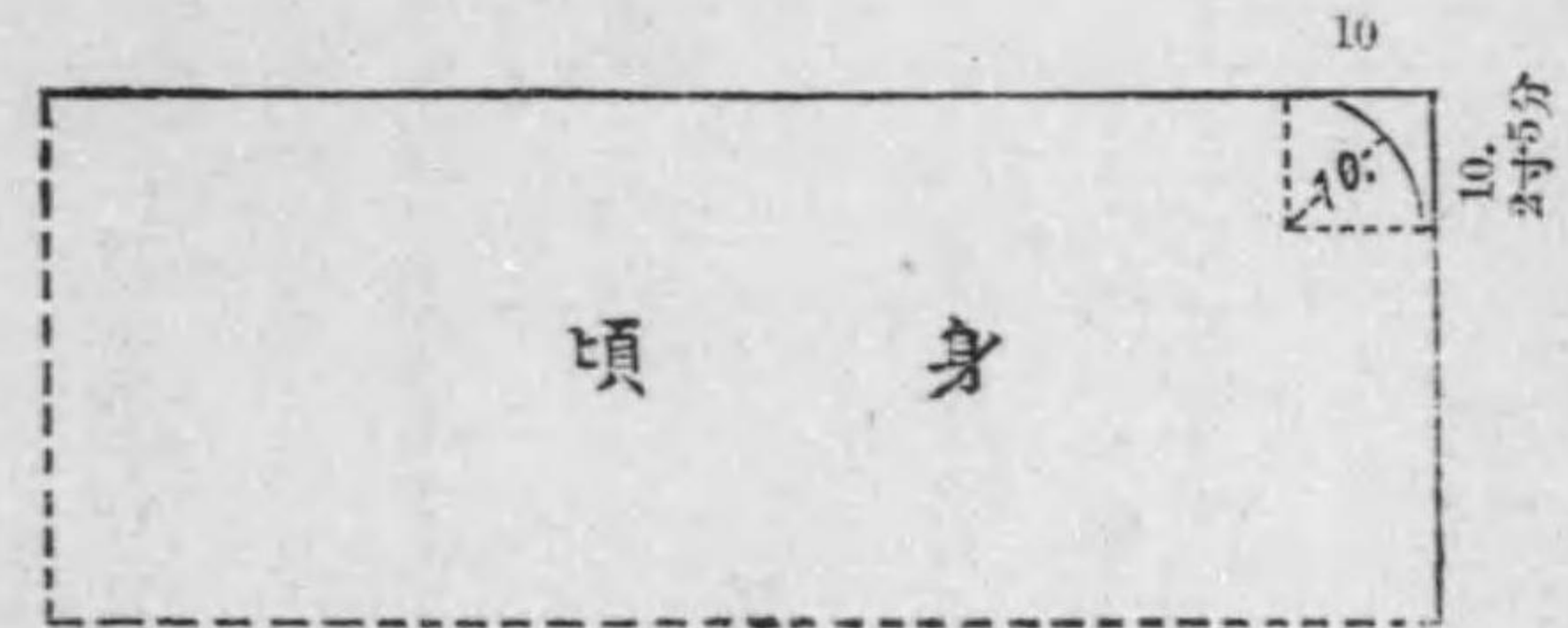
(4)

(5)

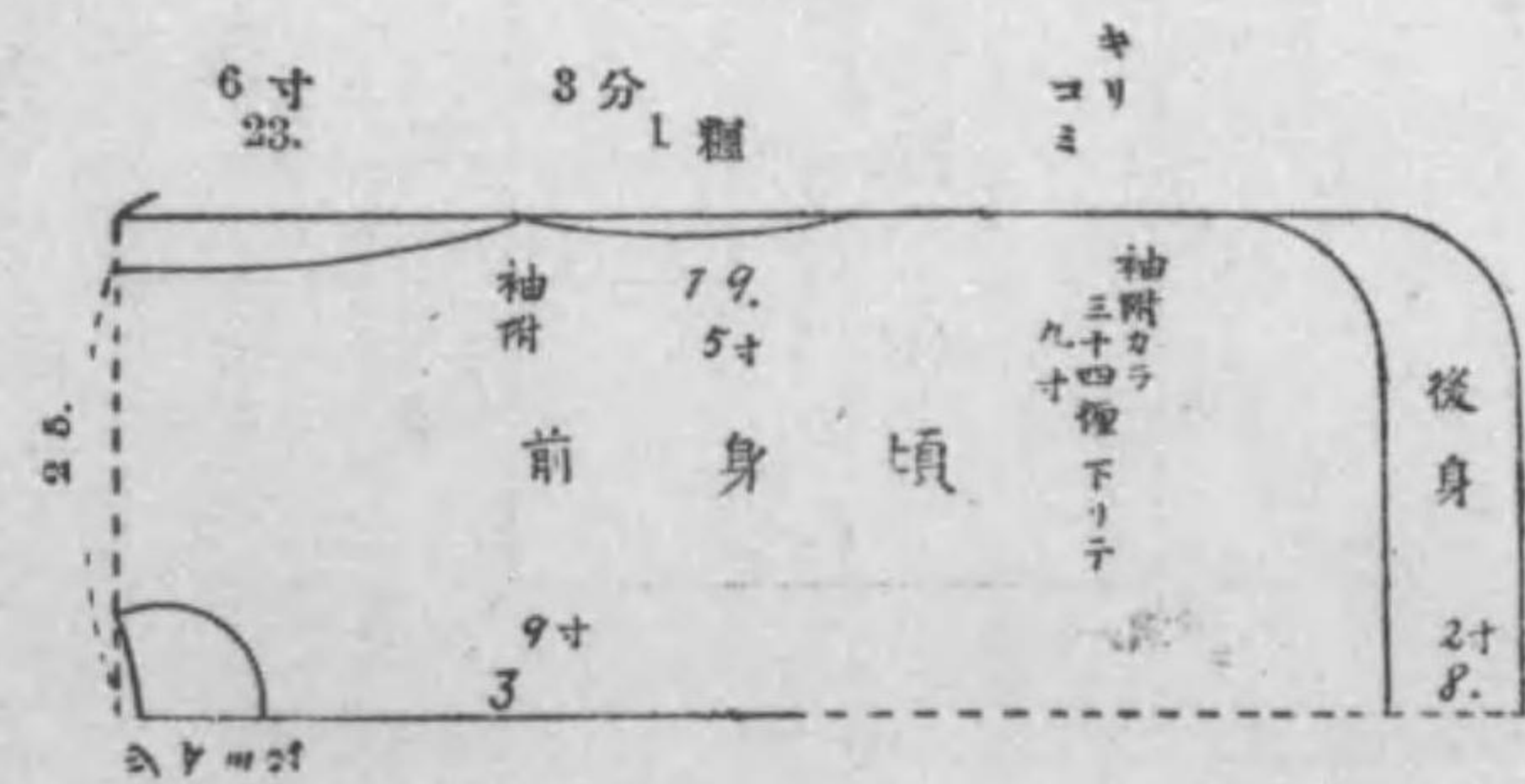


分解圖

(1)



(2)



二、身頃 前後の裾を切込から切込まで細く三つ折にして飾ミシンをかけます。脊のつまみを八厘(二寸)程表につまんで縫つて縫ひ目は割り巾着襷に開き折りにしておきます。身頃の表に肩當の巾を前後等分につけて飾ミシンをかけ、肩當の前は衿肩明に倣つて裁ち線ります。前身頃の胸明に身返し布を、明きより下に二厘(五分)餘して裏につけて浅く切込まで縫ひ、縫込は鉄を入れて表に折り返し、上前は上り巾三厘四耗(九分)下前は三厘(八分)に定めて折り、巾の両端に飾ミシンをかけ、上前身返しを下前身返し巾に重なるだけに身返しの縫ひ終りに横に切込を入れて重ね、留切を好みの恰好に作つて當て飾ミシンを掛けます。

三、袖附 袖山と身頃山とを合せ、身頃の方を四耗(一分)ずらして浅く縫ひ合せ、袖の縫代を折り身頃へ伏せて押へミシンをかけます。次に脇は袖下へかけて後身の方を四耗(一分)ずらして浅く縫ひ合せ、前身の縫代を折り後身へ伏せて押へミシンをかけます。

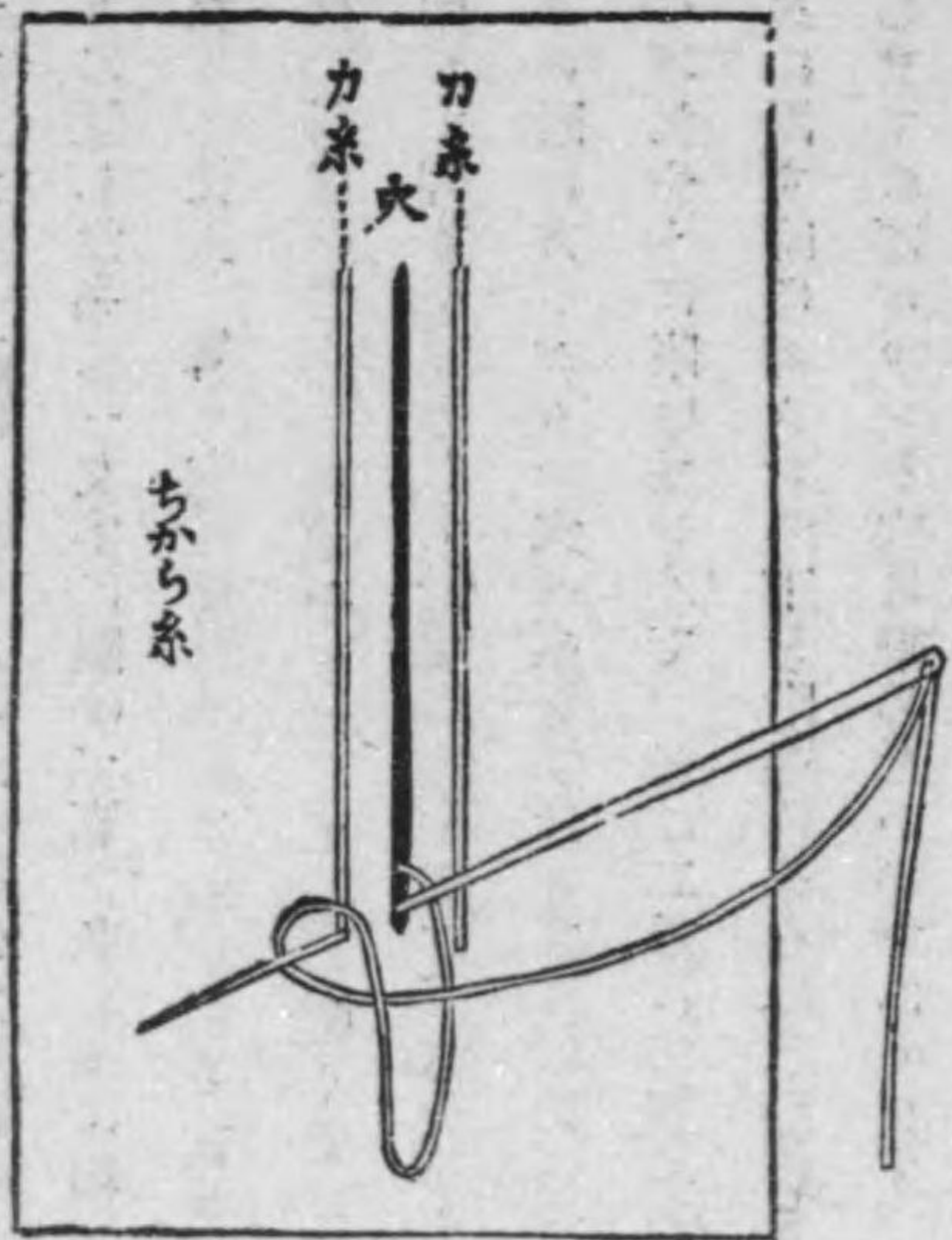
四、衿 表裏の衿にて身頃を挟み山と山とを合せ、衿先を縫代を四耗(一分)出して待針を打ち、兩衿先の丸味にかけて衿附を中縫ひにして丸味には細かく鉄を入れて表に引返し、衿巾を後二厘七耗(七分)前二厘三耗(六分)その間の巾は自然に定めて飾ミシンを周圍にかけます。

五、ポケット 恰好は随意に作り、上前の胸につけます。ポケットは飾りの大きくない方よりしく割

合に上部につける様に致します。

六、穴籌り方 穴は付けやうとするボタンの直径より四耗(一分)大きく明けます。普通シャツの穴

穴 掛 け 方
糸 掛 け 方



は一種(三分)位をあけます。穴を明け穴を縦にして左手に穴の左手前を持ち、籌り糸を通せる針を持ち左手前の穴際に裏から針を出し穴の向ふの左の際に針を沈め右の向ふ際に出し、右の手前に戻つて際に針を沈めます。これで穴明の廻りに糸が穴に添ふて掛かつたわけであり、つまりこれは穴かゞりの力糸となるのでありましてこれを芯に穴を籌つてゆくのであります。沈めた針を穴から

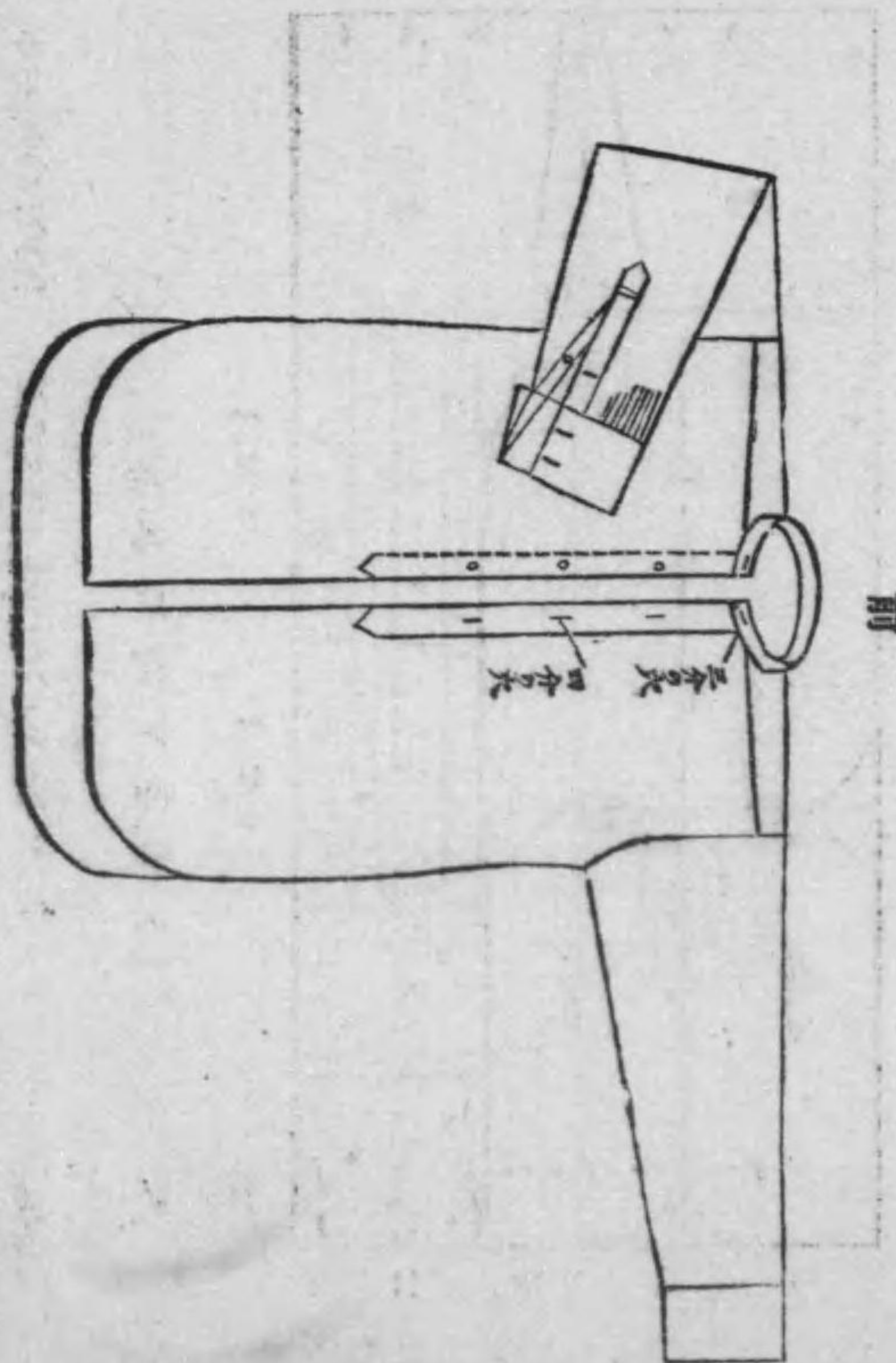
一旦出して糸を引き出し針先を穴に入れて最初の左針穴に出し、上圖の如くめどの方から持つて来た糸を手前から向ふへ左に手を廻して針先に引き懸けて針を抜き右に糸を引き、糸の掛け目を穴際で

緊めます。これをくり返して順に向ふへに針目を進めてまゐります。左手はいつも次の針目の出る際を拇指を上の人差指を下にして布を押へ持つておなければなりません。向ふの際まで籌りましたならば針目四つ程で針足を丸味をつけて穴の右に廻りまして籌つてゆき、右の手前に戻つて最後の掛け糸を済ませましたならば針先を、左の最初の針穴に出して右の最後の針穴に納め、その針を穴明から出して終りに互した糸に一文字に懸けて裏で糸を玉に結び留めます。

七、穴籌りの仕上 籌り穴に篋を入れて布を引き篋裏の上に置き籌り糸の針足に指(定木)を當て、向ふ側の針足の方から押すやうにして篋を軽く掛け、次には篋を掛けた方に指しを當て今の如くこれへ向つて押すやうにして針足に篋を掛けて穴を一文字の如くに口をしめて周圍に緩をかけた後、八、ボタン付け方 ボタン穴へ糸をかけますには二の字形、十字形等があります。ボタンは型く布地に押しつけたやうに付けませんで、糸は二重にて初めの掛け糸を弛めにして二度繰返して掛け、最後の針を裏に出す時にボタンの下を附糸に糸を二三度巻きつけて針を裏に抜いて糸を結び留めます。斯ういたしますればボタンを穴に箱め易いのであります。

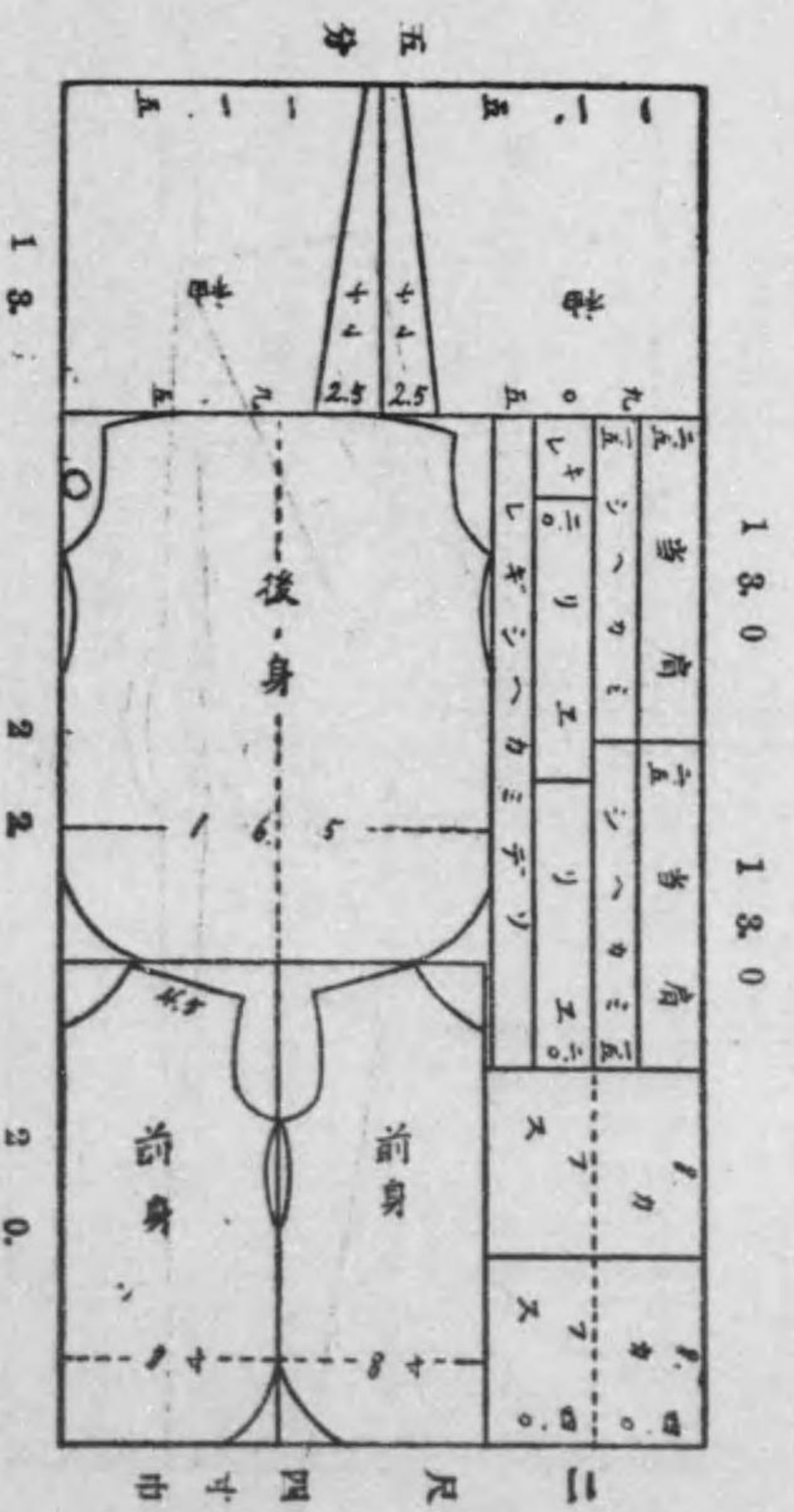
ワイシャツ裁方各種

出来上り 前

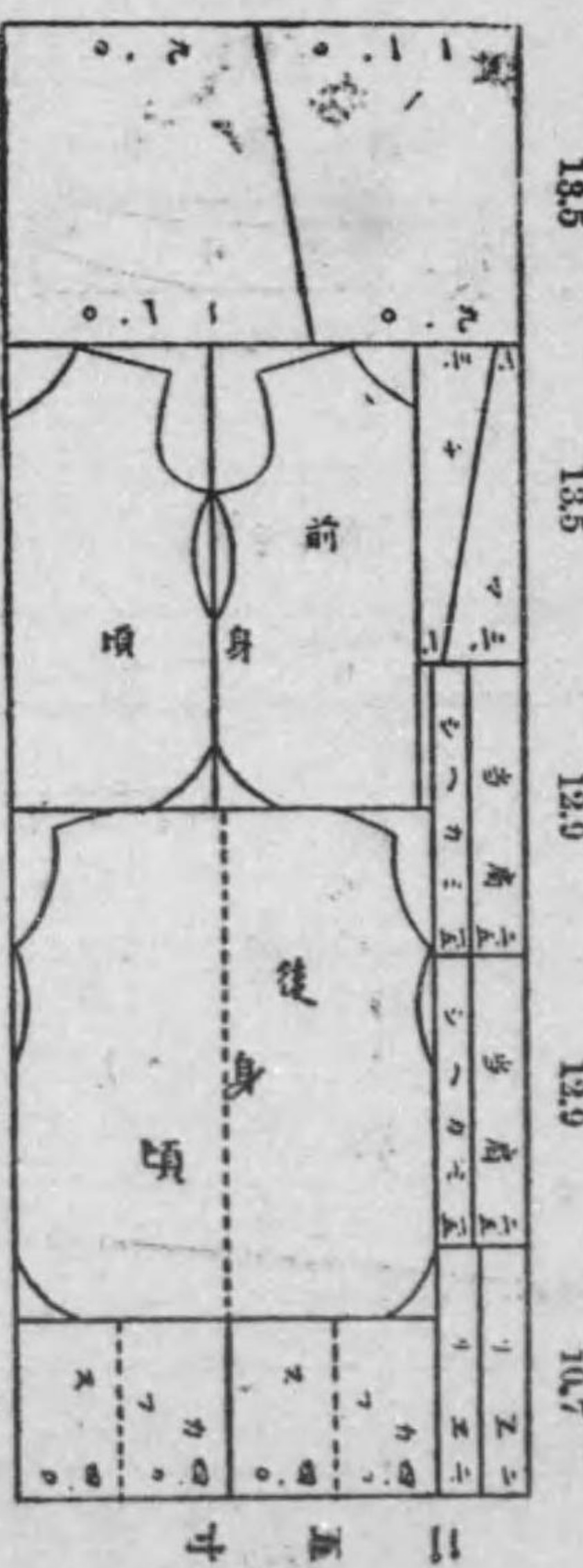


巾90種(2尺4寸) 長さ2米10種(5尺5寸5分)にてワイシャツ裁方

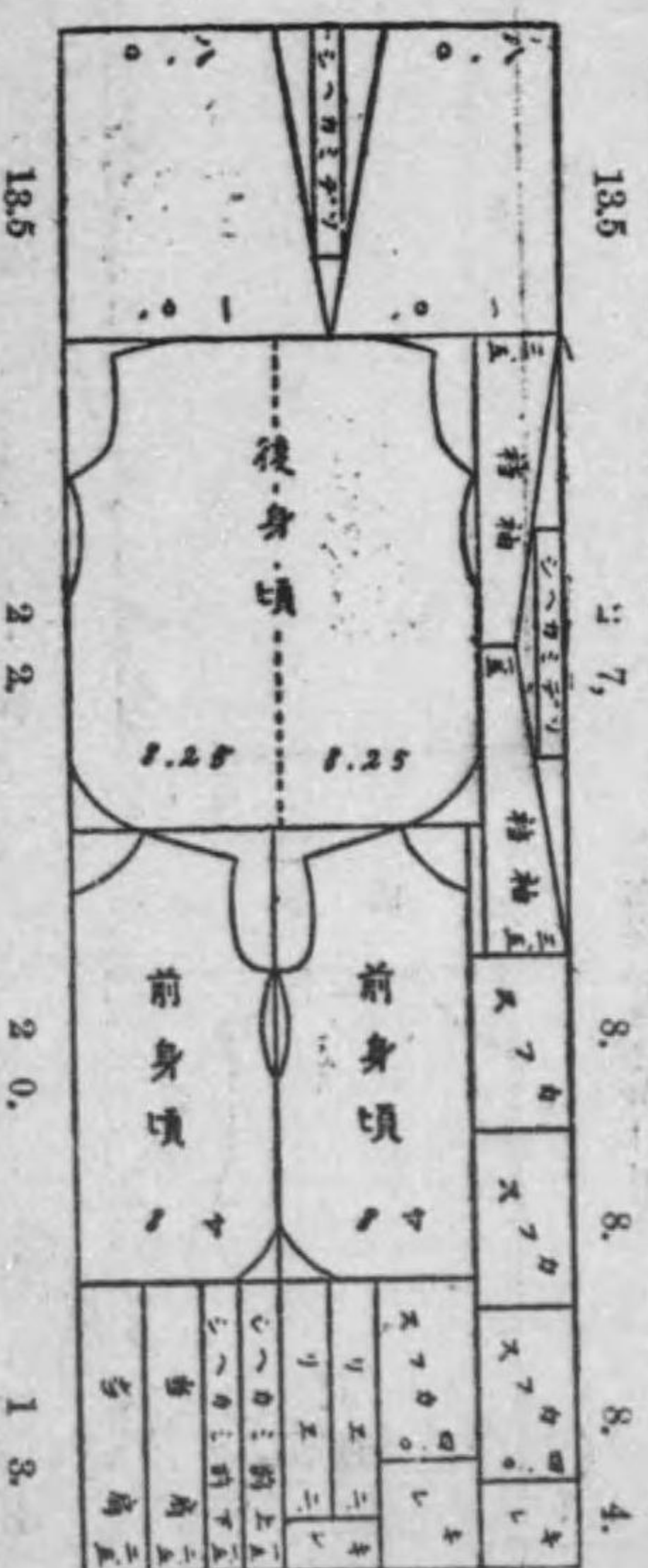
圖 (米寸法記入を省く)

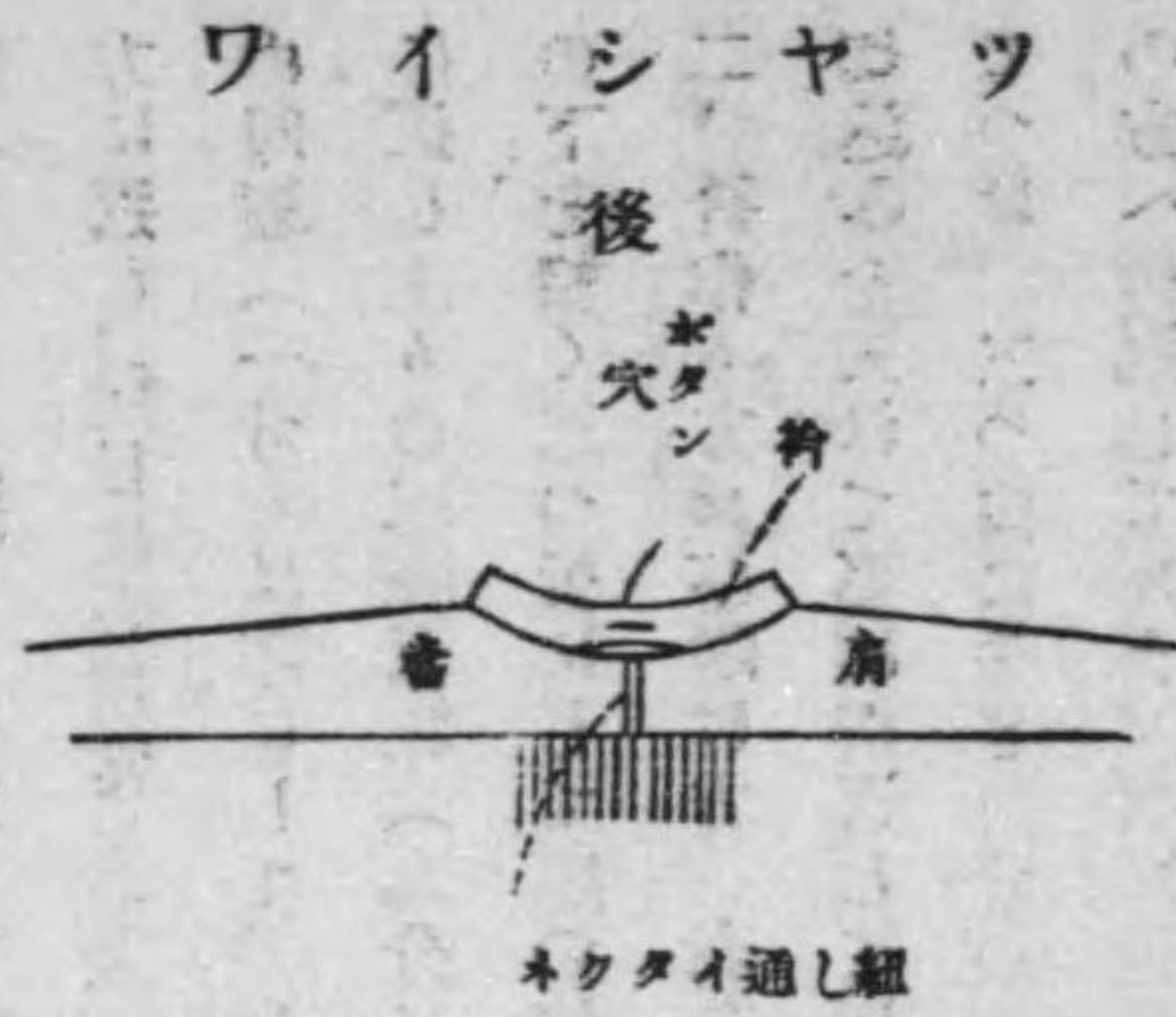


巾76種(2尺) 長さ2米41種(6尺3寸5分)にてワイシャツ裁ち方



巾76種(2尺) 長さ2米60種(6尺8寸5分)の片面物にてワイシャツ裁ち方





衿の當切付け方

ミシン掛け方
及び穴かぶり表裏
表

×印を合せて一寸五分の間を縫ふ

(一)

表衿

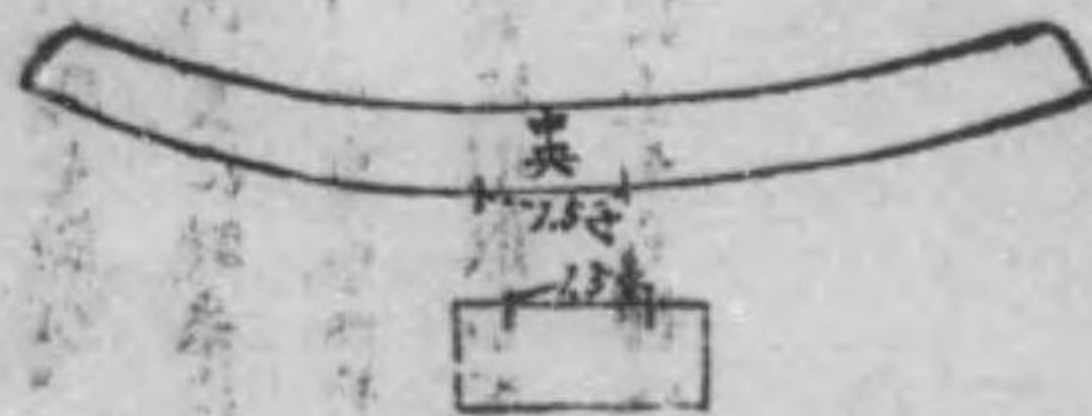


當切は表衿の裏につける

一寸五分の間を合せて縫ふ

當切は裏衿の表につける

(二)



一三九

袖の後



袖の前

5分の穴
裏よりかがる

表

ミシン掛け方
及び穴かぶり表裏

表

衿の當切付け方

×印を合せて一寸五分の間を縫ふ

(一)

表衿

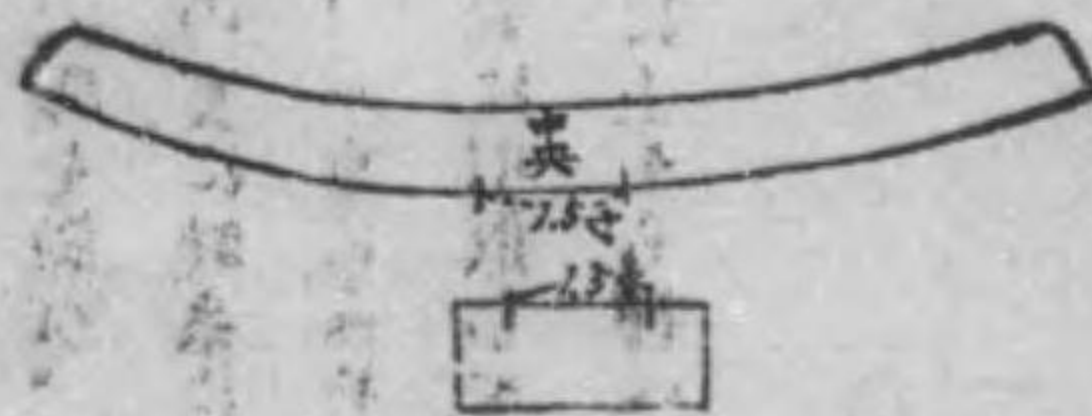


當切は表衿の裏につける

一寸五分の間を合せて縫ふ

當切は裏衿の表につける

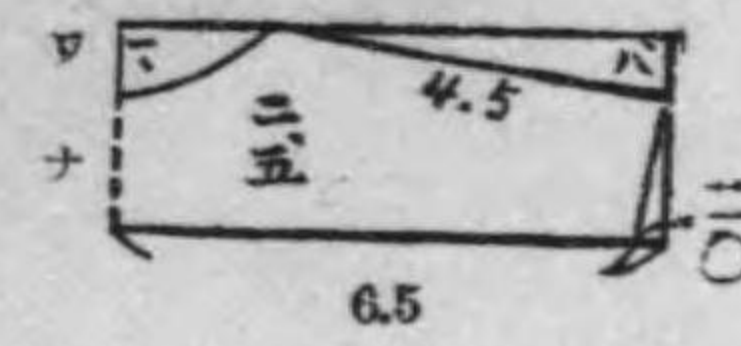
(二)



(三)

肩當裁方

20



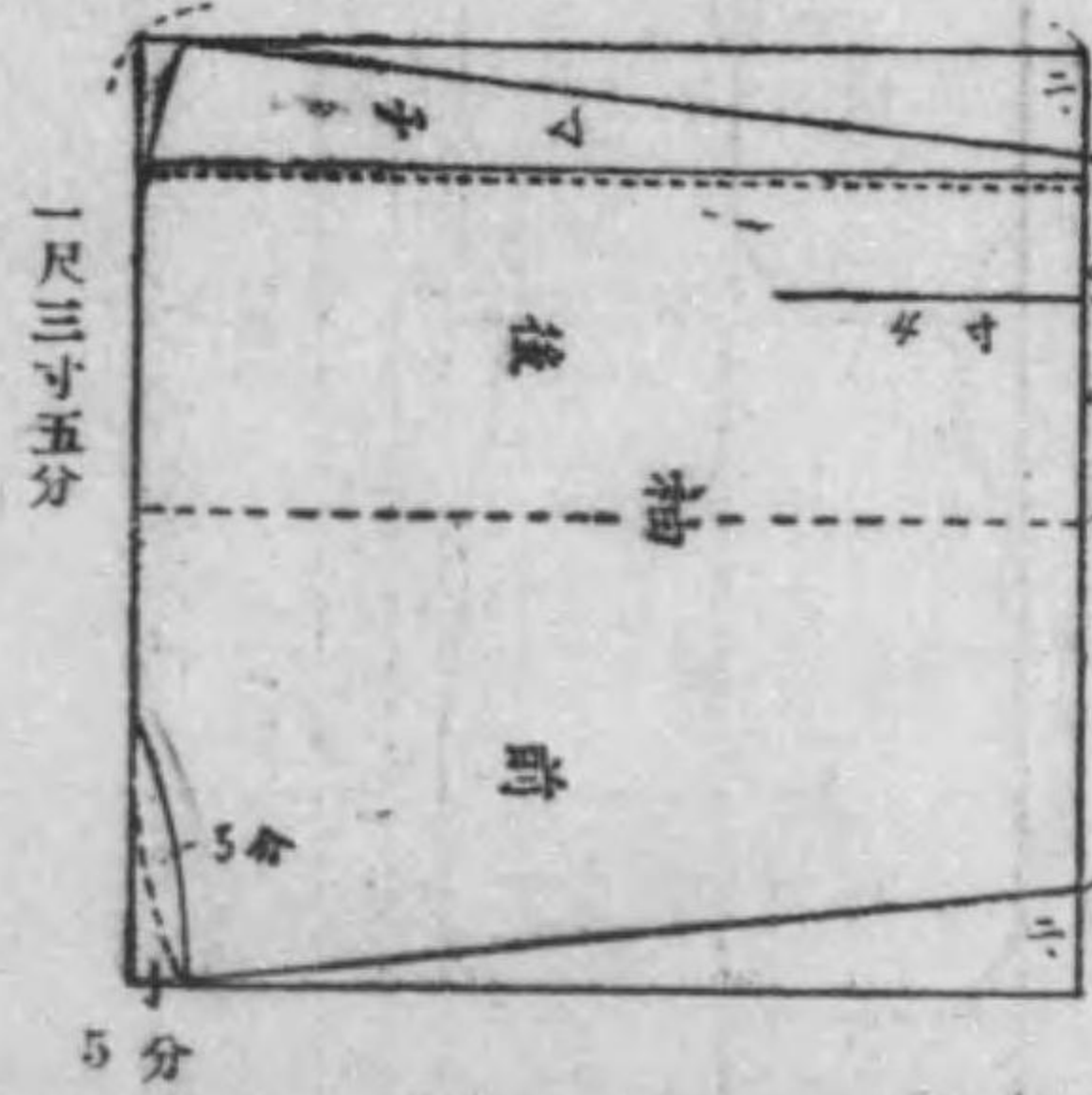
(四)

衿裁方

エリ

1/2寸の二つ折

1尺3寸5分



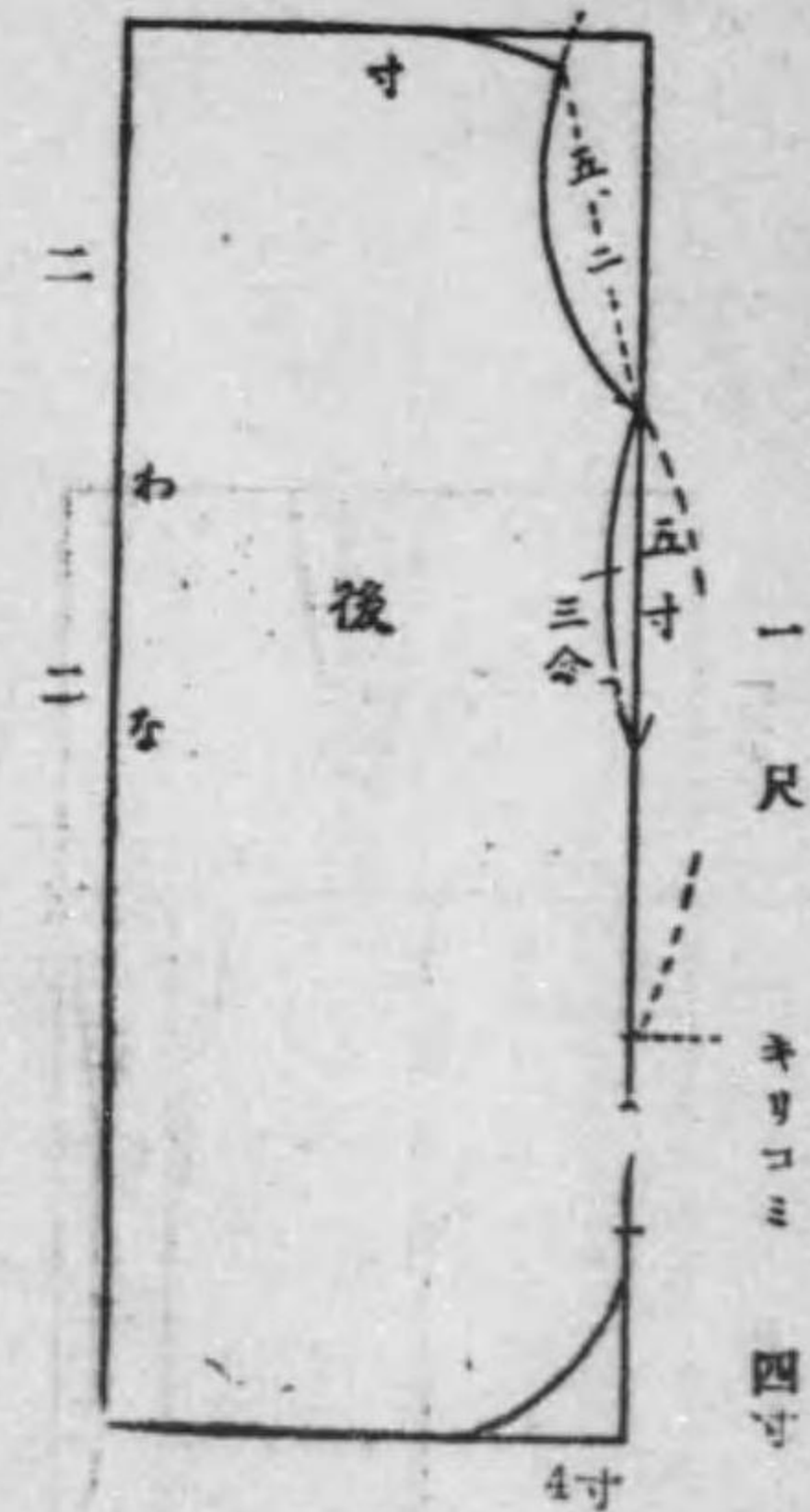
(六)

7.5

カフス悉
二枚

三四

(一) 後裁方



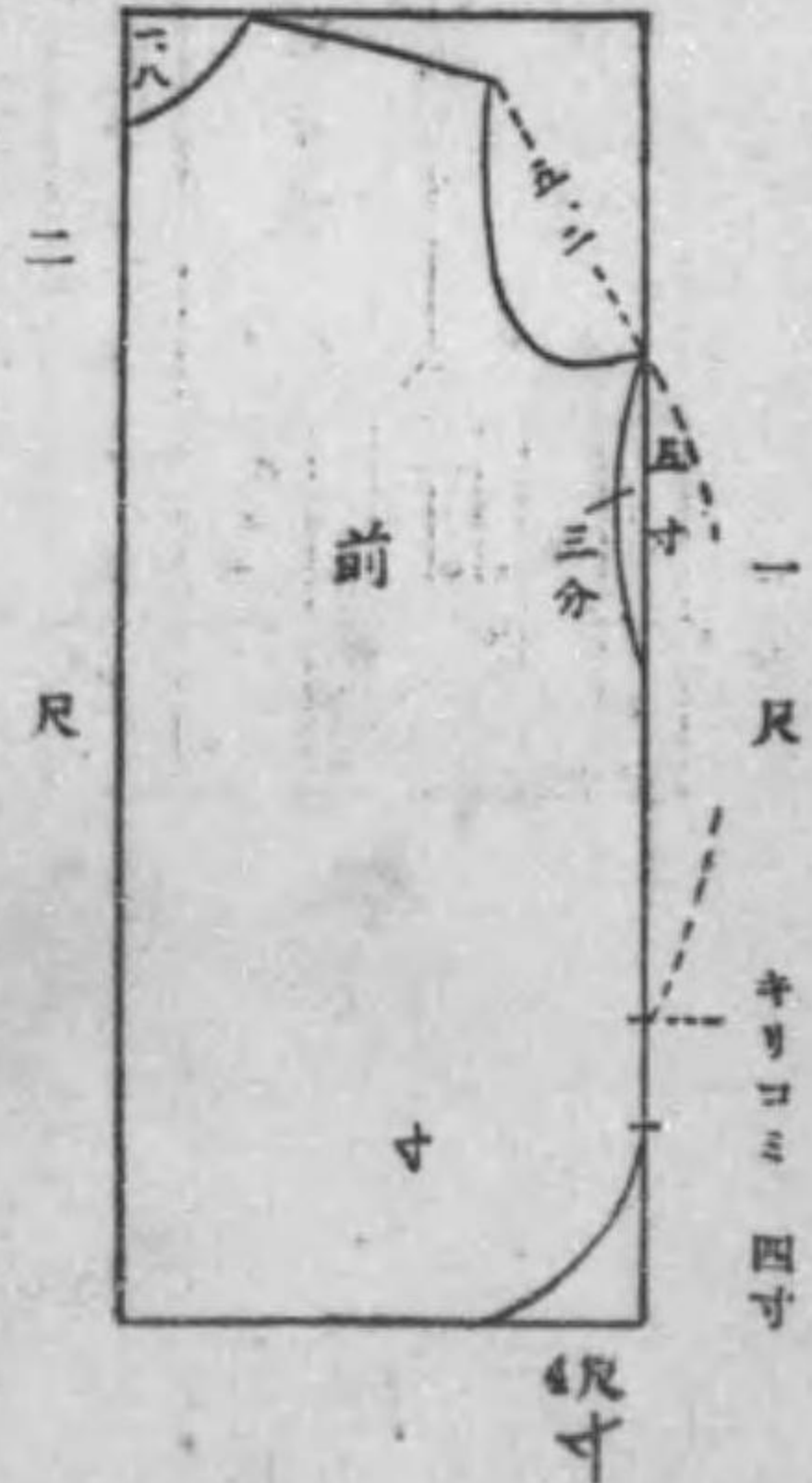
裁縫教科書

一尺

キリコミ

四寸

(二) 前裁方



一三九

一尺

キリコミ

四寸

ワイシャツ縫於順序

一、身頃縫方 後身の肩を、肩當の丈に倣つて兩肩にて縫縮め、肩當の裏と表とで身頃を挟んで（中央にネクタイ通しをつけて）縫ひ、飾ミシンをかけ、前身頃と裏肩當とを合せて縫ひ、折りは肩當の方に返し、縫目に表肩當を被せて飾ミシンをかけます。上前に上前みかへしを裏からつけて表に返し、巾四厘（一寸）は芯にして、身返しの下は劔形に作り飾ミシンを掛け、下前身返しは表よりつけて裏に返し上り巾三厘五耗（九分）に定めて上前の様に身返しの先を作り飾ミシンを掛け、左右の身返しの下を細く三つ折にして脇の切込みまでミシンを掛けます。

二、衿作り方及び附け方 表衿の山（附の方）へ長さ八厘（二寸）の小布を表につけて中六厘を縫ひ、切込みを入れて裏に折返して切込みの間を飾ミシンをかけておきます。次に裏衿を身頃の裏に縫糸にてつけ、三つ山に先と同寸の小布を身頃を挟んでつけ此の小布のつく所だけ中縫ひして、小布のみ衿の方へ折返しておき、次に表衿と裏衿とで首廻りの方を挟んで衿先の丸みまでを縫ひ、表に引返して出来上り衿巾を定め衿の廻りへ飾ミシンを掛け、同時に衿の中に隠れました小布の兩端に上から押へのミシンをかけます。

三、袖縫ひ方及び附け方 十五厘（四寸）の切込みの内袖の方に巾三厘五耗（九分）長さ十九厘（五寸）の縦布を極く浅く裏からつけて縫ひ終りに四耗（一分）の切り込みを入れて、袖の表に折り返して飾ミシンを浅くかけ、上り巾二厘五耗（六分五厘）に定め、身返しの先は劔形に作り假躰をかけておき、外袖の方（襦の着きたる方）には巾五厘七耗（一寸五分）の縦布を表の方につけて縫ひ目は割り、出来上り巾四分の持出しとして先に割りし縫代を二耗（五厘）に裁ち落とし、持出し布をこの裁目に被せて飾ミシンをかけ、縫ひ終りに横に八耗（二分）の切込みを入れて、持出し巾が内袖の身返しに二耗（五厘）程かくれるまでに重ねて留ミシンをかけると同時に先に假躰しておきました身返しの飾ミシンまで済ませまして身頃に附けます。襦を後に、身頃の山と袖山とを合せ、身頃の方を四耗（一分）ずらして縫ひ合せ、縫代を身頃に折り伏せて飾ミシンをかけ、次に袖下及び脇を後を四耗（一分）ずらして縫ひ、縫代を後身に折り伏せて飾ミシンをかけます。

四、カフス縫ひ方及び附け方、カフスの巾を一旦半折にしその上に芯を載せてカフスを擴げ、躰にて押へ、附の一方を残して芯の二耗（五厘）際を縫ひ、表に引返して假躰をかけておき、次にカフスの出来上り丈に倣つて袖口を山で縫ひ縮め、カフスの表（芯を入れし側を表とす）を袖の裏に當てカフスにて袖を挟み、躰にて押へておき、カフスの表から周圍へ二通り（七耗の間隔に）飾ミシンを掛け巾

の中央に通りかけます。

五、ボタン穴 表衿の中央及び衿先に一種二耗(三分)の穴を横に明け、上前身返しに十種(二寸七分)の間隔をおいて縦に三つ一種五耗(四分)の穴を明け、カフスは、巾を二つ折にしてその中間の八耗(二分)入った所に二種三耗(六分)の穴を横に明けてかけります。

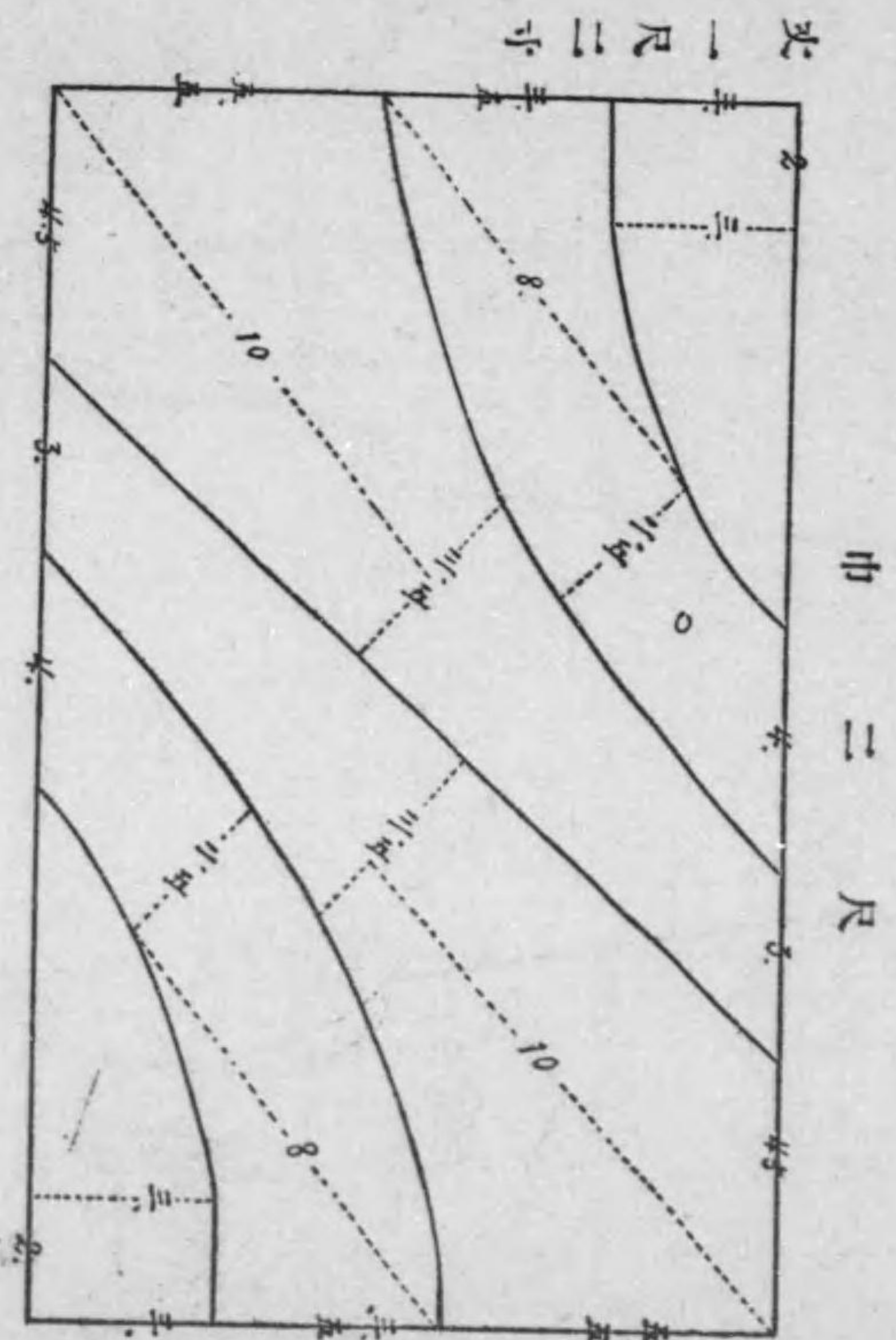
第十九章

二尺巾長さ一尺二寸の布にてネクタイ二本の裁方

(鯨尺の寸法のみにて米を省く)

縫方順序

總合圖の如く裁切りまして二布を斜のまゝに接ぎ合して(山にて)接ぎ目を割つて鍔を掛けます上前の巾廣き方を裾の端から十九種(五寸)ほど極細かく三ツ折にまつり縮に致しまして下前の巾狭き方も三つ折縮に四寸程致しましたら十一種四耗(三寸)ほど上前の方を長く仕て中央を定めます中央より兩方に十一種四耗(三寸)の間二種四耗(六分)の巾になるやう兩端を折りまして其處から裾三つ折縮の處まで斜めに形よく折つて折がつかましたら芯切を表の上來上り寸法を合せて斜巾に裁切り



ます(但し丈は兩端の三つ折縮の際まであればよろしう御座います。

表布巾の中央に表の形に合して芯布を重ね裏糸にて假縫ぢをして置きましたら巾の兩端を折つてまつり縮に致します。

三、四歳用エプロンの縫方順序

- 一、後 脊の裏に十五糎（四寸）のちから布の劔形の所と幅の両端を細く折つてマツリ付け又はミシンにてつけまして、次に後衿肩明の角に斜めに八糎（二分）程切り込みを入れて置き九糎五糎（二寸五分）の後飾り布を横に裏からつけ表に折り返し、上部の幅の端をいつばいに折つて折り込みマツリ縫又はミシンを掛けます。
- 二、前 胸に十二糎（三寸）の飾り布を後の飾り布の如く裏に付けて表に折り返し上り幅をいつばいに折つてマツリ縫又はミシンをかけます。
- 三、前後の肩を合せ後身を四糎（一分）ずらして前縫代を折つて後身にマツリ付け六糎（二分）の縫代を表に折返して置き、二十五糎（六寸五分）の飾り布の周囲を上り幅いつばいに折つて置き身頃の肩にのせ両端を前後の飾り布の先に同寸法に出る様に假躰をかけて置きマツリ縫又はミシンを掛けます。
- 四、脇を袋縫にして裾を上り幅二糎（五分）に三つ折にして締めます。又はミシンをかけます。
- 五、脇明に二糎（五分）幅の飾り布を表に當て縫代を六糎（一分五厘）に縫ひ飾り布にて縫代を包みます。

縁にして裏の縫目にマツリ附けます。

六、ポケットの口に飾り布を裏にあて、縫ひ表に折り返して上り幅をいつばいに折りマツリ縫ひ又はミシンを掛け周囲を折代いつばいに折りを附けて置き身頃の右の脇下に縫代より四糎（一寸）はなし脇明より四糎（一寸）位下げて附けます。

七、後の上前身頃に穴かくりを致します。（男児用は左身頃を女兒は其反對を上身頃と區別致します）穴は一糎二糎（三分）穴と穴との間は約八糎（二寸）位であります。穴に合せて下身頃にボタンを附けます。或は男女児共着物の背と同様左を上にしたしてもよろしいのであります。

八、仕上のアイロンを掛けます。

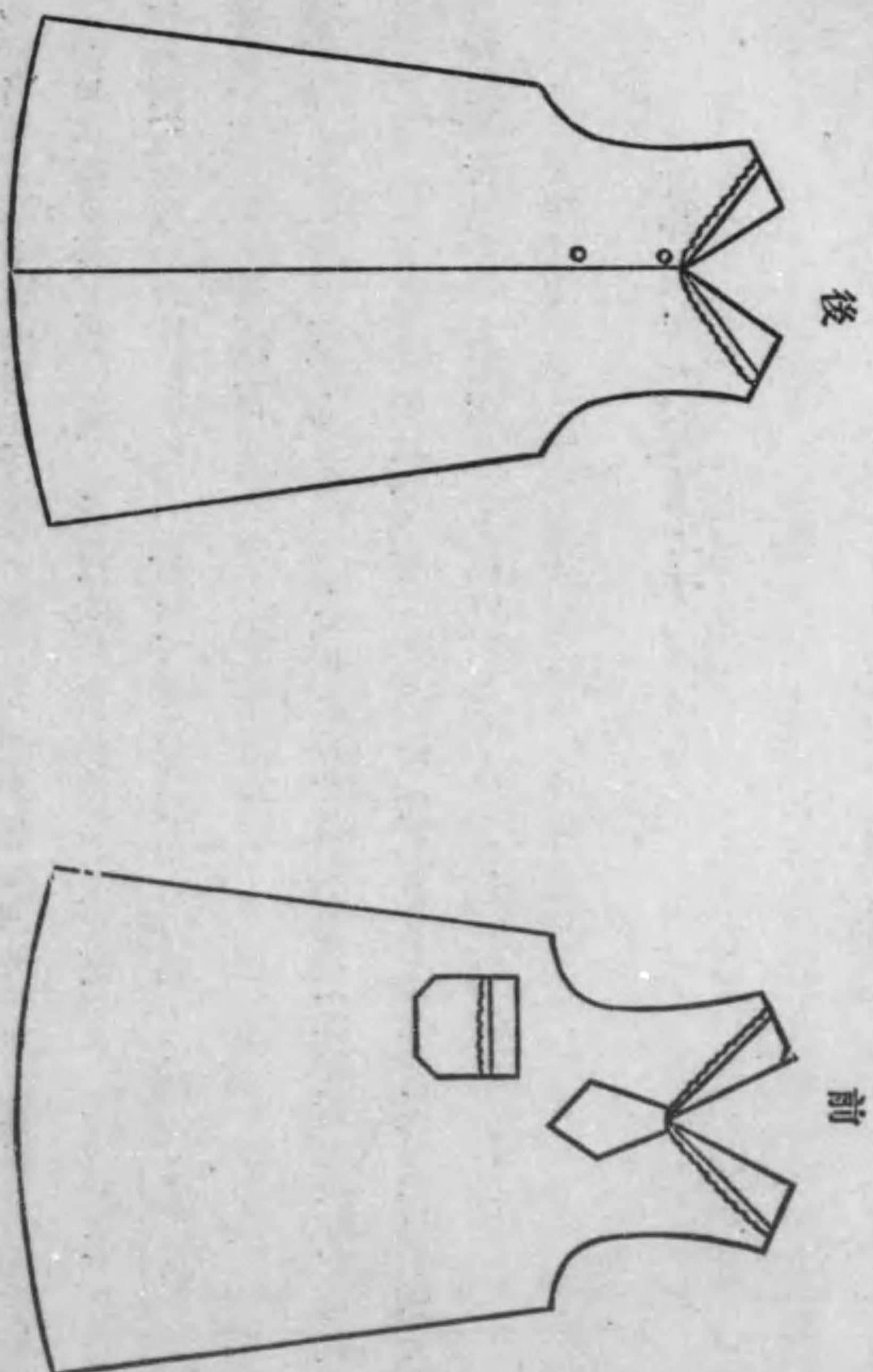
折衿形四五歳用エプロン

折衿エプロン

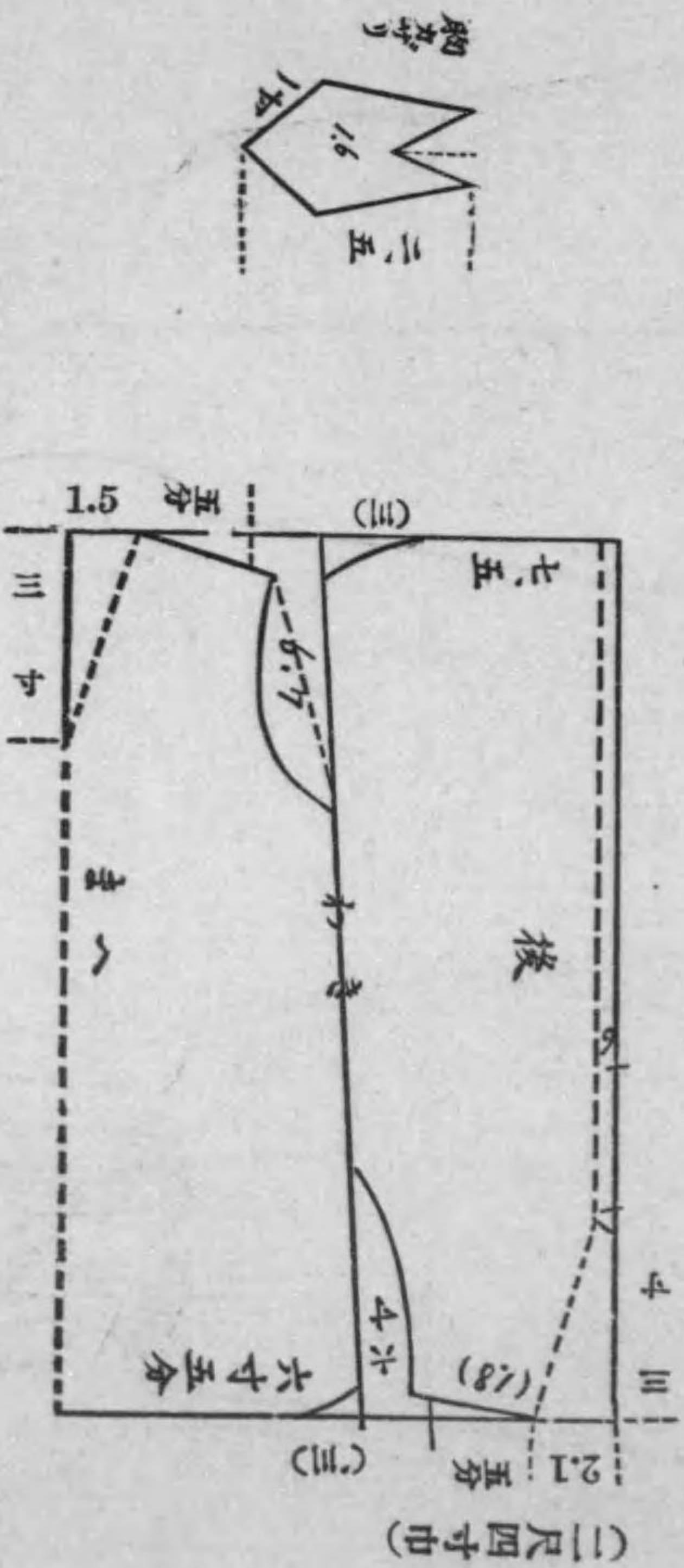
- 一、胸と背の三寸折返ししの布の端に飾りレースの幅狭きものを附けましてミシンを掛けます。
- 二、肩を接ぎ合せ、後を一分ズラして折伏縫ひを致します。

三、後布を一分ズラして脇縫ひを致しまして後布の方に折伏せを致します。裾縫ひをして脇明に斜切の

出来上り圖



キヤラコ巾65種(一尺七寸)にて四、五歳用エゼロン裁方



身返しを付けますか又はテツブにてくるんでミシンを掛けます。胸に共布が折返された處の下部の角が幾分布の裁目に無理ができて居りますから胸飾り切を附ます。圖の如く裁ました物を折返した角の折山に合せ廻りはミシン或は本返しに縫ひます。後に紐又はボタンを付けてポケットを附け出来上ります。

アイロンを掛け皺をのばして裁方に掛ります。

襷縫の標附方

裁たんとする用布の幅を二つ折にして輪を前身頃に手前に向けて置き、襷幅を輪から二糎(五分)に、次は二糎四耗(六分)づゝに通し筥を縦に四本、長さは凡そ二十五糎(六寸五分)に引きまして、各々の線を襷山にして折四耗(一分)の縫代に折つてミシンを掛け、襷の下方は縫糸を裏に引き出して結びます。此時中央の二本の襷を標準に兩脇へ六耗(一分五厘)づゝ襷縫の長さを減じて留め襷の折は肩揚の如く脇へ向けてアイロンを掛けます。

縫方順序

飾レース幅四糎(一寸)より八糎(二寸)迄の兩耳の飾レース(長さ約七寸)の兩耳を細く三つ折にして襷をかけて、レースの丈の中央を兩端が約四糎(一寸)上る様に裏に摘み縫ひして(縫方圖參照)。

二、レースの中央を胸より十二糎(三寸)下れる處に當て幅の兩側の三つ折の上からミシンを掛けレ

ースに隠れたる裏布の中央を裁ち上下に分ちて折り飾ミシンを掛けてレースをすかせます。

三、後背の耳を二糎(五分)に二つ折にしてミシンを掛け。

四、肩、脇を袋縫ひにして。

五、裾を三つ折にして飾ミシンを掛け。

六、衿、脇明にキャラコの斜布見返し(幅二糎(五分))を表に當て、縫ひ裏に折返してマツリ付けます。

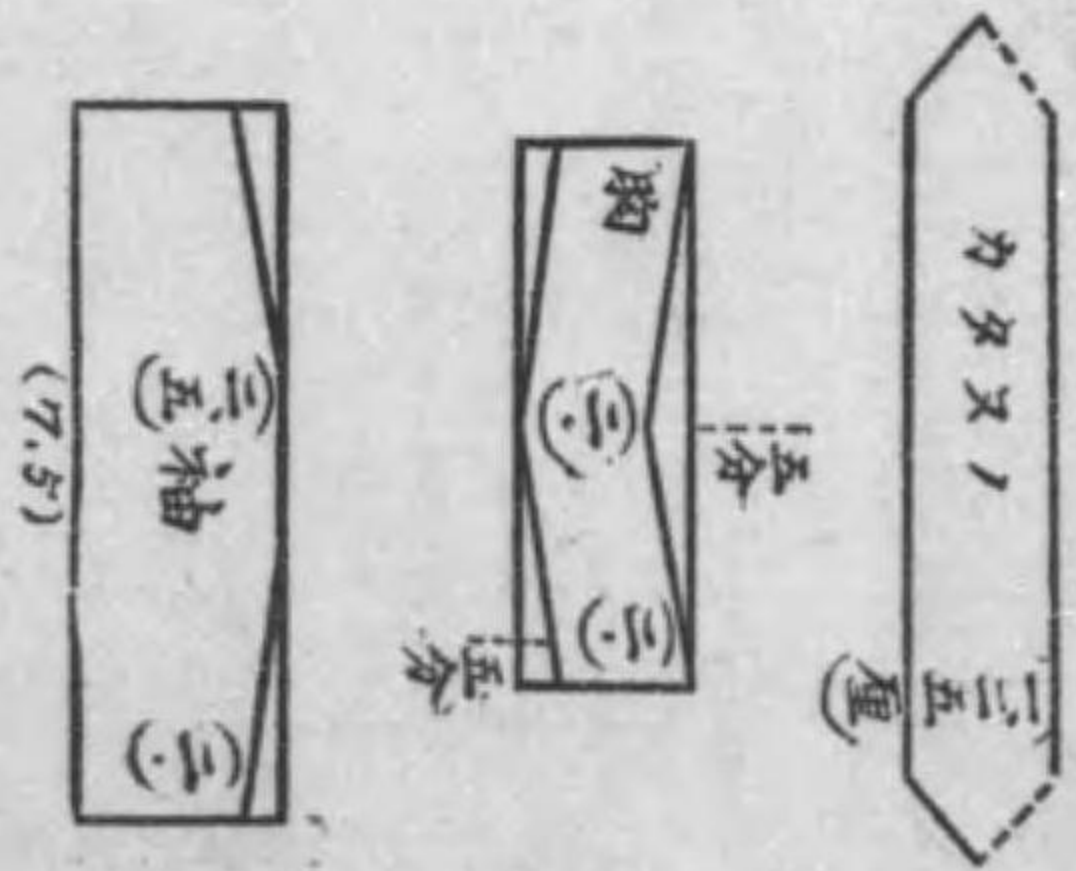
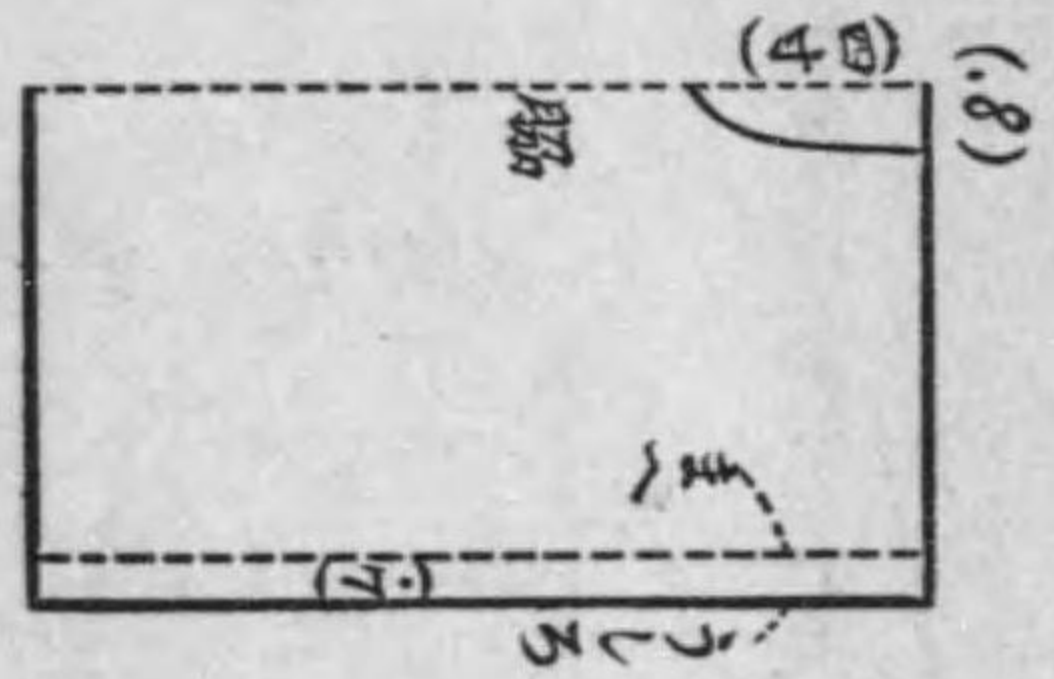
七、ポケットを作りて付け。

八、穴かゞりを致しボタンを付け。

九、仕上を致します。

一、縫方順序

一、袖布の眞直の方にレースを附けます。兩端に廻して角の處は一つ襷を作つて置きます。劔形の肩布に劔先さから一寸五分づゝ前後共明けて置きまして、其間の寸法だけに袖丈を縫縮めて表裏の劔形布にて狭んで抜き針か半返しに縫ひまして、劔先の方まで縫はれる限り縫つて、残りは縮けます。



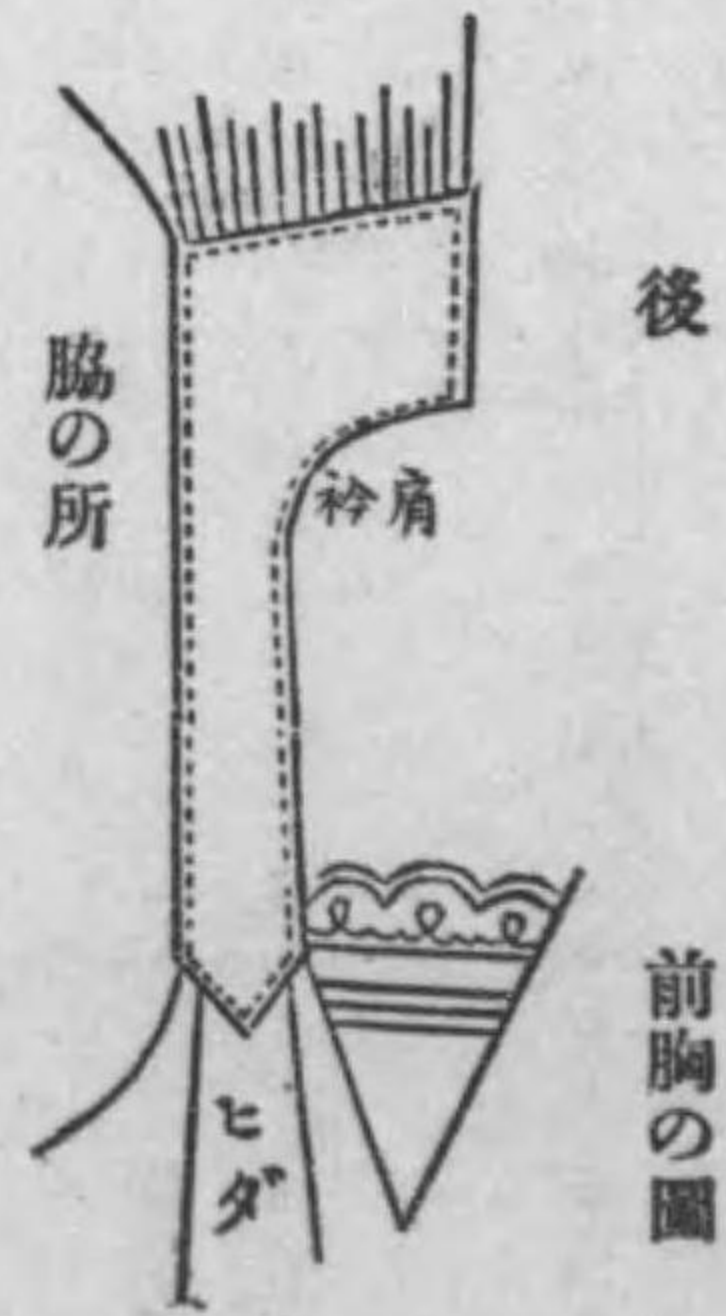
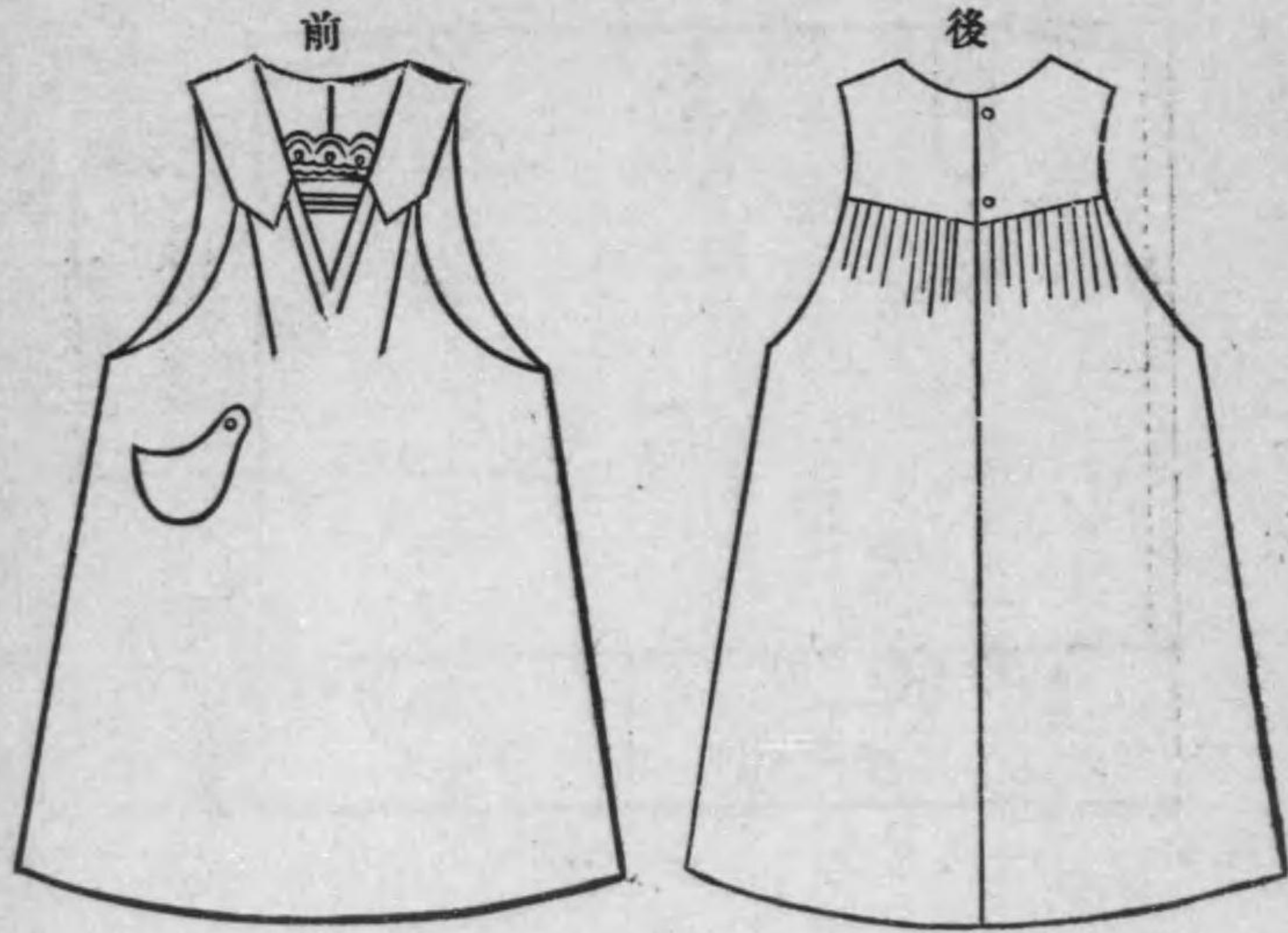
附けます。左が上に重なります様に背切の幅狭き方を左に附けます。両方共裁切り寸法だけに縫縮め
まして表裏に挟んで半返し又は抜き針に致します。両端も縫ひまして引き返し上部は細かく絞けて置
きまして廻りをミシン或は手ミシン縫に致します。

四、袖の附きました劔形肩切を脇明きの通りにならつて胸布と後背布とに合せまして劔先だけ胸布よ
り先きに出して後も同様にミシン縫或は廻りを絞けて置きます。

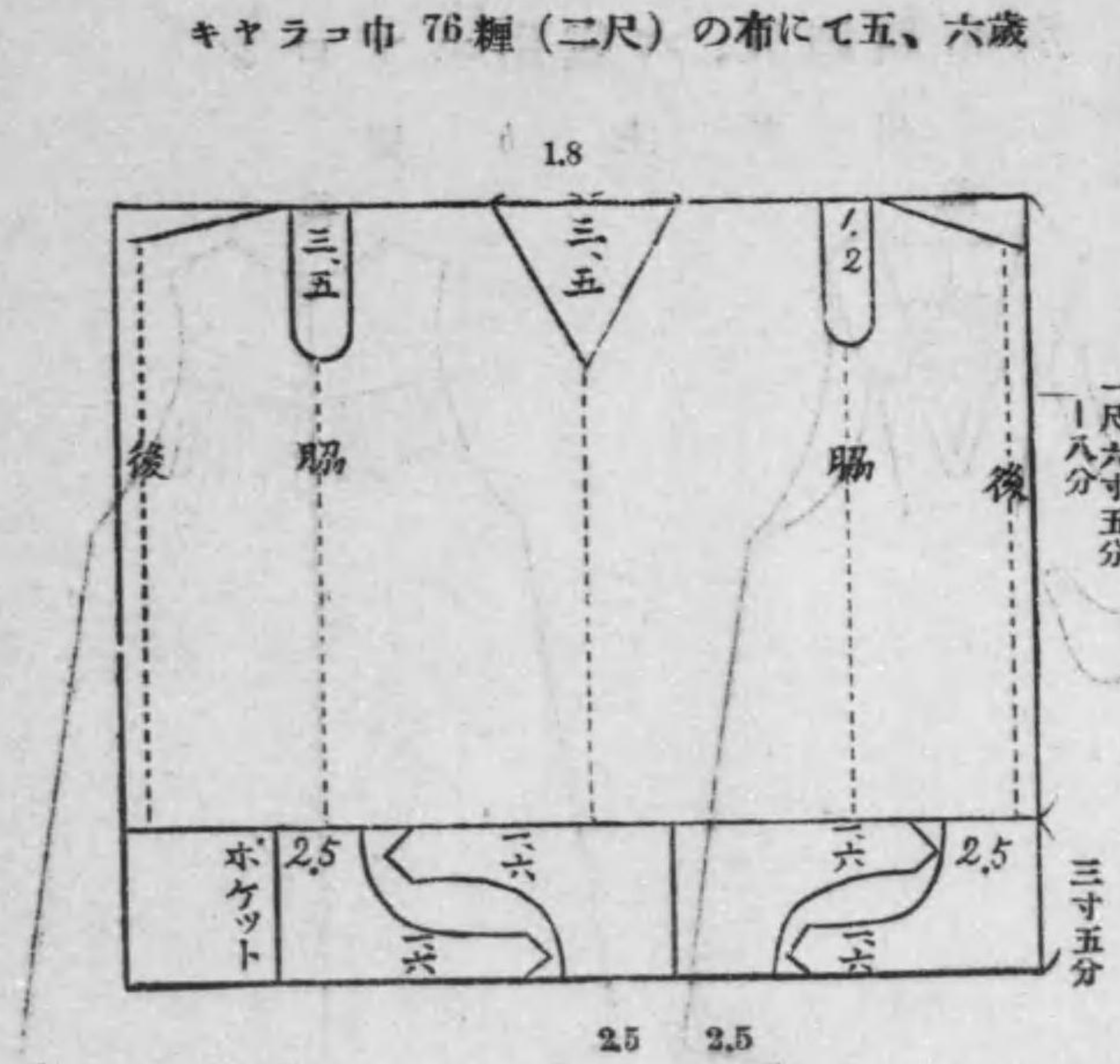
後背切に左に穴かゝり右にボタンと、ポケットを附けて出来上ります。

別布胸飾五、六歳用エプロン

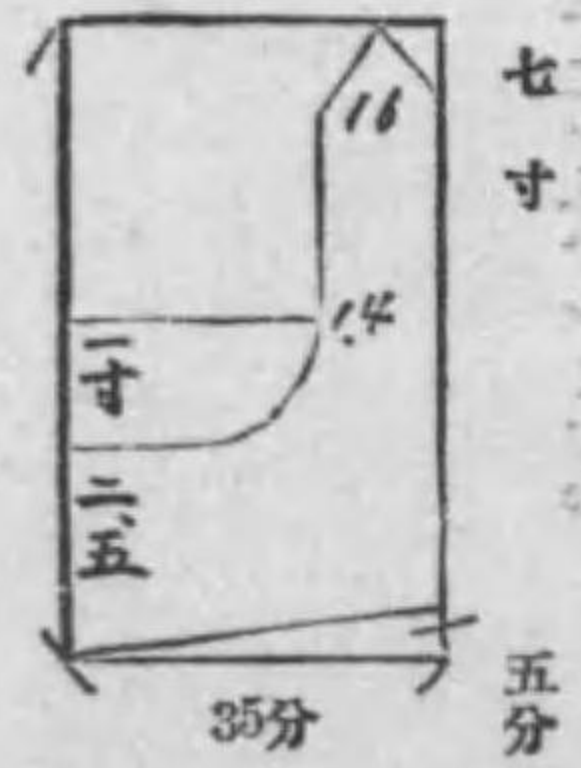
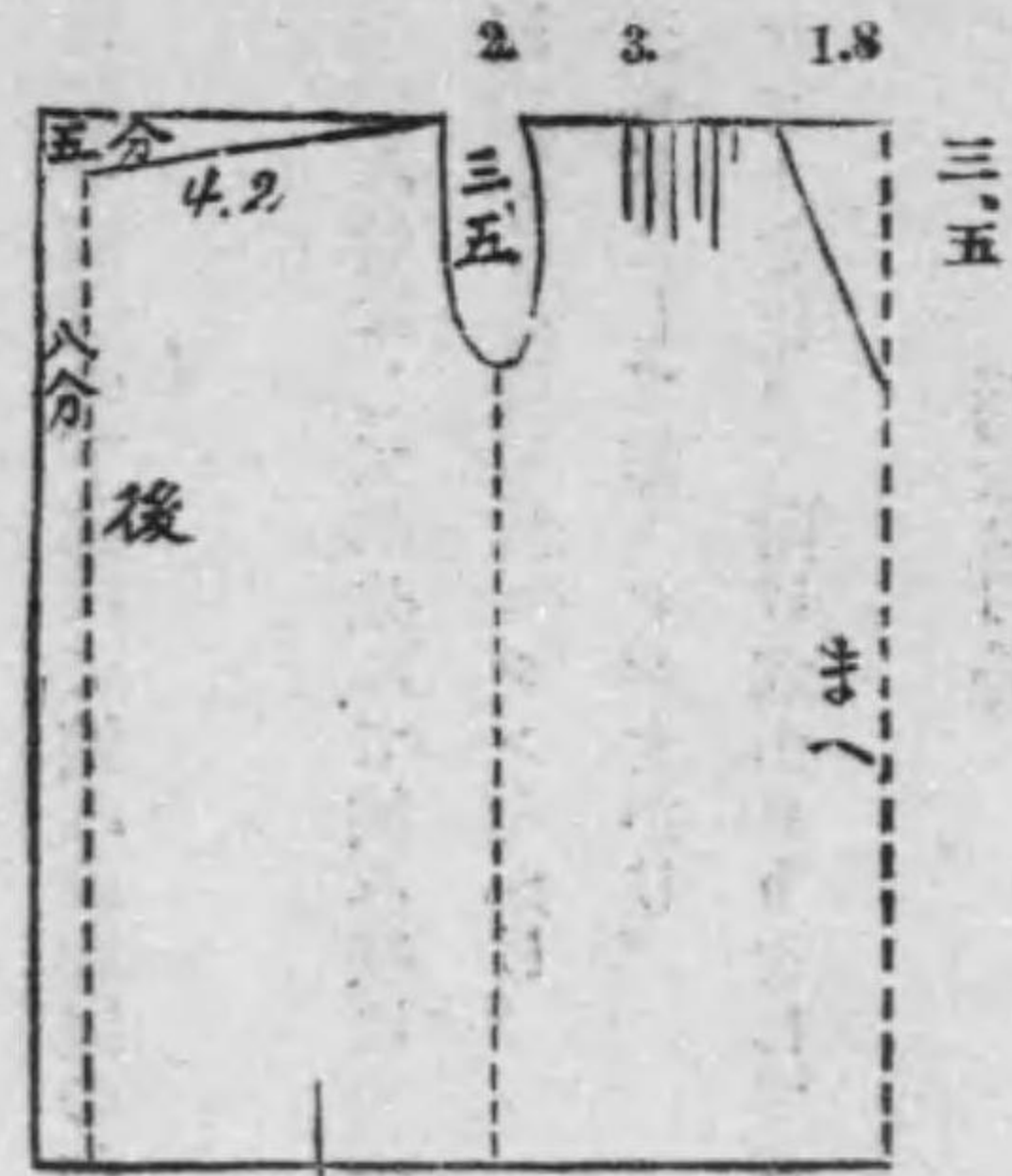
出来上り圖



剣形エプロン



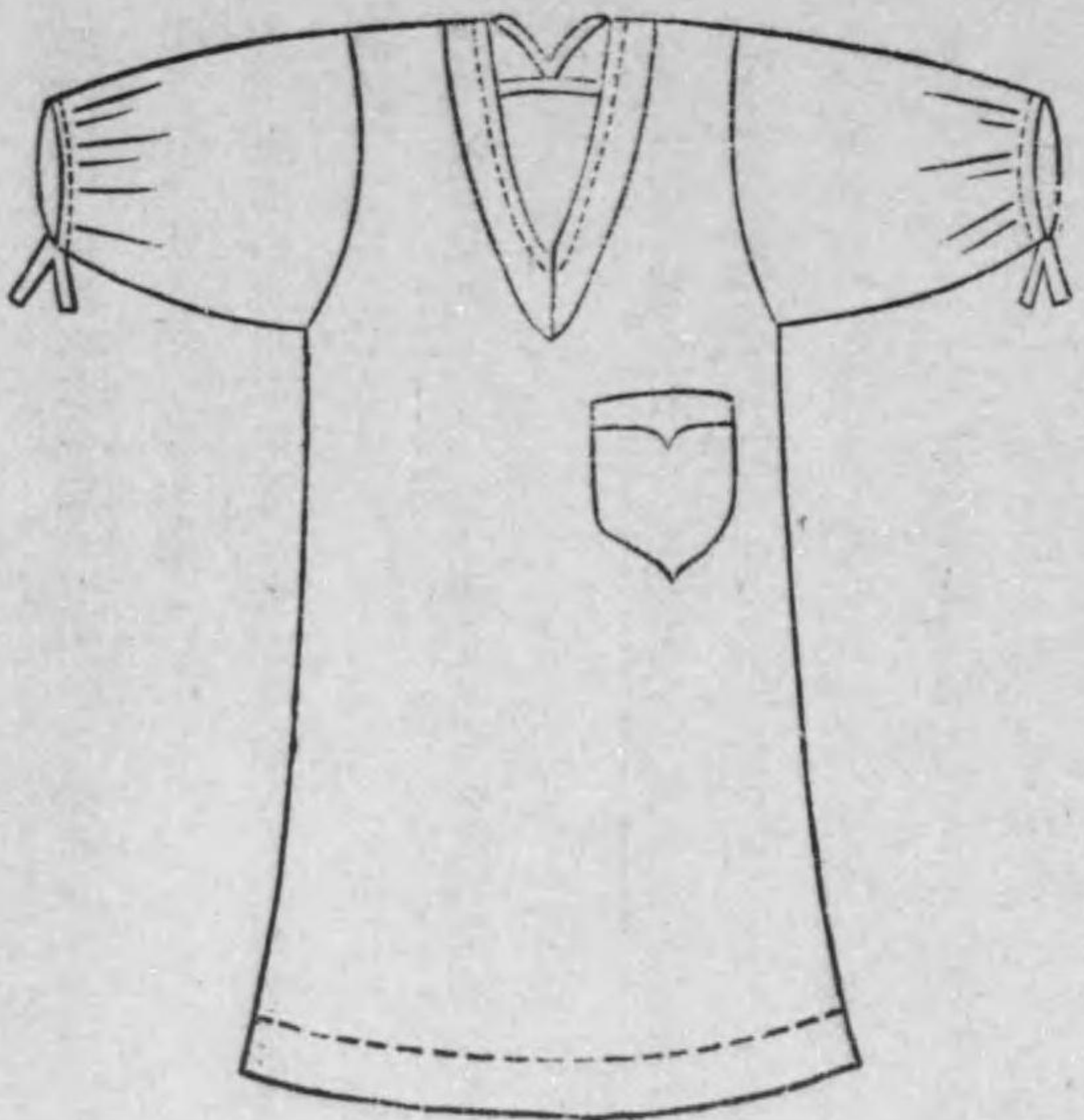
縫ひ方



- 一、後の脊の耳は二つ折に二種巾(五分)にして飾ミシンを掛けて置き。
- 二、前の胸飾布は胸の裁落しの三角布を利用し、幅廣き方を上に二種下つて横に細く飾壁を三つ程縫ひ折は下に向けて折アイロンを掛け上に飾レースを(幅一寸位)縫合せ折は下に向け押へミシンを掛け。

- 三、前身 胸明の下部に止切を入れ折代を八耗(二分)に折を付け、胸飾布を裏にあて飾りミシンをかけ。
- 四、脇明に斜の身返し布を付けて裏にマツツ。
- 五、後の上を縫ひ締め置き。
- 六、左右の肩布を中表に合わせて脊から衿肩廻りを前胸圖(一五七頁)の如く剣先を八耗(二寸)程残して縫ひ。
- 七、後布の壁を肩切の下部にて挟み前胸圖の如く剣先まで縫ひ引返して剣先の幅を出來上り寸法に折定め。
- 八、前布を揃み襷にして剣先にて挟み襷にて押へて置き。
- 九、次の圖の如く全體に飾ミシンをかけ。
- 十、裾を三つ折にして飾ミシンをかけ。
- 十一、ポケットを作りて付け穴かゞりをしてボタンを附仕上を致します。

割烹前掛



用布キヤラコ巾にて長さ五尺二寸他に飾布を用ひますならばレリス市松格子縦横の斜布がよろしくそれは衿廻とポケットの上に附けるだけを要します。

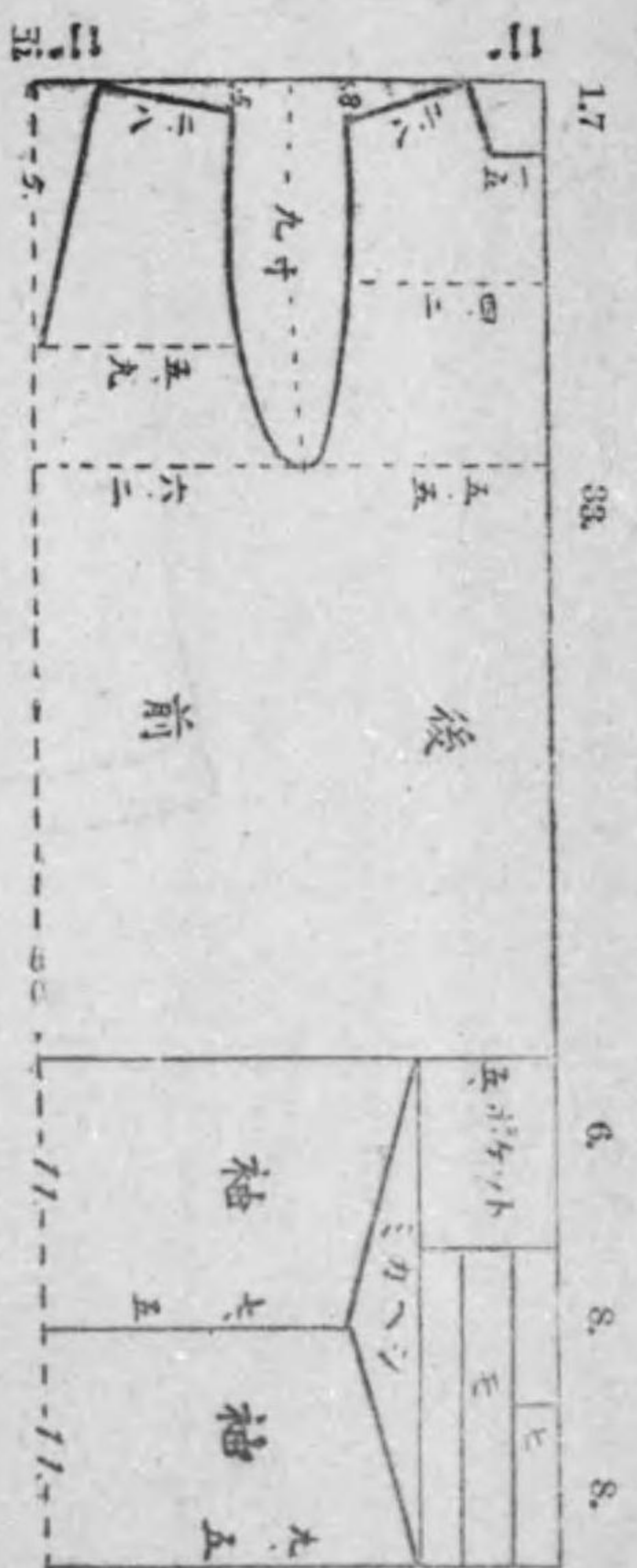
裁方

圖の如く巾を二つ折となし先づ身頃になる三尺三寸(人に依つて身丈を長くする時は従つて用布も長く)を裁ち落して二重のまゝに身頃は先づ圖の如き寸法に標して裁ち切りますとワナの處が前になるやうになります。

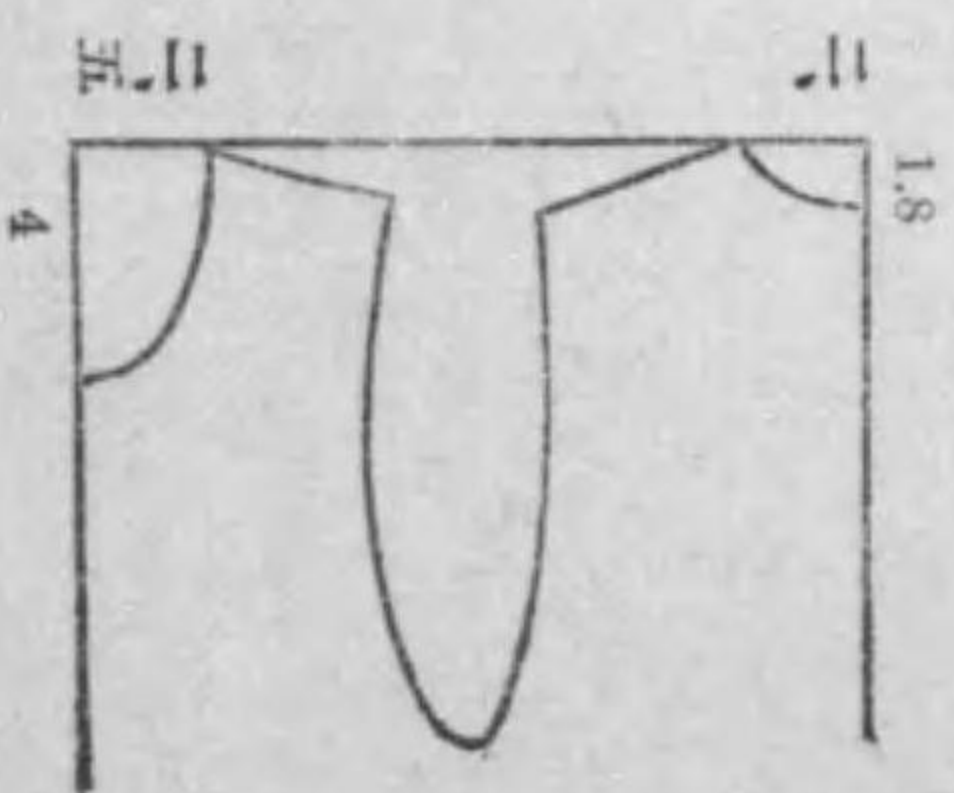
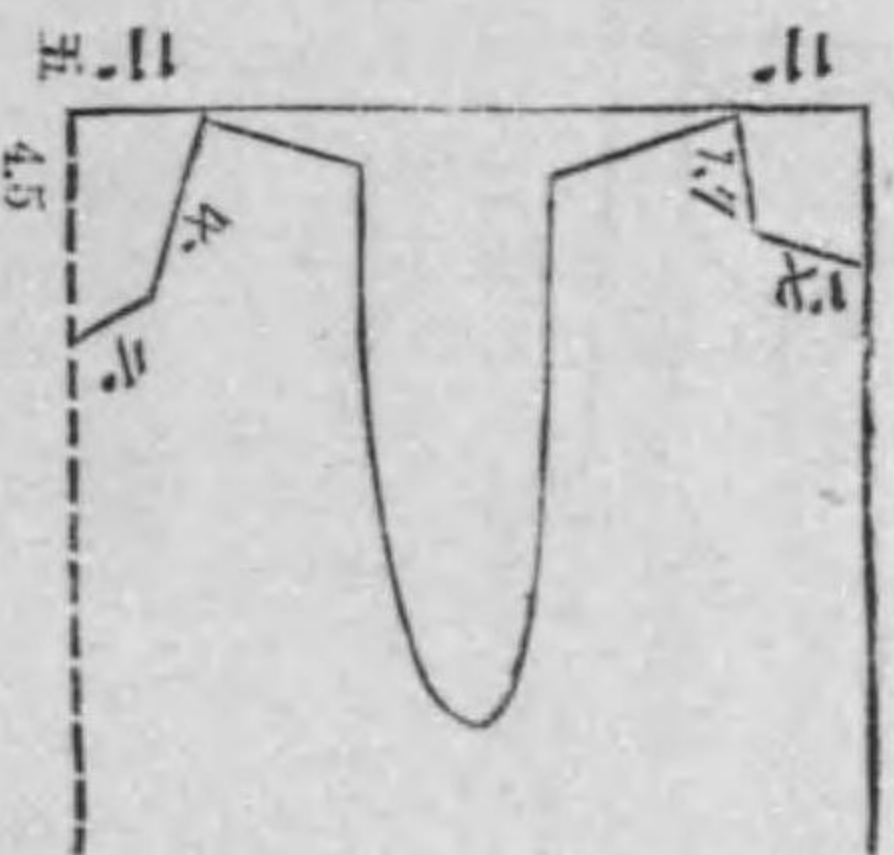
袖の部分は片端の方から袖を取りまして残りからポケットと紐を取ります。

縫方順序

袖口下を一寸五分だけ細く三つ折縮にいた



衿肩のくわりの色々



しまして袖口を四分上りに三つ折にテツプの通るやうにして表より飾ミシン又は半返しで押へ袖下を袋縫又は折伏にいたしてまつり縮を仕ます。

袖口に通すテツプは護謨テツプにて(五寸位の丈を輪に接ぎ合せて中に入れます)又普通のテツプの場合には結ぶに必要なだけの丈を要します(仕上圖は護謨テツプを用ひしもの)

身頃は後と前の肩を合せまして半返縫にいたし折は後に折返し前布にて縫代をくるみ表より飾ミシン又はまつり縫にいたします。そして斜布を谷廻りの處に裏よりつけ表に巾四厘位の上りに飾ミシン又はまつり縮にいたします。次に裾縮を上り巾一寸に折り縮ます袖付は袖山を身頃の肩山に合せて附け折は身頃に返し縫代を細く折つてまつり縮にいたします。

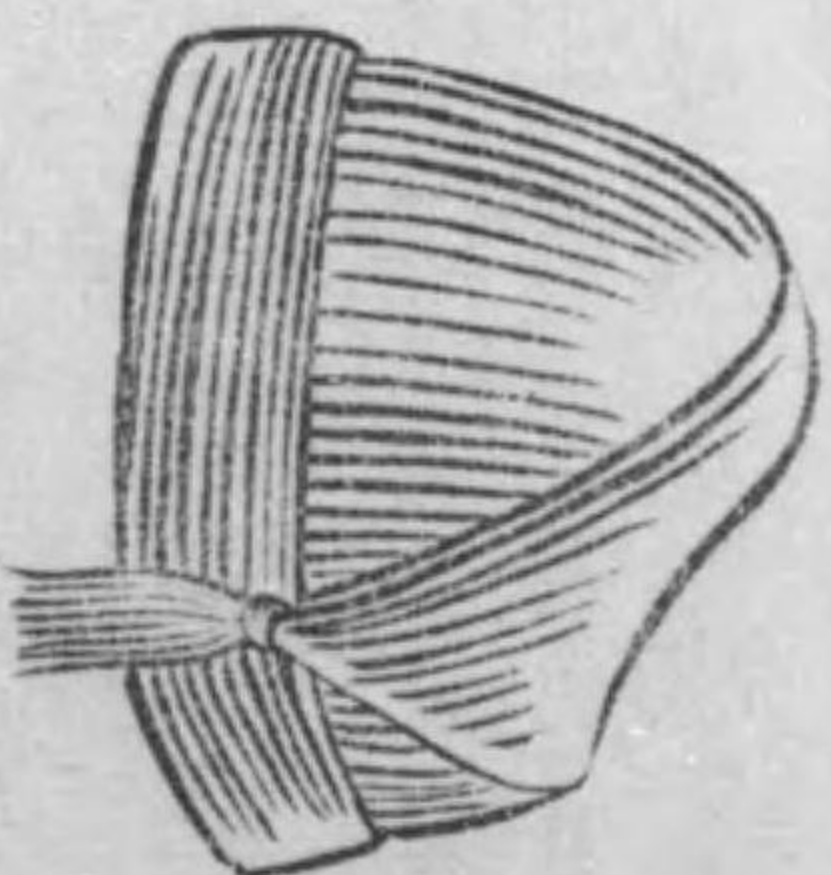
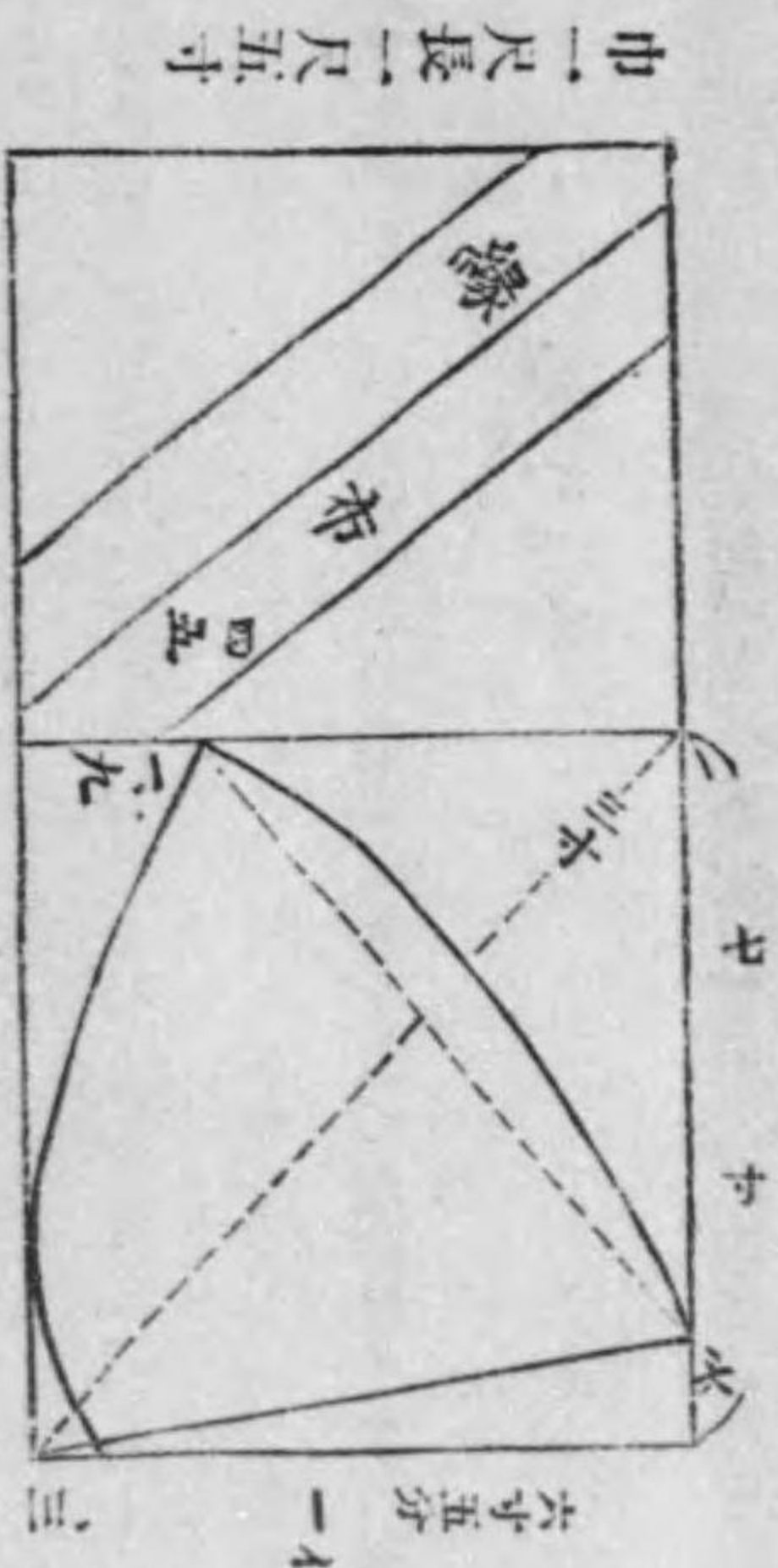
紐は出来上り六分位に丈は七寸位に四本を縮け後の衿肩合せの處と其處から一尺程下つた處とにつけます。ポケットは好みの型に作りまして左袖附より一寸程下つて前に一寸五分程寄せて附けます。

第二十一章

男兒三角帽子

圖解の如き寸法に頭布の型紙を裁ち之に縫代一分五厘加へて表裏二枚づゝを取ります。此二枚の裁

方圖イ、ロ、の部分を裏布も表布も縫合せます。そして表と裏とを合せて頭布を作り縁布を接ぎ合せ



て頭布の廻りに合ひますやう輪といたしまして縁布を縫ひ付け裏にてまつりつけます。次に頭の先きを後横に折りまげ先に房をつけます。

女兒六、七歳帽子

裁方は圖の如く極簡單で九寸の頭布を出来るだけの丸みに作りませ縁ち布丈は子供の頭廻りに縁ち布の縫合代を加へたる寸法になほ此れにゆるみを四五分加へます頭布の裏布と表布を外表に合せ廻り

巾一尺長さ一尺七寸にて女兒用六、七歳帽子

巾一尺 長さ一尺七寸



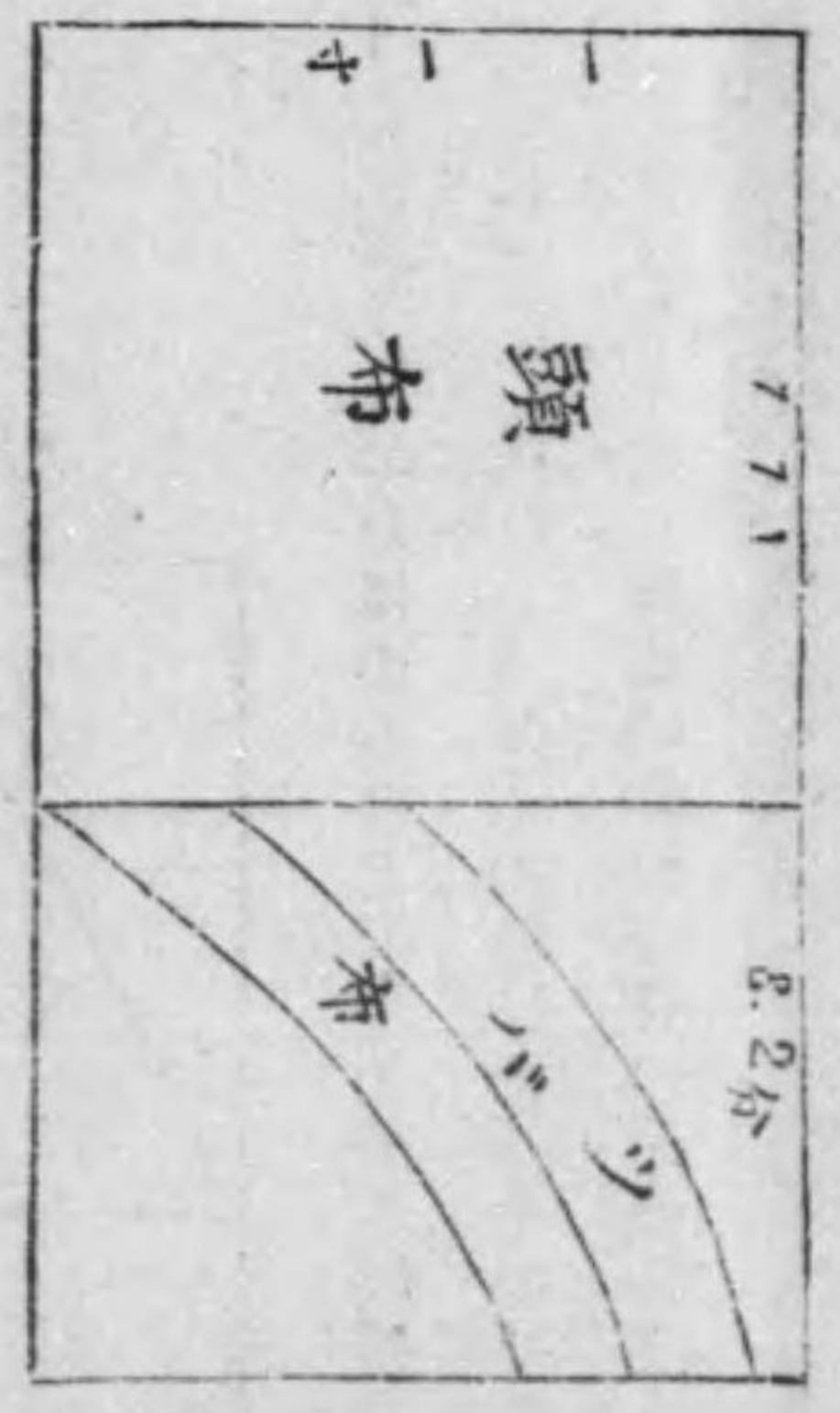
をかり縫ひに致します頭廻り丈は縫ちゞめ或は巾着裏を取つた後ちの長さを申します。

次にふち切れを輪にはぎ合せ巾を二つ折にして頭布の表に廻りを合せ縫目は表側に出る様にふち切れと頭布とを一と針ぬきに縫ひ合ます。次に縁切の縫ひ合せの際五分ばかりを裏に見返しのやうに残してあとをくるりと頭布の表の方に折返します。

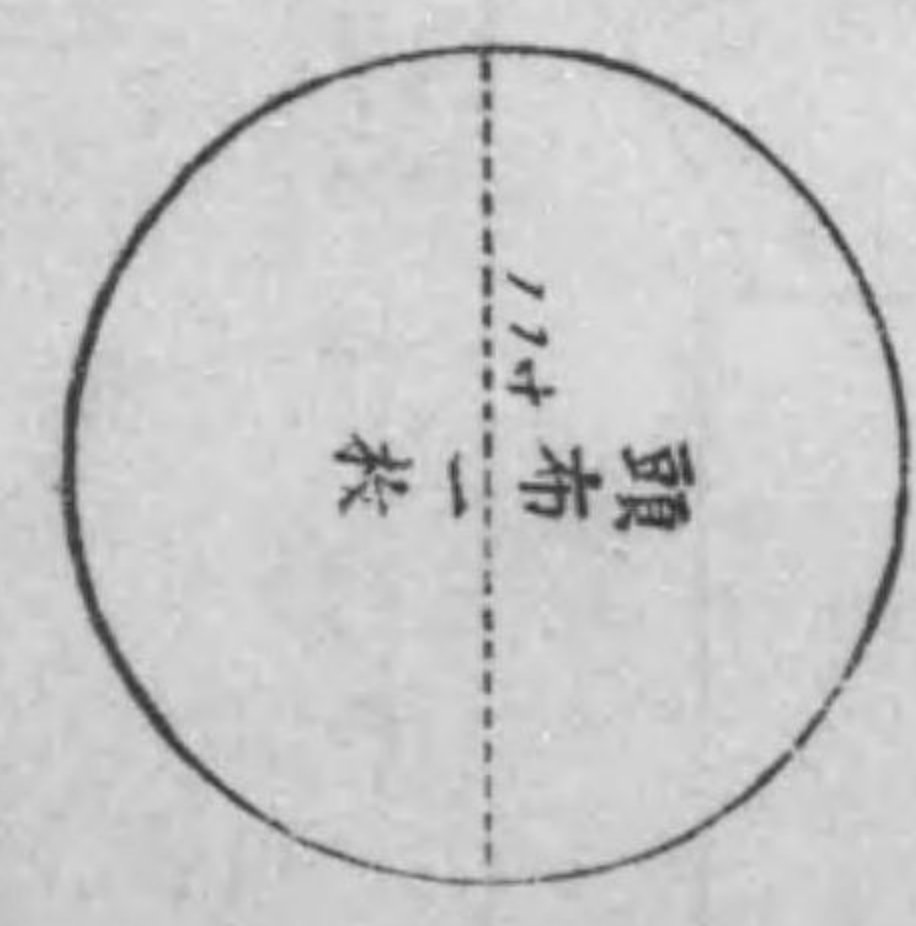
縁切は縫目の際にて頭布とくけて置きますかさりに縁切の巾中央にリボンを附けます。

幅 四十一種八種 (一尺一寸) 長さ 七十三種 (一尺九寸二分) にて八、九歳女兒用帽子

適合圖



表用布



原形取方

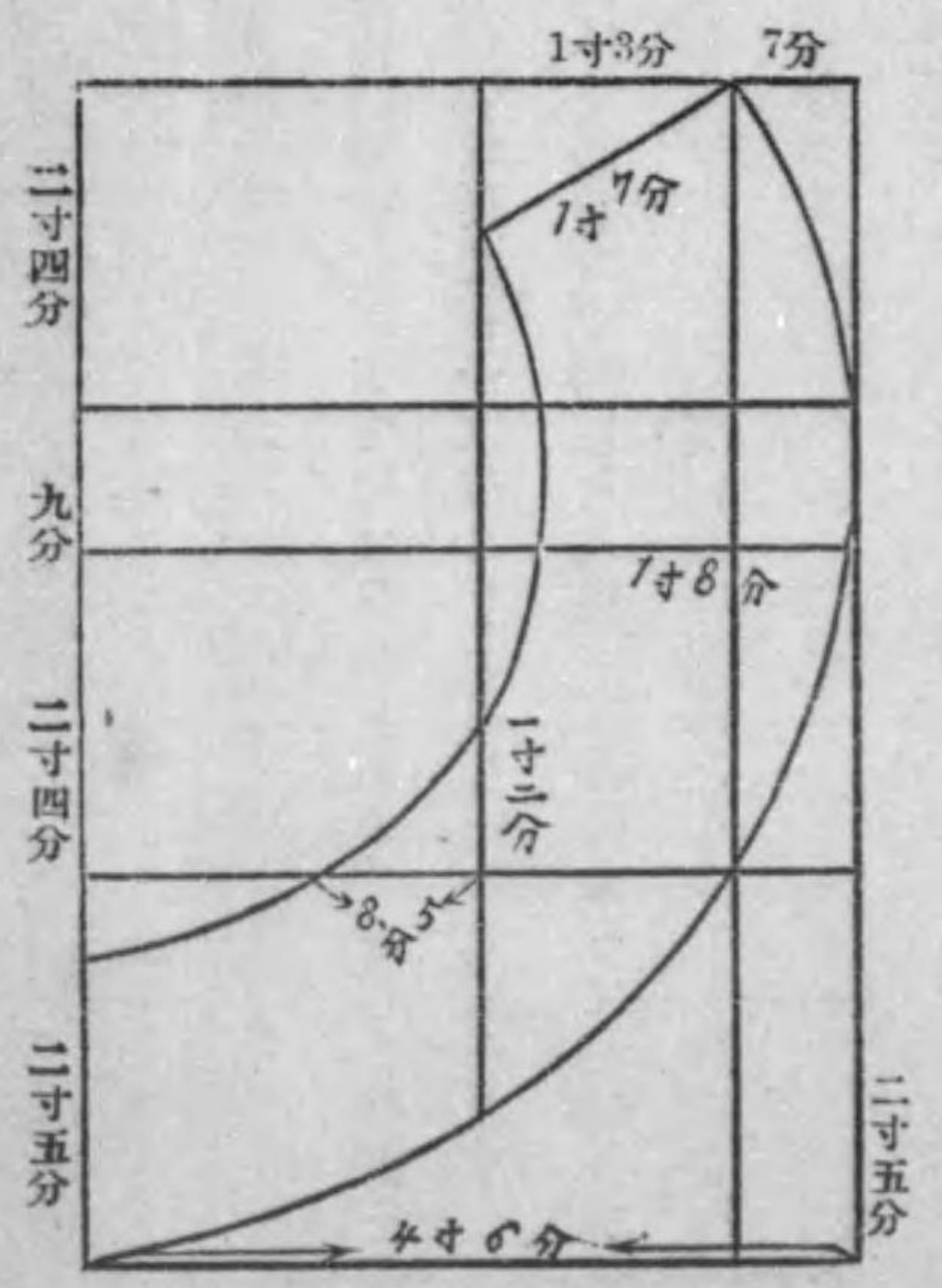
八、九歳女兒各帽子

用布 表布はセルの海老茶か(ビロード)

裏布は黒の襦子を四十一種六耗(一尺一寸)見返し布は裏と同じ黒襦子にて斜布にて四種(一寸)巾長さ五十三種(一尺四寸)鍔の芯布は芯地といふ布、又は寒冷紗を用ひます芯地飾(絹地又はリボ)



第二十一章



一六七

ン) 布と配合よき色合の布を要します。

裁ち方

先づ分解圖に示して有ります様に最初新聞紙を以つて型紙を作ります。そして型紙を各々の用布にあて、裁切つてゆくのでありますが頭布は表裏共一枚づつでよろしいのであります。

鏝の型紙の大きさに依りますから幅はそのまゝで両端を八耗(二分)加へて裁切ります。今一枚は更に外周りに九耗(二分五厘)加へて裁ちます。この廣い方は裏鏝となつて表鏝の方への縁となつて出るのであります。鏝は裏表共表布を用ひます。

縫方順序

先づ最初に芯布を二枚重ねまして動かぬ様に假縁を掛けて、置きます(但し寒冷紗なれば四枚重ねます)次にそれを表鏝布の裏側に當て、假縁を致しまして両端を合せて縫ひ、縫ひ目は割つて置きます。それから裏布の兩端を八耗(二分)の縫ひ代に縫合せて置きます。そうしてから鏝と芯に綴ぢつけてある表と裏布とを中表にして外周りの裁目をよく整へて重ねまして、弛るみは均等に配り、假縁

で押へ、外廻りを四耗(一分)位の縫代にてミシンを掛けるか又は小針にて返針にて縫ひます。それが出来上りましたら表に返して縁をなるべく細く取り鏝全體を布の動かぬ様に縁をかけて置きます。

次に間を六耗(一分五厘)位明けまして螺旋形に表から見ても、ぐる／＼とミシンを掛けます。それで鏝は出来ました、此の螺旋形若しミシンのない時は手縫ひでミシンの様に縫ひます。それから頭布の表と裏とを合せて周囲を綴ぢあはせて襞を作ります。襞は二耗(六分位)餘の巾着襞フックヒキに致しまして、その周囲即ち頭廻りの大きさに作ります、その周囲は子供の頭の大きさに依つて違ひますから一様には申されませんが若し假に四十七耗(一尺二寸五分)と致しますと襞は凡そ十八位。

第二十一章

運動シャツ及びズボン縫方順序

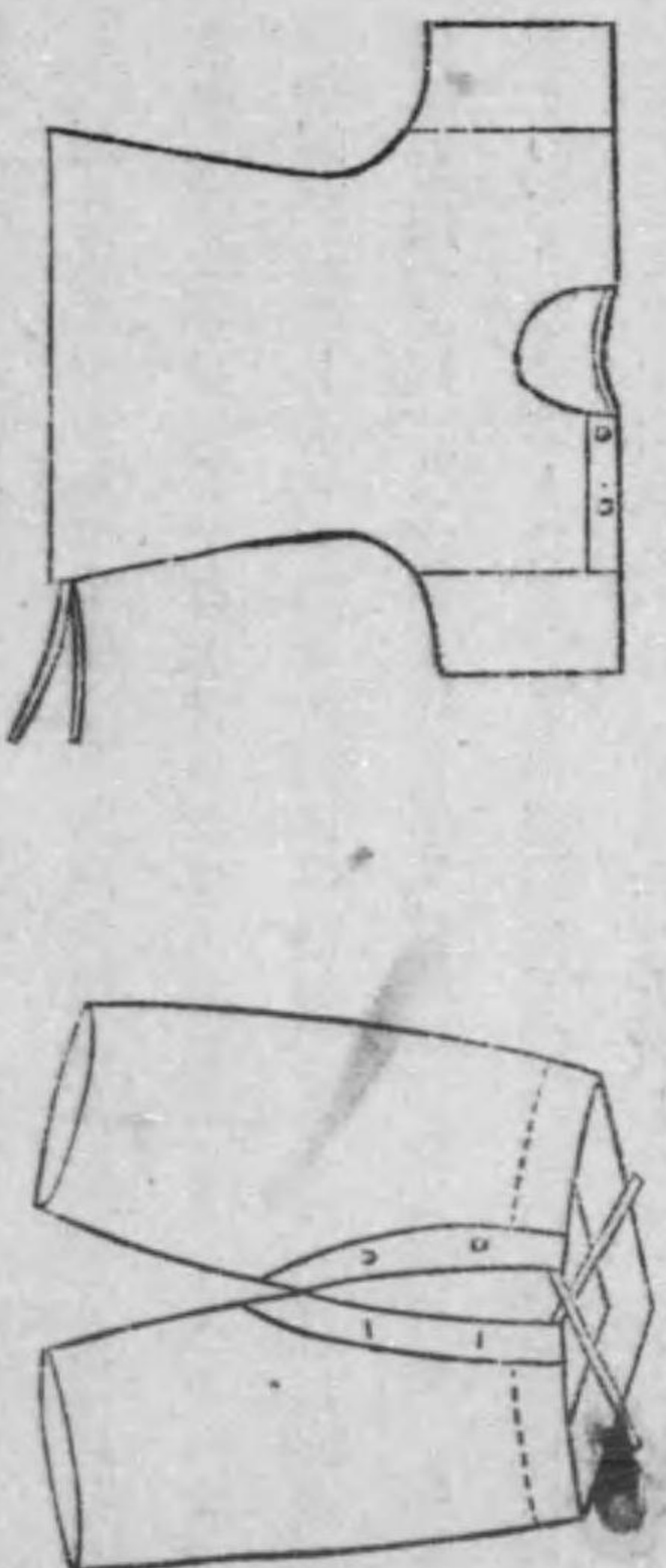
- 一、袖布を袖附に合せて縫ひます折りは身頃の方に返してミシン又は伏せ縫ひをいたします。
- 二、身頃左肩裁切りの所前身の方に六耗(一寸五分)幅の持出し切れを縫ひ合せて縫目は割りまして持出切れを幅二つ折りにして裏にまつり附けます。

三、後の肩の裁目に合せて二種八耗(七分)幅の身返し切れを縫合せて毛抜き合せに裏へ折返してま
つり付けます、左の肩のみ明きますのでございます、この所押ホック二つ付けます普通のボタンにて
もよろしく。

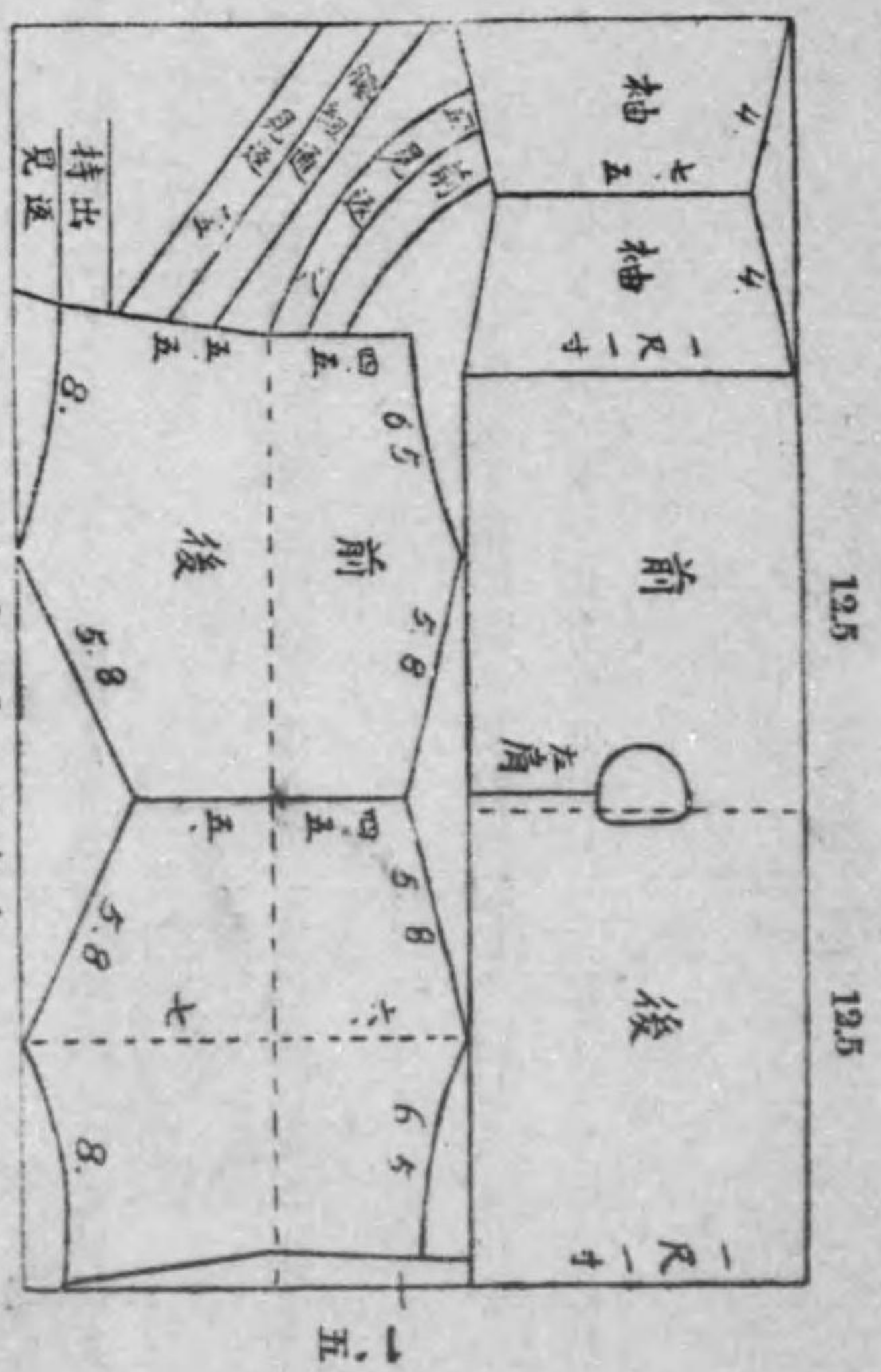
八、九歳男児運動シャツ及びズボン

用布キヤラコ幅長さ三尺三寸

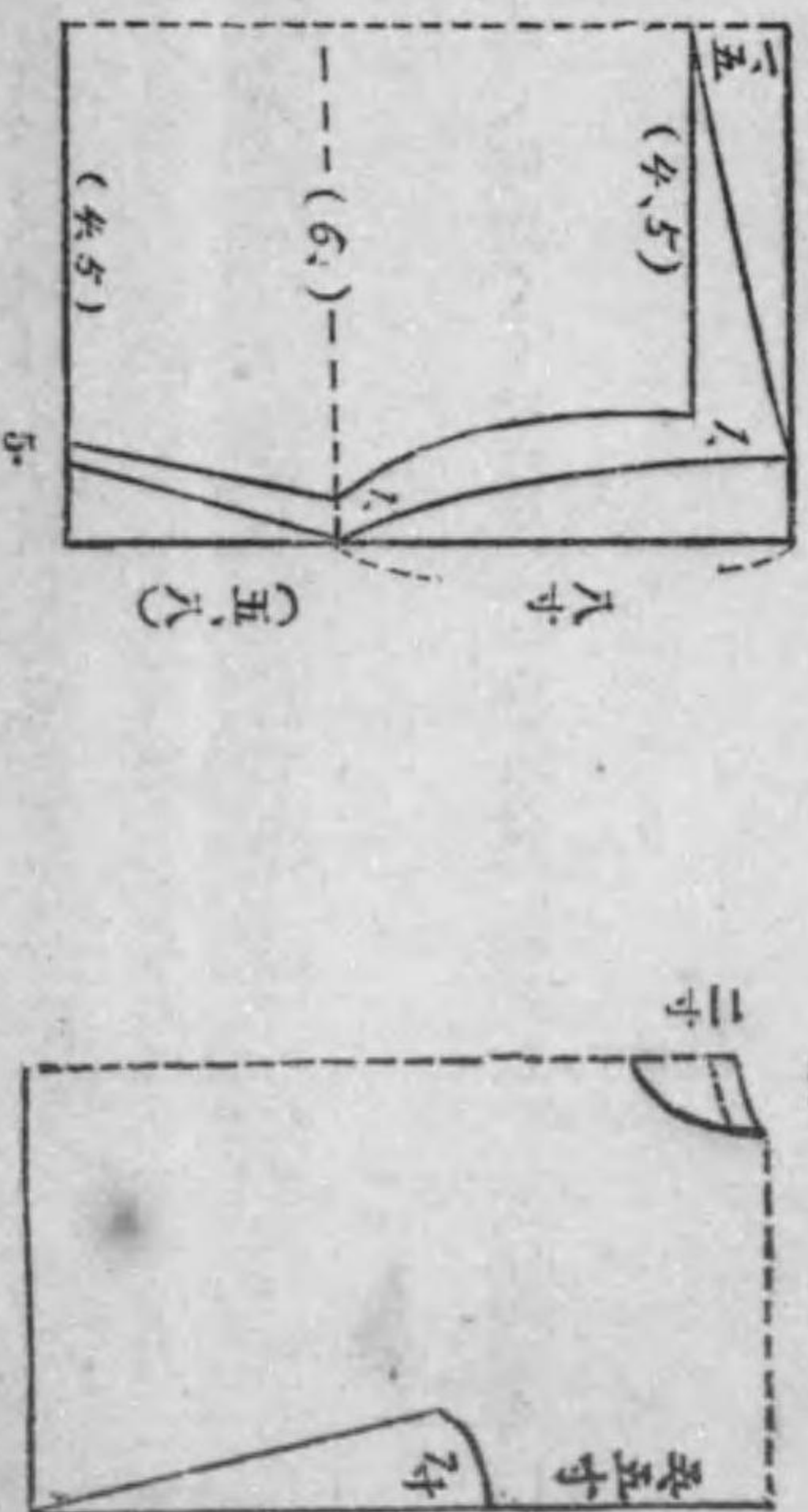
長さ一米二十五種幅九種



總合圖



分解圖



- 四、衿肩廻りに三四分幅の斜め切れを身返しに付けます。
- 五、袖口を細そき三つ折縮けをいたしまして袖口先から裾口まで脇の方通して縫ひます、後袖後身頃共一分ずらして裾の方六糎（一寸五分）縫残して脇縫をいたします、後ちに折返してまつり付けます。
- 六、裾縮けを普通よりやや幅廣くくけます（一寸五分）縫残しました脇縫もほそき三つ折りに縮けて置きます。

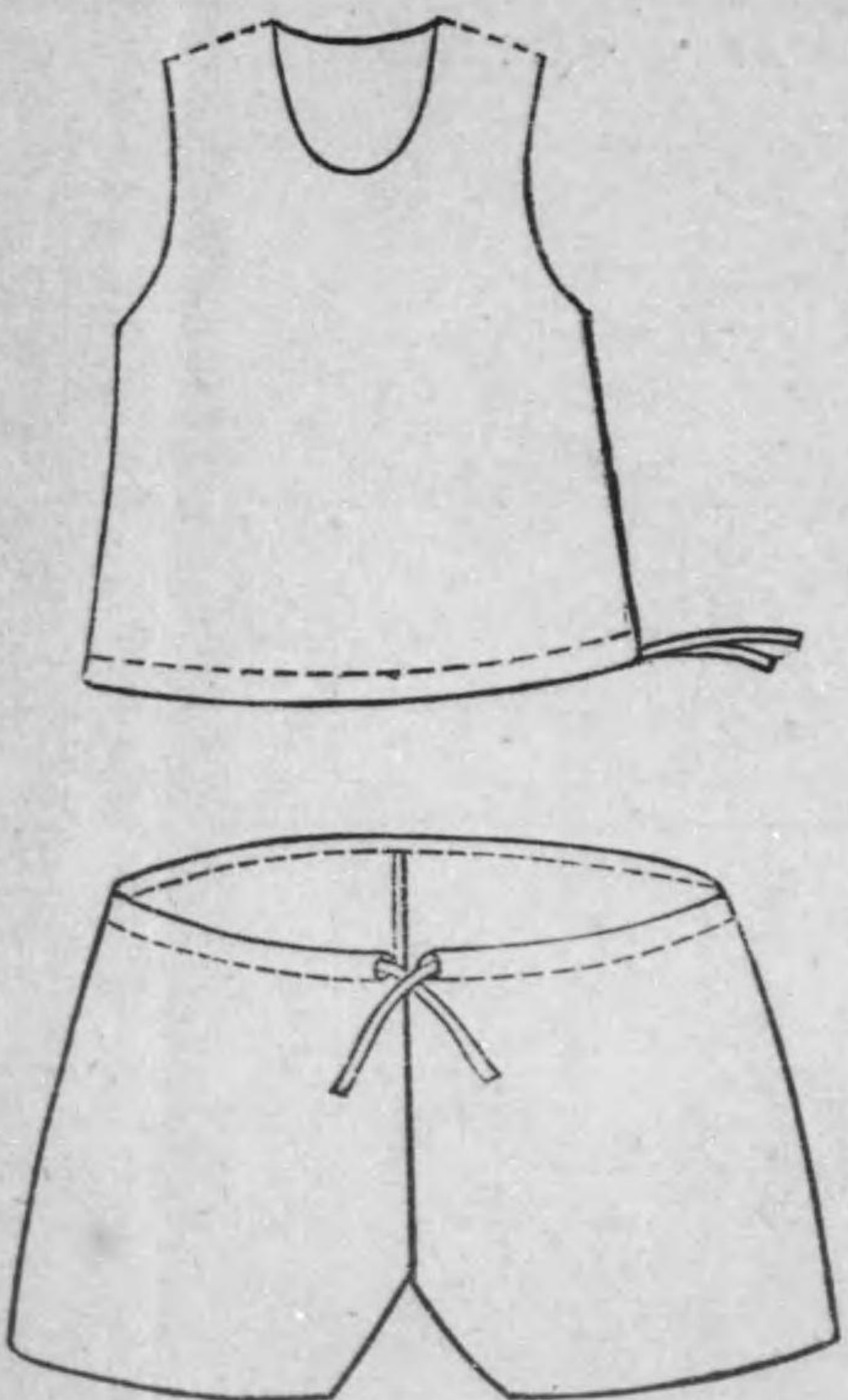
ズボン縫方順序

- 一、前膀上に身返し切れを膀上のくりに合せて裏側より縫合せ毛抜き合せに折り返して身返し切れの先きを幅一ばいに折りまつり付けます。
- 二、後膀上を縫ひます折りは背縫ひの折りと反對に返して一方の縫代を五厘ほど裁落しまして折り伏せにいたします。
- 三、膀上の上部腰廻りに六糎（一寸五分）幅の斜め切れ身返しを付けます山を毛抜き合せに裏へ折返して身返し切れの端をまつり附ます（ミシンの方が宜しいのであります）この所に紐テップを通します。

す。

- 四、前膀上の下部左右を突き合せて裏側より一寸の間をより糸にてまつり付けます。
- 六、左右脚の裾口に待針を打ち前後の膀上の下部を合せて待針りを打ち此の時後身を一分ずらして左

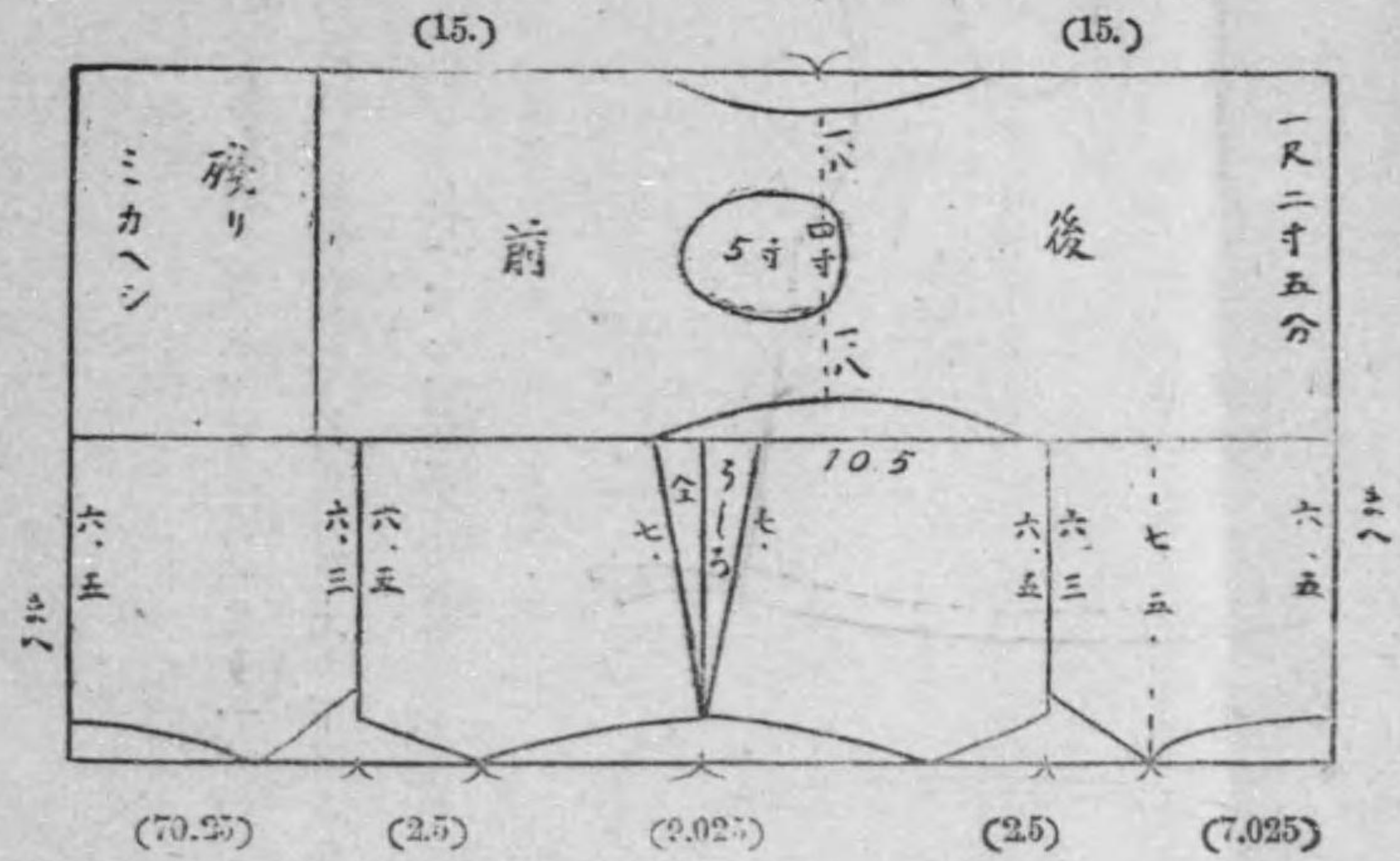
十二、三歳運動服



一七三

- 右の裾口から裾口まで通して縫ひます後に折返して、折伏せをいたします或はミシンの方が宜しいのであります。
- 七、ズボンの前膀上にはホック或はボタン二つ付けます。

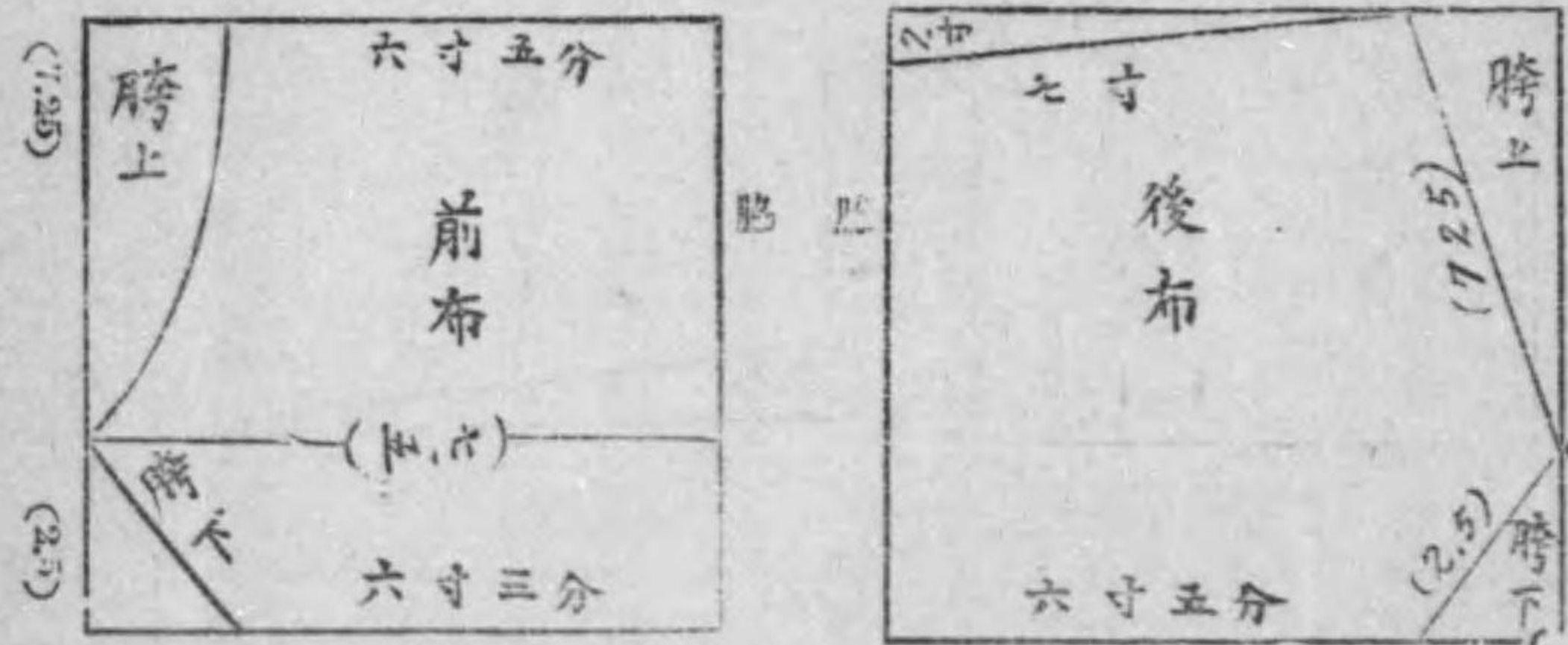
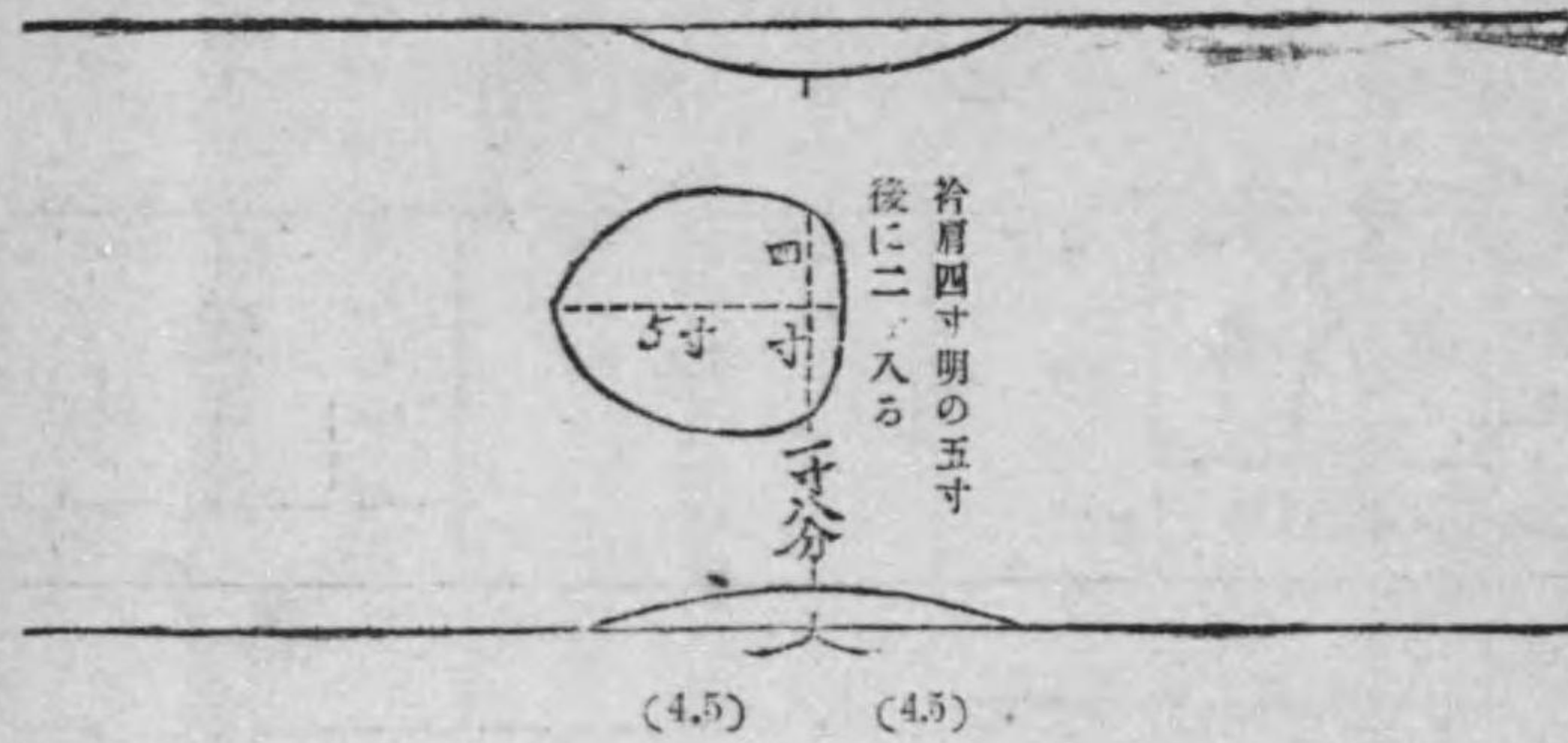
用布七十六糎(二尺)巾、一米七十八糎(四尺七寸)



縫方順序

一、上着、脇縫は前身を一分づらして伏せ縫ひに致します。脇裾は紐を通す爲に下より二糎(五分)上つた處を四糎(一寸)だけ不縫ずに明けて置きます。裾は三つ折に致しましてミシンを掛けるか紬けて置きます。裾折致します時四糎(一寸)あけました處が丁度二つ折になりまして紐が通る様に致します。脇明と頸のあきとは三つ折にします。脇明も御座います。亦紐テップで切りめをはさんでミシンをかけたも宜敷う御座います。

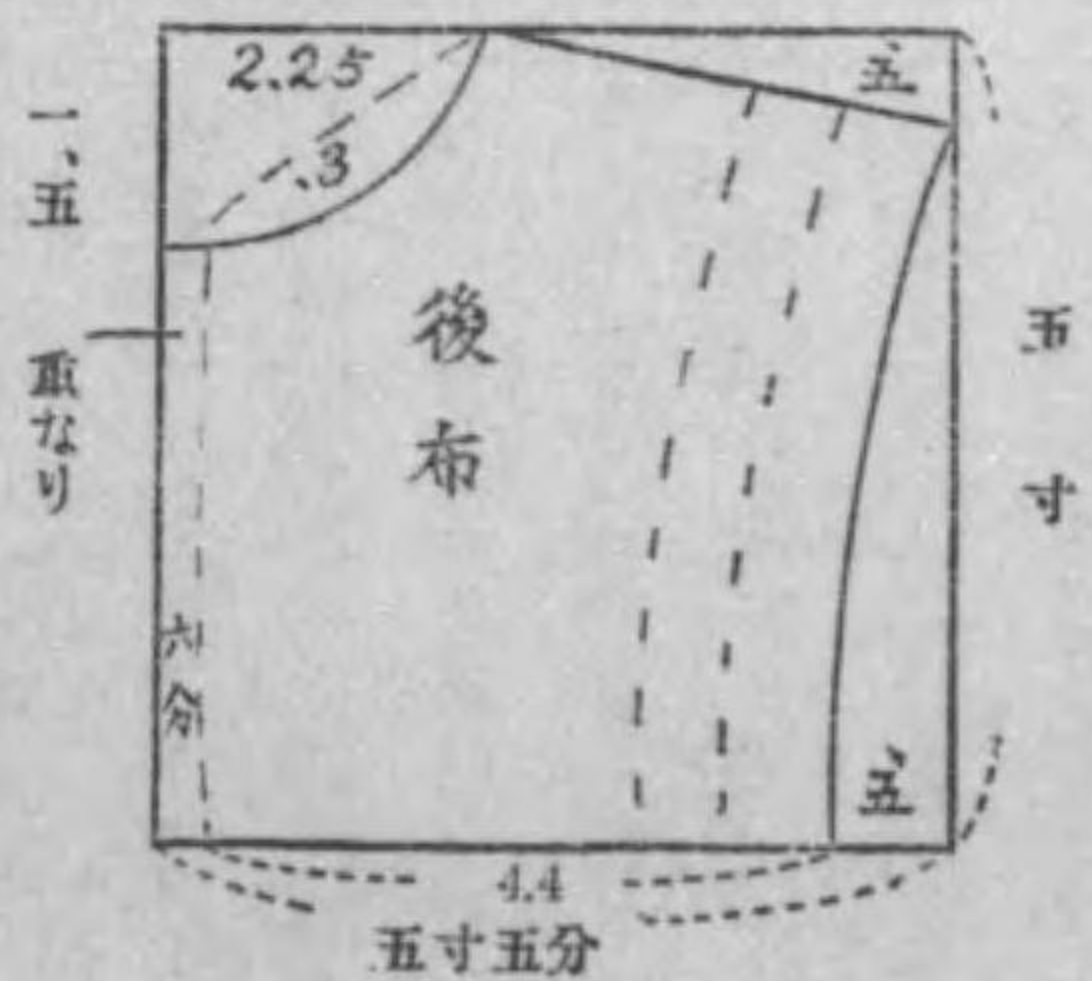
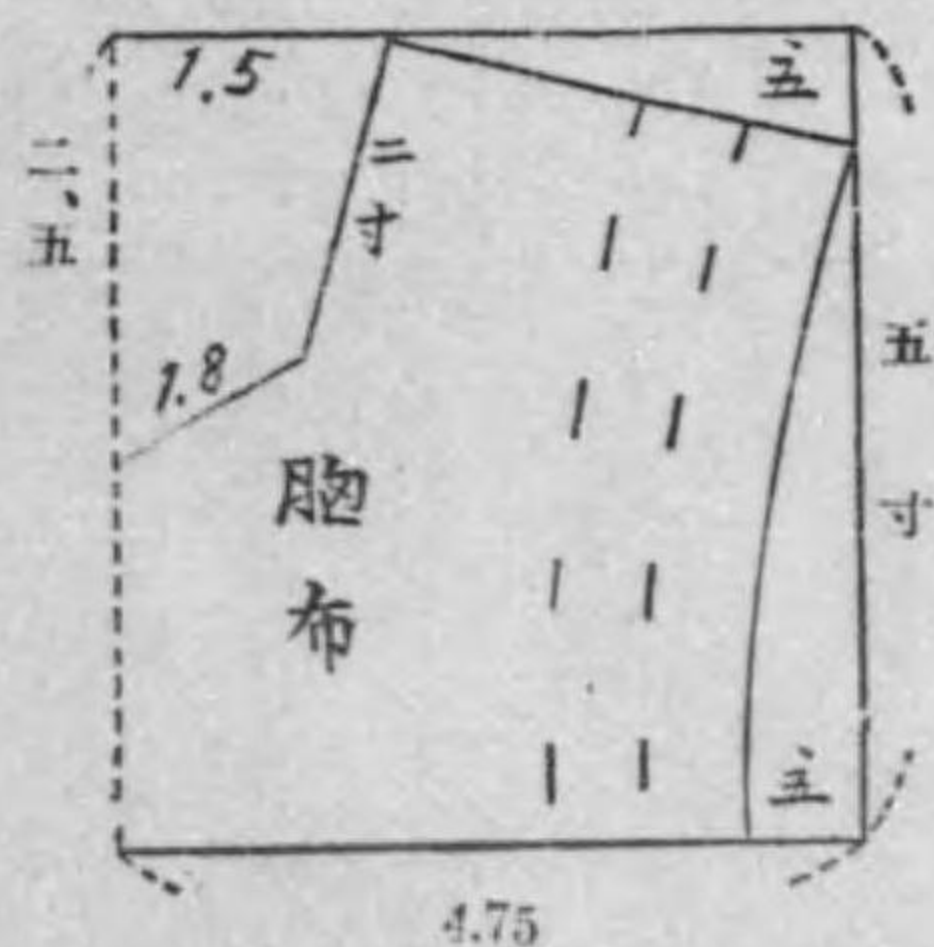
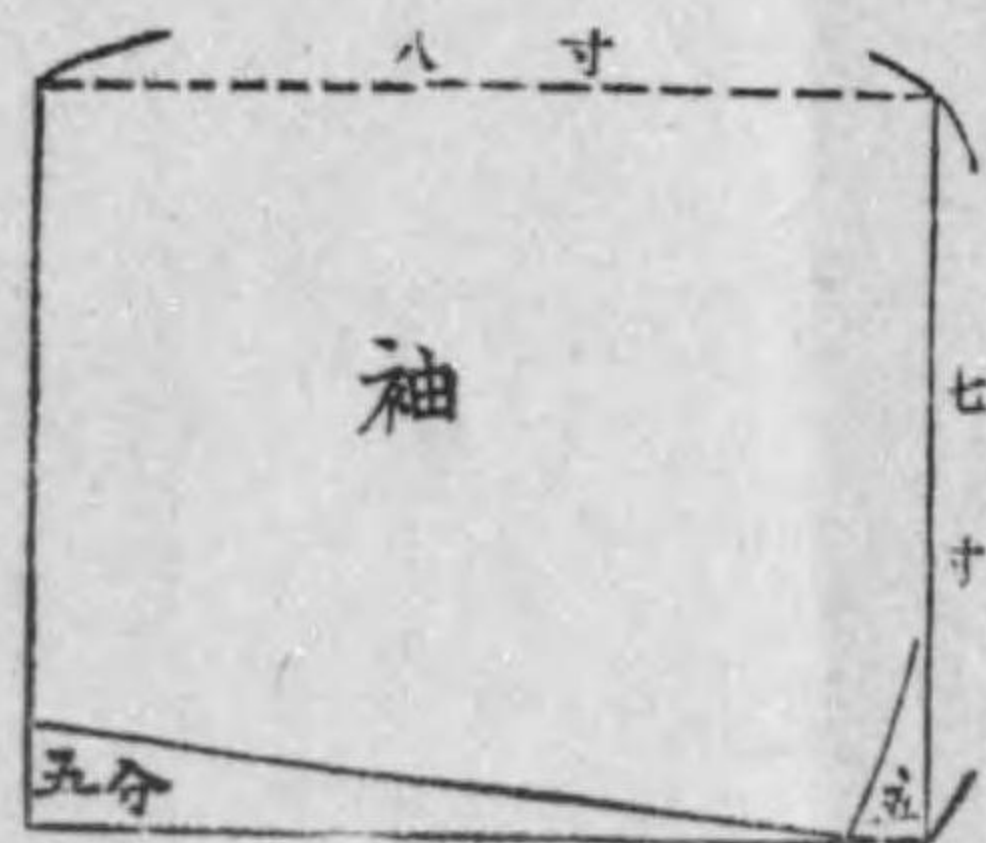
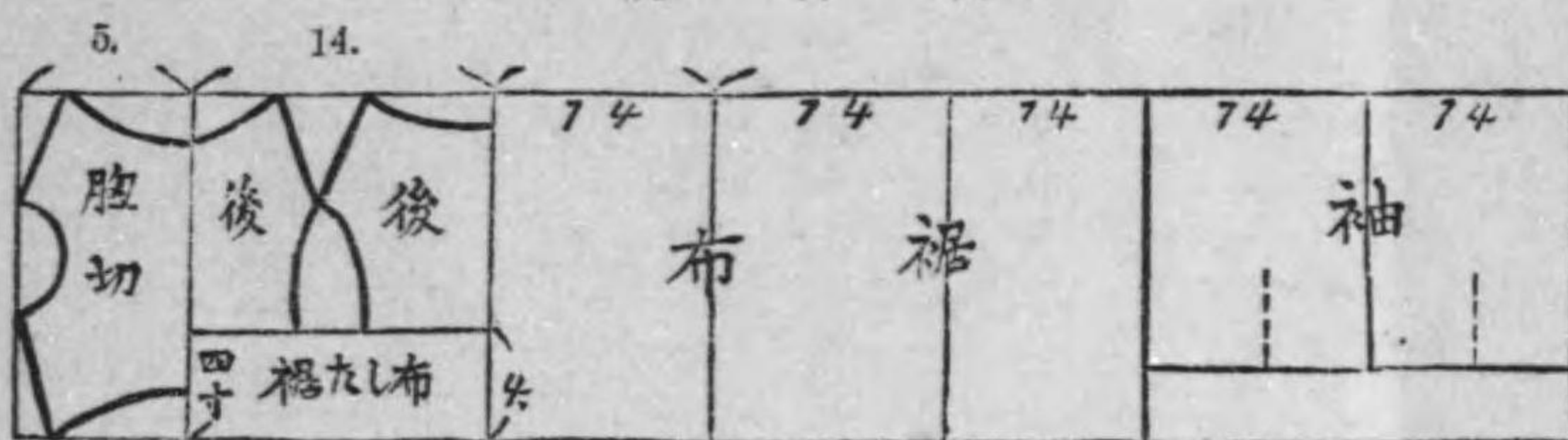
ズボン縫方順序



後ろの左右膝上を縫ひ合せて着物の脊縫と反對に折りを付けて伏せ縫ひを致します。次ぎに脇縫ひも同じく伏せ縫ひを致します。前の膝上を上部から一寸五分ほど縫ひ残します。それより下を縫ひ合せます。後膝上縫目と向ひ合せて折りを伏せ縫ひに致します。縫ひ明ました所を細く三つ折筋に致します。又はミシンを掛けます。次ぎに膝上の上部紐通しの部分を上下幅四分程に三つ折に中に

六七歳の兒童用上張り裁方

總合圖



折ります方は縮代浅く折りをしてミシン又はまつり附けて置きます、次ぎに裾口を左右共三つ折縮にして左右の裾口から裾口までを跨上下部は前後縫目を合せて兩脚通して縫ひ後の方に折返して折り伏せにいたします。

幅九寸五分長九尺九寸の布にて六七歳の子供上張り裁方

裁方總合圖の如く袖の一尺四寸を二枚裾布も同寸法の物三枚取ります(肩)後布も同寸丈を取りまして(幅を四寸裁落します)残りの五寸は胸布にいたします。袖幅の裁おとしは後の背の身返にいたします後布の四寸裁落しは裾布の補ひに用ひます、裾布三枚と四寸の幅の補ひ布とを輪なりに縫合せます耳と耳の縫合せの所を一ヶ所後背縫ひと定めて上部を四寸縫ひ残して置きます輪なのまゝ、四つ折にいたします、但し後布二枚は背の通りを一寸出して其の上に前布の輪の山を重ねまして脇を定めます脇の上部に横一寸縦一寸三分を圖の如く、りを附けます、袖附の補ひに成りますのです、胸布袖及び後布共圖の様な寸法に裁切ります。

縫方順序

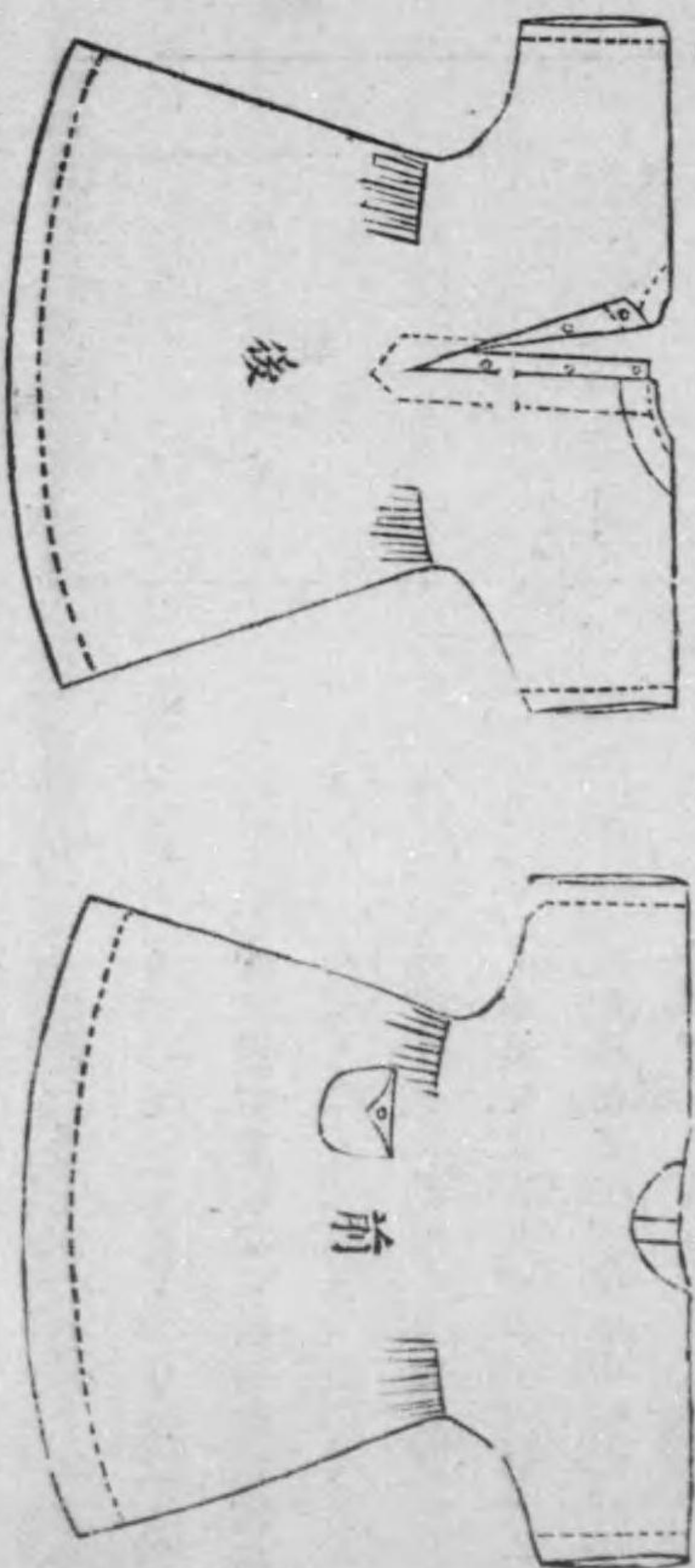
袖、袖は普通単衣筒袖と同じて有りますが袖下を一寸ほど縫明けましてごく細き三つ折縮けをいたします口はテップの通ります様に縮けて置きます、胸布と後布とに裏を附けます(裏は附ませんで差支はありません)肩を接ぎ合せます割りまして縫代端をまつて置きます次ぎに裾布上部は前布の幅だけに後ろは後ろ布幅だけに縫ちぢめます、但し後布の重なるの上下に依つて六分だけ幅に差を附けます左を上重ねます上に成る方は裁切の一ぱいに右後布は六分裏に折返します裾布縫ちぢめを右後布をちぢめギャダが多くなるわけでありませぬ。

次ぎに胸裏が附きます時は表裏の布にて裾布を挟んでぬき針或は半返しにいたし、単衣の時は半返し縫ひにして胸布の方に伏縫ひをいたします後布と同様であります、裾廻し三つ折縮けをいたします。衿肩廻しは斜切にて身返しを附け裏にまつり縮けを致します、或は細き衿様の形ちに斜め切にて表に附けますもよろしいのであります後背の部分に身返し切れを附けて四つほどスナップ或はホックを附けて置きます、重りは着物の背縫と同様であります、ポケットはエブロン等と同様であります口の上部袖附下の通り横脇より一寸五分前に附けます。

ワンピース形女児服(二三歳)

川布 七十六糎(二尺)巾、長さ一米三十九糎(三尺六寸五分)
此の種の裁方は總て型紙を用ひずに布に直接標をつけて裁ちます。

田 米 上 下 圖

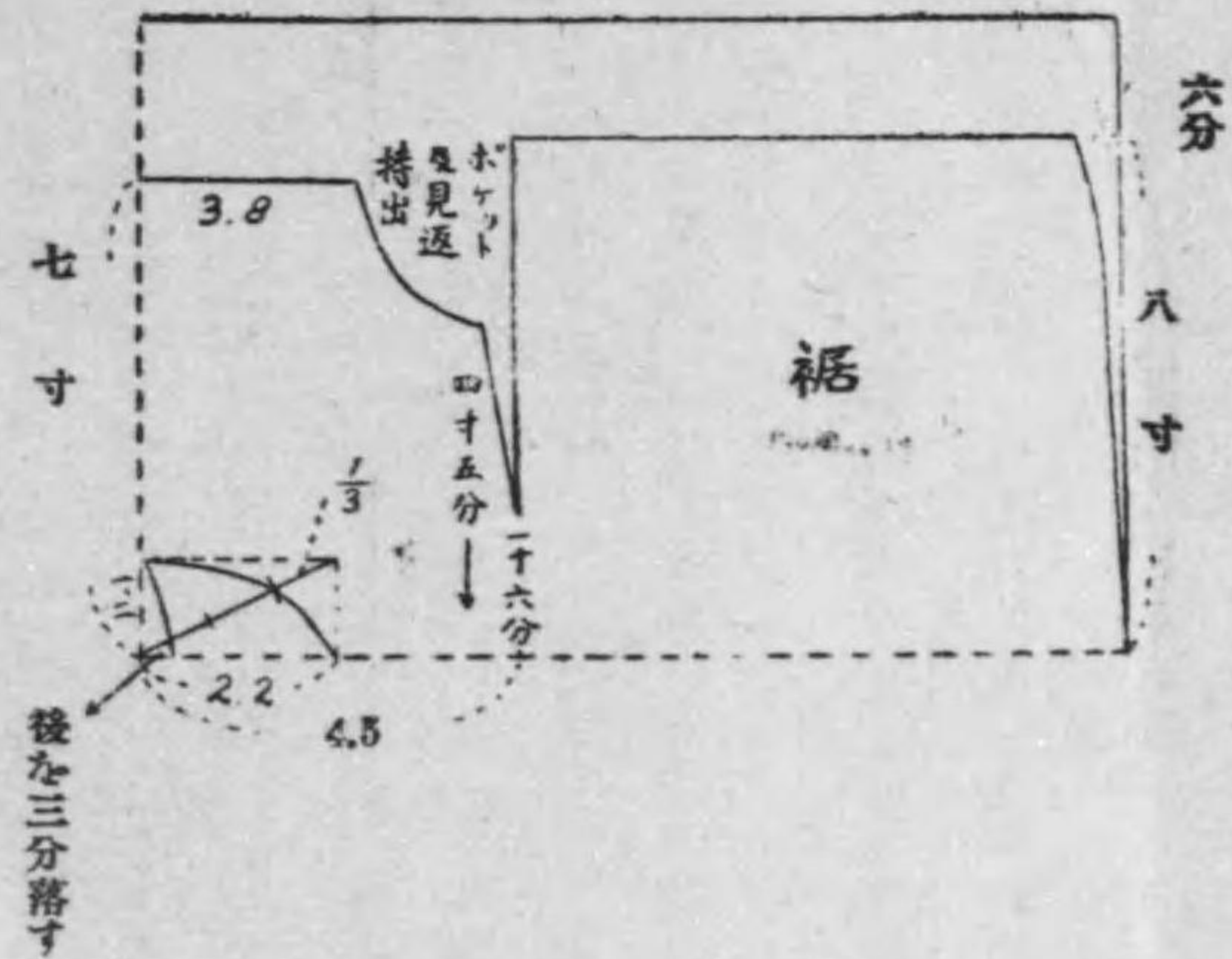


裁方

肩布の巾を二つ折にし更に丈に六分の差をつけて二折にし長さ方を前身と致します。此裁方による衿肩明は總て、其子供の衿肩と同寸に取り、頸の寸法は衿肩明に一寸を加へたるものを取り圖の如く長方形とし中央に斜線を引き其三分の一の所にて丸味をつけます、後は中央で三分位繰り落します。

後の明は六寸とし持出と見返は残り布から取ります。巾は持出し布を一寸六分見返しを一寸丈に合せて取ります。衿肩の見返しは斜切巾六分位に取ります。

裁方圖



縫方順序

袖下及脇を袋縫にし、裾廻りを七八分巾の出来上りに縮けます。後明に持出及見返をつけます。其重ね方は着物の脊縫と同様に重ね下を持出しとし上を見返と致します。衿肩の廻りに見返をつけますが此の見返は變布を表につけて飾とし或は其切を裏につけます。次に袖口を三折縮、或は變り布にて衿肩の飾と同様に致します。脇の切り込の所にて裾布を胸巾の切込丈に合せて縫ひ縮め裾布と胸布とを縫ひ合せます。此の縫代を四分巾の布で包んで置きます。次に後明にホックか釦をつけ、ポケットをつけます。其位置は胸下の縫目より一寸下げ脇縫目より二寸位前に寄せて附けます。

ワンピース型女兒服（五六歳）

用布ラシャ巾一米四十八糎（三尺九寸巾）にて長さ六十八糎（一尺八寸）を要します。

此の裁方は附屬の布を要しませんから總合圖は省きます。

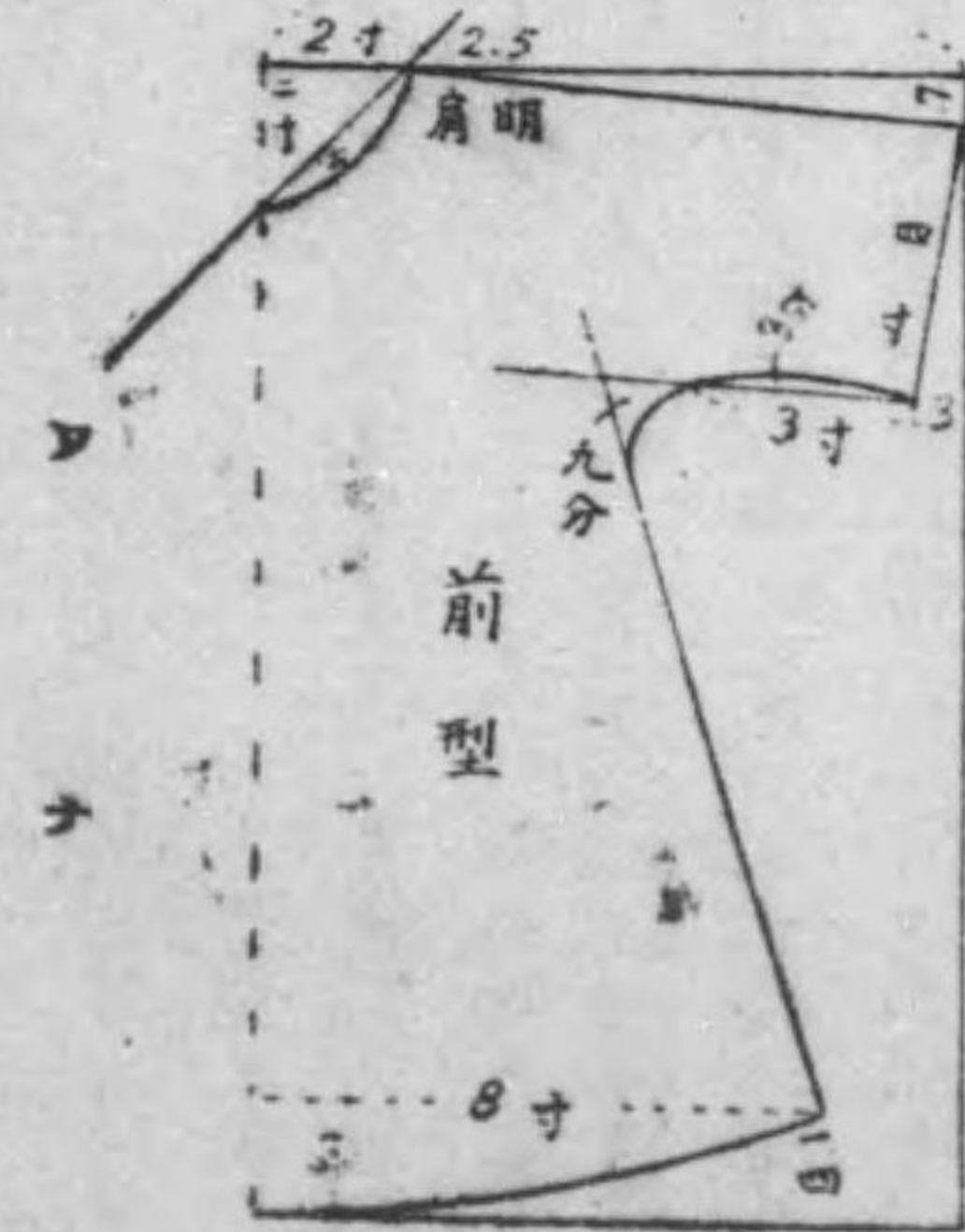
ポケット及び衿の見返しは脇の裁ち落しから取ります。

ワンピース型女児服出来上り圖



(二)

前型の裁方圖
一尺



(一)

後型の裁方圖
9.5



裁ち方

型紙の作り方

一、後型、横三十六糎（九寸五分）縦五十九糎（一尺五寸五分）の短形の紙を作りまして（二）圖の如くに衿繰りの寸法に標を入れ、肩下り、袖口中の線を引き、裾巾、胸巾の寸法を標して脇の斜線を引き、袖下を一種二糎（三分）繰り込み、腋下も交叉點より三種四糎（九分）出して繰り廻します。裾は脇にて四種六糎（一寸二分）揚げてなりをつけて型紙を裁ち切ります。

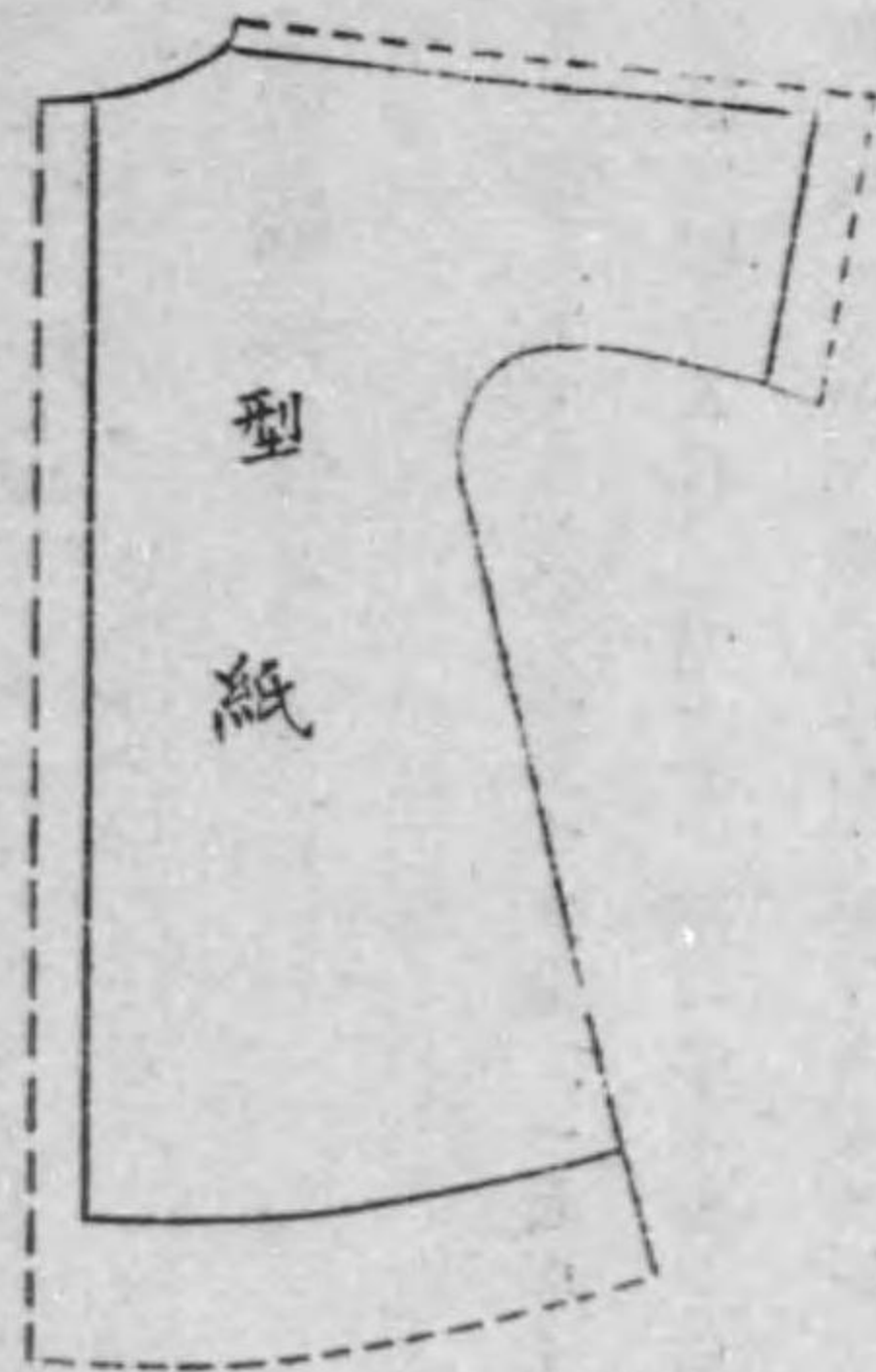
二、前型、横三十八糎（一尺）縦六十一糎（一尺六寸）の短形の紙を作りまして（二）圖の如き寸法にて（標入れ方順庭は後と同様であります）が胸巾の定め方は、後型紙の腋下の交叉點から袖口までの袖下の寸法を計り、これと同寸法に交叉點の標を入れて脇の斜線を引き腋下に丸味をつけ、裾になりをつけて型紙を裁ち切ります。

三、用布の裁ち方 後型、前型各々型紙巾の二倍の用布巾を二つ折にしてわなの方に型紙のわなと標してあります方を當て、縫代は衿繰り、肩下り、袖口、脇にはつけませんで上部をいっばいに致し丈の

用 應 紙 型

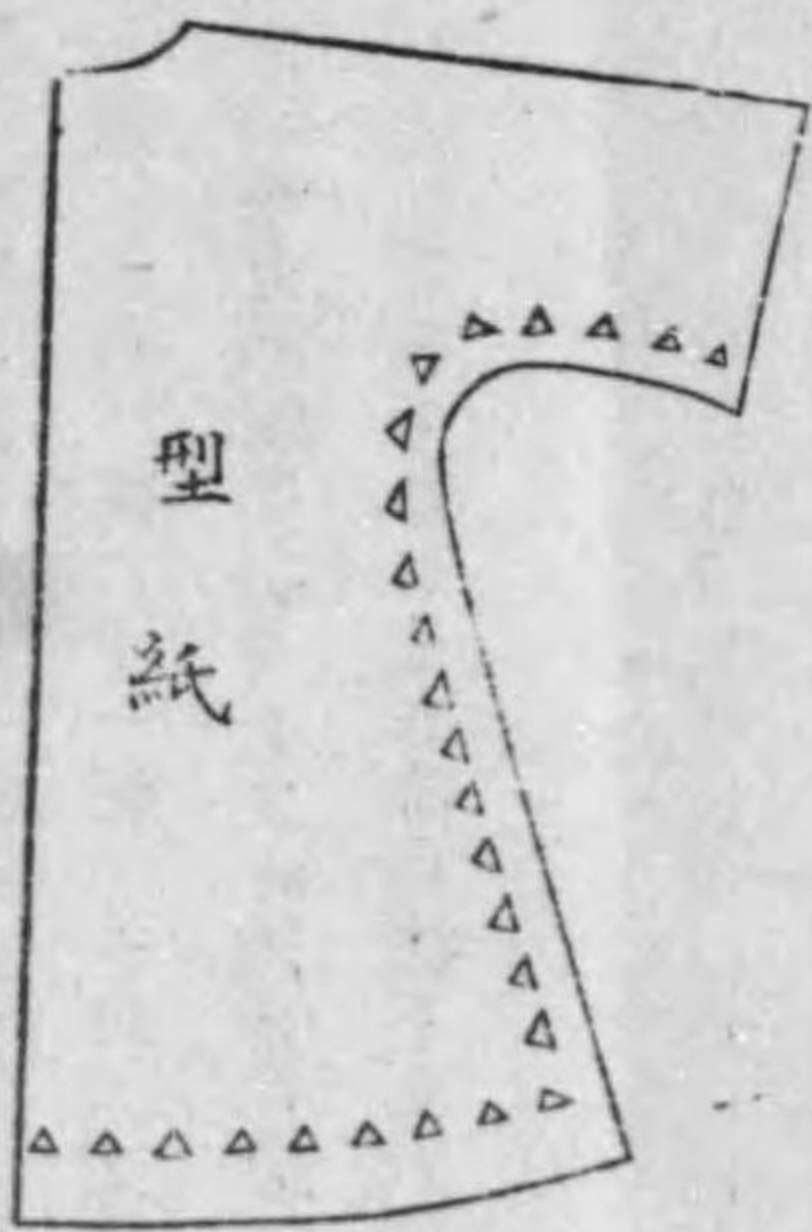
(其一)

擴 大 法



(其二)

縮 小 法



餘りは裾の折り返し分に致します。
 四、應用。この紙型を以て五六歳以上の服を作りますには、次に申します寸法によつて適宜に用布の巾を廣く、んでをきまして型紙を用布のわなより胸巾を廣くすべき寸法だけ、離して當てますと同時に裾巾も肩巾も廣くなりますから、(擴大法の圖参照) 衿肩明が大きくなり過ぎますときは縫代を狭めます。袖口中も肩の方に縫代を増して廣くし、行きも袖口の方に増します。

抱巾は七八歳にて二十一纏(五分) 八九歳にて二十三纏(六寸)

位、着丈は七八歳にて六十四纏(一尺七寸) 八九歳にて六十八纏(一尺八寸) 位に致します。

行文は、用布の巾の不足の時は袖口に足し布を致し持ち出しを兼ねカフスの如くに接ぎその接ぎ目をカフスの方へ折つて被せを深くかけて飾ミシンで押へてをきませす。

五六歳以下の服を作りますには縮小法の圖の如く、脇と裾とで詰めますが型を裁ち落しませんが一枚の型紙をいつでもでも大小の裁ち方に伸縮自由に使用するやうに點々に穴を明けてをきして用布を載せ、穴にチョークにて標をつけます。袖口の方は直線でありませすから適宜の行文に折返してをきませす。

抱巾は三四歳にて十七纏(四寸五分) 内外

衿廻りは四耗(一分) 詰めます。

着丈は五十纏(一尺三寸) 内外に致します。

尙 冬着のの行文は和服よりも凡そ四纏(一寸) 位短く仕立てませす。

縫 ひ 方

一、肩 前後の肩を合せ、袋縫(一の上り縫代一纏(三分))にして、巾二纏(五分) 長さ二十纏(五寸)

の早返し布を上り巾一糎(三分)に折つて肩明の縫代に當て、前後へ續けてマツリつけます。肩縫合せの折目は前布に返しますと肩明の後は持出しとなり、前は身返しとなります。

二、脇を袋縫にして、裾を折りミシンをかけます、袖口を二糎(五分)位の上りに裏に折りミシンをかけます。

- 三、衿廻りの前後に斜布巾二糎に(五分)見返しをつけて裏身にマツリつけます。
- 四、胸に隨意刺繍をいたします。
- 五、ポケットを作つてつけ、
- 六、両肩明にホックを二個づゝつけます。表に飾りボタンをつけます。
- 七、仕上のアイロンをかけます。

縫方順序

- 一、左右の肩裁切の所は前身の方に巾四糎(一寸)の持出をつけ後身の方には三糎二耗(八分)巾の見返しをつけます。
- 二、衿肩廻及袖口は二三歳女兒服と同様であります。(二九〇頁ノ三ヘツック)

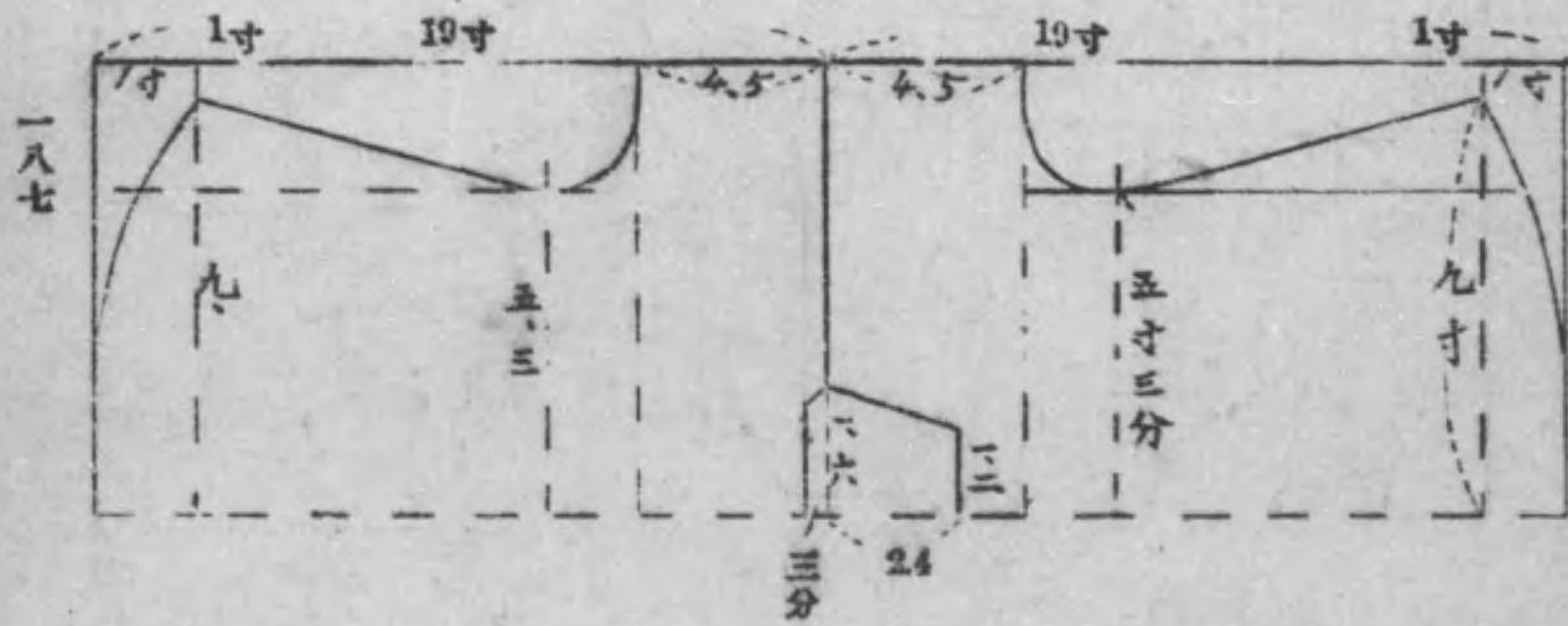
七八歳女兒服

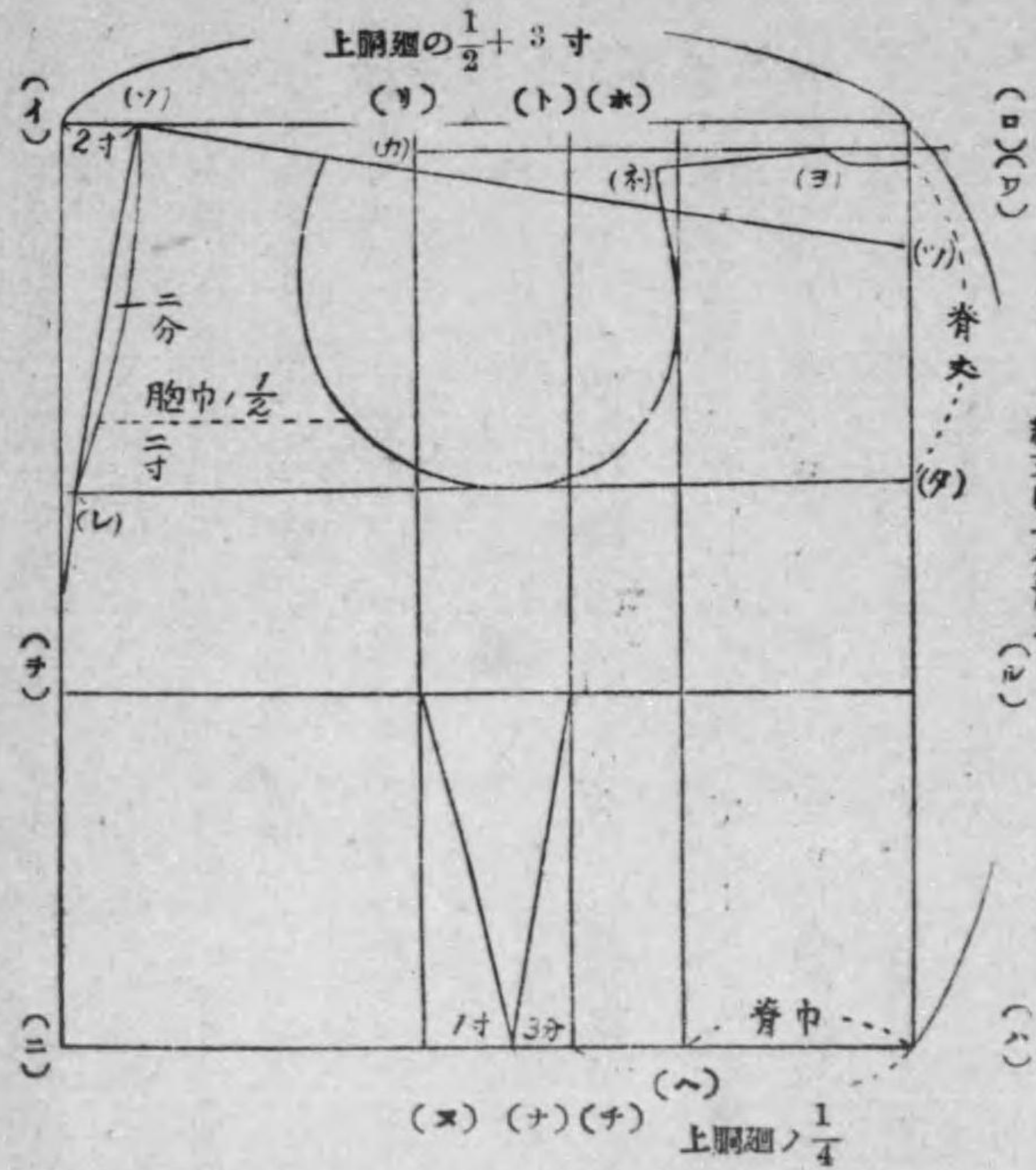
用布巾七十六糎(二尺)長一米四十糎(三尺八寸)

出来上り圖



裁方圖





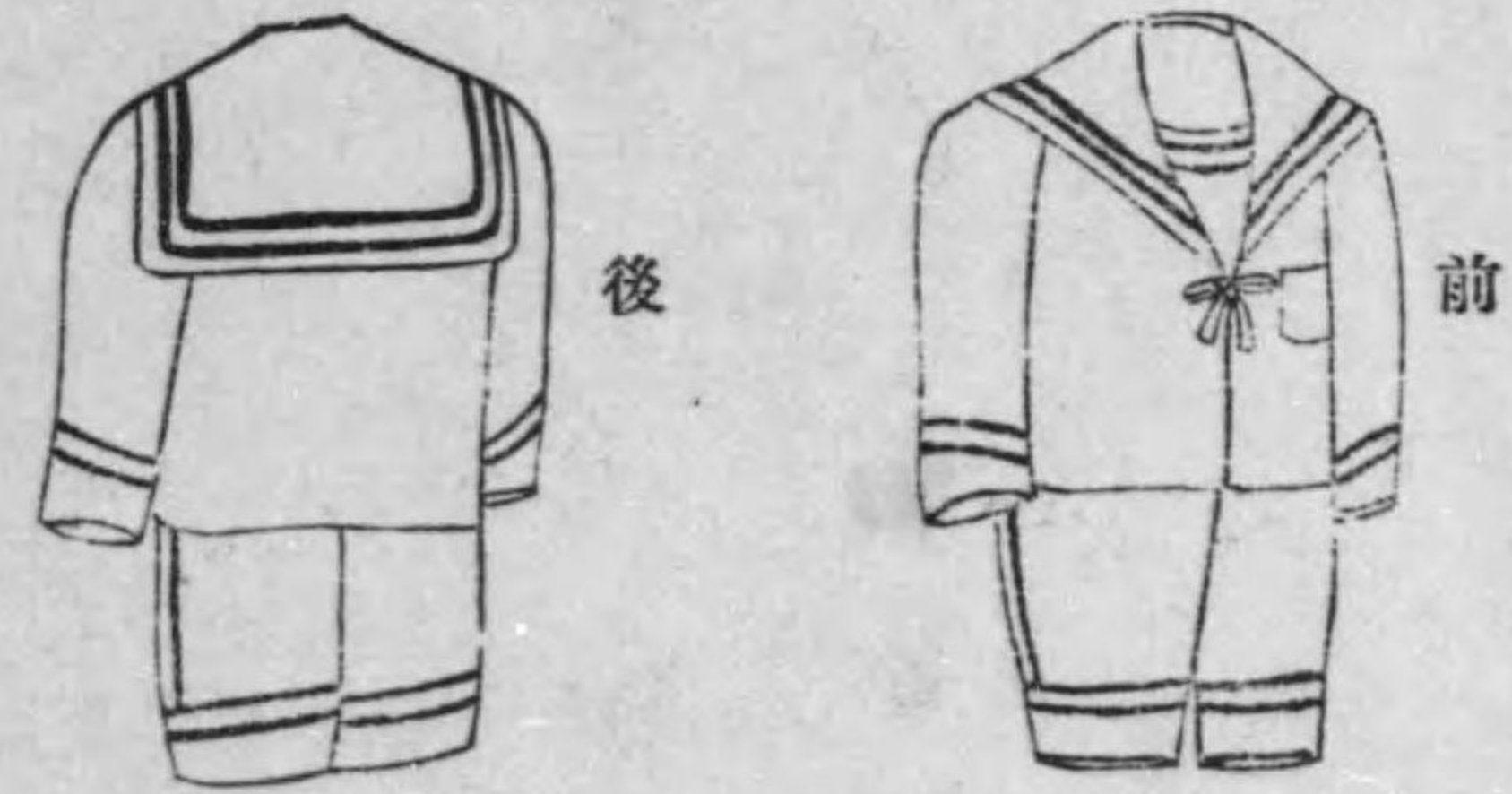
上着原型の取り方
総丈に七分加ふ

上着	標準寸法
上胸廻り	六十一種(一尺六寸)
脊丈	二十種(五寸三分)
脊幅	二十三種(六寸)
胸幅	二十三種(六寸)
総丈	三十八種(一尺)
衿丈	二十五種(五尺) (六寸七分)
衿	三十二種(五尺) (八寸六分)

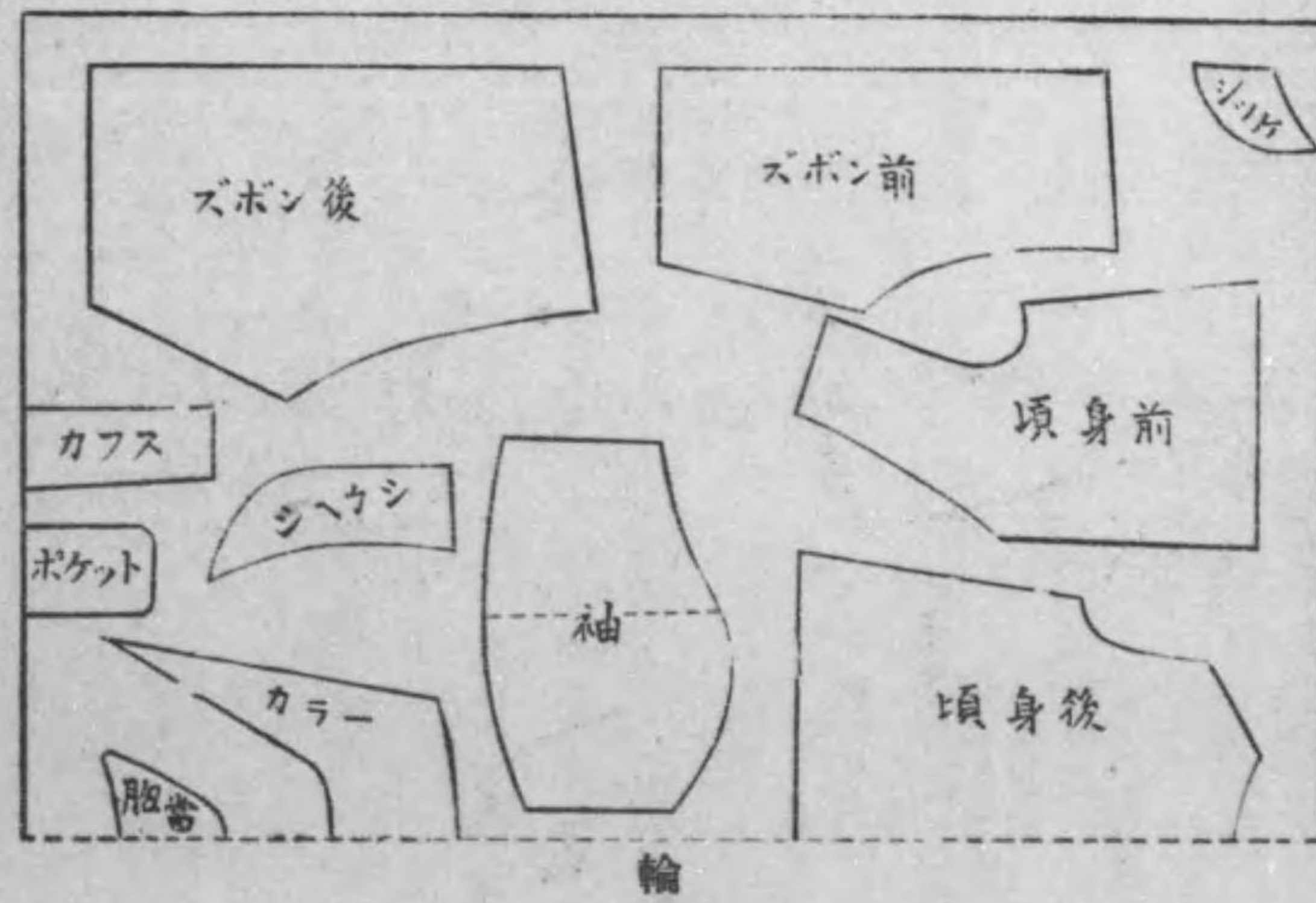
三四歳用水兵形男児服

用布巾一米三十六種(三尺六寸)長さ一米(二尺六寸二分)

出来上り圖



裁方綜合圖



- 三、袖下より脇裾まで續けて縫（袋縫）ひ裾口も二三歳の場合と同様であります。
- 四、バンドの出来上り巾は三種（八分）とし丈は六十四種（一尺七寸）位とします。
- 五、バンド通しは巾一種二耗（三分）丈五種三耗（一寸四分）の上りとして肩より二十四種（六、七寸位下げて兩方の脇縫につけます。
- 六、肩山に共切にて木釦をくるみ圖の如く適宜の數をつけます。持出布巾だけ重ねてホックをつけます。

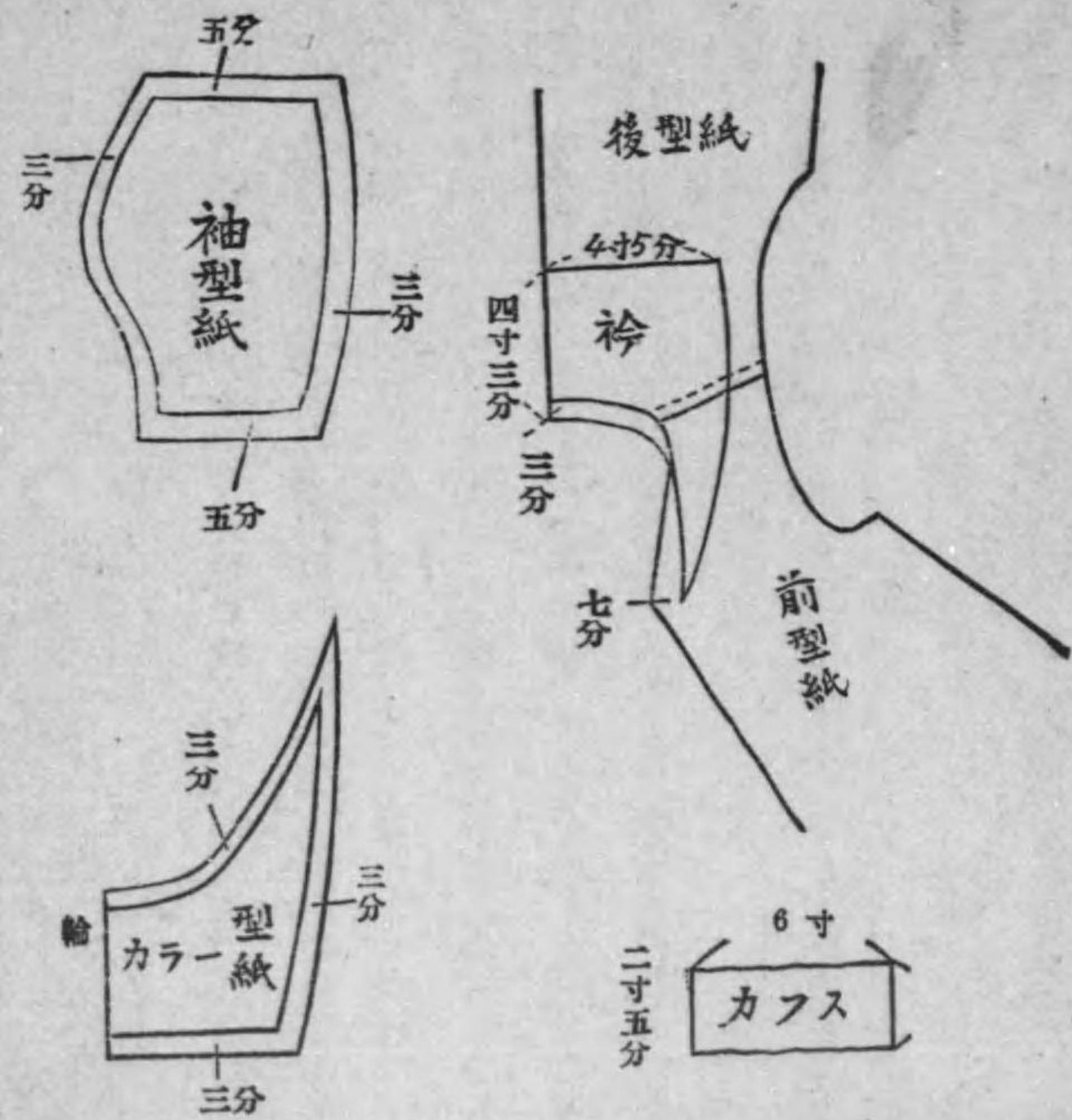
原型圖の引き方（型紙使用）

- 一、圖の如く上胸廻の二分の一に三寸加へて（イ）（ロ）の線を引く
- 二、總丈に七分加へて（ロ）（ハ）線を（イ）（ロ）線に直角に引く。
- 三、圖の如く（ハ）より（ニ）に（ニ）より（イ）に結びて輪線を作る。
- 四、（ロ）より（ホ）に脊中の二分の一に取り（ホ）（ヘ）線を引く。
- 五、（ロ）より（ト）に上胸廻の四分の一に取りて（ト）（チ）線を引く。
- 六、（ト）より（リ）に一寸三分取りて（リ）（ヌ）線を引く。

- 七、脊丈を（ロ）より（ル）に取り（ル）（ニ）線を引く。
- 八、（ロ）より（ワ）まで五分取りて（ワ）（カ）線を引く。
- 九、（ワ）より三分下げて衿丈の六分の一を（ワ）（ヨ）の間に取り後衿肩を作る。
- 十、後衿肩より上胸廻りの四分の一を取りて（タ）（レ）線を引く。
- 十一、（イ）より（ソ）まで二寸取り（レ）にて二分入り（ソ）（レ）の斜線を引き（ヲ）までの間に自然に終る様にし（ソ）（レ）の中央にて二分の丸味をつけて繰ります。
- 十二、（ロ）（タ）ノ三分の一を取り（ツ）と（ソ）を結ぶ斜線を引く。
- 十三、（ワ）（カ）の線より五分下げて（ト）（チ）線より二分出して後肩巾の（ヨ）（ネ）の線を引く。
- 十四、前肩巾を後肩巾に合せて取り圖の如く前後の袖附の線をつける。
- 十五、（ヌ）より（ナ）へ一寸取り（チ）より（ナ）へ三分取りて前後の脇の線を引く。

標の附方

各布を二枚づゝ中表に合せ各の型紙をおきチヨークにて標をつけ、標の上を、一寸おき位に木綿糸



にて三針づゝ縫ひ其糸をゆるめて二枚の布の間にて糸を切り糸標を致します。(附)裏の各布の取り方は表と同様に致します。

縫方順序

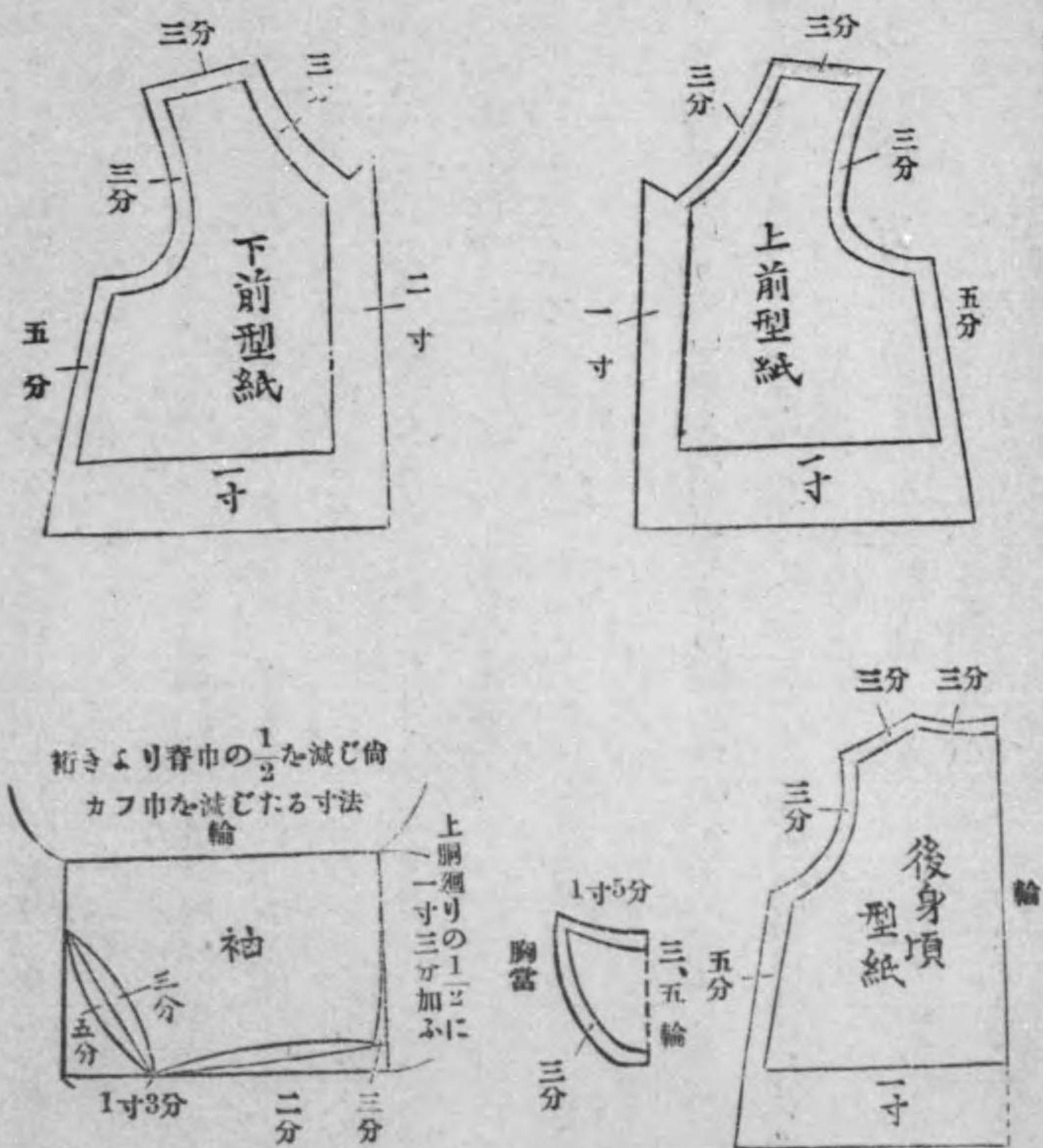
一、袖

(イ) カフス布の中央にジャバラ(組)を二分五厘の間をおきて二本つけおく(ジャバラの色合は表布と配合よき色合を撰ぶ)

(ロ) 表裏共袖をカフス丈に合せてヒダを取り中表にして

縫代の付け方

袖、衿、胸當の取り方及各布の縫代附方



標通り縫ひ合せ表はカフスの方に裏は袖の方に折り返します。次に裏表共袖下を縫ひ縫目を割つて
中ごぢをします。

二、身頃

- (イ) 上前の胸へポケットを付け次に裏表共前後の肩を縫ひ縫目を割つておきます。
- (ロ) 表裏の脇を別々に縫ひ表の縫目は割り裏は後身頃の方に返して縫代の中ごぢをします。
- (ハ) 前明下前は標より持出巾六分出して裏に折り両端にミシンをかけ、上前は見返を毛抜合せに裏につけ両端にミシンをかけ、上前下前共裏を其上にまつりつけます。
- (ニ) 表裾口を標通りに折り裾に紐を通し折山より五、六、分上りてミシンをかけ裏裾を其上にまつりつけ下前は前明重代の六七分入りたる所の表に紐通穴を明け穴かゝりをなし紐を出しておきます。

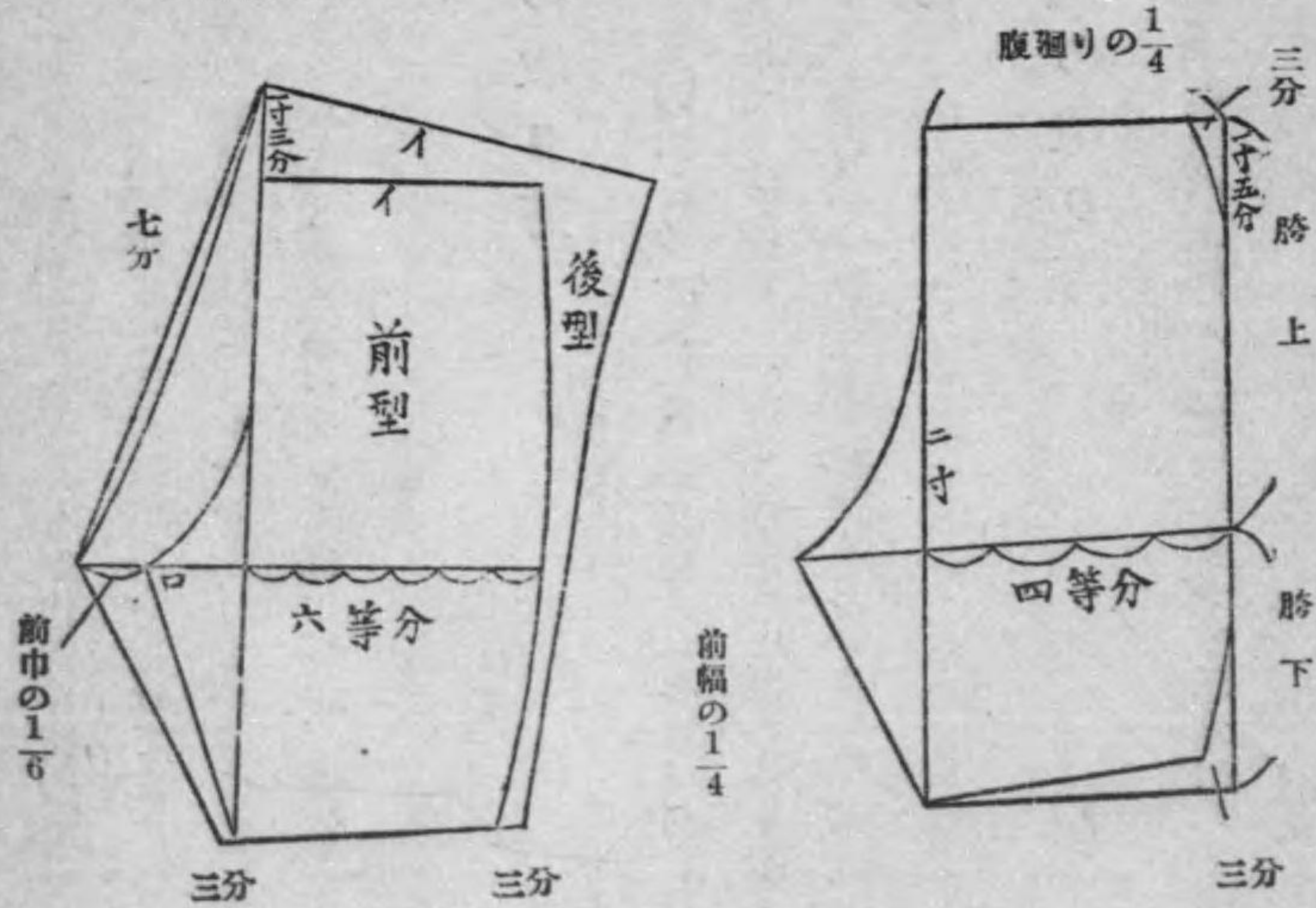
三、衿、表裏の衿を中表に合せて三方にミシンをかけ表に引き返して、出来上り圖の如く三方にジャバラを端より三、四分入り二分五厘間をおきて二本つけおき次に裏身頃に衿を合せて付け其上に表身頃をまつりつけます。

四、袖附、ふくらみのつきたる方を前とし袖下の縫代を脇縫代より二寸位前に寄せて袖をつけ縫目を

ズボン
型紙の取り方

後布の腰巾の定め方は、前のイ印と後のイ印とを合せて腹廻りの $\frac{1}{2}$ に一寸の餘裕を加へたる寸法とす。

第二十二章



標準寸法

- 股上 二十糎 (五寸三分)
- 股下 十二糎五耗 (三寸三分)
- 腰廻 六十一糎 (一尺六寸)
- 腹圍 五十七糎五耗 (一尺五寸五分)

割り其上に裏身頃を平に合せて躰であさへ裏袖を縫代だけ折つてまつりつけます。
 五、胸當、表布に上部より三四分下りて二分五厘間をあけて二本のジャバラをつけて圍りを縫ひ上部より引き返して其所を中へ折り込み圍にミシンをかけて上前の裏にまつりつけます。次に前明の上前に穴を三つ明けて穴かどりをし下前は穴に合せて釦をつけ、胸當と下前裏にホックをつけます（胸當止め）

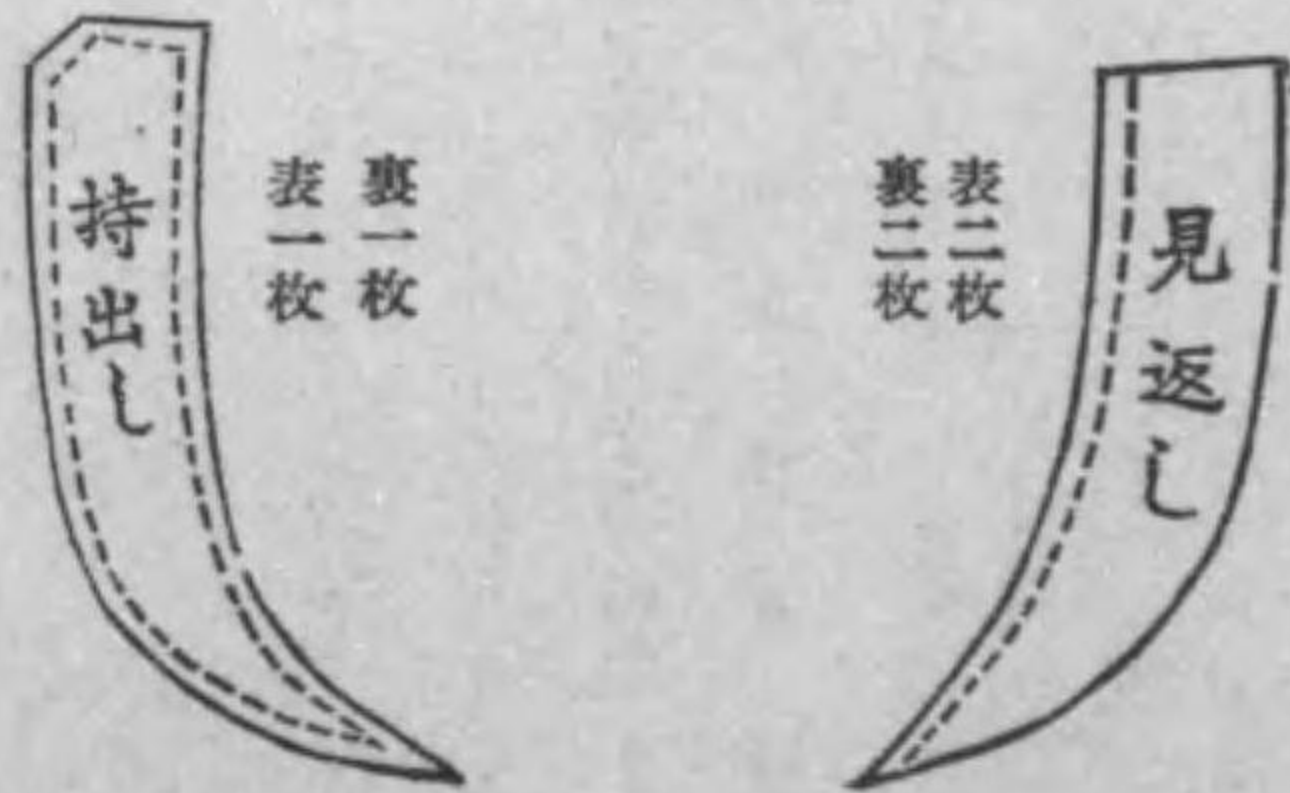
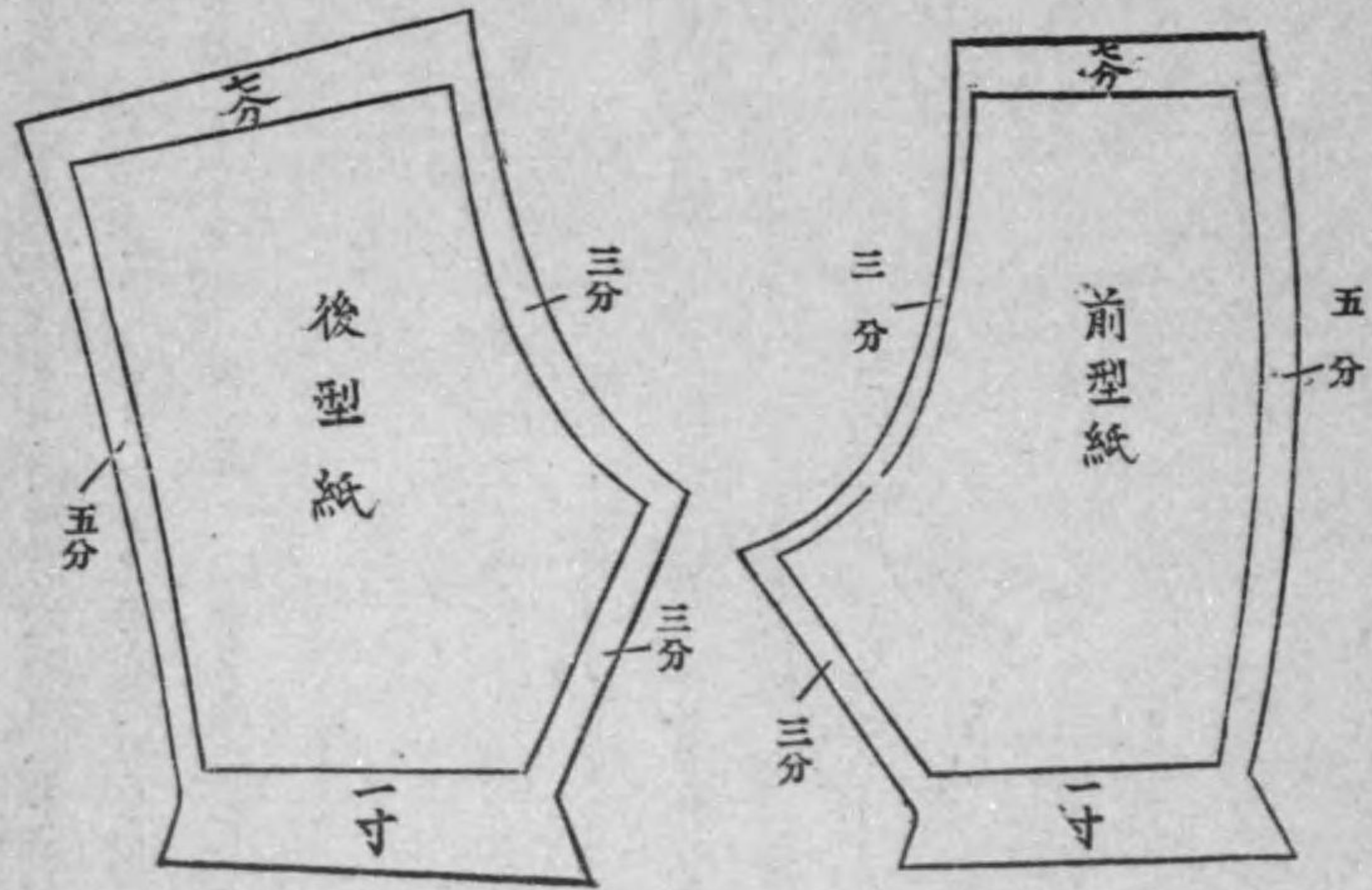
原型の取り方

前型紙の作り方、巾腹圍の四分の一丈は股上と股下とを加へたる寸法であります、股上と股下にとの定めの線を引き、其線にて巾の四分の一の寸法を取り圍の如く股上の方二寸上まで線の線を引き次に裾にまで斜の線を引く。裾口脇の方にて巾丈共に三分づゝを圍の如く斜に引く。脇上部を一寸五分の間にて三分裁落す。

後型紙の取り方

前型紙を紙の上に置き、股上の上部より圍の如く一寸三分出して後巾の線を引きます（巾は圖の説

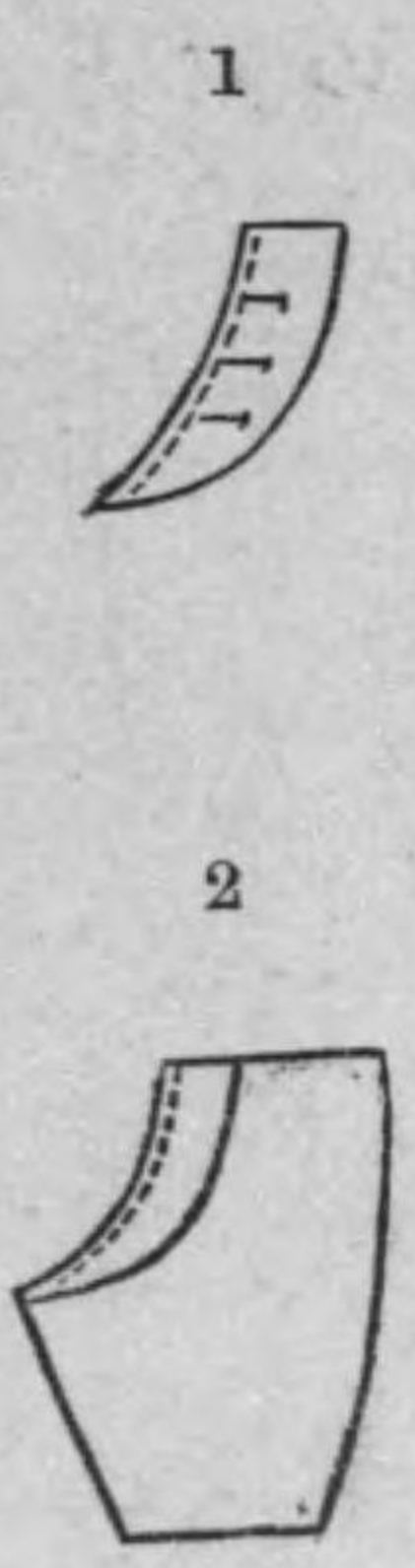
ズボン縫代の附方



明参照)次に前股上定め線の所にて前巾の六分の一を前型紙より長くし股上股下共に圖の如く斜線を引きます、股上中央にて七分の線をつけ、裾口は前より三分づゝ兩方に長く取ります、後脇は裾口と上部腰巾とに斜線を引きます(中央にて二分位線)をつけます。

縫方順序

一、持出し、裏表の持出布を中表に合せて外側の丸味の方を縫ひ合せ表に引き返します。
二、見返し表裏二枚を中表に合せ線りたる形の方を縫ひ合せ表に引き返し、飾ミシンをかけ(1)圖の如く三つの穴かゞりをします。次に今一枚の見返布を上前の股上に合せて(2)圖の如く縫ひ合せます。

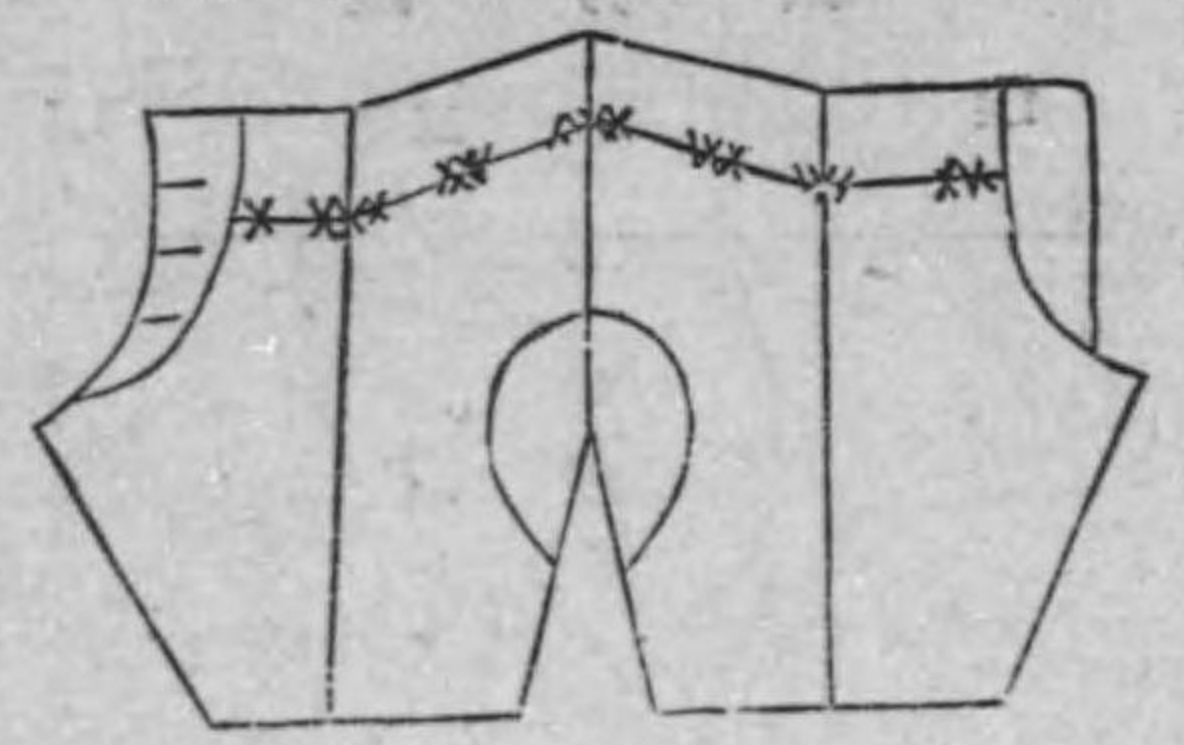


三、次に先に作りたる見返布を上前股上に合せて躰にておさへます。
四、下前表に持出布の表を合せて縫ひ縫目を割り持出裏を縫代にまつりつけます。
五、前後の布の脇を縫ひ折は前に返します。

六、後の股上を縫ひ合せ縫目を割り縫代の端を千鳥縫にしシツケをつけます。
七、腰裏の中一寸三四分丈は腰廻りに餘裕を加へたる寸法のもの腰廻り上部に縫ひつけ一方の端を圖の如く千鳥にておさへおく。

八、前股上の下部を縫ひ合せ縫目を割つて門止をしておさへます。
九、左右の股下を縫ひ續けて縫目を割り次に裾口を標通裏に折返し端を千鳥縫にします。
十、下前持出に上前の穴に合せて釦をつけます。
十一、左右共後巾の中央に縦に穴を明けて穴かゞりをします。
十二、前股上の上部に上前下前共穴を明けて穴かゞりをします。

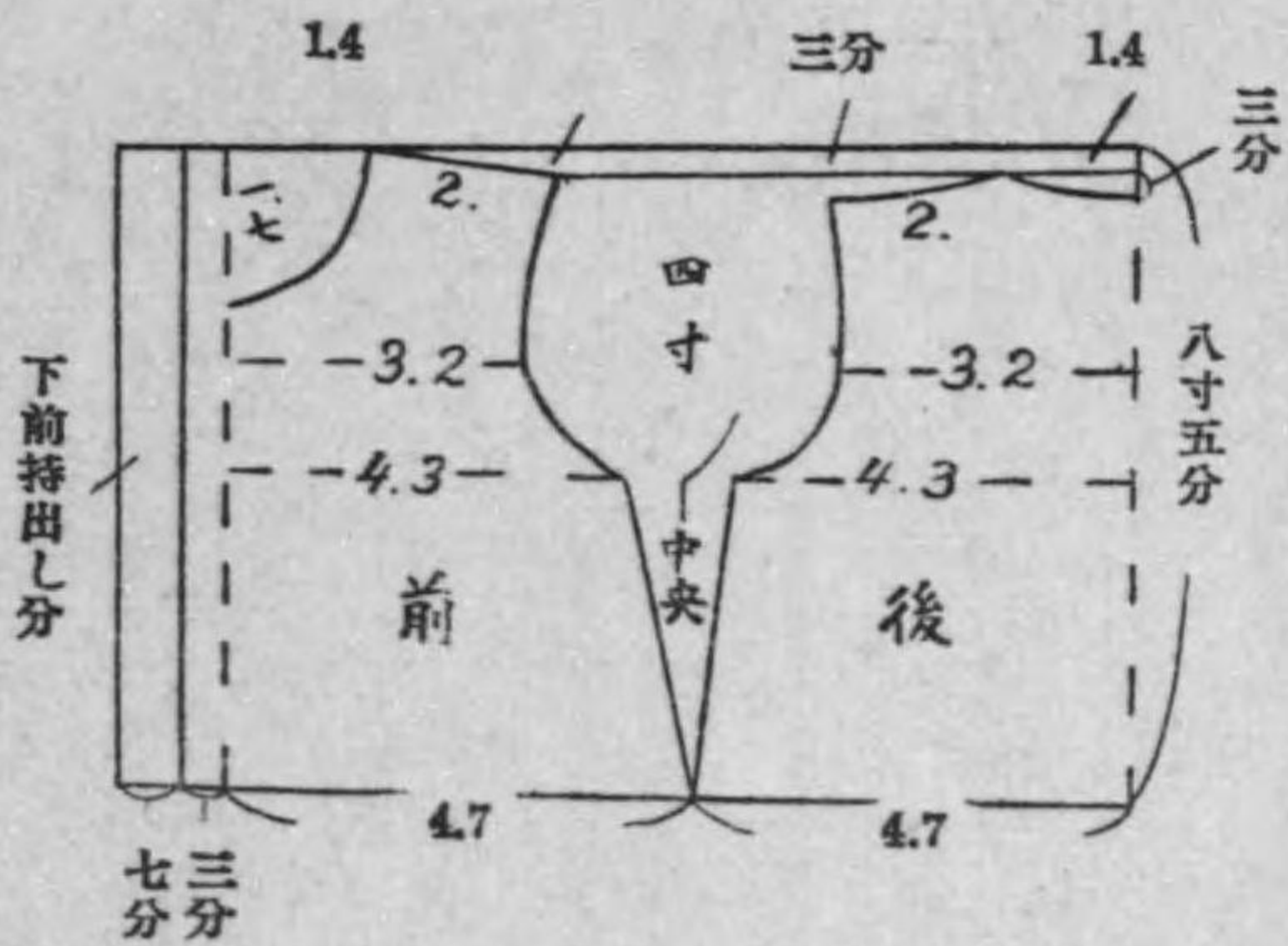
左右の股上を縫合せて裏より見たる圖



一二三歳用男兒服下着の裁方及縫方

用布、白ネル二尺巾一尺七寸

裁方圖



先づ用布の丈一尺七寸を二つに折り更に幅を二つに折り其一端を七分出し下前の持しとし、圖の如く標をつけて裁切ります。

縫方順序

- 一、脇を表裏別々に縫ひ縫目を割ります。
- 二、脇明線の所を中表にして表裏を縫ひ合せ表に引き返し、次に左右の肩を表裏別々に縫ひ合せ縫目を割ります。
- 三、前明及裾口を表裏合せて縫ひ衿廻りより引き返し衿廻りは縫代丈中に折り込みて表よりミシンをかけます。

四、前明上前に穴かきりを四つ此に合せて下前に釦をつけます。

五、左右後巾の中央と前の中央に釦をつけます此釦はズボン釣用の釦であります。

五六歳丸衿男児服

用布巾七十六糎(二尺)長さ二米七十三糎(七尺二寸)

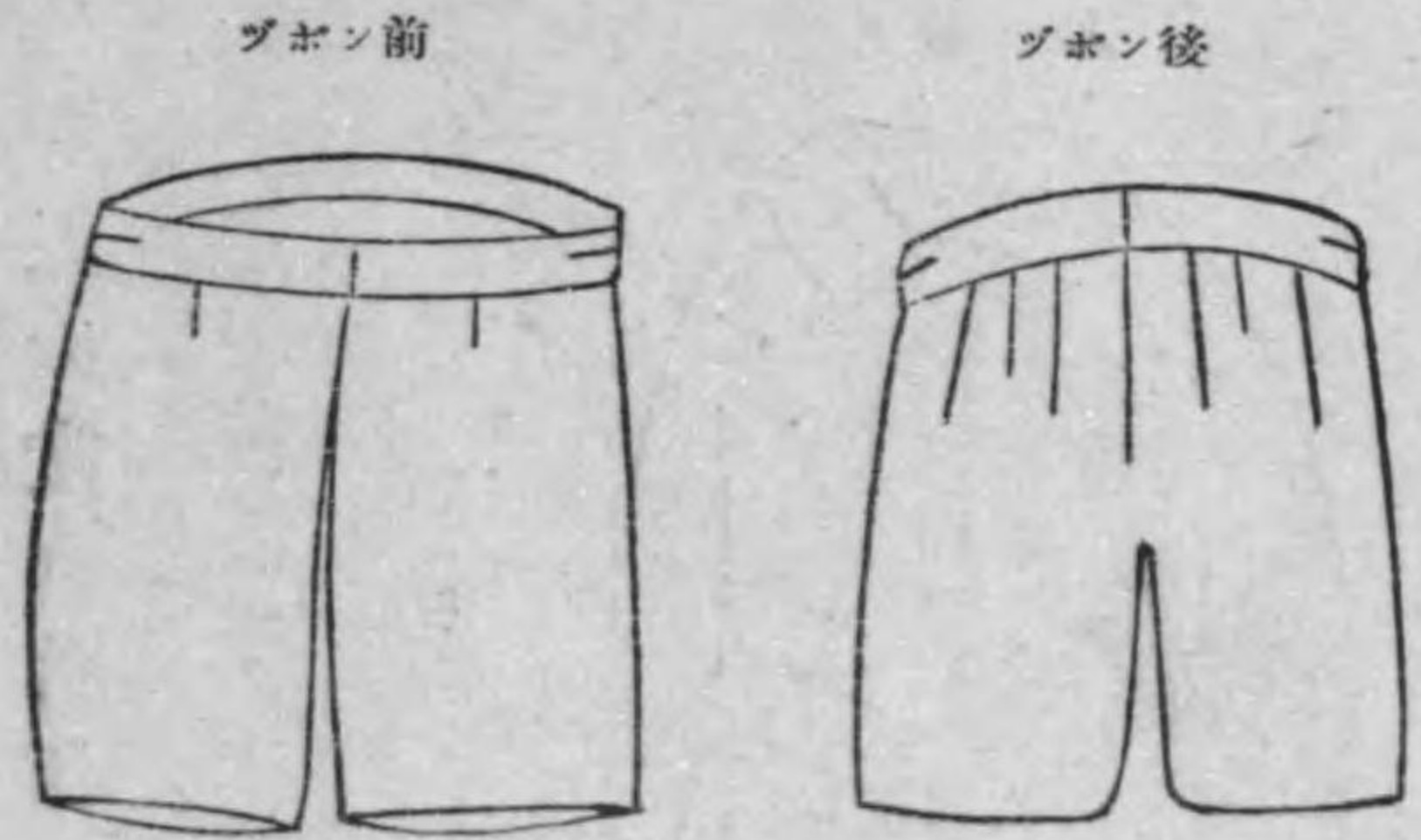
出来上り圖 上着



標準寸法 上着

- 一、總丈 四十八糎五耗(一尺二寸八分)
- 一、上胴廻 五十六糎(一尺四寸八分)
- 一、脊幅 二十一糎六耗(五寸七分)
- 一、脊丈 二十三糎(六寸一分)
- 一、胸巾 二十三糎(六寸一分)
- 一、衿丈 二十八糎一耗(七寸四分)
- 一、衿 四十一糎(一尺八分)

出来上り圖



標準寸法 ズボン

- 一、股上 二十一糎(七分五寸)
- 一、股下 十七糎八耗(四寸七分)
- 一、下胴廻 六十六糎三耗(一尺七寸五分)
- 一、腰廻 六十一糎(一尺六寸一分)

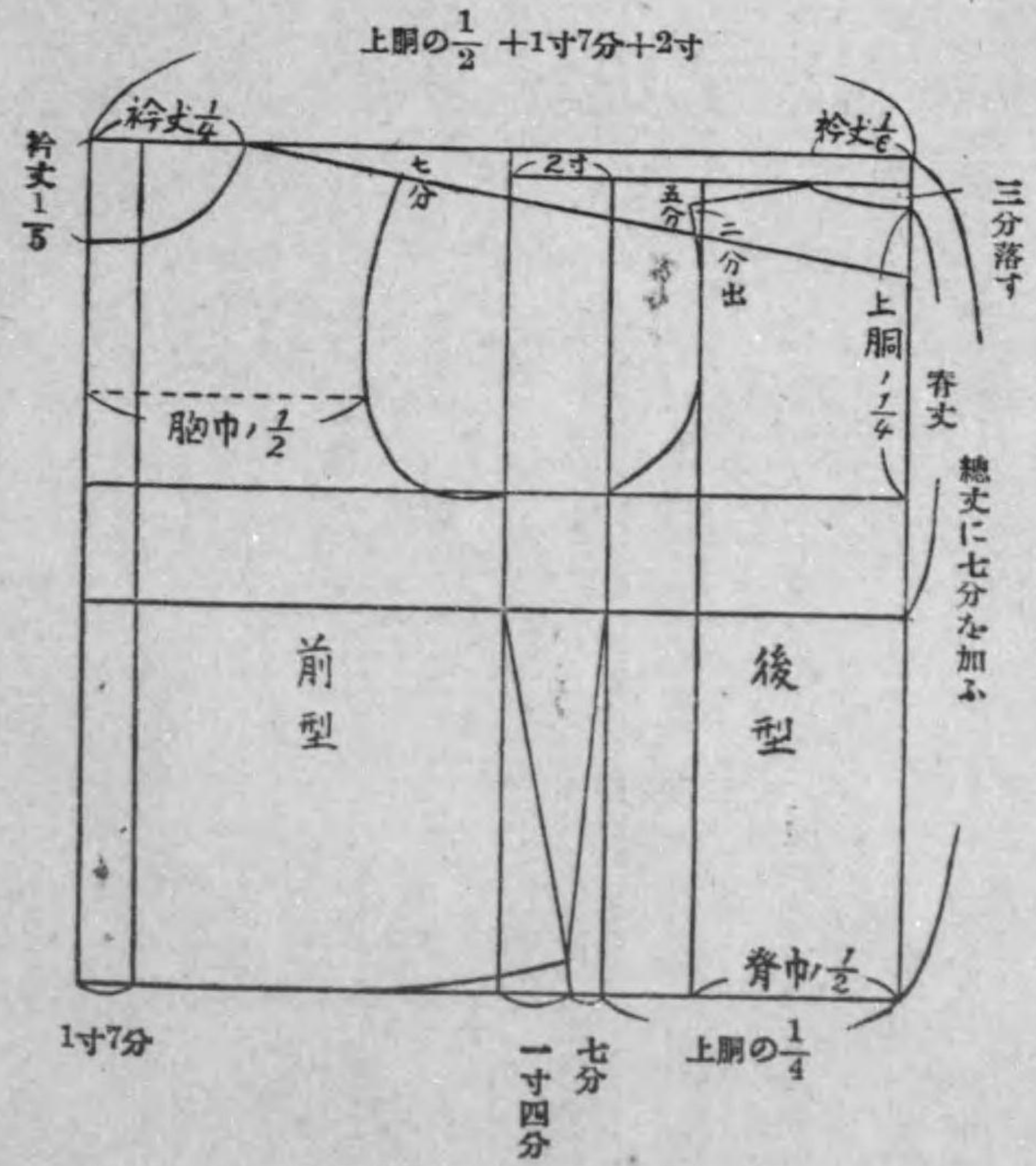
裁方

總合圖



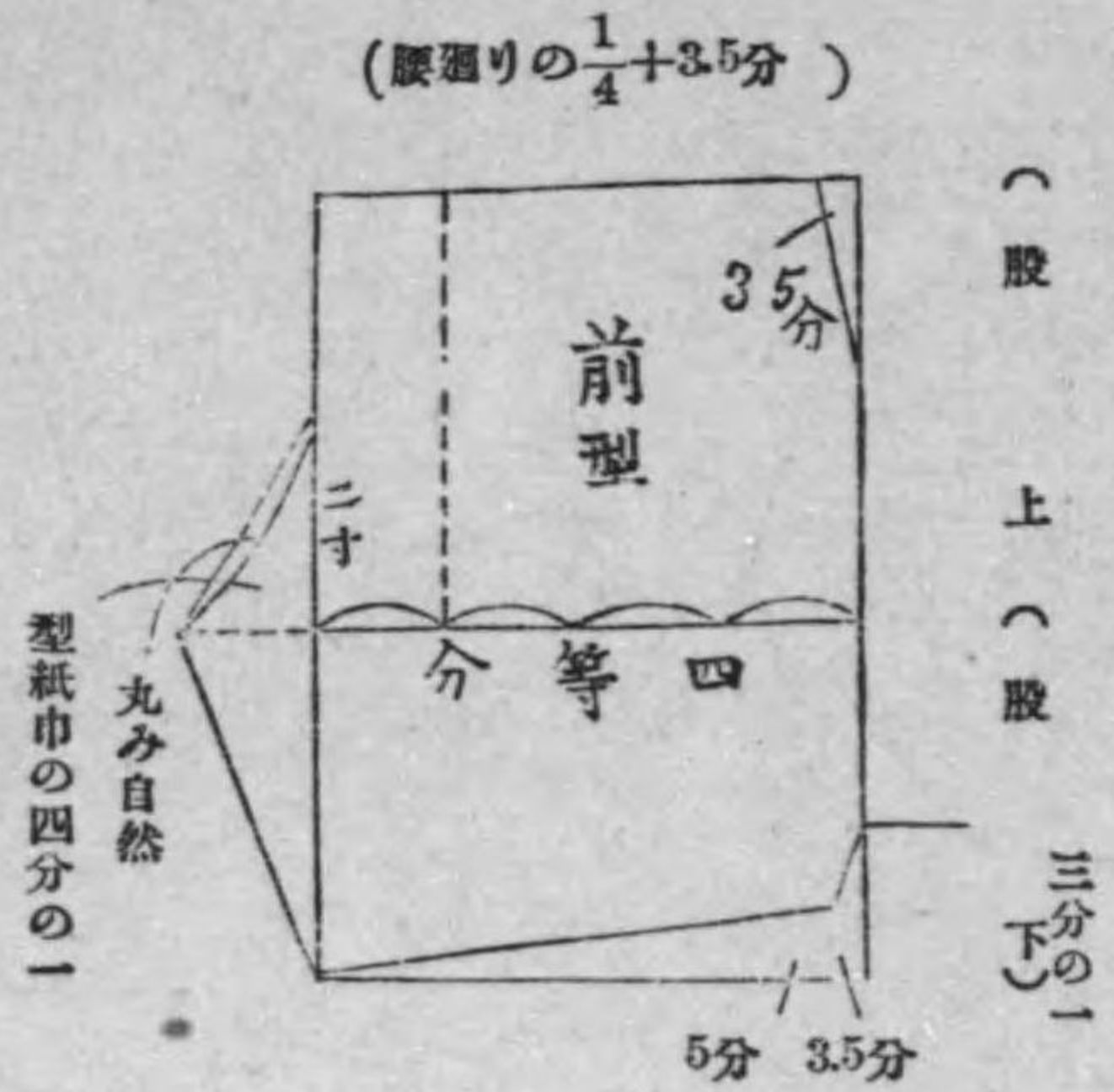
上着及ズボンの原型を型紙にて作り總合圖の如く型紙を布に當て標をつけ、縫代をつけて裁切りま
す、其附方は水兵服の場合と同様であります。
原型圖の引き方及割出しは大體に於て水兵服の場合と同じで御座いますから、標準寸法によりて圖
に示す如き原型を作ります。

上着原型の取り方



ツボン原型作り方

前裁方

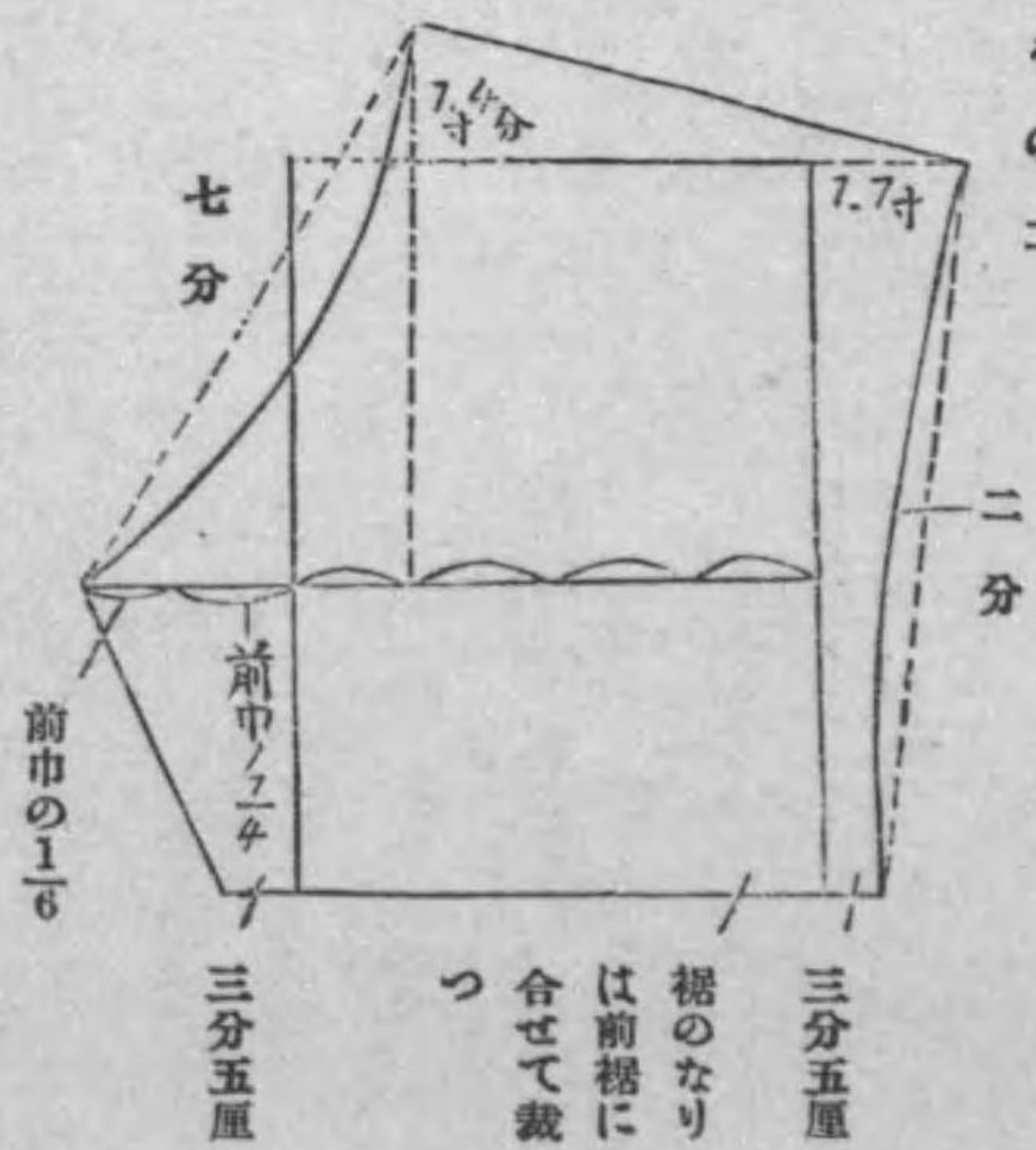


(股 上) (股 下)

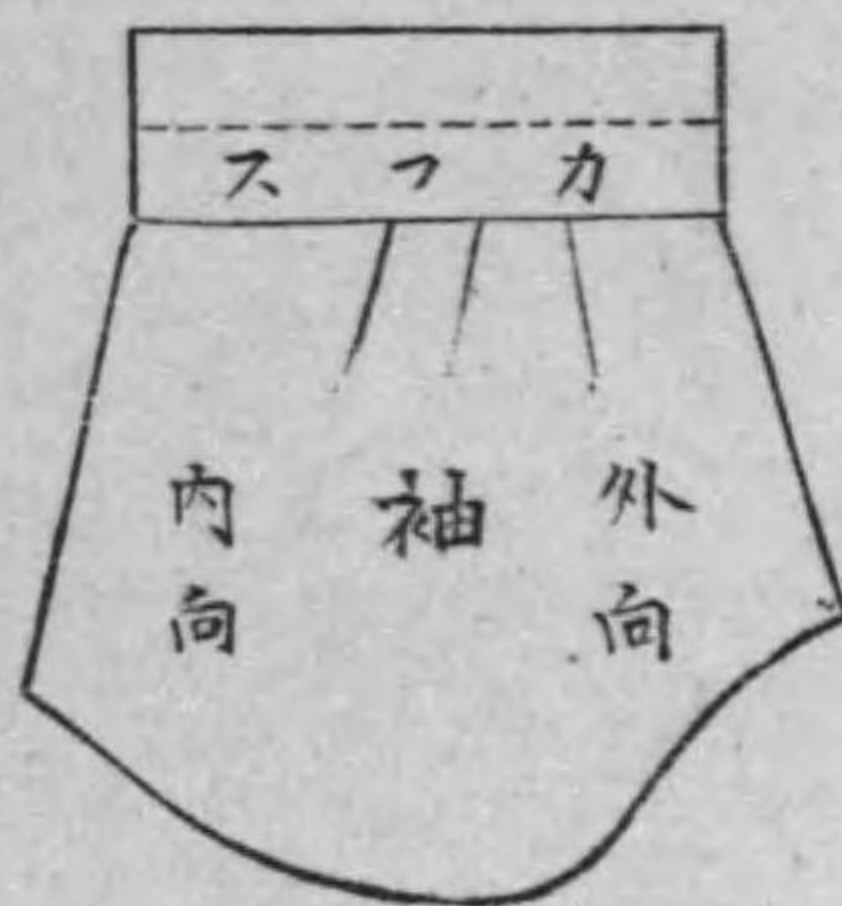
三分の一

ツボン後型紙とり方

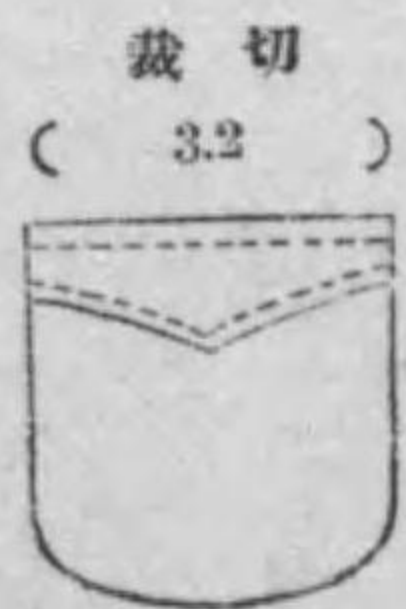
その二



前身返の附方及裾の作り方



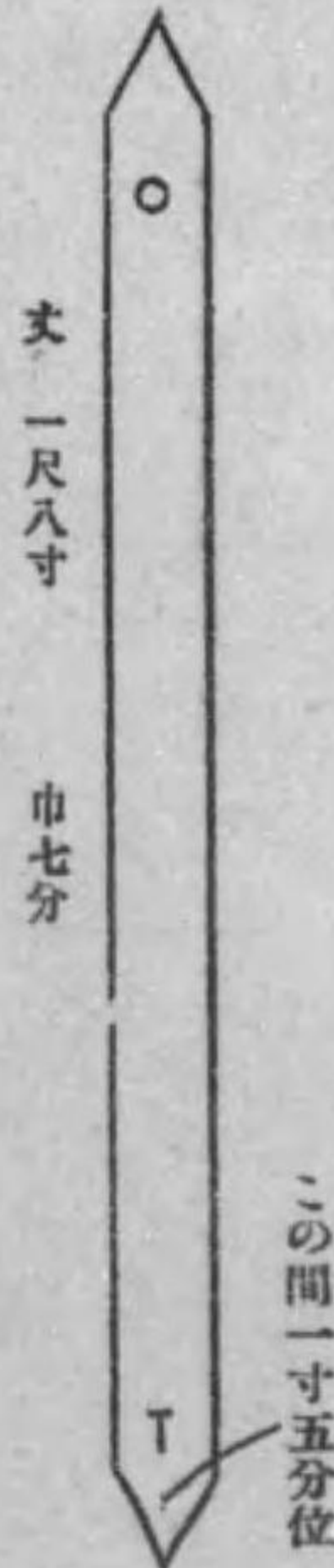
ポケット (三寸七分) 裁切



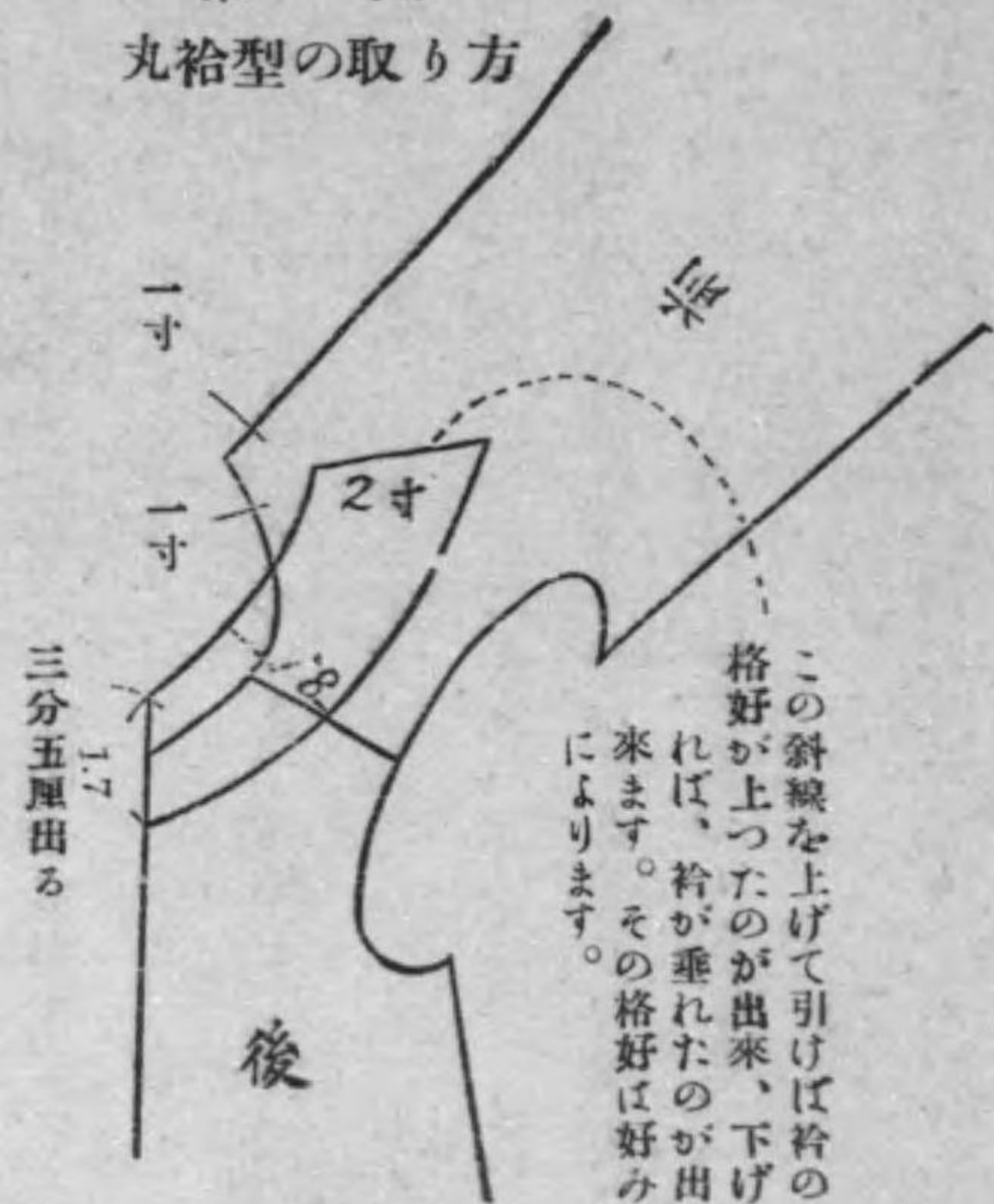
ツボン前當切裁方 三分



帯出来上り圖

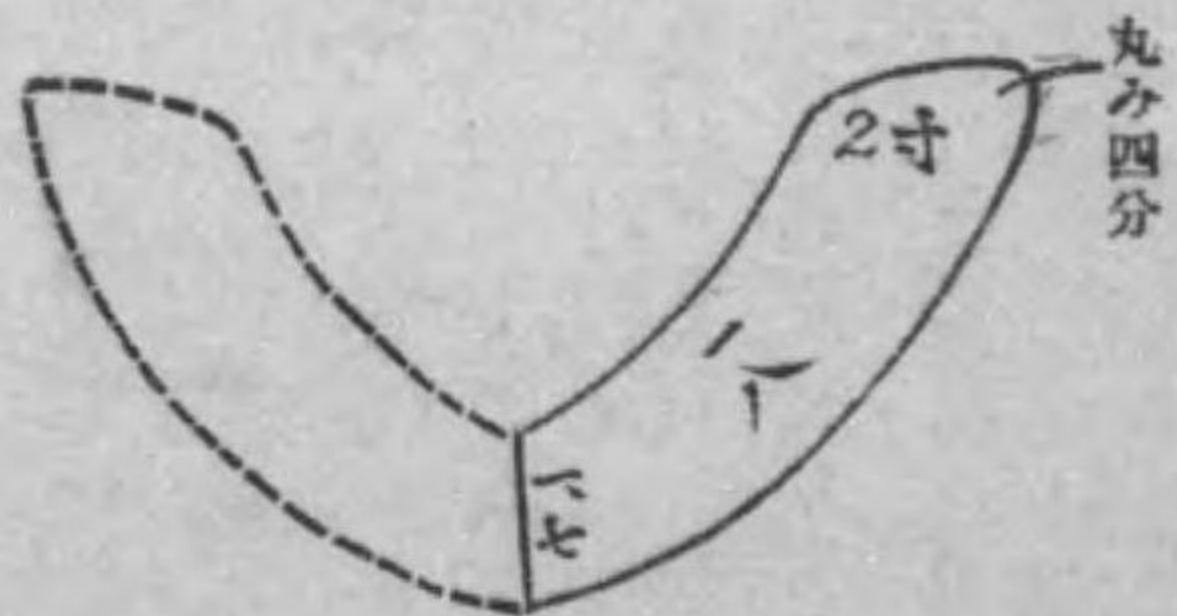


第一圖 丸衿型の取り方



この斜線を上げて引けば衿の格好が上つたのが出来、下げれば、衿が垂れたのが出来、その格好は好みによります。

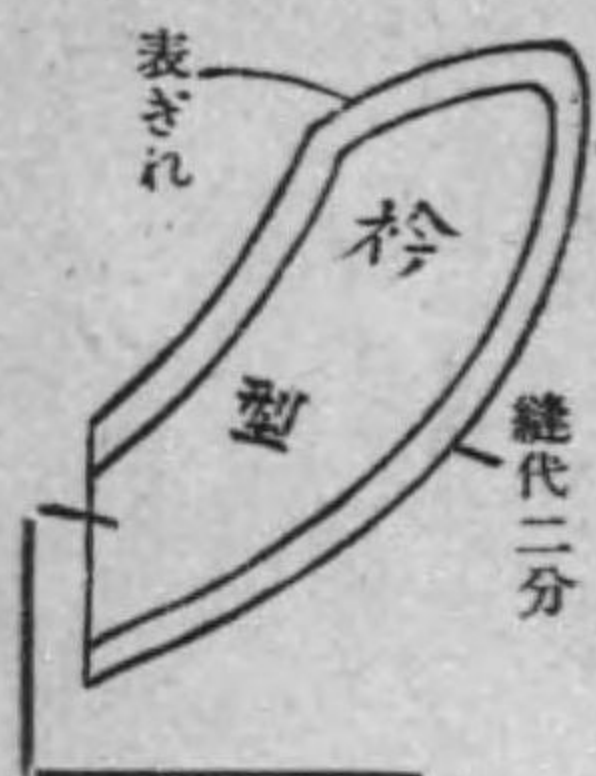
第二圖



第四圖



第三圖



この面を表ざれば「ワナ」にして(即ち二つ折)開くと第四圖の如くなります。

縫方

上着

- 一、袖カフスの芯を巾一寸四分丈五寸に裁切つてカフス表切に當て縫代三分にて芯の片方をくるみ假襟をかけておきます。カフスの芯丈に合せて袖口の山で三つ襷を作つて其折は外へ向け折と折との間は六分程にして襷をかけカフスを其上にのせて飾ミシンをかけ袖下を袋縫にしカフスは袋縫にせず縫目を割り袖口の奥でまつります。
- 二、左右の前身に圖の如く見返をつけます其縫方は衿の切込から裾の見返巾の終りまで縫いますが見返し巾の折代二分丈は残しておきます。
- 三、裾折は一寸にして端を二分假に折りおきて見返の奥をまつりつけます。次に前後の肩を縫ひ合せます、前身の縫代で後方の縫代をくるみまつりつけます。次に身頃の脇縫をして折は後に返して前身の縫代で後身の縫代をくるみ後身頃にまつりつけます、次に裾折を一寸にして其端を二分に折り身頃にまつりつけます。
- 四、衿肩にならつて縫代をつけ衿切二枚を取り一枚の分に芯を入れ中表に合せて衿線の一方を残し三

方を縫ひ四分の丸味には一分の間に切込みを入れます。そして表にかへしてミシンをかけ身頃の衿線に合せて假襟にておさへ巾五分長さ一尺五寸の斜切を當て（此の斜切と身頃とで衿をはさむ様にします）ミシンをかけて斜切の端を折つてまつります。

五、袖附袖下の縫目を身頃の脇縫より前に一寸七分ほど上りたる所に當て、袖のふくらみが前方につく様に袖をつけます、（袖をやゝゆるめにゆるみはなるべく肩の方に）袖のゆるみは身頃の肩の縫目を標準として後へ七分前に一寸三分位の間におきます様に袖にギャダーを取ります。袖附の縫代は斜切にて包んでおきます。

六、前明に穴かじり釦をつけます。（四個）

七、帯に芯を入れて圖の如く作り、帯通しを兩脇の縫代につけます。

八、ポケットを前身の兩方につけます。

ズボン

一、脇縫を上部四寸残して裾口まで縫ひ折は前身に返し明の所に前身は見返をつけます。見返し巾七分位にし端はまつつておきます後身は持出して出來上り七分巾位に作ります脇下の縫代は後身で前

縫代をくるんで表より飾ミシン或はまつりつけておきます。

二、前身頃の股上を合せ下から七分縫ひ二寸明けて上を縫ます、そして此の明けて置いた所に當切の縫つたのを當てて右の身頃へつけ左身へ返して縫代を右の身頃へまつりつけます、上下の縫目は割つてまつりつけます。當切の縫代二分出來上り圖の如く作りします。

三、後股上を縫ひ縫目を割りまつりつけます。シツクを裏からまつりつけます。シツクの裁方は股上へかゝつて三寸股下へかけて三寸廣さ三寸に圖の如き形に別切で取つたのをつけます。

四、股下を縫ひ縫目を割りまつりつけます、次に裾口を折つてまつりつけます。

五、前帯の作り方は巾九分長さ八寸の芯切二枚とし後帯は長さ九寸四分巾九分のもを一枚取り、表は前帯八寸四分の丈で巾二寸二分のもの二枚、後帯は丈九寸七分巾二寸二分のもの一枚取り、表に芯をとぢつけ、前後共裏側へ縫ひつけ表に折返して飾ミシンをかけます。此時帯丈が前身の巾より短かき時は前身の中央に襷を取りおきます、後身は帯丈にならつて後巾の三分の一を兩脇に残して三分の二を帯丈だけに縫ひ縮めおきつけ方は前の場合と同様にします。

六、出來上り圖の如く穴かゝりをします、其の穴の明け方は後と中央は縦に兩脇は横に前は縦に明

けます。

第二十三章

模様 に 就 きて

種類及配置

一、裾模様

(イ) 普通裾模様

(ロ) 高裾模様

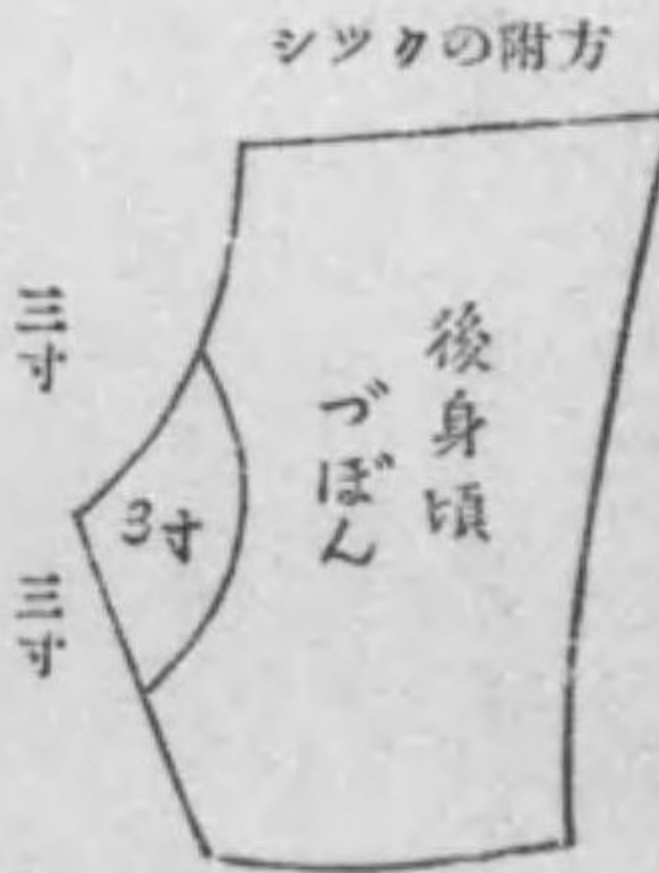
二、江戸褌模様

三、後掛江戸褌模様 (大江戸模様)

四、褌先模様

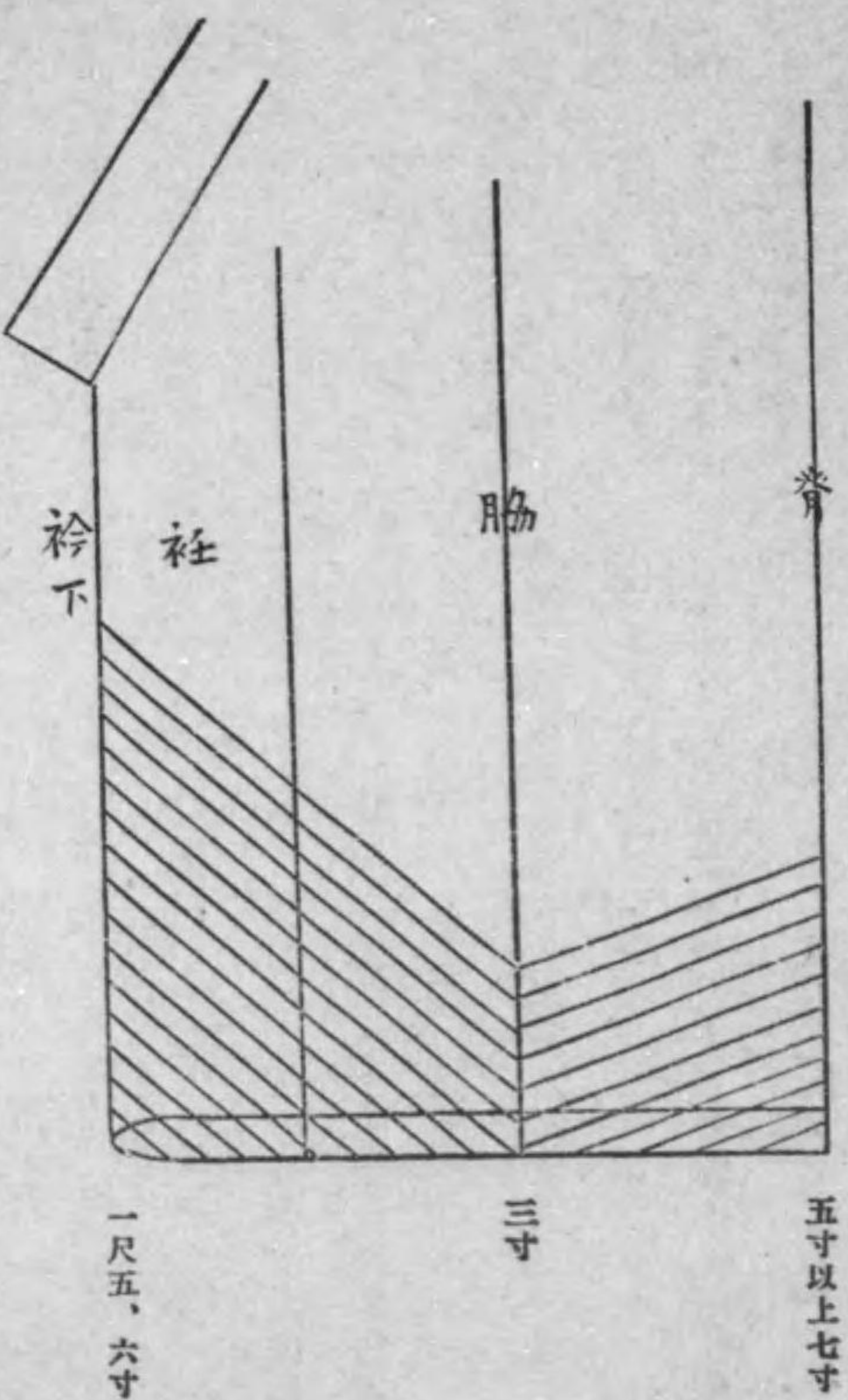
(イ) 片褌模様 (奴模様)

(ロ) 兩褌模様



- 五、裏模様
- 六、衤模様
- 七、腰模様
- 八、肩拔模様
- 九、總模様
- 十、千代田模様（島原、夜會模様）
- 十一、中模様
- 十二、略模様
- 十三、透模様
- 十四、飛模様
- 十五、熨斗目模様
- 十六、繪羽模様

一、普通模様は圖の如く衤下一尺五六寸。脇にて三寸、脊縫にて五寸以上七寸、位の高さの間に裏表同じ様に配置されたものであります。



二、高裾模様は普通裾模様を全體に高く腰部の邊までおきたるものでありまして、振袖の場合は袖口の方八寸より一尺、附の方にて六寸位にかゝります。

三、江戸裾模様は近時流行する模様でありまして其高さは年齢によりて異なりますが衤下一尺三寸位の場合は前巾に五寸位入り、衤下一尺位の時は前巾に三寸位置かれます。

四、後掛江戸裱模様は其起源からして、大江戸模様とも申します、江戸裱模様が後巾に三寸位のびたものでありまして、従つて衿下の方も高くなります、普通二三尺位です。
 江戸裱模様は徳川時代江戸の御殿の大奥の人達によりて始められたものであります。
 五、裱先模様の内片裱模様は上前の裱先のみ模様を置かれてあります。
 兩裱模様は兩裱に模様があります。

六、裏模様は衾と裏裾にのみ置かれたものであります。
 七、衾模様は衾にのみ模様がおかれてあります。

八、腰模様、昔は肩より一尺下りて一尺二寸位の間を白く染出し其部分に色々の花鳥の模様を置いたものでありましたが現今では丈の半分位の所から下をぼかし裾口まで模様を置き衿先や袖下にも模様がおかれてあります。

九、肩拔模様、肩の部分丈模様を省きて全體に模様のあるものであります。

十、總模様、無紋で全體に模様のあるものでありまして、打掛等に應用されます。

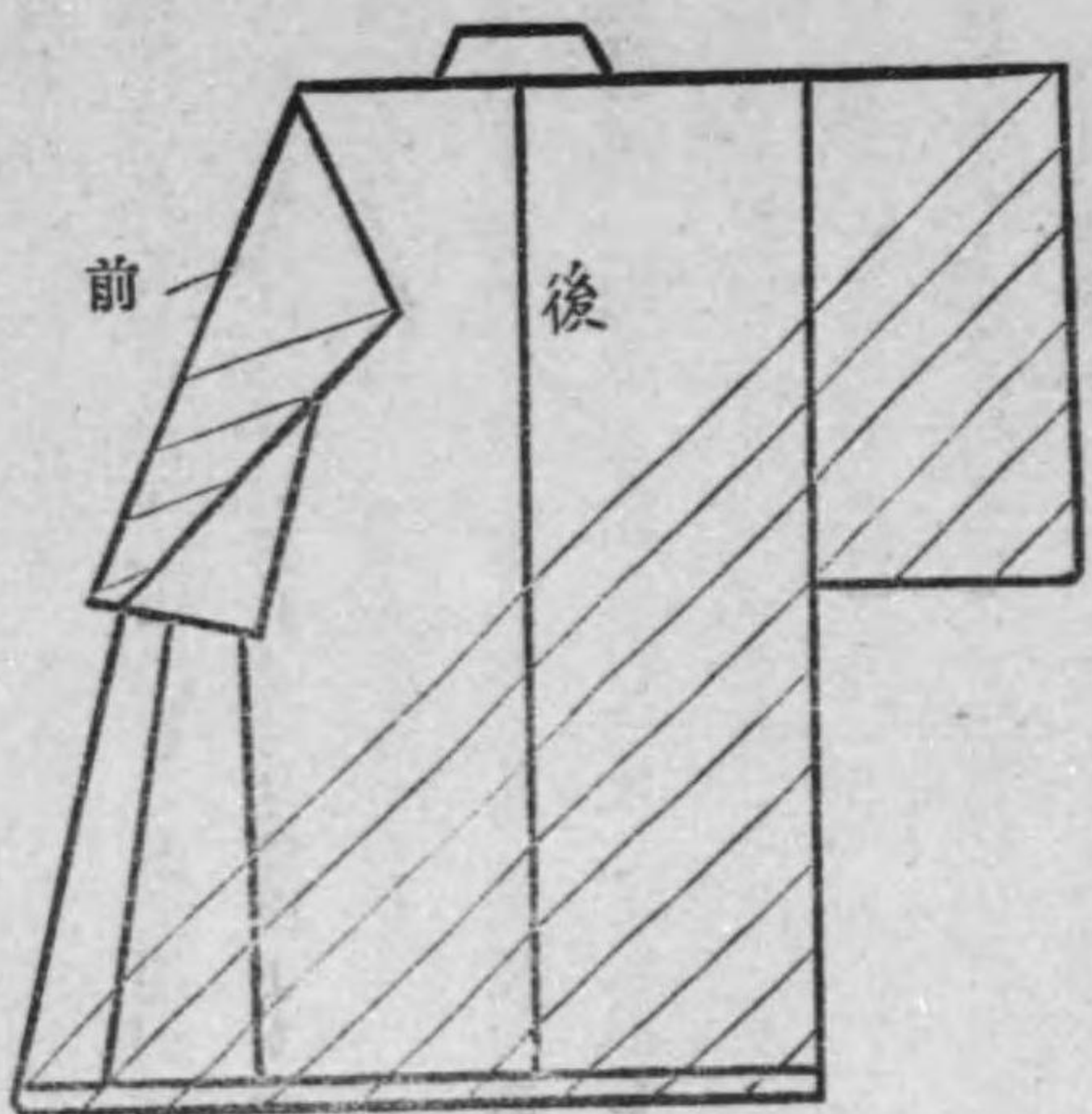
十一、千代田模様、夜會等に多く用ひられたため夜會模様と申しまして派手やかな色合模様等が多いのであります、高裾模様よりも全體を一寸位づゝ高くし、他に劔先を中心にして衿、衾、前身頃、衿

先の方まで模様が配置されてあります。

十二、中模様、圖の如く後は右袖口より左裱先まで、前は左袖口より右裱先まで斜に配置されたものであります。

十三、曙模様、腰模様と大體は同じであります、異なる所は上下別々にぼかしたものであります、又近日胸のあたりから雲形にぼかしたのもあります。

十四、透模様、此は二枚重ねて始めて生ずる模様であります單衣の重ね單羽織、サンマリーコート、夏帯等に應用されます、下着や芯地の模様を地薄のものに透かせ又は上下の模様を一致させたものであります。



十五、飛模様、半コートや單羽織等に應用されたものでありまして近時流行したものであります。
 十六、熨斗目模様、以上述べました模様は多く女服の模様の種類でありましたが熨斗目模様は主に一

つ身の男服に用ひられて居ます、其起源は明らかではありませんが一説に次の如く傳へられて居ます、徳川時代に或武家が貧しくて工夫の結果、縞を紋附の中央に接ぎ合せて模様のだ用としたのに始まつたと申されて居ます。

織糸の種類によつてしごら熨斗目、平熨斗目の差があり、柄より見て腰部が縞となつたものと無地のものごとがあります、何れも寸法は肩より一尺三四寸下りて、八寸以上一尺位の間が模様となり、紐と袖にも同寸法の所に模様ががあります。

十七、繪羽模様、浴衣地に多く見る模様でありまして、縫合せた後に模様が合ふのであります、旅館や商店等にて屋號や紋等を模様化して染出したものがあります。

裁つ場合の注意

模様物は大概の場合に紋附でありますから各の紋を中表に合せて裁つ準備をします、そして模様も其種類によりて合はすべきものは合はせて躰でかさへ後に缺を入れます。

縫ふ場合の注意

一、模様を主として寸法を定め標を致します、それで前巾と衽巾の標は何れも衽附の方から寸法を度ります。

二、合標を致します。

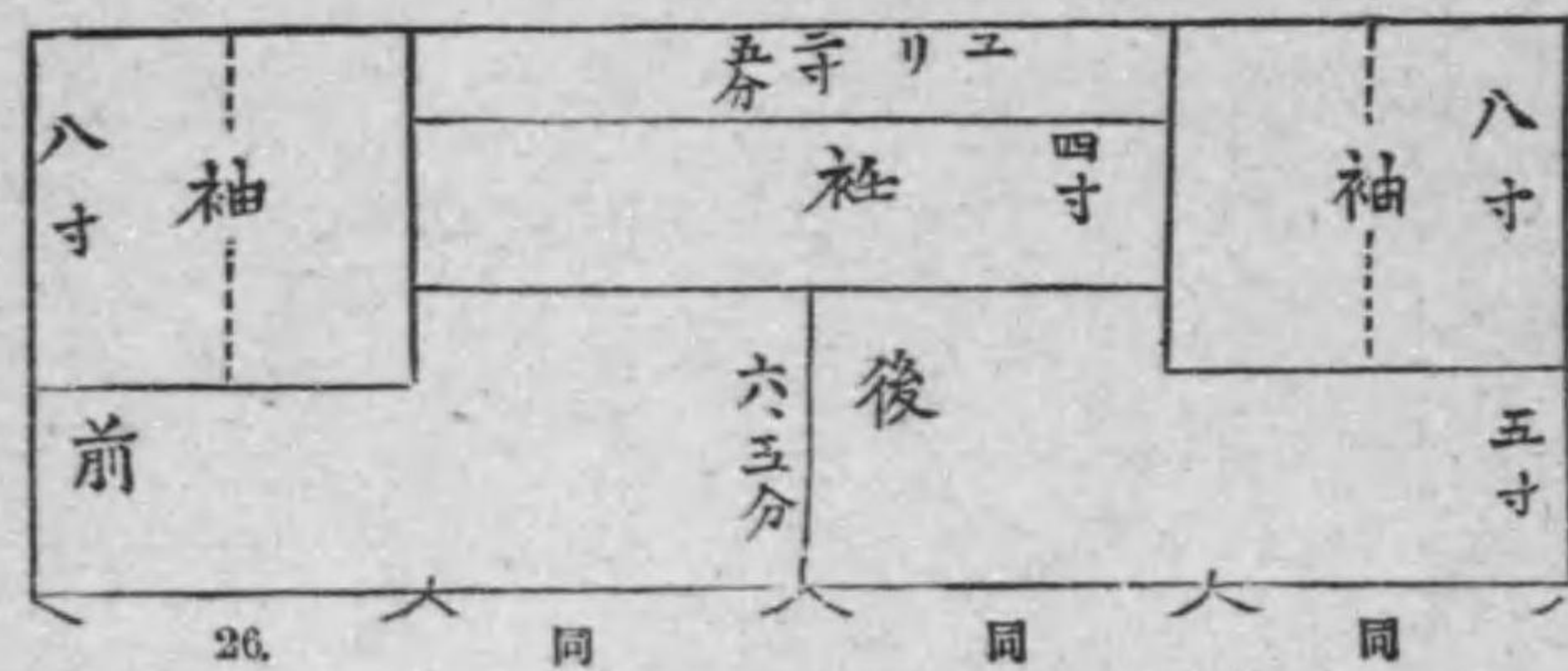
三、模様の色合により糸を選び取りかへます。

四、箔附のものは絹布又は柔い紙で押へて置きます。

五、模様は主となる所をよく合せ若し合はざる時は伸縮自在なものはそれを應用し、表裏豎袷裾口の方をよく合せます。

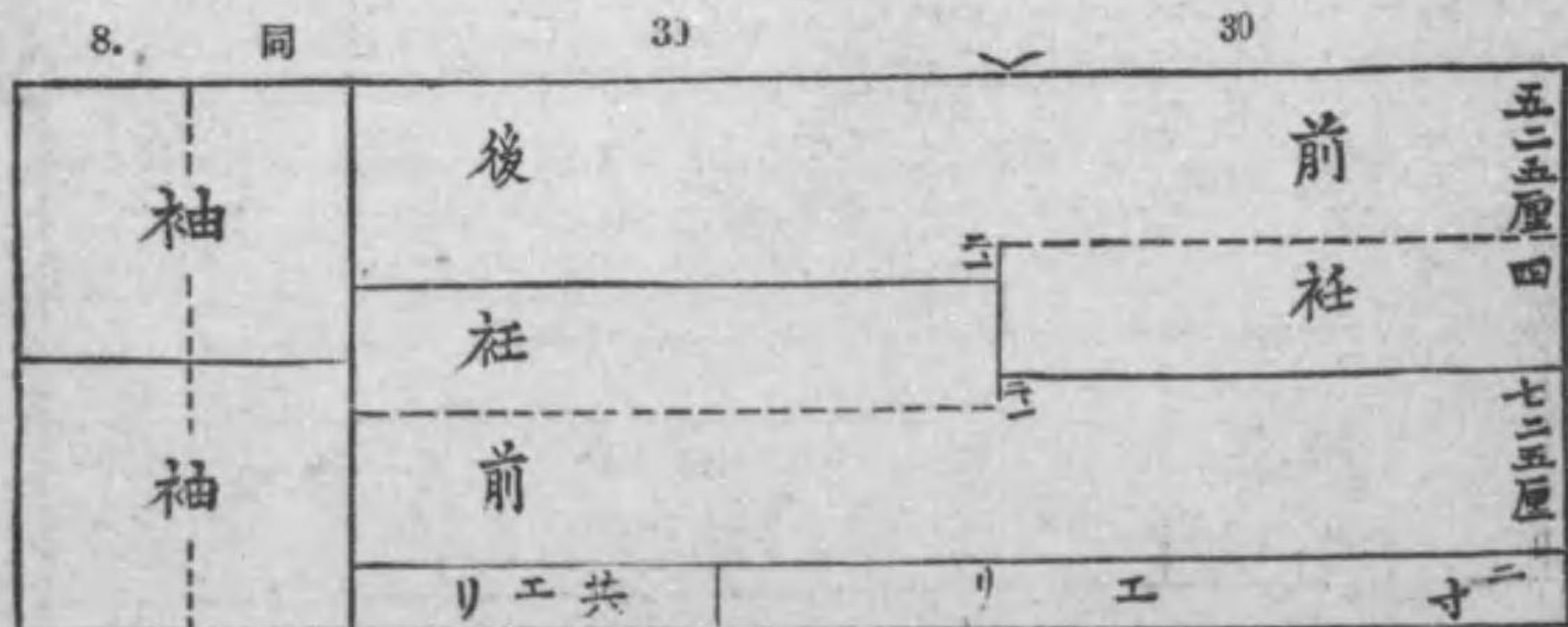
六、千代田模様の場合、肩と衿とにて模様を合せ且つ共衿にても合はせます。

三ツ身
巾一尺三寸長さ一丈〇四寸



身丈×4 = 用布

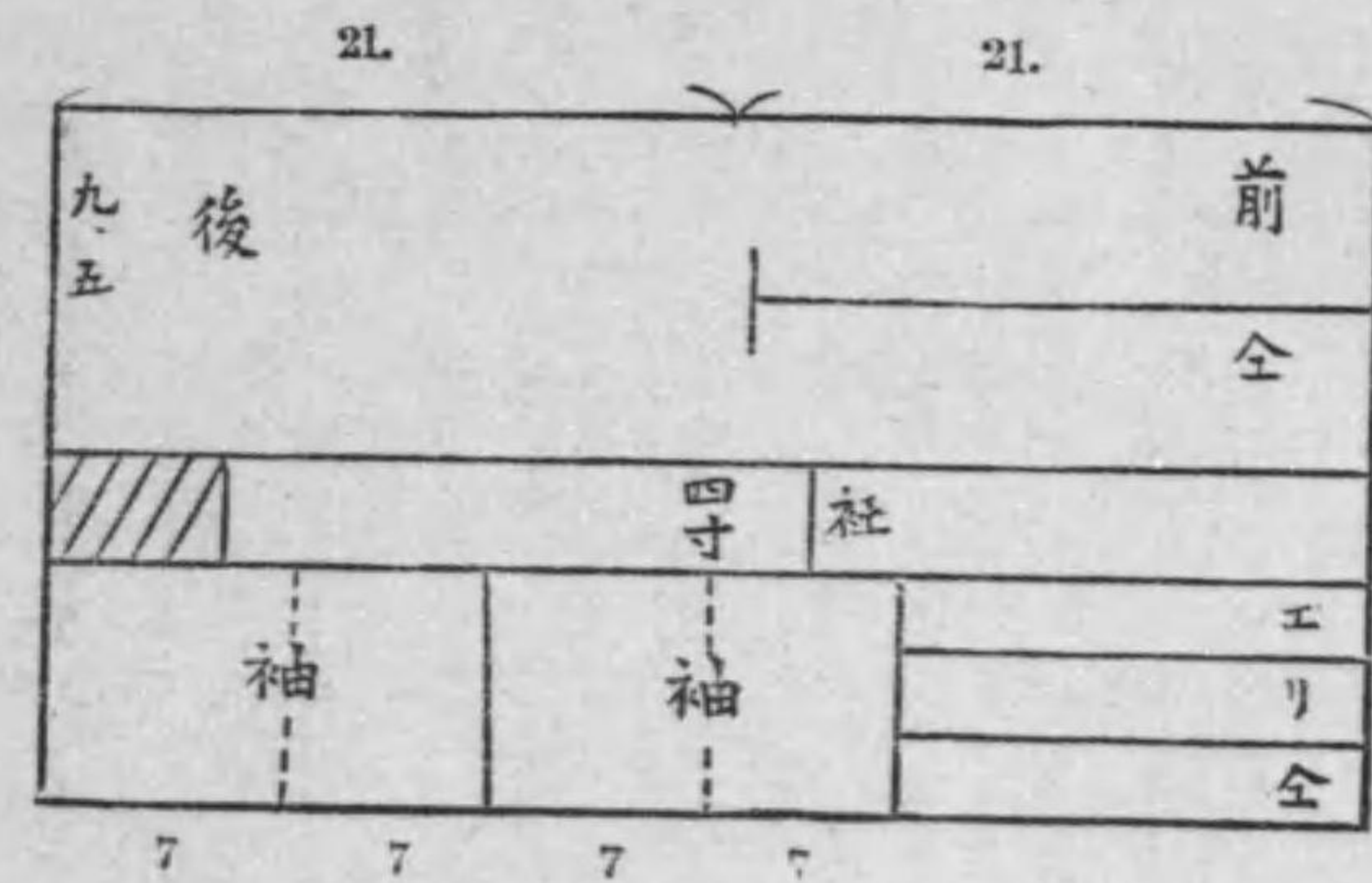
用布七尺六寸
四ツ身幅 上同



袖 + 身丈 × 2 = 用布

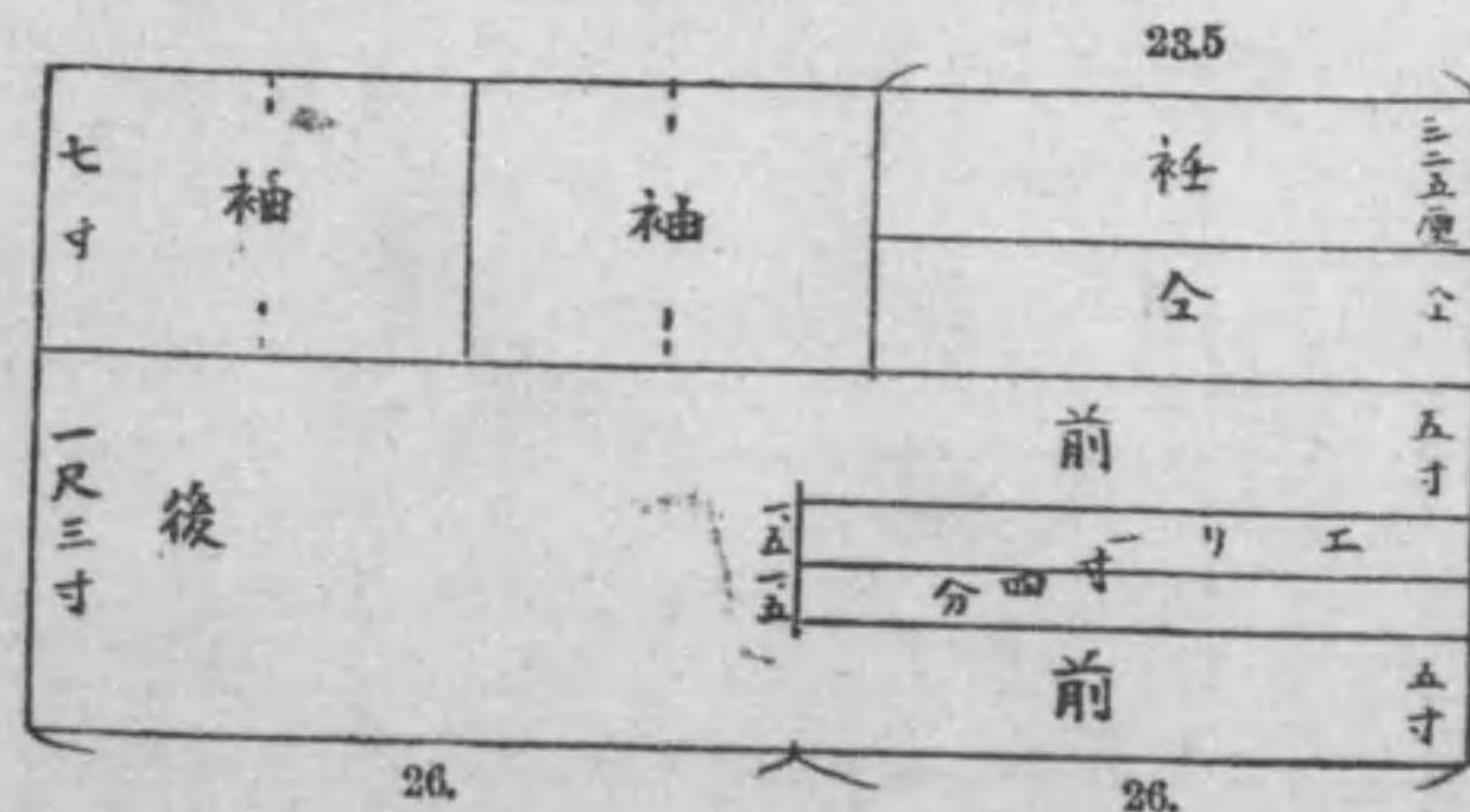
(寸法餘尺)

一ツ身
二尺巾長さ四尺二寸



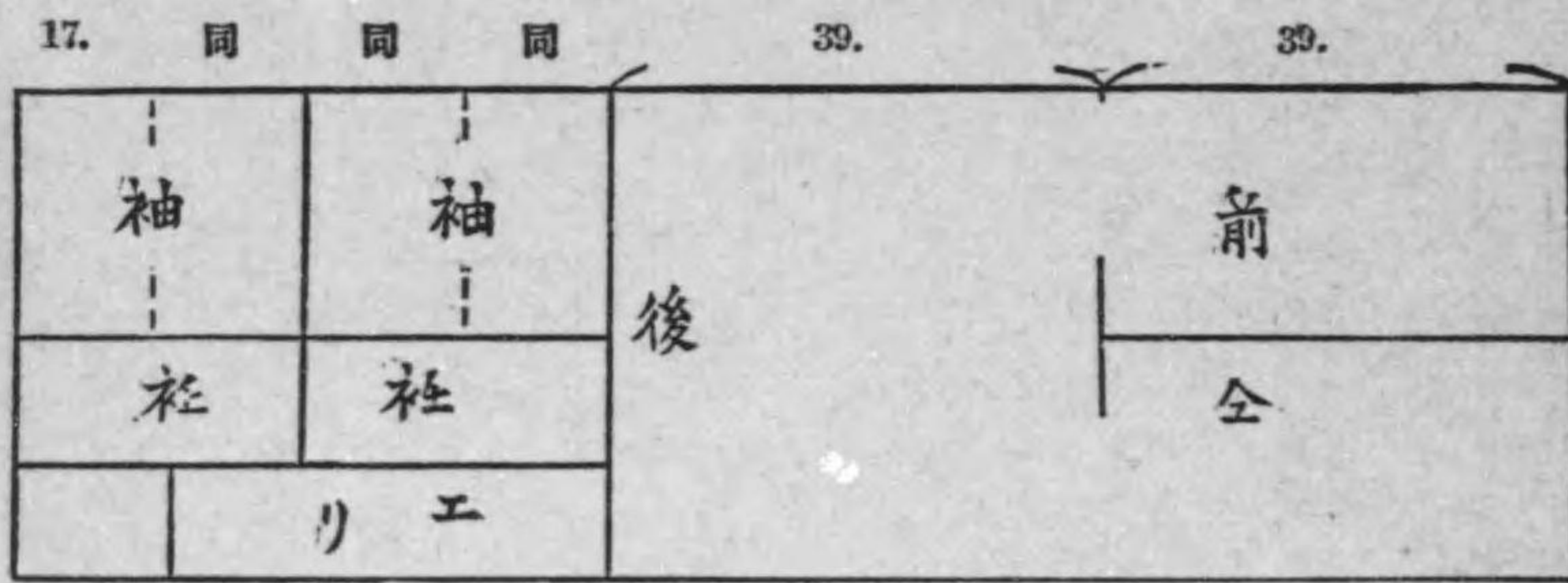
身丈×2 = 用布

三ツ身
二尺巾五尺二寸



身丈×2 = 用布

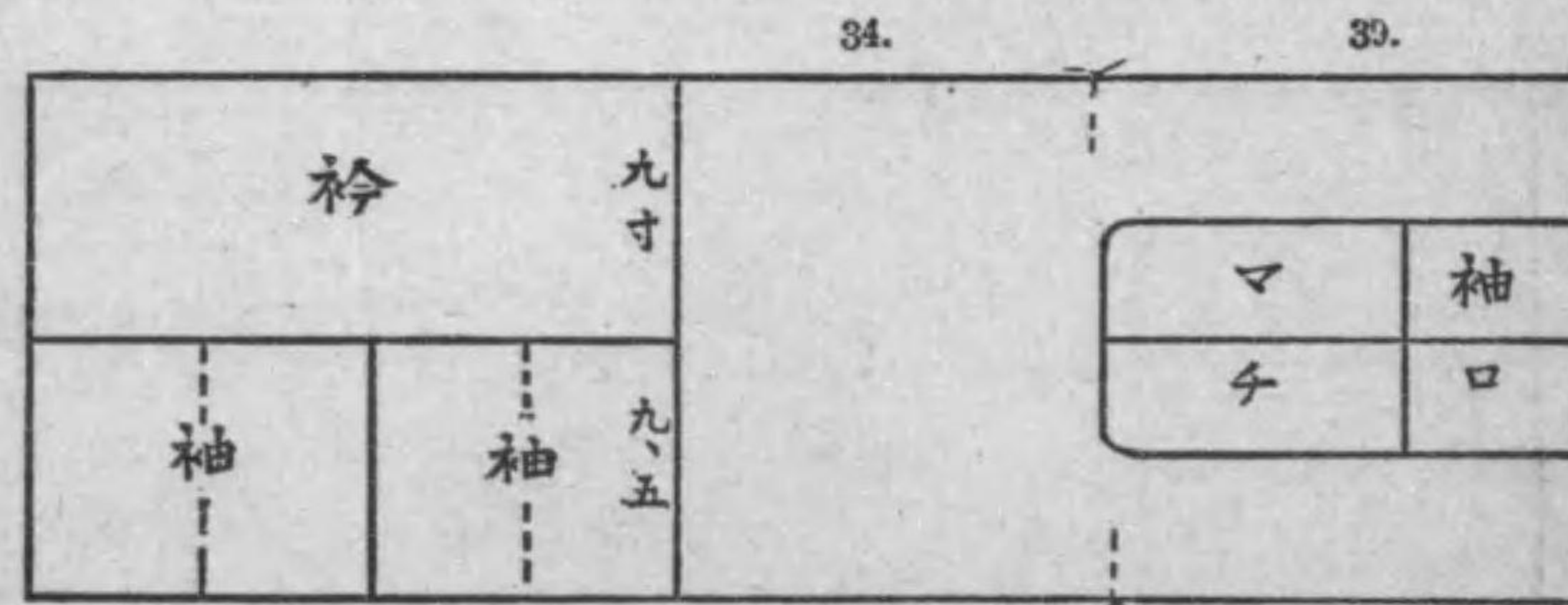
二尺巾にて本裁



袖 × 4 + 身 × 2 = 用布

一尺八寸五分巾長さ一丈四尺五寸

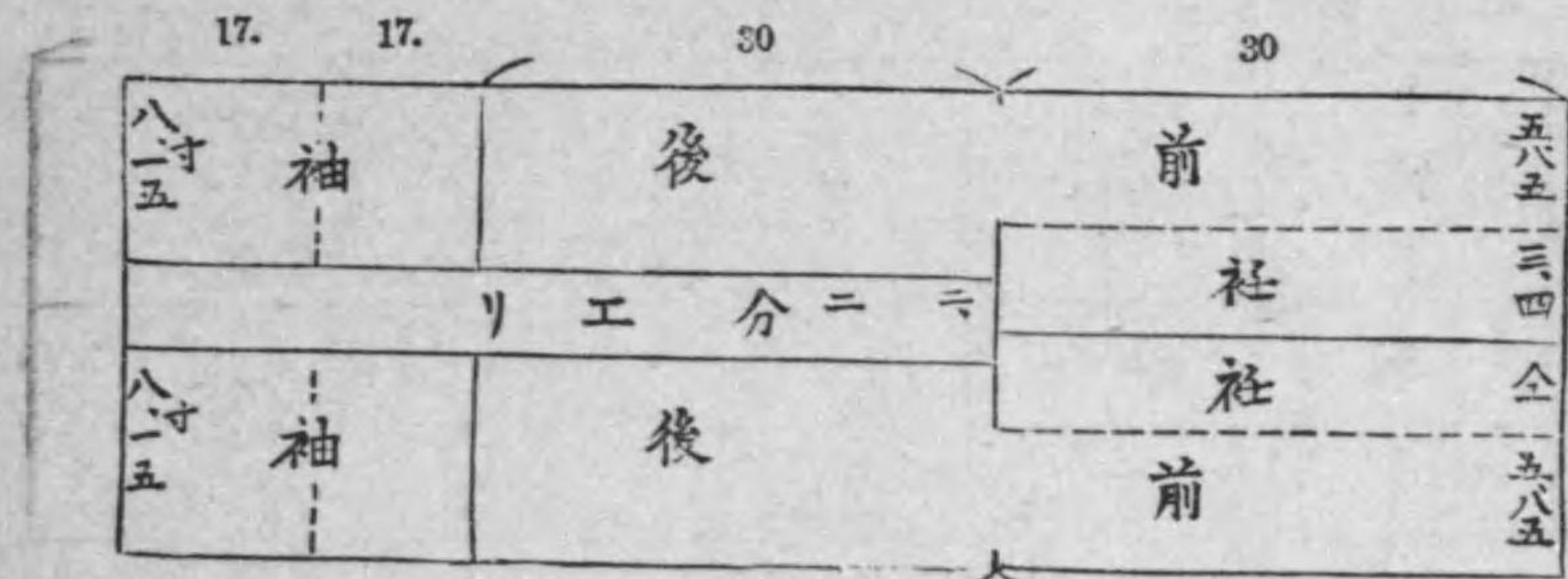
本裁羽織



18. 同 同 同 {用布-(袖×4+前後の差)}+2=後丈

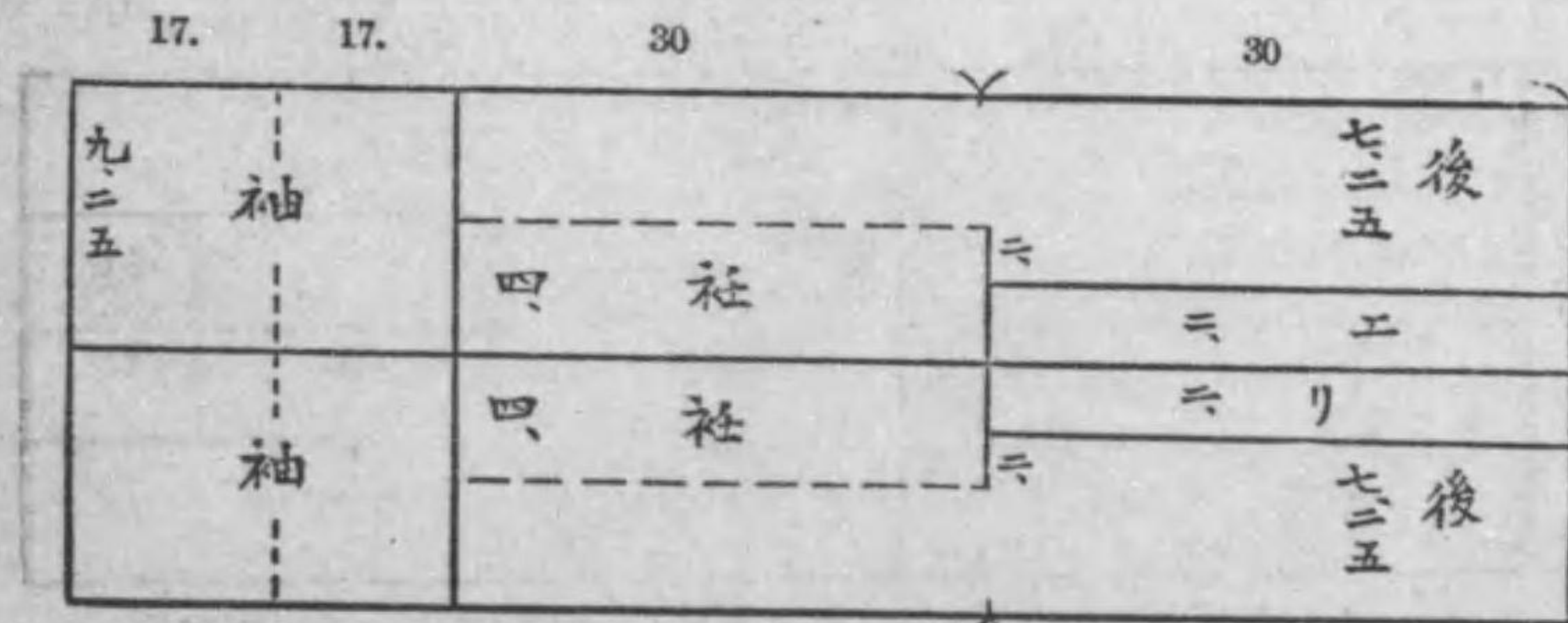
巾一尺八寸五分長さ九尺五寸の布にて

四ツ身着物の裁方



袖 + 身 × 2 = 用布丈

巾上同



袖 + 身 × 2 = 用布丈

裁縫教科書 終

大正十三年六月廿七日印刷
大正十三年六月三十日發行

不許
複製

發行所

賣捌所

裁縫教科書與付

定價金參圓五拾錢

著作者 山内千代子

東京市神田區三崎町三丁目一番地

發行者 百目木智璉

東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷者 倉谷鎮夫

東京市神田區三崎町三丁目一番地

共榮舍

電話九段一四三番
振替東京六七九四〇番

東京市麻布區飯食町五丁目四十四番地

森江書店

電話芝一二七四番
振替口座東京三七二番

東京市神田區南神保町九番地

太陽堂書店

電話九段九四四番
振替東京三一七二五番

222
395

終